



ロータリークラブ ガイド

自律的災害対応

—— クラブのための教義と運用フレームワーク ——

ギョーム・ブルゴーニュ

ロータリークラブ・ガイド

自律的災害対応

災害発生時に行動するための
運用フレームワーク

2026

ロータリークラブ・ガイド
自律的災害対応

© 2026 Guillaume Bourgogne

発行 Blackbird Press
blackbirdpress.us
contact@blackbirdpress.us

© 2026 Guillaume Bourgogne. Some rights reserved.

© 2026

ギヨーム・ブルゴーニュ。一部の権利を留保。

This book is made available to the Rotary community under a Creative Commons Attribution-NonCommercial 4.0 (CC BY-NC 4.0)

licence:
creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/deed.
ja

本書はロータリーコミュニティに対して、Creative Commons 表示-非営利 4.0 (CC BY-NC 4.0) ライセンスのもとで提供されます。

You are free to reproduce, photocopy, distribute, and adapt this book – narrative chapters, disaster cards (Part VI), and operational forms (Appendix A) – within the activities of a Rotary club, a Rotary district, a Rotary Action Group, or any associated humanitarian operation. Resale or any commercial use requires the author's written consent.

本書の物語的章、災害カード (第VI部)、運用書式 (付録A) は、ロータリークラブ、ロータリー地区、ロータリー行動グループ、または関連する人道活動の枠内で、自由に複製、配布、適応することができます。再販売または商業利用には著者の書面による同意が必要です。

If this guide has been useful to you, or if you have remarks, corrections, or field experience to share, the author will be glad to hear from you: g.bourgogne.rtn@gmail.com

本ガイドが役立った場合、またはコメント、修正、現場経験を共有したい場合、著者は g.bourgogne.rtn@gmail.com にてご連絡をお待ちしています。

Legal deposit: 2026
Première édition / First edition / 第一版:
2026
Printed by Amazon KDP / Amazon KDP
により印刷

This guide is an independent publication. It is not endorsed by, affiliated with, or published by Rotary International or The Rotary Foundation. The terms "Rotary," "Rotary Club," "Rotarian," "The Rotary Foundation," "Disaster Response Grant," and the names of the Rotary Action Groups are trademarks of Rotary International, used here for informational and educational purposes only. All trademarks remain the property of their respective owners.

本ガイドは独立した出版物です。国際ロータリーまたはロータリー財団によって認定、提携、または出版されたものではありません。

「Rotary」「Rotary Club」「Rotarian」「The Rotary Foundation」「Disaster Response Grant」、およびロータリー行動グループの名称は国際ロータリーの商標であり、ここでは情報的および教育的目的のみで使用されています。すべての商標はそれぞれの所有者の所有物です。

Author contact / 著者連絡先
Rotary email: g.bourgogne.rtn@gmail.com
Personal email: gb4k@gb4k.fr
Personal site: gb4k.fr

目次

お読みになる前に - プロトタイプ版	1
序文 - 二つのクラブ、同じ嵐	3
第 0 - 教義	
教義と最低基準	9
第 I - 理解する	
1. 本書を書いた理由	17
2. 災害対応のためのロータリー生態系	23
3. 自地域のリスクを知る	37
4. 人道支援原則と行動の限界	49
第 II - 備える	
5. クラブの対応構造	61
6. ロータリアン個人の備え	69
7. クラブの資本を棚卸しする	79
8. 緊急時コミュニケーション	89
9. 災害前にネットワークを起動する	103
10. 訓練と演習	113
11. クラブ緊急基金	123
第 III - 自分たちの手段で行動する	
12. 最初の数時間の5ステップ	133
13. 即時対応 - 最初の72時間	147
14. 安定化 - 72時間から2週間まで	159
15. 現場でのボランティア指導	165
16. 危機時のコミュニケーション	169
17. 心理的支援	175
第 IV - ロータリーネットワークを起動する	
18. 地区 - あなたの最初の同盟者	181
19. ロータリー財団 - 7つの資金調達メカニズム	189
20. 各種 RAG - 手の届く世界規模の専門性	195
21. ロータリー外パートナー	203
22. 現場で調整する	209
第 V - その後 - 再建と前進	
23. 対応から復興へ	215
24. 文書化と報告	221
25. 振り返りと改善	227
第 VI - 災害カード	
26. 災害カード - 迅速参照のための20種類	235
27. 詳細分析 - 高複雑性の4つの災害	269
第 VII - 付録とツール	
28. 付録A - 運用書式	279
29. 付録B - 連絡先名簿	291
30. 付録C - 用語集	297
31. 付録D - オンラインリソース	305
著者について	315

お読みになる前に – プロトタイプ版

本書は現在改訂中のプロトタイプです。

ロータリークラブのための教義と運用枠組みとして 設計・執筆・構造化されていますが、大規模な現場レビューはまだ実施されておらず、国際ロータリーや各国の正式機関による検証も受けていません。

皆様のフィードバックは大変貴重です。 事実関係の誤り、 手順の不正確さ、
公式ロータリー教義との 乖離、 改善のご提案、 現場経験のご報告など、
いかなるご意見も注意深く読み、 将来の版に反映させていただきます。

連絡先 : g.bourgogne.rtn@gmail.com

本書は継続的な改善の精神のもと、ロータリーコミュニティに 提供されています。国際ロータリー、ロータリー財団、 および本書に言及されているロータリー行動グループを 拘束するものではありません。公式数値(DRG 上限、SHARE 比率、グローバル補助金額等)は 変更される可能性がありますので、行動の前に必ず my.rotary.org にて 確認してください。

災害カード (第VI部) および運用書式 (付録A) は Creative Commons BY-NC 4.0 ライセンスのもとで 提供されており、ロータリークラブ、 地区、ロータリー行動グループ、 または関連する人道活動の範囲内であれば、 自由に複製、配布、 適応していただけます。

序文 - 二つのクラブ、同じ嵐

編集部より：本書は独立した編集の取り組みです。国際ロータリーまたはロータリー財団の公式刊行物ではありません。記載している手順、ツール、数値は執筆時点で公開されている情報に基づいています。各種金額（DRG 上限、SHARE 比率、グローバル補助金の金額等）は変更される可能性がありますので、確定的な行動を取る前に my.rotary.org でご確認ください。

日本語版に関する追加注記：本書日本語版は、英語版を基にして作成し、日本固有の機関（気象庁、内閣府防災担当、日本赤十字社、日本の主要 NGO 等）および日本で発生した重要な災害事例（東日本大震災2011年、令和6年能登半島地震、令和元年東日本台風（台風19号「ハギビス」、平成30年北海道胆振東部地震、平成28年熊本地震など）を参照しています。

本書の主張は、たった一つの比較に凝縮されています。同程度の規模の二つのクラブ、似たような都市、同じ嵐に襲われ、そして90日後にまったく異なる結末を迎える、というものです。この差を説明する唯一の変数は、嵐が来る前に計画があったかどうか、それだけです。

まずこの序文を読んでください。本書のそれ以外の内容はすべて、この序文に出てくる事象に対する運用上の答えとなっています。

9月14日 午前3時、台風セオドアがカリブ海沿岸に上陸します。最大瞬間風速 60 m/秒。高潮 2.5 メートル。降水量 18時間で 400 mm。人口35,000人の沿岸都市が2つ、互いに80キロメートル離れて存在し、いずれも同じ強度で被害を受けます。

それぞれに、会員45名のロータリークラブがあります。

シナリオ1 - 計画のないクラブ

クラブ会長は、自宅のベランダの屋根が風で剥がされる音で目を覚まします。最初の反射的な行動：地区ガバナーに電話を入れる。携帯電話は圏外。WhatsAppを試すも、インターネット接続なし。彼は家族と共に、暗闇の中で、孤立します。

午前7時、風が弱まったところで外に出ます。街並みは一変しています。倒木、地面に垂れ下がった電線、剥がされた屋根。偶然に3人のクラブ会員と遭遇します。彼らは何をすべきか分かりません。誰に連絡すべきかも分かりません。他の会員が無事かどうか分かりません。

午前10時、会長は被害を受けたが利用可能な状態のクラブ会場で、会員7名と合流します。即興の話し合い。すぐに水を配給しようとする者。当局からの指示を待つべきだとする者。医師である一人の会員は、単独で病院に向かいます。何が起きているかを記録する者は誰もいません。

午後2時、ある会員が、丘の上で携帯電話の電波が通じる場所を見つけます。地区ガバナーに電話をかけ、ガバナーはこの瞬間に初めて街が被災したことを知ります。ガバナーは情報を持っていませんでした。「何ができるか見てみよう」と約束します。Disaster Response Grant (DRG) は、5日後に至るまで申請されません。ニーズアセスメント情報が欠けていたためです。

その間、善意の自発的ボランティアが、ある地区で食料を無秩序に配給し始めます。一方で、他の2つの地区には何も届きません。建設業を営むあるクラブ会員は、生存者を捜索するため一部倒壊した建物の中に入ります。彼はヘルメットも USAR (都市捜索救助) の訓練も持っていません。運よく生還します。

72時間後、調整体制を伴って赤十字が到着します。クラブは会議に招かれます。会長は会員が何をしたか、どこで活動したかを把握していません。集計を提供できません。クラブは「臨時ボランティア」の地位に格下げされます。

25,000 USD の Disaster Response Grant は12日後に届きます。最も緊急なニーズはすでに他者によって、不十分ながらカバーされています。資金は、もはや優先度の高くない物資の購入に使われます。stewardship report (管理報告書) は不完全なものとなるでしょう。

クラブの人的損害 : 会員1名負傷 (手袋なしで瓦礫処理中に深い切り傷)、会員2名が観察対象外の心理的苦痛、今後の活動に活用できるデータはゼロ。

シナリオ2 - 計画のあるクラブ

クラブ会長は土木技師で、18か月前に災害対応計画を評議会で可決していました。クラブには Disaster Coordinator (民間防衛の退職者) がおり、四半期ごとにテストされる call-down list (連絡網) があり、明確に指定された緊急集合場所 (高台にある障害物のない地元のスーパーマーケットの駐車場) があります。

9月12日、上陸の2日前、National Hurricane Center が台風セオドアをカテゴリ4に分類し、沿岸への上陸を予測します。会長は「事前対応プロトコル」を発動します。

D-2 (9月12日 午後6時) : コーディネーターは call-down list を SMS と WhatsApp で起動します。「台風セオドア、D+2 に上陸の可能性あり。事前対応プロトコル発動。ご自身とご家族の安否を確認願います。出勤可能な会員は D+1 朝8時、集合場所に集合。」4時間以内に45人中38人が回答します。残りの7人にも翌朝までに電話で確認、全員無事です。

D-1 (9月13日) : 22名が集合場所に集まります。3時間で計画を実行します。

- ・ 利用可能な資源の棚卸し (会員宅で発電機3台、チェーンソー2台、パン1台、水の寄付について2つのスーパーマーケットと連絡確認)
- ・ 地区 DR0 への連絡 : 「セオドアは当地に関係します。明日朝3時に上陸予測。我々の計画を発動しています。DRG 申請の準備をお願いしますか? 」
- ・ 市役所および地元赤十字との連絡 : 組織化されたリソースとして自己紹介
- ・ 地区ガバナーを介した ShelterBox への事前通知 : 「上陸の可能性あり、沿岸地帯、住民35,000人」
- ・ 出勤会員への安全ブリーフィング : 回避すべきゾーン、用意すべき PPE (個人防護具)、台風後の集合手順

D+0 (9月14日 午前9時、 風が弱まる) : コーディネーターは台風後の call-down list を起動します。 2時間以内に全会員の所在を確認します。 会員2名の家屋が全壊しましたが、 家族は他のロータリアン宅で安全に保護 されています。 1名の会員が軽傷 (飛来物による腕の切り傷、 治療済)。

D+0 (9月14日 午前11時) : 18名が集合場所に集まります。 30分以内に3つのチームが編成されます。

- ・ チームA (6名) : 第12章の rapid assessment grid (迅速評価グリッド) を用いて、 優先4地区の被害評価
- ・ チームB (8名) : パートナースーパーマーケットが事前準備した500本の水ボトルを用い、 給水拠点 (POD) の設置
- ・ チームC (4名) : 調整、 市役所連絡、 地区連絡、 ドキュメンテーション開始 (写真、 数値)

D+0 (9月14日 午後4時) : チームAの評価が統合されます。 コーディネーターは構造化された報告書を DRO に送信します。 推定避難者1,200名、 損壊住宅300戸 (うち全壊80戸)、 給水網は2地区で断絶、 病院は機能しているが飽和状態。 DRO は地区ガバナーに伝達。 DRG 申請はその晩、 正確なデータと共に最終化されます。

D+1 (9月15日) : ShelterBox が発動を確定します。 クラブが地元のロジスティクス連絡担当 を提供します。 市役所はクラブに対し、 給水拠点の運営と市立体育館での避難所 運営を委ねます。 上陸前に明確にされていた唯一の組織化 された主体だったためです。

D+3 : 25,000 USD の Disaster Response Grant が TRF により承認されます。 ニーズアセスメントが正確かつ最新だったため、 不足している物資 (ブルーシート、 衛生キット、 発電機用燃料) の購入に正確に使われます。

D+7 : 赤十字が調整チームと共に到着します。 クラブは運用パートナーとして組み入れられます。 会長は毎日の調整会議に、 完全な活動報告書を持って参加します。

D+30 時点のクラブ集計 : 支援した人数4,200名、 25,000 USD の DRG を効果的に展開、 stewardship report を期限内に提出、 85名のボランティアデータベースを構築、 重大な安全事故はゼロ。

<! pagebreak >

違いの正体

両クラブとも同じ人的資源を持っていました。 同じ人数の会員。 同じ職業構成。 同じ善意。

差異は3つの言葉に集約されます : 準備された計画。

指標	シナリオ1 (計画なし)	シナリオ2 (計画あり)
最初の組織的行動までの所要時間	7時間	2時間
安否確認できた会員数 (D+0)	45名中 7名	45名中 45名
地区へのニーズアセスメント伝達	D+5 (不完全)	D+0 午後4時 (構造化)
DRG 承認	D+12	D+3
支援した人数 (D+30)	約800名 (推定)	4,200名 (記録済)
安全事故	負傷1件、心理的苦痛2件	0件
地元当局による認識	その他大勢のボランティア	運用パートナー

数値に関する注記。 このシナリオは、カリブ海域での実際の台風後対応事例（特にマリア、イルマ、ベリル後に収集された教訓）から組み立てた合成事例です。 安否確認会員数、最初の行動までの時間、25,000 USD の DRG にクラブの資源とボランティア時間を組み合わせて到達できる人口規模、これらの数量オーダーは、十分に準備されたクラブが好条件下で「妥当に」達成できる上限です。 これらは備えの射程を示すものであって、保証された結果ではありません。

日本における類似事例 - 参考補足

このカリブ海のシナリオは、日本の文脈に置き換えても同じ法則が当てはまります。直近の例として、令和元年東日本台風（2019年10月、ハギビス）では、神奈川県、長野県、福島県をはじめとする広範囲が被災し、千曲川流域の決壊、阿武隈川の氾濫、首都圏の停電が発生しました。直前に台風の進路が予測されていたため、事前の準備の有無による地区差が明確に表れた事例として知られています。事前に避難計画と備蓄を整えていた自治体・組織と、そうでない自治体・組織との間で、その後の復旧速度に顕著な差が生まれました。

また、令和6年能登半島地震（2024年1月1日）では、半島という地形上の制約から外部支援が到着するまでに時間を要し、初動の72時間における地域組織（民生委員、自主防災組織、ロータリークラブを含む）の役割が決定的でした。事前に call-down list と緊急対応計画を準備していた組織は、能動的な活動を開始できたのに対し、計画を欠いていた組織は混乱の中で機能不全に陥りました。

東日本大震災（2011年3月11日）では、地震、津波、計画の有無を超えた次元での教訓が積み上げられました。本書全体を通じて、これらの事例から得られた知見を必要に応じて参照していきます。

本書のそれ以降の内容は、すべて一つの目的のために存在します。あなたのクラブを「シナリオ2」にすることです。

第 0
教義

第 0
教義と最低基準

この章は教義を定めます。 それ以外の章はそれを展開します。
 本書の他の部分を読む前に、 まずこの章を読んでください。 毎年、 クラブの全体会議で、
 災害コーディネーターおよび次期会長と 共に再読してください。

備えのできたロータリークラブとは、 即興でやっているボランティアの集まり
 ではありません。 それは 地域における、 知識・信頼・調整・動員の中継ぎ機能 です。
 地域について熟知していること。 当局、 NGO、 会員と築き上げた信頼。
 組織化された内部の調整。 事態発生時の迅速な動員。

本書はこの中継ぎ機能を、 標準化可能、 再現可能、
 伝達可能なものにする運用枠組みです。 本書はコーディネーターの判断を置き換
 えるものではありません。 その判断が機能するための格子を提供し ます。

7段階の教義

ロータリークラブの災害対応は7段階に従います。 6でも8でもありません。
 暗記してください。

1. 事前に備える
2. 迅速に行動する
3. 正確に評価する
4. 上位層へ報告する
5. ネットワークを起動する
6. 文書化する
7. 改善する

この7段階が本書の各部の構成となっています。 あなたの緊急対応計画の構成となります。
 あなたの SITREP の構成となります。 あなたの振り返りの構成となります。

1. 事前に備える

策定済みの計画、 任命されたコーディネーター、 テスト済みの call-down list、
 最新のスキル棚卸し、 形式化されたパートナーシップ。 備えがなければ、
 続く6段階は崩壊します。

2. 迅速に行動する

最初の数時間が結果を決めます。 救われた命の大半は、
 最初の72時間以内に救われています。 指示を待つクラブは、 この時間枠を逸します。

3. 正確に評価する

印象ではなく、 数値で。 被災者数、 ニーズの種類、 重要インフラの状況。
 曖昧な評価は、 却下されるか規模の合わない DRG を生みます。 正確な評価は、
 3日で承認される DRG を生みます。

4. 上位層へ報告する

DR0 に対する SITREP は、急性期は6時間ごと、その後は日次です。上位に流れない情報は、地区にとっては存在しない情報です。SITREP なし、資金なし、調整なし。

5. ネットワークを起動する

まず DDRF、並行して DRG、ShelterBox、DNA-RAG、専門 RAG、ロータリー外パートナー。ロータリーの力は、孤立したクラブの規模ではなく、ネットワークが起動する速さにあります。

6. 文書化する

日付入りの写真、領収書、受益者名簿、財務記録。文書化されていない1ドルは、stewardship において失われた1ドルであり、地区全体の今後の DRG を危うくする1ドルです。

7. 改善する

本書の教義では After-Action Report は30日以内の作成を推奨します。学んだ教訓の共有。計画の更新。振り返りをしないクラブは改善しません。

クラブが災害時に失敗する理由

本書が存在するのは、大半のクラブが失敗するからです。
 情熱の欠如からではありません。枠組みの欠如からです。
 ロータリークラブによる災害対応の実務 において観察される、
 9つの再発する原因を以下に列挙します。あなたのクラブに該当するものを特定し
 てください。事態発生前に対処してください。

失敗の原因	現場での現れ方	対処
災害コーディネーター不在	計画を起動する者がいない。 会長が即興で動く。 会員はスキルではなく親しきで動く。	第5章 毎年コーディネーターを任命する
最新の連絡先名簿なし	DG、DR0、市役所、 赤十字の電話番号が適切な端末に入っていない。 正しい連絡先に到達するまでに3時間を浪費。	第2章および付録B 7月1日に年次更新
地区への過度な依存	クラブは行動せずに指示を待つ。 最初の72時間が無駄になる。	第1章および第12章 まず自律行動、 並行して地区に通知

失敗の原因	現場での現れ方	対処
人道支援と善意の混同	無秩序な配給、事前評価なし、Do No Harm 原則の意図せざる違反。	第4章 人道支援原則、Sphere 基準
文書化の規律の欠如	日付なしの写真、紛失した領収書、受益者名簿なし。DRG が拒否されるか、stewardship が阻まれる。	第24章 発災1時間目から文書化
即興的なコミュニケーション	複数のスポークスパーソン、矛盾するメッセージ、反駁されない噂、ドナーが情報を持たない。	第8章および第16章 単一のスポークスパーソン、形式化された SITREP
管理されないボランティア	自発的ボランティアが登録されない、PPE なし、保険なし。事故が一件起きれば、クラブは法的責任を負う。	第15章 必須の登録、ブリーフィング、ローテーション
教訓還元ループの不在	同じ過ちが次の災害でも繰り返される。役員交代と共に運用知識が蒸発する。	第25章 30日以内の AAR、歴史記録の保管
上位指示なしに決断する恐怖	コーディネーターは200 USD の支出毎に DG の承認を待つ。対応速度が崩壊する。	第11章 明確な権限規則、事前定義された閾値

診断ルール : あなたのクラブが3つ以上の原因に該当する場合、それは運用上の脆弱な状態にあります。次の危険シーズンを待たずに対処してください。

備えのできたクラブの最低基準

クラブが 運用上の準備完了 とみなされるのは、以下の10の基準を満たすときです。10の基準のうち8ではなく、10すべてです。それを下回るとクラブは脆弱な状態にあります。

10の基準

#	基準	参照章	頻度
1	役員会により任命された災害コーディネーター	第5章	毎年、 7月1日
2	実際の通話によりテストされた call-down list	第7章	四半期ごと
3	最新の連絡先名簿 地区、市役所、緊急サービス、パートナー	第2章および付録B	毎年
4	領域別リスク行列 (発生確率 × 影響度)	第3章	毎年
5	会員のスキルと資源の棚卸し	第7章	毎年

#	基準	参照章	頻度
6	第一・第二の集合場所の特定	第7章	毎年見直し
7	書面化された危機コミュニケーション・ プロトコル	第8章	毎年
8	クラブのキットに印刷された SITREP テンプレート	第16章および付録A 書式1	常時
9	支出と行動を文書化する手順	第11章および第24章	常時
10	小さなものも含め、すべての発動後の振り返り	第25章	事後

基準の年次監査

災害コーディネーターは、年に一度、理想的には6月の役員交代前にこの基準の監査を実施します。10の基準にチェックを入れ、ギャップを文書化し、結果を役員会および次期会長に提示します。

10/10 をチェックしたクラブは標準クラブであり、DRG を受け取る準備ができ、地区演習に参加でき、複数クラブ合同活動に統合される準備ができています。

7/10 未満のクラブは、次の危険シーズンの前にギャップを埋めなければなりません。

この基準は、DRO による検証のもとに地区が交付するロータリー災害準備認証へと発展することを意図しています。既存の公的認証を置き換えるものではなく、実務を構造化するものです。

教義における DNA-RAG の役割

DNA-RAG (Disaster Network of Assistance Rotary Action Group) は階層的権威ではありません。クラブ、地区、ゾーンに指揮命令することはありません。国際ロータリーおよびロータリー財団はそれぞれの特権を保持します。DG が地区レベルで決定し、会長がクラブレベルで決定します。

DNA-RAG が行うのは別のことです。助言し、つなぎ、調整し、ツールを提供します。その4つの機能：

機能	あなたのクラブにとって具体的に何を意味するか
横断的な調整	災害が複数の地区に影響する場合、DNA-RAG は各地区が車輪を再発明することを防ぎます。対応を整え、評価を共有し、資源をプールします。
接続	DNA-RAG は、グローバル補助金のためにホストクラブを国際的なスポンサークラブとつなぎます。被災したクラブを資源のある近隣地区とつなぎます。
資本化	DNA-RAG は過去の活動から得られた教訓を集め、ネットワークに提供します。あなたの After-Action Report がこの知識基盤を支えます。

機能	あなたのクラブにとって具体的に何を意味するか
ツールの提供	DNA-RAG はテンプレート、チェックリスト、研修を制作・配布します。 本書は、DNA-RAG の既存リソースを補完することを目指しており、公式刊行物ではありません。

実務ルール : あなたの災害が1つの地区を超えて影響を及ぼす、または専門技術が必要となる場合、すぐに DNA-RAG に連絡してください。遅すぎるよりは早めに。緊急申し込みフォームは `dna-rag.com` にあります。

本書を研修教材として活用する

本書は、最短のものから最も負荷の高いものまで、4つの研修フォーマットを支えるように設計されています。

クラブ研修 (2時間)

災害コーディネーターが主導する、クラブの全体会議における単一のモジュールです。

- ・ 20分 : 7段階の教義 (この章) + 第1章の事例
- ・ 30分 : 最低基準 (この章)、クラブのライブ監査
- ・ 30分 : 簡略化された机上演習 (第10章)
- ・ 20分 : 30日以内に開始すべき行動
- ・ 20分 : 議論

目的 : 教義についてクラブを揃え、改善計画を開始すること。

年次シミュレーション演習 (半日)

コーディネーターが組織し、役員会と少なくとも10名の会員が参加します。

シナリオは領域別リスク行列 (第3章) の優先リスクの一つに基づきます。第12章から第17章を適用します。実際の SITREP を作成します。第25章に従った振り返り。

目的 : call-down list、コミュニケーション・プロトコルをテストし、最低基準とのギャップを特定すること。

地区研修 (1日)

複数クラブの災害コーディネーターを対象とします。DRO または経験豊富な DNA-RAG メンバーが主導します。

午前 : 教義、最低基準、DCA-3/2/3、財務的起動。午後 : 複数クラブ演習、クラブ間調整、クラブ間 SITREP、振り返り。

目的 : 地区内のクラブの準備を整えること。

新任災害コーディネーターのオンボーディング（3か月）

新たに任命されたコーディネーター向け、3か月にわたります：

- ・ 1か月目：本書の全文読破。退任会長および次期会長との面談。最低基準の監査。
- ・ 2か月目：DNA-RAG 会議（毎月第2月曜、午前9時 EST）に参加。地区 DRO への自己紹介。
- ・ 3か月目：最初の机上演習。年度のクラブ緊急対応計画の確定。

目的：危険シーズン前に完全な運用統合を実現すること。

本書の残りの章の読み方

第I部から第VII部は時系列に従います：理解する、備える、行動する、ネットワークを起動する、その後、カード、付録。しかし各部はまた、教義の7段階のいずれかの展開としても読めます。

部	対応する教義段階
I 理解する	7段階の前提
II 備える	1. 事前に備える
III 行動する	2. 迅速に行動する・3. 正確に評価する・4. 上位層へ報告する
IV ネットワークを起動する	5. ネットワークを起動する
V その後	6. 文書化する・7. 改善する
VI カード	7段階を横断するツール
VII 付録	7段階を横断するツール

時間が1時間しかない場合：この第0章と第1章を読んでください。教義と「なぜ」を手にしたことになります。それ以外はそこから展開します。

それでは、あなたが活動する生態系を理解することから始めましょう。

第 I
理解する

第 1
本書を書いた理由

本書は経営の教科書ではありません

あなたは経営者、医師、弁護士、技術者、建築家、薬剤師です。すでに予算、チーム、職業上の危機を管理しています。本書はそれらを焼き直すものではありません。

本書に書かれているのは、あなたの地域に災害が襲来し、あなたのロータリークラブが実質的に、行動可能な最初の組織化された主体となる時、必要となる固有の運用枠組みです。3日後ではありません。国際的な NGO がロジスティクスを展開した後ではありません。今です。手元にあるもので。

ロータリーは200を超える国と地理的地域に46,000以上のクラブを擁し、120万人を超えるロータリアンを抱えています。それにもかかわらず、災害が発生すると、大半のクラブが即興で動きます。意志の欠如からではなく、枠組みの欠如からです。本書はその枠組みです。

備えのできたロータリークラブとは、即興でやっているボランティアの集まりではありません。それは地域における、知識・信頼・調整・動員の中継ぎ機能です。第0章で述べた教義は7段階に整理されます：事前に備える・迅速に行動する・正確に評価する・上位層へ報告する・ネットワークを起動する・文書化する・改善する。本書の各部は、これら7段階の展開に他なりません。

災害が発生したとき、クラブは「最初の対応者」です

明確にしておきましょう。ロータリークラブは緊急サービスではありません。消防、救急医療、民間防衛のいずれも置き換えるものではありません。しかし、災害発生後の数時間、行政機関のメカニズムが本格稼働する前、ロータリークラブは他の誰も同時には保有していない4つの優位性を持っています。

優位性	具体的な意味
現場の熟知	会員は地域を、脆弱な世帯を、地域資源を知っています。 赤十字は地図を持って到着します。 あなたは名前を知っています。
地域からの信頼	ロータリアンは見知った顔です。4WD から降りてくるロゴ入りベストの見知らぬ人ではありません。 住民は扉を開いてくれます。
即時の反応性	組織化されたクラブは1時間以内に行動できます。 1日以内ではなく、1時間以内に。call-down list を起動し、 集合場所に集まる時間です。
起動可能な地域ネットワーク	会員は選出政治家、企業、他の団体とつながっています。 電話1本で、倉庫、トラック、体育館にアクセスできます。

これは理論ではありません。2024年のカリブ海でのハリケーン・ベリル後、

フロリダのヘレーン後、 バヌアツの M7.3 地震後に実際に起きたことです。いずれの場合も、現場での最初の対応者の中にロータリークラブが含まれていました：物資配給、 ShelterBox と連携した緊急シェルター、地区への報告による資金調達の発動。

日本における類似事例：東日本大震災（2011年3月11日）、令和6年能登半島地震（2024年1月1日）、令和元年東日本台風（2019年10月、ハギビス）、平成30年北海道胆振東部地震（2018年9月）、平成28年熊本地震（2016年4月）いずれの局面でも、地元のロータリークラブが初動の72時間において、避難所運営、物資搬送、安否確認、行政との連絡調整などの役割を担いました。専門的な救助活動ではなく、それを支える地域組織としての役割です。

自律性 - 創設原理として

本書の中心的概念は1語で表せます：自律性。

自律性は孤立を意味しません。自律性が意味するのは：手元にあるもので行動し（そしてあなたは多くを持っています）、その上で上位のロータリーネットワークを起動するということです。

連鎖はこうです：

```

クラブ → 地区 → ゾーン → RAG各種 → TRF → RI
↑
あなたはここ

```

クラブは第1層、災害に最も近い位置にあります。地区へ、ゾーンへ、Rotary Action Groups へ、ロータリー財団へと上っていくのは、情報、資金要請、調整ニーズです。下りてくるのは、資金、資材、専門知識、ボランティアです。

しかしこのループは、クラブがまず行動しなければ始まりません。地区からの指示を待つクラブは、人道支援基準（OCHA、Sphere）において最も重要とされる、最初の72時間という時間枠を逸します。計画、Disaster Coordinator、会員の資源棚卸し、テスト済みの call-down list を持つクラブは、1時間以内に行動を開始し、並行して地区に通報することで、資金調達メカニズム（Disaster Response Grant、ShelterBox、ゾーン基金）を起動できます。

クラブが行うこと、行わないこと

自分の強みを知るのと同じくらい、自分の限界を知ることが重要です。

クラブは次のことを行います：

- ・ 現場での初期ニーズアセスメント
- ・ 会員の資源による最初の対応
- ・ 地区（DG、DR0）への情報伝達
- ・ 地域の関係者（市役所、赤十字、消防）との調整
- ・ 領域内でのボランティア管理

- ・ 支援物資が到着した際の配給

クラブは次のことを行いません：

- ・ TRF 補助金の管理 (Disaster Response Grant を申請するのは地区)
- ・ 地区間の調整 (ゾーンおよび DNA-RAG の役割)
- ・ 政治、絶対的な中立性
- ・ 適切な訓練と装備のない危険ゾーンへの 介入
- ・ 救助、それは専門サービスの仕事です

本書の使い方

本書は3つの異なる時点を想定して設計されています。1回の直線的な読書を想定していません。

平時に、事前に 読む

それが今です。あなたは肘掛け椅子に座り、コーヒーを飲み、外で誰も叫んでいません。これが概念を吸収し、ロータリー生態系を理解し、領域のリスクを特定し、計画を準備できる唯一の機会です。

第I部 (理解する) を最後まで読んでください。メモを取ってください。クラブ会議で議論してください。Disaster Coordinator を任命してください。第3章のリスク行列に記入してください。連絡先名簿を構築してください (第7章および付録B)。

これだけを行ったとしても、つまり事前に読み備えるだけで、すでにロータリークラブの大半 (その多くは正式な災害計画を持っていません) を大きく上回るようになります。

危機時に、最中に 手に取る

災害がたった今襲来しました。停電しているかもしれません。本書は紙の形 (印刷しておく) または携帯電話上にあります。段落を読む時間はありません。

直接、第III部および第IV部 (行動する、ネットワークを起動する) に進み、チェックリストに従ってください。これらはストレス下で、最小限の思考でステップ・バイ・ステップに実行できるように設計されています。各フェーズ (0-6時間、6-24時間、24-72時間、72時間-2週間) には固有のチェックリストがあります。

第I部の表 (資金調達メカニズム、連絡先、リスク分類) は迅速参照ツールとなります。

事後の振り返り時に、その後に 再読する

危機は終わりました。stewardship 報告書も提出済みです。今こそ、後知恵で再読する瞬間です。何が機能したか? 何が失敗したか?

クラブの計画で何を変える必要があるか?

第V部 (その後) がそのプロセスを導きます。 しかし、
 新たな経験を持って第I部も再読してください。 抽象的な概念は、
 生きてみた後では別の意味を帯びます。

<! pagebreak >

本書の構成

本書は災害管理の自然な時系列に沿って、7つの部に整理されています：

第I部 理解する (あなたは今ここにいます) 基本：ロータリー生態系、領域のリスク、人道支援原則。 平時に読むべき部分。

第II部 備える あなたのクラブの計画：災害対応委員会、資源棚卸し、call-down list、パートナー関係、訓練、緊急基金。 危機の前に構築・テストすべき部分。

第III部 自分たちの手段で行動する 最初の72時間、安定化、ボランティア管理、危機コミュニケーション、 心理的支援のための運用チェックリスト。 危機時に実行すべき部分。

第IV部 ロータリーネットワークを起動する 地区、財団とその7つの資金調達メカニズム、各種 RAG、ロータリー外パートナー、現場調整。 クラブを超えて動員すべき部分。

第V部 その後 復興への移行、文書化と報告、振り返りと継続的改善。 出来事を学びに変えるべき部分。

第VI部 災害種別ごとの実用カード 主要な災害種別 (地質、気象、気候、技術、保健、複合) を網羅する20の運用カード。 コピーしてクラブのキットに保管すべき部分。

第VII部 付録とツール 運用書式、連絡先名簿、用語集、オンライン資源。 コーディネーターの参照資料。

それでは、あなたが活動する生態系を理解することから始めましょう。

第 1
理解する

第 2
災害対応のためのロータリー生態系

6階層のピラミッド

国際ロータリーは人道支援団体ではありません。それは120万人を超えるロータリアンがクラブ、地区、ゾーンとして組織化された世界規模のネットワークであり、財務的部門（ロータリー財団）と専門家集団（各種 RAG）を有しています。災害が発生したとき、このネットワークは多大な資源を動員できます。仕組みを知っていれば、です。

ロータリーの災害対応構造は現場から上向きに読み取れます：

第6層	ROTARY INTERNATIONAL (RI、国際ロータリー) - エバンストン、イリノイ州 世界規模の政策、制度的調整
第5層	THE ROTARY FOUNDATION (TRF、ロータリー財団) 財務的部門：Disaster Response Fund、DRG、グローバル補助金
第4層	ROTARY ACTION GROUPS (RAGs、ロータリー行動グループ) 横断的専門性：DNA-RAG、WASH-RAG、ESRAG、RAGFP、RAGCED
第3層	ROTARY ZONE (ゾーン、世界で約34ゾーン) 地区間調整、ゾーン基金
第2層	ROTARY DISTRICT (地区、約530地区) 補助金申請、クラブ調整、DRO
第1層	ROTARY CLUB (クラブ、46,000以上) ← あなた 最初の接触、即時対応、現場の熟知

各層がクラブに対して行うこと

クラブは国際ロータリーの内部政策を理解する必要はありません。危機が発生したときに各レベルが具体的に何をもちたらすかを知ればよいのです。

層	クラブに対して行うこと	標準的な時間枠
地区	DRG (上限 25,000 USD) を申請。 DDRF (地区災害救援資金) を起動。 被災クラブ間の調整。 DRO を派遣。	DDRF は24時間以内、 DRG は2~4週間 (事前申請の場合は24~48時間)
ゾーン	複数地区が被災した際の調整。 ゾーン基金 (存在する場合) を起動。 地区間支援を促進。	2~5日
各種 RAG	技術的専門性を提供。 DNA-RAG が全体対応を調整。 WASH-RAG が水を回復。 ESRAG が気候レジリエンスについて助言。	コーディネーターは24時間以内、現場の専門家は3~14日

層	クラブに対して行うこと	標準的な時間枠
TRF	DRG、中央の Disaster Response Fund、グローバル補助金を通じた資金提供。 最終的な財務部門。	DRG は2~4週間、 グローバル補助金は3~6か月
RI	世界規模のコミュニケーションを起動。 大災害時には世界中からの寄付を動員。 政府および国連とのインターフェース。	1~3週間

情報は上に流れ、資源は下に流れます。クラブはニーズアセスメントと現場データを提供します。上位のネットワークは資金、資材、広範な調整を提供します。

災害前に知っておくべき主要人物

街が水没している最中に電話番号を探したいとは思わないでしょう。これらの連絡先は、Disaster Coordinator、会長、および少なくとも他の2名の役員の携帯電話にすでに登録されている必要があります。

地区レベル

役職	略称	災害時の役割	なぜ必要か
地区ガバナー	DG	地区の最高権威。DRGに署名。DDRFを起動。ShelterBoxに通知。	資金調達を発動するのはDG。DGなくしてDRGなし。
次期地区ガバナー	DGE	DGが不在の場合に交代。連続性。	DG本人が被災した場合に。
地区災害救援担当者	DRO	DGが任命。地区の災害対応を調整。クラブとDGをつなぐ。	主要な連絡相手。最初にDROに電話。彼が何をすべきか分かっており、DGに伝達します。
地区ロータリー財団委員会委員長	DRFC	TRF補助金申請に共同署名。財務面を担当。	この署名なくしてDRGもグローバル補助金も申請できません。
地区災害対応委員会	DRC	危機状況においてDGが起動する委員会。	地区レベルでの運用調整。

RAG およびパートナーレベル

連絡先	組織	連絡するタイミング	連絡方法
あなたのゾーン の DNA-RAG 代表	DNA-RAG	災害が複数のクラブ/地区を脅かす、 または被災するとすぐ	dna-rag.com または月例会 (毎月第2月曜、午前9時 EST)
ShelterBox	RI パートナー	緊急シェルターが必要なとき (DG 経由)	rotaryrequest@shelterbox.o rg
TRF 補助金	ロータリー財 団	DRG およびグローバル補助金に関する質問 全般	grants@rotary.org

<! pagebreak >

今すぐ 記入する連絡先シート

15分かけて、このシートを記入し、役員に配布してください。

災害対応連絡先 - クラブ名 _____

地区番号 : _____

地区ガバナー (DG) :

氏名 : _____

電話 : _____

メール : _____

次期地区ガバナー (DGE) :

氏名 : _____

電話 : _____

地区災害救援担当者 (DRO) :

氏名 : _____

電話 : _____

メール : _____

地区ロータリー財団委員会委員長 (DRFC) :

氏名 : _____

電話 : _____

メール : _____

DNA-RAG 連絡先 (ゾーン) :

氏名 : _____

電話 / メール : _____

ShelterBox :

メール : rotaryrequest@shelterbox.org

TRF 補助金 :

メール : grants@rotary.org

地元の日本赤十字社支部 :

代表者名 : _____

電話 : _____

行政機関 / 市役所 :

危機時連絡先 : _____

電話 : _____

気象庁地方気象台 :

電話 : _____

地方自治体防災担当課 :

電話 : _____

必須の更新 : ロータリー年度の開始である毎年7月1日に、 DG および場合により DRO が交代する際に更新します。

7つの資金調達メカニズム - クラブから見た視点

資金は対応の生命線です。 ロータリーは7つの異なる資金調達メカニズムを有して おり、それぞれに固有のルール、 時間枠、 起動者があります。クラブの視点から覚えておくべきことは 以下のとおりです :

#	メカニズム	金額	時間枠	起動者	クラブが行うこと
1	District Disaster Relief Fund (DDRF、地区災害救援資金)	基金残高に依存	即時	DG 単独	DRO にニーズを伝達。これが第一の手段 TRF の承認は不要。
2	Disaster Response Grant (DRG)	上限 25,000 USD	数日	地区 → TRF	ニーズアセスメントを提供。 DG + DRFC が Submittable で申請。指定された嵐に対しては事前申請可能。
3	Zone Disaster Response Fund (ゾーン災害対応基金)	変動	速い	ゾーン・ディレクター	DRO に通報。 特定のゾーンに存在 (例 ゾーン33/34 カリブ海)。
4	DNA-RAG Fund	変動	速い	DNA-RAG	あなたのゾーンの代表を通じて DNA-RAG に連絡。 501(c)(3) 基金。

#	メカニズム	金額	時間枠	起動者	クラブが行うこと
5	Rotary Disaster Response Fund (TRF 中央基金)	上限なし	変動	TRF 主導	何もしません。大災害に対して TRF 自体が起動。 あなたの寄付がこれを支えます。
6	グローバル補助金	30,000~400,000+ USD	数か月	クラブ/地区 → TRF	長期プロジェクトの構築（復興、WASH）。国際スポンサークラブと Grant Management Seminar が必要。
7	District Designated Funds (DDF)	年間 DDF の50%	補助金による	地区 → TRF	グローバル補助金への地区の拠出。過去3年間の EREY 寄付に基づく。

標準的な財務起動の連鎖

現実の状況では、メカニズムは次の順で起動します：

時間 0 ---- DG により DDRF 起動（地区の自前資金）
クラブは会員の資源で行動

時間 6 ---- DG + DRFC により DRG 申請（アセスメント可能であれば）
ShelterBox に通知（DG 経由）

日 2-5 ---- TRF により DRG 承認（上限 25,000 USD）
ShelterBox 派遣（基準満たす場合、48時間）
複数地区の場合はゾーン基金起動

週 2+ ---- 復興が必要な場合、グローバル補助金の構築開始
DNA-RAG 基金が支援
DDF をグローバル補助金に振り向け

月 2-6 ---- グローバル補助金承認（30,000~400,000+ USD）
復興フェーズ開始

クラブにとっての要点

緊急フェーズで最も重要なメカニズムは Disaster Response Grant です。知っておくべきことは3つです：

- DRG を申請するのはクラブではなく、地区（DG + DRFC）です。しかし、ニーズアセスメントがなければ申請書類は作成できず、これを提供するのはクラブです。数時間以内に DRO に伝達された完全なアセスメントは、数日で承認される DRG を意味します。遅れて伝達された曖昧なアセスメントは、遅すぎる DRG を意味します。

2. DRG は指定された熱帯低気圧や嵐の場合、上陸前に申請可能です。あなたの地域が進路上にある場合、地区は事前に DRG を申請できます。これは大きな利点です：上陸の翌日には資金が利用可能となり得ます。
3. stewardship 報告書は必須です。preliminary report、interim report、final report。これらの報告書がなければ、地区は新たな DRG を申請できません。支出を文書化しないクラブは、自地区の今後の対応を妨げることになります。

DDRF - 財務的防衛の第一線

District Disaster Relief Fund は、地区の一般財源とは別の専用銀行口座であり、クラブの年間拠出によって維持されます。決定的な利点：TRF の承認なしに DG 単独で即時起動できます。

最初の48時間、行政的な遅延が命を奪い得る時期に、DDRF は利用可能な唯一のロータリー財務手段です。

今すぐ確認：あなたの地区には DDRF がありますか？ 資金は補充されていますか？ あなたのクラブは毎年拠出していますか？ いずれかの答えが「いいえ」なら、次の地区大会でこの問題を提起してください。

ロータリー行動グループ (RAGs) - 専門家ネットワーク

RAG は国際ロータリーの理事会によって認められた、専門ロータリアンで構成される独立組織です。法人組織（米国の場合 501(c)(3)）で、横断的に活動します。特定の地区にもゾーンにも属さず、すべての関係者が利用可能です。

災害対応に関しては、5つの RAG が重要です。各 RAG が危機にあるクラブに対して具体的に何を行うかを以下に示します。

DNA-RAG - Disaster Network of Assistance

これは災害対応の中央的 RAG です。DNA-RAG をロータリーの「災害時の航空管制」と考えてください。

パラメータ	詳細
サイト	dna-rag.com
会議	毎月第2月曜、午前9時 EST
地位	501(c)(3)、米国内では寄付控除対象
本部	フロリダ州ポイントンビーチ ポカラトン

DNA-RAG があなたのクラブに対して行うこと：

- ・ 支援可能な他のクラブや地区とあなたのクラブをつなぎます
- ・ 被災地域と支援源との調整を行います

- ・ 独自の基金（dna-rag.com での寄付）を通じて 資金調達 します
- ・ 地区大会や RI 大会のワークショップで会員を 訓練 します
- ・ 計画ガイド（ゾーン30/31 のガイドは転用可能なモデル）を 提供 します

DNA-RAG は3つのフェーズで活動します：

- ・ フェーズ1（0-72時間）：地元クラブの動員、即時援助の供給、リアルタイム通信
- ・ フェーズ2（72時間-2週間）：資金と資材の流通、ボランティアの調整
- ・ フェーズ3（2週間-数年）：復興プロジェクト、グローバル補助金

WASH-RAG - Water, Sanitation and Hygiene

地震、洪水、台風の後はいつも、水質汚染が健康リスクの第1位となります。WASH-RAG が提供するもの：

- ・ 水質評価のための技術アドバイザー
- ・ カスタマイズされた浄水システムの設計
- ・ WASH 関連グローバル補助金の構築支援
- ・ UNICEF WASH との連携

起動するタイミング：給水管が破断、または水が汚染されている可能性がある場合すぐに。優先される災害種別：地震（A1）、洪水（B2）、台風（B1）、干ばつ（C1）。

ESRAG - Environmental Sustainability RAG

DNA-RAG の正式パートナー。気候レジリエンスとリスク予防に特化。災害時の役割：

- ・ 領域の気候脆弱性分析
- ・ レジリエントな復興（Build Back Better）に関する助言
- ・ 気候関連リスクの推移に関する展望

RAGFP - Rotary Action Group for Peace

紛争後の復興。復興の一環としての平和構築。

起動するタイミング：紛争状況（F1）およびその余波。

RAGCED - Rotary Action Group for Community Economic Development

災害後の地域経済開発支援。生計回復、マイクロファイナンス、職業訓練、被災コミュニティの経済復興。

起動するタイミング：主要災害後の復興フェーズ、経済復興、地域市場と生計の再生。

選択表 - どの災害にどの RAG?

災害種別	DNA-RAG	WASH-RAG	ESRAG	RAGFP	RAGGED
地震 (A1)	●	●			●
津波 (A2)	●	●			●
火山噴火 (A3)	●		●		
台風 ハリケーン (B1)	●	●	●		●
洪水 (B2)	●	●			●
干ばつ (C1)	●	●	●		●
山火事 (C2)	●		●		
感染症 (E1)	●	●			
武力紛争 (F1)	●			●	
難民 避難民 (F2)	●	●		●	●
飢餓 (F3)	●	●	●		●

注記：DNA-RAG は常に関連します。地区間またはゾーン間のあらゆる調整の入口です。

ShelterBox と Disaster Aid - 運用部門

ShelterBox、2012年以來の公式ロータリープロジェクトパートナー

ShelterBox は災害対応におけるロータリーの最重要パートナーです。本部は英国コーンウォール州トルーロ、2000年にヘルストンで設立。緊急シェルターに特化した国際人道支援組織です。そのプロジェクトは TRF 補助金の対象となります。

ShelterBox が提供するもの：

物品	詳細
家族用テント	避難家族のための一時的シェルター
補強ブルーシート	損壊住宅の即時保護
太陽光式バッテリー付きランプ	照明 + 携帯電話充電
保温寝袋	0° C まで断熱
携帯コンロ	グリッド非依存の調理
浄水フィルター	個別の水浄化
保温毛布	寒さからの保護
調理キット	鍋、調理器具、食器類

起動プロセス：

1. DG (またはクラブが DG 経由で) が rotaryrequest@shelterbox.org に連絡
2. ShelterBox が独自の対応基準に照らして評価

3. 基準を満たす場合：48時間以内の派遣可能
4. DG に ShelterBox の到着が通知される
5. 地元ロータリアンが活動を支援

現場で ShelterBox に対しクラブが行うこと：

- ・ 文化情報と地域の慣習
- ・ 通関手続きの支援
- ・ 物資の輸送と一時保管
- ・ 翻訳と通訳
- ・ 地元当局への紹介
- ・ 配給への参加（ShelterBox チームが同意した場合）

クラブは ShelterBox の現場での目、耳、手です。ロジスティクスと人道支援の専門性は ShelterBox から来ます。現場の知識はクラブから来ます。

具体例、ゾーン33/34（カリブ海）：太陽光ランプ600台、ShelterBox バッグ200個、寝袋250個、コンロ110台、浄水フィルター600個、毛布800枚を派遣。さらにゾーン基金への 100,000 USD のマッチング補助金。

Disaster Aid USA (DAUSA)

パラメータ	詳細
サイト	disasteraidusa.org
専門性	物理的な現場対応（瓦礫処理、清掃、配給）
起動	ロータリー地区との調整を通じて

DAUSA が行うこと：

- ・ 瓦礫処理とチェーンソー作業
- ・ 泥水の清掃（muck & gut）
- ・ 損壊した屋根のブルーシート保護
- ・ 配給拠点（POD）の運営
- ・ 浄水

DAUSA に連絡するタイミング：台風、洪水、山火事の場合、主に北米。事前訓練・装備済みのチームを、地区調整下で派遣。

Disaster Aid Australia

太平洋ゾーン（オーストラリア、バヌアツ、フィジー、ソロモン諸島、PNG）における DAUSA に類似したモデル。RAWCS（Rotary Australia World Community Service）を通じてオーストラリアのロータリーに所属。

地域ネットワーク - ロータリーが実績を示してきた領域

ロータリーの災害対応の仕組みは理論ではありませぬ。
地域ごとに成熟度は異なりますが、現場で試され、洗練されてきました。

ゾーン33/34、カリブ海および中南米

世界で最も発達した構造。理由：これらのゾーンは毎年ハリケーン・シーズンに被災します。

- ・ 専用かつ活動的なゾーン対応基金
- ・ 指定されたゾーン災害救援コーディネーター
- ・ 正式な DNA-RAG 計画ガイド
- ・ ShelterBox との 100,000 USD のマッチング補助金
- ・ 地区7020（ジャマイカ）が開発した復興アプリケーション
- ・ 文書化された対応事例：ハリケーン・ベリル 2024年、ハリケーン・ヘレーン 2024年、ラ・スフリエール噴火、ハイチ地震

フロリダ・モデル（地区6930）

DNA-RAG の主要メンバーを擁する地区。これはベンチマーク・モデルです：

- ・ 事前策定済みの対応計画
- ・ 数時間で起動可能なオンライン・ボランティア・ハブ
- ・ 事前設定済みの銀行口座と寄付ページ（30分で起動可能）
- ・ 「Compassion Teams」（心理社会支援のためのプロフェッショナル療法士）
- ・ ハリケーン・ヘレーン後、アパラチア地方に輸出されたモデル

オーストラリア / 太平洋（ゾーン8/9）

RAWCS 州委員会がオーストラリア全州を調整。Disaster Aid Australia が物理的対応を担当。ShelterBox オーストラリアのネットワーク。注目すべき事例：バヌアツ地震 2024年、地区9910、DRG 26,000 USD + 動員総額 200,000+ USD。

東南アジア

ミャンマー地震 2025年（M7.7）のために DNA-RAG が動員。フィリピン：台風に対し歴史的に最も活動的な地区。

日本における事例（本書日本語版固有）

日本では、東日本大震災（2011年）以降、複数の地区および個別クラブが災害対応の体制を整備してきました。地区2750（東京）をはじめとする首都圏の地区、地区2830（東北）をはじめとする被災地区、地区2780・地区2790 などの中央地域では、災害対応委員会を常設し、行政・自治会・他団体との連携を構築し

ている事例があります。

ただし、日本では公的な災害対応体制（内閣府防災担当、自衛隊、警察庁、消防庁、国土交通省、地方自治体の災害対策本部、日本赤十字社、DMAT、DCAT 等）が極めて充実しているため、ロータリークラブの役割は公的体制を置き換えるものではなく、地域住民との橋渡しおよび補完機能に焦点を当てるべきです。具体的には、避難所の運営支援、被災者へのきめ細かな情報伝達、行政が直接アクセスしにくい地域や世帯への接続、ボランティア調整等です。

あなたのゾーンは？

あなたのゾーンはどの段階にありますか？ あなたの地区は？ DG または DRO に尋ねるべき質問：

- ・ 私たちのゾーンに Zone Disaster Response Fund はありますか？
- ・ 私たちの地区には資金補充された DDRF がありますか？
- ・ 今年度、DRO は任命されていますか？
- ・ District Disaster Response Committee は設立されていますか？
- ・ 地区内の何クラブに Disaster Coordinator が任命されていますか？
- ・ DRFC は Grant Management Seminar を修了済みですか？

これらのうち複数の質問への答えが「いいえ」または「分からない」であれば、あなたのクラブは事態を前進させる役割を担うことができます。批判するのではなく、提案することによって。模範を示すことによって。準備のできたクラブは、地区全体を引っ張ることができます。

主要な連絡先 - クイックリファレンス

組織	連絡先	用途
国際ロータリー	+1-866-976-8279 contact.center@rotary.org	一般的な質問
ロータリー財団 補助金	grants@rotary.org	DRG、グローバル補助金
TRF 寄付	my.rotary.org/en/disaster-response-fund	中央基金への寄付
ShelterBox	rotaryrequest@shelterbox.org	緊急シェルター起動
DNA-RAG	dna-rag.com	災害対応調整
WASH-RAG	wash-rag.org	水と衛生
Disaster Aid USA	disasteraidusa.org	米国の現場対応
RAWCS	rawcs.com.au	太平洋地域の現場対応
気象庁	jma.go.jp	気象警報、地震、津波、火山

組織	連絡先	用途
内閣府防災担当	bousai.go.jp	国家レベルの防災・災害対応
日本赤十字社	jrc.or.jp	救護、医療、義援金
ジャパン・プラットフォーム	japanplatform.org	国内 NGO 連携

活動レベル - DCA-1、DCA-2、DCA-3

DCA (Disaster Committee Activation) は地区の慣例 (D7080、D5930) に整合したロータリーの活動レベル尺度です。数値が小さいほど動員が強いとします。この尺度は本書全体で、SITREP や地区への報告で使用されます。

レベル	状況	動員される主体	解放される資源
DCA-3	通常活動、助言および計画モード	地区災害対応委員会が助言モード	監視、訓練、演習、計画更新
DCA-2	重大事象、委員会活動開始、クラブの能力を超え地区支援が必要	クラブ + 地区 (DG、DR0、DRFC)	DDRF、DRG (上限 25,000 USD)、ShelterBox 警戒待機、近隣クラブ
DCA-1	大規模救援活動、地区の能力を超える大災害	クラブ + 地区 + ゾーン + RI	DRG、グローバル補助金、ShelterBox 派遣、DNA-RAG、ゾーン基金、国際支援

判断ルール：迷ったときは1レベル上げ (DCA-3 から DCA-2 へ、または DCA-2 から DCA-1 へ)、後で下げ直してください。実際の危機に直面しながら DCA-3 に留まることは、重要な48時間を失います。

次のステップ：あなたの地域を脅かすリスクを正確に特定すること。それが第3章のテーマです。

第 I
理解する

第 3
自地域のリスクを知る

どの地域にも固有のリスク像がある

東京のロータリークラブと、能登半島、九州、北海道、沖縄のクラブでは、直面する脅威が異なります。台風は北海道内陸部の主要脅威ではなく、火山リスクは関東平野中央部の主要脅威ではありません。河川氾濫は山岳地域の主要脅威ではありません。しかし熱波（猛暑）は、もはやほぼすべての地域に関係しています。

本章は、シンプルかつ根本的な問いに答えるためのツールを提供します：私たちの地域に固有のリスクは何か、そしてそれに応じてどのようなロータリーの資源を準備すべきか？

自地域のリスクを知らないクラブは、汎用的な計画を準備します。それは要するに役に立たない計画です。自地域のリスクを知るクラブは、適切な計画を準備します。

6家族・19種別の災害分類

国際的な参照分類（EM-DAT/CRED、ルーヴァン大学）は6家族・19種別の災害を区別します。ロータリーはこの枠組みを採用して対応を整理しています。各種別はコード化されており（A1、B2等）、クラブ・地区・ゾーン間の迅速な意思疎通を可能にします。

全体一覧表

コード	種別	家族	発現	警報可能	最初のロータリーツール
A1	地震	地球物理	急発現（秒）	なし	DRG + ShelterBox
A2	津波	地球物理	急発現～段階的	数分～数時間	DRG + ShelterBox + WASH-RAG
A3	火山噴火	地球物理	段階的（日/週）	あり（火山観測所）	DRG + ShelterBox
A4	土砂災害	地球物理	急発現	限定的	DRG + ESRAG
B1	台風 ハリケーン サイクロン	気象	段階的（日単位）	あり（気象庁、NHC）	DRG 事前申請 + ShelterBox + DAUSA
B2	洪水	気象	段階的 （時間/日）	あり （河川防災情報等）	DRG + WASH-RAG
B3	寒波	気象	段階的（日単位）	あり	DRG + 会員ネットワーク
B4	熱波（猛暑）	気象	段階的（日単位）	あり	DRG + 会員ネットワーク
B5	建物倒壊	気象*	急発現	なし	DRG
C1	干ばつ	気候	段階的（月単位）	あり（指標）	DRG + WASH-RAG + ESRAG
C2	森林火災	気候	急発現～段階的	部分的	DRG + ShelterBox + ESRAG
D1	HAZMAT 爆発	技術	急発現	なし	DRG
D2	原子力事故	技術	急発現	部分的（INES）	DRG
D3	流出 油流出	技術	段階的	部分的	DRG + ESRAG

コード	種別	家族	発現	警報可能	最初のロータリーツール
D4	インフラ崩壊	技術	急発現	なし	DRG
D5	大量輸送事故	技術	急発現	なし	DRG
E1	感染症 パンデミック	生物	段階的	あり (WHO、grades 1-3)	DRG + WASH-RAG + PolioPlus
F1	戦争 武力紛争	複合	変動	変動	DRG + RAGFP
F2	難民 避難民	複合	段階的	部分的	DRG + RAGFP + WASH-RAG
F3	飢餓	複合	段階的 (月単位)	あり (IPC phases 1-5)	DRG + WASH-RAG + ESRAG

*B5 は慣例上ここに分類されますが、原因により D4 にも該当し得ます。

発現の3つの様式

この区分はクラブの備えにとって決定的に重要です：

様式	時間枠	クラブにとっての意味
急発現	数秒～数時間	直前の準備は不可能。すべては既存の計画にかかります。call-down list、集合場所、PPE、すべてが事前に準備されていなければなりません。
遅延発現	数日～数か月	準備時間あり。DRG は事前申請可能。ShelterBox に事前通知可能。会員にブリーフィング可能。優位性は大きいですが、無為に過ごせば失われます。
複合	変動	多次元危機 (紛争 + 干ばつ + 避難)。人道支援アクセス困難。絶対的な中立性が必須。クラブは安全な空間でのみ活動します。

あなたの地域のリスクを特定する

ステップ1 - 公式情報源を参照する

各国は公開可能なリスクマップを整備しています。
地域別の主要な情報源は以下のとおりです：

地理的領域	情報源	提供情報
日本	気象庁 (jma. go. jp)	地震、津波、火山、気象警報。 緊急地震速報、津波警報、特別警報、 注意報
日本	内閣府防災情報のページ (bousai. go. jp)	国家レベルの災害情報、防災基本計画、 地域防災計画
日本	国土地理院 ハザードマップポータルサイト (disaportal. gsi. go. jp)	全国の自治体ハザードマップを統合
日本	気象庁 川の防災情報 (kawabou. mlit. go. jp)	河川水位、雨量、危険度分布
日本	NHK そなえる防災 (nhk. or. jp/sonae)	災害情報・備えに関する公式情報
日本	J-SHIS 地震ハザードステーション (j-shis. bosai. go. jp)	地震ハザード、活断層情報
国際	GDACS (gdacs. org)	Global Disaster Alert and Coordination System
国際	EM-DAT (emdat. be)	歴史的災害データベース
国際	UNDRR PreventionWeb (preventionweb. net)	国別リスクプロファイル
地震 (国際)	USGS (earthquake. usgs. gov)	世界規模のリアルタイム地震データ

具体的行動 : Disaster Coordinator は、自治体のハザードマップポータルサイトおよび気象庁のサイトで、所在自治体について公式に特定されたリスクのリストを作成しなければなりません。所要時間 : 30分。

ステップ2 - 地域の記憶を探る

公式データベースはすべてを捉えるわけではありません。地域の記憶は貴重な資源です。次のような相手に尋ねましょう :

- ・ クラブの長老 : 過去50年間、自治体を印象づけた災害は何ですか?
- ・ 地元の議員・選出政治家 : 地域防災計画にどのようなリスクが現れていますか?
- ・ 消防 : 繰り返される出動の特徴 (特定地区の浸水、特定の斜面での土砂崩れ等)?
- ・ 保険会社 : 当該地域で繰り返し支払いが発生する被害は何ですか?
- ・ 地元紙 : 過去の事象の記事保管

日本固有のヒント : 地域の自主防災組織、自治会、消防団、町内会の経験者は、地域の災害履歴に関する重要な情報源です。神社・寺院に残る災害碑、津波碑、洪水到達点を記した石碑なども、何世代にもわたる地域記憶の物的証拠です (例 :

三陸地方の津波碑、富士山周辺の溶岩流到達標)。

ステップ3 - 気候動向と照合する

気候変動は各地域のリスク像を変化させます。かつて例外的だった事象が反復になります。新たなリスクが出現します。

分析に統合すべき世界規模の動向：

動向	帰結	最も脆弱な地域
平均気温の上昇	より頻繁で激しい熱波	都市部（ヒートアイランド効果）、高齢者
降水の強化	より激しい洪水、土石流	谷地、舗装地域、海岸
海面上昇	海岸侵食、塩水化、低地浸水	低地沿岸地域、島嶼、デルタ
長期の干ばつ	水ストレス、森林火災、食料不安	地中海地域、サヘル、カリブ海
より激しい台風	高カテゴリーの頻度上昇	カリブ海、太平洋、東南アジア（日本含む）

ESRAG（環境持続可能性 RAG）はこの側面に対するロータリーの資源です。彼らの専門性は、あなたのクラブがリスク分析に気候の視点を統合する助けとなり得ます。

発生確率 × 影響度のマトリクス

リスクを特定したら、優先順位をつける必要があります。すべてのリスクが同じレベルの準備に値するわけではありません。発生確率 × 影響度のマトリクスは標準的なツールです。

記入方法

発生確率：今後20年間の頻度を推定します。

スコア	確率	基準
1	非常に低い	今後20年で100分の1以下の可能性
2	低い	今後20年で1～10%の確率
3	中	10～50%の確率、または既に20～50年前に発生
4	高い	50%超の確率、または10～20年ごとに発生
5	非常に高い	ほぼ確実、または1～5年ごとに発生

影響度：事象が発生した場合の帰結を推定します。

スコア	影響度	基準
1	軽微	数戸の住宅に影響。死傷者なし。正常化 < 1週間。
2	中程度	数十戸の住宅。一部負傷者。混乱1～4週間。
3	深刻	数百名に影響。重傷者の可能性。混乱1～3か月。
4	重大	数千名に影響。死傷者の可能性大。インフラ被害。混乱3～12か月。

スコア	影響度	基準
5	壊滅的	大量破壊。多数の死傷者。インフラ破壊。複数年に及ぶ復興。

<! pagebreak >

リスクマトリクス

スコアを乗算します。結果が準備の優先レベルを決定します。

		影響度				
		1	2	3	4	5
発生確率	5	5	10	15	20	25
	4	4	8	12	16	20
	3	3	6	9	12	15
	2	2	4	6	8	10
	1	1	2	3	4	5

スコア 1-4 : 低い → 監視。汎用的計画で十分。
 スコア 5-9 : 中程度 → 基本的準備。専用チェックリスト。
 スコア 10-15 : 高い → 固有の計画。年次演習。専用資材。
 スコア 16-25 : クリティカル → 詳細な計画。半年に1度の演習。能動的なパートナーシップ。専用予算。

クラブのリスク評価シート

このシートを災害対応委員会の会議で記入してください。 所要時間 : 適切なメンバー(地域を熟知する者、公式情報源を熟知する者)が同席して1~2時間。

リスク評価 - クラブ名 _____
 日付 : __/__/____
 記入者 : _____
 対象領域 : _____
 自治体 : _____
 推定人口 : _____
 特定されたリスク :

#	種別 (コード)	発生確率 (1-5)	影響度 (1-5)	スコア	優先度
1					
2					
3					
4					

#	種別 (コード)	発生確率 (1-5)	影響度 (1-5)	スコア	優先度
5					
6					
7					
8					

優先リスク (スコア ≥ 10) :

リスク #1 : _____
 直近の発生 : _____
 最も曝露している地域 : _____
 推定脆弱人口 : _____
 準備すべきロータリーツール : _____

リスク #2 : _____
 (同上)

リスク #3 : _____
 (同上)

署名 : 会長 _____ Disaster Coordinator _____

地域類型別のリスクプロファイル例

アプローチを示すため、4つの典型的なプロファイルを示します。
 あなたのクラブはおそらくこれらのいずれかに似ているはずです。

沿岸の太平洋側日本クラブ (例 : 三陸沿岸、駿河湾、紀伊半島、四国南岸、九州南東岸、沖縄)

リスク	発生確率	影響度	スコア	優先度
地震 (A1)	5	5	25	クリティカル
津波 (A2)	5	5	25	クリティカル
台風 (B1)	5	4	20	クリティカル
土砂災害 (A4)	4	3	12	高い
洪水 (B2)	4	3	12	高い
熱波 (B4)	4	2	8	中程度

内陸の都市部日本クラブ (例 : 東京23区、大阪市、名古屋市、京都市)

リスク	発生確率	影響度	スコア	優先度
直下型地震 (A1)	4	5	20	クリティカル
熱波 (B4)	5	3	15	高い
台風 (B1)	5	3	15	高い
洪水 (B2、内水氾濫含む)	4	3	12	高い

リスク	発生確率	影響度	スコア	優先度
大規模停電 (D3)	3	4	12	高い
感染症 (E1)	3	3	9	中程度
HAZMAT 事故 (D1)	2	4	8	中程度

火山周辺の日本クラブ (例 : 富士山周辺、 桜島周辺、 阿蘇周辺、 雲仙周辺、 有珠山周辺)

リスク	発生確率	影響度	スコア	優先度
火山噴火 (A3)	3~5	4~5	12~25	高い~クリティカル
地震 (A1、 火山性含む)	4	4	16	クリティカル
土砂災害 (A4、 火山泥流含む)	4	4	16	クリティカル
台風 (B1)	5	3	15	高い
熱波 (B4)	4	2	8	中程度

北海道・東北日本海側クラブ (例 : 札幌、 函館、 青森、 秋田、 新潟北部)

リスク	発生確率	影響度	スコア	優先度
寒波・豪雪 (B3)	5	4	20	クリティカル
地震 (A1)	4	5	20	クリティカル
津波 (A2)	3	5	15	高い
大規模停電 (D3、 寒冬期は致命的)	4	4	16	クリティカル
火山噴火 (A3、 有珠山、 十勝岳等)	3	4	12	高い
熱波 (B4)	3	2	6	中程度

自地域を地図化する

リスク評価だけでは十分ではありません。どこに 影響が最も深刻に及ぶかを知る必要があります。地震は都市を均一に襲うわけではありません。洪水は低地に影響します。台風は風に曝された沿岸を破壊します。

地図化するべき4つのレイヤー

レイヤー1 - リスクゾーン

自治体の地図上に、特定された各リスクへの曝露ゾーンを記入します :

- ・ 洪水ゾーン (ハザードマップ、河川氾濫予想図、内水氾濫予想図)
- ・ 沿岸ゾーン (高潮、津波)
- ・ 不安定な斜面 (土砂災害警戒区域)
- ・ 重要産業施設や危険物施設の近隣 (PCB、化学工場、石油備蓄基地等)
- ・ 森林・住居の界面ゾーン (森林火災)
- ・ 既知の活断層、想定震源域

- ・ 原子力施設からの距離（該当する場合）

レイヤー2 - 重要インフラ

破壊または利用不能化が危機を悪化させるインフラを特定し位置を把握します：

インフラ	なぜ重要か	収集すべき情報
病院 診療所	負傷者の治療。機能停止 = すべてが複雑化。	所在地、収容能力、自家発電機の有無
浄水場	給水。汚染 = 感染症。	位置、配水網
発電所 変電所	給電。停電 = カスケード崩壊。	位置、送電網
橋梁、幹線道路	アクセス。橋が落ちれば地区が分断。	寸断ポイントを特定
学校 体育館	避難所候補。	収容能力、調理場、衛生設備
消防署	緊急対応。	地区別の応答時間
市役所 県庁	公式調整センター (災害対策本部設置場所)。	危機対応室は特定済か？
ガソリンスタンド	発電機・車両用燃料。	位置、貯蔵能力

レイヤー3 - 脆弱な住民

災害を前にすべての人が同等ではありません。脆弱な住民集中地点を特定します：

住民	固有の脆弱性	情報源
単身高齢者	移動制限、医療依存、孤立	民生委員、地域包括支援センター、社会福祉協議会
障害者	避難困難、電力依存 (医療機器)	障害者支援センター、専門団体
乳幼児 (5歳未満)	脱水、栄養不良、 感染症脆弱性	保育所、母子保健、幼稚園
ホームレス	直接曝露、退避先なし	民間支援団体、自治体福祉課
観光客 一時滞在者	地理不明、言語の壁	観光案内所、ホテル
外国語話者	警報や指示の誤解	外国人支援団体、宗教団体
不安定住宅居住者	災害に脆弱な住居	都市計画担当部局、団体

レイヤー4 - 利用可能な資源

資源も地図化します。あなたの地域で対応に利用可能なものは何か：

資源	種類	特定すべき情報
倉庫 保管場所	ロジスティクス	位置、所有者、アクセス可能性
スーパー 卸	供給	店長連絡先、協定の可能性
空き地 大型駐車場	配給拠点、 即席ヘリポート	位置、面積
建設業者	重機、瓦礫処理	連絡先、可用性
薬局	医療品供給	位置、緊急時の営業時間
主要技能を持つロータリー会員	人的資源	医師、看護師、土木技師、ロジ担当
機材を持つロータリー会員	物的資源	発電機、チェーンソー、4WD車両、 バン

地図化の手段

高度な GIS は不要です。A3 で印刷した自治体地図に色分けした重ね描き (レイヤーごとに1色) で十分です。代替として、Google マイマップで共同編集可能な地図を無料で作成し、携帯電話からアクセスできるようにすることもできます。

重要なのは、この地図が存在し、毎年更新され、Disaster Coordinator とクラブ会長がオフラインを含めてアクセスできることです。

気候変動 - 進化するリスク

20年前に「低リスク」だったものが、今日「高リスク」になり得ます。気候変動は災害対応委員会にとって抽象的な主題ではなく、リスクマトリクスを変化させる具体的なパラメータです。

具体的に何が変わっているか

熱波 : 日本では、2010年代後半から記録的猛暑が常態化しました。2018年の埼玉県熊谷市での 41.1° C、2020年の浜松市での 41.1° C、2022年の伊勢崎市での 40° C 超、これらはかつての例外的事象が反復的事象となっていることを示します。都市部のクラブにとって、熱波は「低リスク」から「高リスク」へとリスクスコアが20年で上昇しています。

台風 : 西太平洋で、カテゴリ4-5に到達する台風の割合が上昇しています。日本に上陸または接近する強い台風 (中心気圧 945 hPa 以下) は、2010年代に顕著に増加しました。台風被害の歴史的事例として、令和元年東日本台風 (2019年10月、ハギビス) は千曲川流域・阿武隈川流域に甚大な被害を、令和2年7月豪雨 (2020年) は熊本県球磨川流域に壊滅的被害をもたらしました。

洪水 : 都市部の舗装化と短時間強雨の増加により、従来の浸水想定区域外でのフラッシュフラッド (内水氾濫)

リスクが2~4倍に増加しています。
多くの自治体で見直されました。

自治体のハザードマップは2020年以降、

台風と集中豪雨 : 「線状降水帯」と呼ばれる現象による集中豪雨が、
日本各地で頻発しています。気象庁は2022年から線状降水帯の予測情報の提供を開始しました。

森林火災 : 日本では従来、規模の大きい森林火災は限定的でしたが、2010年代以降、岩手県大船渡市（2017年）、栃木県足利市（2021年）、岡山県津山市（2024年）など、複数日にわたる山林火災事例が報告されています。リスクスコアの再評価が必要です。

資源としての ESRAG

ESRAG（環境持続可能性ロータリー行動グループ）は、この側面における DNA-RAG の正式パートナーです。クラブが以下を行うのを支援できます：

- ・ 自地域の気候リスクの推移を評価する
- ・ 復興プロジェクトに「Build Back Better（より強く再建する）」の側面を統合する
- ・ 気候レジリエンスに関するデータと研究にアクセスする
- ・ 環境の構成要素を組み込んだグローバル補助金を構築する

連絡先 : esrag.org

実務的推奨

年次リスク評価の際、システムティックに尋ねてください：
「このリスクは昨年と比較して増大したか？」 1つ以上のリスクで答えが「はい」の場合、それに応じて発生確率スコアを調整してください。マトリクスは固定的なものではなく、10年前の現実ではなく、現在の現実を反映しなければなりません。

本章からの優先行動

第4章に進む前に、あなたのクラブが以下を行ったことを確認してください：

- 所在自治体の公式ハザードマップを参照した
- 地域の記憶を探った（長老、議員、消防、自治会等）
- 特定したすべてのリスクについて発生確率 × 影響度マトリクスを記入した
- 2~3の優先リスク（スコア ≥ 10）を特定した
- リスクゾーン、重要インフラ、脆弱住民、利用可能資源を地図化した
- 気候変動の側面を分析に統合した
- これらの文書を Disaster Coordinator、会長、および少なくとも他の2名の会員がアクセスできる場所に保管した

あなたの地域がスコア16以上（クリティカル）のリスクに直面している場合、本章だけでも、常設災害対応委員会の設置と専用の備え 予算の確立を正当化します。次の役員会で提起してください。

第 I
理解する

第 4
人道支援原則と行動の限界

本章が不可欠な理由

善意だけでは不十分です。毎年、善意の組織（ロータリークラブを含む）が、助けようとして害を生んでいます。暴動を引き起こす無秩序な配給。空港を塞ぐ古着の送付。同意なくソーシャルメディアに公開される被災者の写真。地域基準を満たさない住宅復興。

本章はゲームのルールを定めます。これらは任意ではありません。これらは、それなくしては人道支援が善より害を生む基盤です。

人道支援の4つの基本原則

これらの原則は国連総会決議に明記されています。災害状況に介入するすべての組織（ロータリークラブを含む）はこれらを尊重しなければなりません。

原則	定義	クラブにとっての含意
人道性 (Humanity)	人道行動は人間の苦しみを防ぎ和らげること、命と健康を守ること、人間としての尊厳の尊重を確保することのみを目的とします。	クラブのあらゆる行動は、苦しみの軽減のみを排他的目的としなければなりません。クラブの宣伝はなし。布教はなし。援助に偽装したマーケティング・コミュニケーションはなし。
中立性 (Neutrality)	援助は武力紛争または争いのいずれの側にも有利に働いてはなりません。	クラブは災害の原因について立場を取りません。政治的論評はなし。特定派閥への支援はなし。ロータリーは人々を、すべての人々を助けます。
公平性 (Impartiality)	援助はニーズのみに基づいて提供されません。国籍、人種、宗教、性別、社会階級、政治的意見による差別なく。	最もニーズのある人を最初に助けます。知り合いではなく。同じ宗教共同体の人ではなく。同党の支持者ではなく。ニーズが行動を決めます。それ以外のものではありません。

原則	定義	クラブにとっての含意
独立性 (Independence)	人道行動は政治的、経済的、軍事的、その他の目的から自律的でなければなりません。	クラブは選出議員、政党、企業の道具になりません。 スポンサーが対応資金を提供したとしても、配給を決定するのはスポンサーではありません。 援助は評価されたニーズに従い、クラブの管理下にとどまります。

具体的な適用 - 4つの質問テスト

危機状況において運用上の決定を行う前に、これら4つの質問をしてください：

1. この行動は苦しみを軽減するか？（人道性）
2. この行動は地域の緊張に対して中立か？（中立性）
3. 私たちは親しみではなく、ニーズに基づいて助けているか？（公平性）
4. 私たちは外部の圧力なく、自由に決定しているか？（独立性）

これらの質問のいずれかへの答えが「いいえ」であれば、立ち止まって再考してください。

Sphere 基準 - 生存最低限

Sphere プロジェクト (spherestandards.org) は人道対応の最低基準を定めています。これらはすべての人道支援関係者 (専門家であれそうでなくとも) が知っておくべき参照数値です。あなたのクラブは400ページの Sphere ハンドブックを暗記する必要はありません。これらの最低限を知る必要があります。

日本では NGO 教育協力ネットワーク (JNNE) が日本語版 Sphere ハンドブックを出版しています。

水

基準	量	文脈
生存	1人1日 2.5~3 リットル	飲料水のみ、温帯気候
許容できる最低限	1人1日 15 リットル	飲用 + 調理 + 基本的衛生
許容できる水準	1人1日 20 リットル	飲用 + 調理 + 衛生 + 洗濯
水場までの最大距離	500メートル	居住地から配給拠点まで
最大待ち時間	15分	行列を含む (Sphere 2018)
水質	WHO 基準に準拠	必要なら処理 (塩素消毒、ろ過)

クラブにとっての意味：500人向けの給水拠点を運営する場合、最低 1,500 リットル/日

(生存)、理想的には 7,500 リットル/日 (許容できる最低限) を供給しなければなりません。それに応じて計画してください。

シェルター

基準	最低限
1人あたりの屋根のある面積	3.5 m ² (暑い気候、屋内滞在時間少) ~ 4.5 m ² (寒い気候、屋内滞在時間多)
温熱保護	夜間の屋内気温 > 15° C
気象保護	雨に対する密閉性 + 風除け
プライバシー	家族間の視覚的分離
照明	居住単位あたり最低1つの光源

クラブにとっての意味 : 400 m² の体育館は最大で約100人を収容できます (300人ではありません)。避難所を開設する場合、1人 4 m² で計画してください、「詰め込めるだけ」ではなく。

日本の体育館・公民館の文脈 : 日本の避難所は、自治体の地域防災計画で収容人数が定められていることが多いですが、その算定基準は自治体により異なります (1人2 m² の場合もあれば、Sphere 基準に近い場合もあります)。混雑した避難所での感染症リスク、エコノミークラス症候群、ストレスによる関連死が、近年の災害 (能登半島地震 2024、熊本地震 2016) でも明らかになっています。Sphere 基準を参照することは、避難所運営の質を高める重要なステップです。

衛生設備

基準	最低限
仮設トイレ	20人につき1基
仮設トイレと居住地の距離	30~50メートル (衛生上十分離れ、アクセス上十分近い)
男女別トイレ	必須
照明付きトイレ	必須 (夜間の安全、特に女性)
手洗い場	各衛生ブロックの出口に

日本の文脈 : 日本では避難所のトイレ環境が国際基準に達しないことが繰り返し指摘されており (東日本大震災 2011、熊本地震 2016)、女性、高齢者、障害者にとって特に深刻な問題となっています。マンホールトイレ、簡易トイレ、汲み取り業者との事前協定などの準備が、自治体の責任で進められつつあります。

食料

基準	最低限
カロリー摂取	1人1日 2,100 kcal
たんぱく質	カロリー摂取の 10~12%
脂質	カロリー摂取の 17%
温食	可能なら少なくとも 1日1食
食事多様性	穀類のみでなく、たんぱく質 + 野菜
5歳未満の児童	適切な食事、頻度を増やす (1日5~6食)
授乳婦	追加配給 (+500 kcal/日)

クラブにとっての意味 : 200人にサービスを提供するロータリーの炊き出しは、1日 420,000 kcal を生産しなければなりません。白米 (130 kcal/100g) では、たんぱく質と野菜なしで約 320 kg の炊飯米/日に相当します。サプライチェーンを計画してください。

日本の炊き出しの伝統 : 日本のロータリークラブによる炊き出しは、東日本大震災以降、複数のクラブが現地支援の主要な手段として実施してきました。ただし、Sphere 基準の栄養バランスを満たすには、たんぱく質源 (魚、肉、豆製品)、野菜、塩分管理 (高血圧の高齢者の被災者への配慮) を含む計画が必要です。地元の食材供給者、給食業者、農協との事前協定が決定的に重要です。

保健

基準	最低限
応急救護所	サービス対象 10,000人につき1か所
医療紹介	機能する病院への搬送システム
必須医薬品	WHO の基本リスト利用可能
疫学的監視	下痢、呼吸器感染症、麻疹の監視

Do No Harm - 善意のクラブが間違ふこと

「Do No Harm (危害を加えない)」原則は、人道支援原則の実務的な系です。善意の組織 (ロータリークラブを含む) が最もよく犯す誤りを以下に示します。

誤り1 - 評価なく配給する

シナリオ : クラブが寄付 (衣類、食料、機材) を受け取る。会員が感情的な圧力下で即座に配給したがる。トラックに積み込み、最初にアクセスできた地区で配給する。

問題 : 最もアクセスしやすい地区は、最も被災した地区ではないことがほとんどです。

最も荒廃した地区は、しばしば最もアクセスしにくいものです。結果：被害の少ない人々が援助を受け、最も被災した人々が何も受け取れない。不平等、不満、信頼の喪失。

ルール：配給する前に必ずニーズを評価してください。6時間余分にかかっても。評価は性急さよりも多くの命を救います。

誤り2 - 要請されていない寄付を送る

シナリオ：注目を集めた地震の後、世界中のクラブが古着、期限切れ薬、おもちゃのコンテナを送る。

問題：これらの要請されていない寄付は港湾と空港を塞ぎ、優先援助の流れを妨げ、仕分けを必要とし（現場にいるべきボランティアを縛りつける）、一部は最終的にゴミ埋立地に行きます。人道支援関係者はこれを「第二の災害」と呼びます。

ルール：要請されていない物資は送らないでください。地元のクラブ（地区または DNA-RAG 経由）に何が必要かを尋ねてください。90% のケースで、答えは「お金」です。お金は地元での購入を可能にし、それはより速く、より安く、より適切で、地元経済を支えます。

誤り3 - 依存を生み出す

シナリオ：クラブが6か月間運営される炊き出しを設置する。地域住民が慣れる。クラブが停止するとき、移行はない。人々は再編成する時間も手段も持たなかった。

問題：出口戦略のない長期援助は依存を生み、自立を蝕みます。地元の経済循環も破壊し得ます（ロータリーが無料配給しているなら、なぜ市場で買うのか?）。

ルール：初日から介入の終わりを計画してください。あらゆる行動には終了日があります。自立への移行は、後付けではなく、最初からの目標です。

誤り4 - 他者がすでに行っていることを重複させる

第21章（ロータリー外パートナー）および第22章（現場調整）で扱います。リマインダー：あらゆる行動の前に、3W に答えてください - Who（誰が）does What（何を）Where（どこで）? ロータリーは他の誰もが存在しない場所で最大の価値を生みます。

誤り5 - 地元の力学を無視する

シナリオ：クラブが自称「コミュニティリーダー」を介して援助を配給する。彼の正統性を確認しない。このリーダーは援助の一部を仲間に流用するか、権力の梃子として使う。

問題：援助が支配の道具になる。最も脆弱な人々（しばしば最も目立たず、

最も繋がりのない人々) が排除される。

ルール : 配給経路を多様化してください。誰が何を受け取ったかを確認してください。受益者がアクセス可能な苦情処理システムを設置してください。

被災者の尊厳

写真と画像

災害は文書化を促す感情を生みます。苦悩の写真がソーシャルメディアで、クラブ紀要で、補助金申請で共有されます。ロータリーが手本を示すべき敏感な主題です。

絶対的なルール :

ルール	なぜ
識別可能な写真を撮る前の 明示的同意	家を失ったばかりの人は写真の被写体ではありません。 彼らの尊厳はあなたのコミュニケーション・ニーズを上回ります。
書面による親の同意のない、子どもが識別可能な写真は撮らない	子どもの保護、交渉不可能な国際基準。
遺体や重傷の写真は撮らない	基本的尊重。 これらの画像は見る人にもトラウマを与えます。
屈辱的な「前/後」写真は撮らない	「私たちの援助の前にどれだけ惨めだったか見てください」は侮蔑的です。
疑わしい場合は 体系的にぼかし	同意が得られない場合、顔をぼかしてください。

TRF stewardship 報告書のために : 行動を文書化するため、写真は必要です。苦悩のポートレートではなく、活動写真 (進行中の配給、建設、設置済み機材) を優先してください。クラブが何をすることを示してください、人々の苦しみではなく。

言葉遣いと態度

避けるべき	望ましい
「被害者」(受動性)	「被災者」「被災を受けた方々」(主体性)
「かわいそうな人たち」	「X 地区の住民の方々」
「私たちが彼らに与えた」	「彼らの要請に応じて配給した」
受益者の代わりに決定する	受益者にニーズについて相談する
集合写真のために受益者と並んでポーズを取る	写真に写りたいか尋ねる

パターナリズム

パターナリズムは援助組織の第1の職業病です。あなたが被災者よりも、彼らに何が必要かを良く知っていると思 うときに現れます。

簡単なテスト : 人々と共に決定するのではなく、人々のために決定しているなら、あなたはパターナリズムにいます。立ち止まってください。尋ねてください。

被災者は大人です。彼らは自分のニーズ、文化、優先順位を知っています。クラブの役割は資源を供給することであって、選択を指図することではありません。

法的枠組みと保険

クラブの民事責任

ロータリークラブは法人（日本では特定非営利活動法人または任意 団体としての法的性格）として、災害対応活動を行う際に民事責任を負います。

法的リスク	状況	保護
ボランティアの負傷	瓦礫処理中の事故、転倒、切創	クラブの賠償責任保険でサービス活動をカバー。 災害時の介入が保険でカバーされることを、災害発生前に確認してください。
第三者の負傷	配給中に被災者が負傷、移動した瓦礫で通行人がけが	同じ賠償責任保険。 除外条項を確認してください。
物的損害	会員の車両が活動中に損傷、機材が破壊	個人の自動車保険（運転者賠償責任）。 クラブは機材用の一時保険を契約できます。
ロータリアン以外のボランティア	自発的ボランティアがロータリー活動中に負傷	一時的ボランティア保険。 日本では「ボランティア活動保険」（社会福祉協議会が窓口）があります。
食中毒	クラブの炊き出しで汚染された食事を提供した場合	賠償責任保険 + 食品衛生基準の遵守（低温管理、トレーサビリティ）

必須の予防行動 :

1. クラブの賠償責任保険契約を年次で見直す。特に災害状況の除外条項
2. 災害対応活動のカバーについて書面での確認を取得する
3. 責任放棄書式を準備する（第15章および付録A 書式5参照）
4. 派遣前に各ボランティアに安全ブリーフィングの確認書類に署名させる
5. 地域の法的枠組みについてロータリアン 弁護士に相談する。
法律は国によって大きく異なります

日本固有の保険制度：

- ・ ボランティア活動保険 (社会福祉協議会) : 比較的安価で、災害ボランティアをカバーする一般的な選択肢
- ・ 市民活動補償保険 (一部自治体) : 地方自治体が制度化している地域も
- ・ 損害保険会社の災害ボランティア向け特別契約 : 大規模災害時に短期契約可能

放棄書および確認書

安全ブリーフィング確認書 : 派遣前にすべてのボランティアが署名するもの。当人が安全指示を受領し、リスクを認識し、それを尊重することに同意した旨を証明します。保管：最低5年。

リスク受諾書 : ロータリアン以外のボランティア、特に自発的ボランティア向け。介入に関連するリスクを記述し、クラブの責任を部分的に解除します (地域法の範囲内で)。

書類保管 : 介入に関連するすべての書類 (ボランティア名簿、確認書、事故報告書、写真、領収書) は最低5年間保管しなければなりません。法的紛争の場合、これらの書類があなたの保護となります。

行動しないべき時

これが本章で最も重要な段落かもしれません。介入しないという決定が、時に最も責任ある決定です。

クラブが介入すべきでないのは次のような場合：

状況	理由	その代わりに行うべきこと
地帯が危険 不安定な構造物、 地面に垂れた電線、 化学汚染、 活発な余震	会員の安全が最優先。 負傷したボランティアは別の犠牲者となり、 救助サービスを縛ります。	公的サービス (消防、 民間防衛) の青信号を待ちます。 利用可能な資源として自己申告 してください。
専門サービスが現場にあり十分	すでにカバーされている状況に ボランティアを加えると、 付加価値ではなく混雑を生みま す。	サービスを申し出ます。 「今は不要」と答えられたら、 退いてください。 待機してください。
クラブに必要な技能がない 急流救助、 アスベスト除去、 専門医療	無資格の介入は状況を悪化させ 、 救援者を危険に晒します。	専門組織に連絡してください。 クラブは技術的に介入すること なくロジ スティクス支援を提供できます 。

状況	理由	その代替りに行うべきこと
状況が活発な武力紛争	現場での中立性は不可能。 死の危険。 ロータリーは戦闘地帯への mandat を持ちません。	財政的に支援（地区を通じた DRG）。 RAG (RAGFP) および mandate を持つパートナー (ICRC、 UNHCR) を通じて行動。
クラブの行動が地域の緊張を悪化させ得る	特定の文脈（民族、 宗教、 政治）では、 特定可能な集団の介入が党派的 と見なされ得ます。	中立の仲介者を介して援助。 現場で目立たずに資金提供。
クラブ会員自身が被災	あなた自身が安全でなければ他 者を助けることはできません。	まず会員とその家族の安全とニ ーズを確保。 地区および近隣クラブが引き継 ぎます。

航空安全のルール

飛行機での酸素マスクのアナロジーが完全に当てはまります：まず自分のマスクを着け、それから他者を助ける。会員が危険にある、負傷した、心理的苦痛にあるクラブは、効果的に助けることはできません。最優先は常に、ロータリアンとその家族の安全です。

「ノー」と言う勇気

「私たちはこの点では介入しません」と言うのは、突進するよりも勇気を要します。メディア、ソーシャルネットワーク、会員自身からの社会的圧力は、目に見える行動へと押しやります。行動が適切でないときには抵抗してください。責任ある不行動は、有害な行動よりも優れています。

<! pagebreak >

原則の要約 - リファレンス・カード

このページをコピーしてください。対応キットに保管してください。

4つの人道支援原則

#	原則	1行要約
1	人道性	唯一の目的 苦しみを軽減する
2	中立性	立場を取らない
3	公平性	ニーズが行動を決める
4	独立性	クラブが決定する、他の誰でもない

Sphere 基準 - 主要数値

領域	最低基準
水	1人1日 7.5 L (生存、最初の48時間)、 1人1日 15 L (すべての用途、安定後)
シェルター	1人最低 3.5 m ²
トイレ	20人につき1基
食料	1人1日 2,100 kcal

Do No Harm - 行動する前の5つの質問

- ・ ニーズを評価したか?
- ・ 他の誰かがすでにこれをしているか? (3W : Who、 What、 Where)
- ・ 受益者の同意を得ているか?
- ・ 会員は安全か?
- ・ この行動に十分な能力があるか?

行動すべきでない時

- ・ 安全確保されていない危険地帯
- ・ 不十分な技能
- ・ 活発な武力紛争
- ・ クラブ会員自身が被災
- ・ 他のアクターの十分な存在

これらの原則は官僚的な制約ではありません : 命を救う援助と害を生む援助の間のガードレールです。ロータリーの信用は、これらを尊重することで維持され、無視することで破壊されます。

第I部はこれで完了です。第II部はあなたのクラブを準備するためのツールを提供します。

第 II
備える

第 5
クラブの対応構造

最小限の構造 - 5人で十分

あなたは企業、事務所、病院部門を運営してきました。危機構造が通常の組織図とは関係がない ことをご存じです。それはフラットで、迅速で、行動志向です。災害において、官僚主義は人を殺します。

ロータリークラブの災害対応構造は 最低5人 で成り立ちます：

```

クラブ会長
| 発動の判断 - 地区連絡 - スポークスパーソン
|
+-- Disaster Coordinator (災害コーディネーター)
| | 計画維持 - 連絡 - 研修
| |
| +-- DRC 委員会 (3名)
|     +-- メンバー1：ロジスティクス
|     +-- メンバー2：コミュニケーション
|     +-- メンバー3：財務
|
+-- スキル別に指定された会員
    (災害の種別に応じて発動)
  
```

5人。 集まる時間を決めるために集まる15人の委員会ではありません。クラブの残りはスキルプールを構成し、必要に応じて動員されます。

役割シート

クラブ会長

責任	範囲
緊急計画の発動	主権的決定。 コーディネーターからの1本の電話で決定可能
地区との連絡	ガバナーおよび DRO との直接連絡
スポークスパーソン	メディアおよび当局に対してクラブを代 表して話す (またはスポークスパーソンを指名する)
支出の承認	クラブの緊急基金の解放 (第11章参照)
危機会議の議長	短く、 判断的、 急性期は毎日

会長が行わないこと：

- ・ 水のボトルを配給するために現地に出る。 25,000 USD の DRG について連絡してくる DG にとって連絡不能になる
- ・ 現場チームの指揮 (それは Coordinator の役割)
- ・ 業者を探す、在庫を数える、領収書を記録する (それは DRC 委員会の役割)
- ・ Coordinator との事前ブリーフィングなしに単独でメディアに話す

会長は決定し、承認し、上向きに伝えます。実行は委任します。

クラブの Disaster Coordinator

これが最も要求の高いポストです。Coordinator は備えの恒久的な原動力であり、危機が来たときの運用責任者です。

通常時（機能の80%）：

タスク	頻度
クラブの緊急計画を維持・更新	年次 + 各事象後
call-down list を更新	四半期
会員の資源棚卸しを更新	年次
クラブで少なくとも1つの研修/演習を組織	最低年次
地区研修に参加	年次
地区 DR0 との連絡を維持	常時
緊急通信キットを確認	半年ごと
バックアップ通信回線をテスト	年次

危機時：

タスク	詳細
会長に発動を提案	状況の迅速な評価とともに
現場活動を指揮	DRC 委員会を調整、チームを編成
資源を管理	優先度に応じて機材とボランティアを配分
運用連絡を確保	地域のパートナー（赤十字、市役所、消防）と
SITREP を作成	会長と地区への状況報告

理想的なプロフィール：利用可能な会員（最も職業的に多忙でない人）、組織化された、手続きに慣れた、少なくとも2~3年クラブにとどまる人。活動的な退職者、時間の融通が利く幹部、副社長に迅速に委任できる事業主。

日本の文脈：日本のロータリークラブにおいては、退職した行政職員、自衛官、消防士、警察官、教員、医療関係者など、職業上の災害対応経験を持つ会員が Disaster Coordinator の理想的な候補となります。地域の自主防災組織や民生委員などの経験者も非常に有効です。

DRC 委員会 - 3名

DRC 委員会の各メンバーは1つの領域を担当します。通常時の負担は軽く、年間で数時間です。危機時には即座に運用モードに切り替わります。

メンバー1 - ロジスティクス

領域	責任
輸送	会員の車両を調整、輸送隊を編成
保管	特定された保管場所を管理（会員の倉庫、クラブ施設）
配給	配給拠点を組織、在庫を管理
調達	業者関係、緊急購入

自然なプロフィール：倉庫を持つ事業主、ロジスティクス担当役員、卸売商人、車両を持つ農業者。

メンバー2 - コミュニケーション

領域	責任
内部コミュニケーション	call-down list の発動、LINE/WhatsApp グループ
外部コミュニケーション	メディア関係、クラブのソーシャルメディア
パートナー連絡	NGO や当局との運用上の連絡
ドキュメンテーション	写真、動画、現場情報の収集

自然なプロフィール：ジャーナリスト、マーケティング/コミュニケーション担当役員、メディア対応に慣れた弁護士、教員。

メンバー3 - 財務

領域	責任
緊急時会計	最初の1円から専用台帳
寄付管理	受領、トレーサビリティ、お礼
購買	支出の承認、領収書の保管
財務報告	週次報告、TRF stewardship の準備

自然なプロフィール：公認会計士、CFO（財務担当役員）、銀行員、団体会計担当。

会員の職業スキルを地図化する

あなたの会員は普通のボランティアでは ありません。
 専門性が災害状況に直接転用可能なプロ フェッショナルです。 鍵 :
 事前に誰が何をするかを特定すること。当日に時間を失わないため。

スキル・任務マトリクス

会員の職業	災害時の任務	典型的な配置
医師	トリアージ、応急医療、健康評価	前方医療所、病院との連絡
看護師	応急処置、軽症の監視	配給拠点、避難所
薬剤師	医薬品管理、健康助言	医療在庫、対象的配給

会員の職業	災害時の任務	典型的な配置
心理士 精神科医	心理的応急処置 (PFA)	避難所、 受入施設、 ボランティアチーム
土木 建築技師	建物の構造評価	被災地、 居住可能 不可の判定
建築家	被害評価、 修繕計画	安定化および復興フェーズ
弁護士	保険、 被災者の権利、 紛争	被災者への法律支援、 当局との関係
司法書士・行政書士	書類の紛失、 各種証明	被災者への行政手続き支援
公認会計士	緊急時会計、 TRF stewardship	対応の財務管理
事業主	ロジスティクス、 サプライチェーン、 経営	全体調整、 調達
飲食業者 ケータリング	炊き出し、 食品衛生	被災者およびボランティアの食事
農業者	大型車両、 土地、 保管	輸送、 倉庫、 瓦礫処理
電気工事士	発電機、 修理	緊急の電力復旧
配管工	水、 衛生	緊急修理、 WASH
IT 専門家	通信システム、 データ	デジタル・バックアップ、 デジタル調整
ジャーナリスト コミュニケーター	メディア関係、 ソーシャルメディア	危機コミュニケーション
教員	組織化、 集団管理	避難所での子どもの世話、 活動
翻訳者 通訳	多言語コミュニケーション	外国語話者住民との連絡
不動産業者	地域の住宅事情の知識	仮設住宅の特定
保険業者	保険手続き	被災者の請求支援

このマトリクスは出発点です。各クラブは自分の会員の実際の職業で個別化しなければなりません。スキルの全面棚卸しは第7章で扱います。

基本原則 : 災害時には、各会員はまず職業スキルに応じて配置されます。クラブでの年功や階級に応じてではありません。

継承計画 - 会長が連絡不能の場合

災害は会長本人を襲うかもしれません。家屋が破壊される。負傷する。携帯電話が瓦礫の下にある。海外出張中。または単にネットワークが飽和して誰も連絡できない。

継承計画なしでは、まさに行動すべき瞬間にクラブは麻痺します。

緊急時の指揮系統

順位	役職	前者不在時の権限
1	クラブ会長	全権
2	Disaster Coordinator	計画を発動、活動を指揮、緊急支出を承認 (定められた上限内)
3	直前会長 (Immediate Past President)	地区連絡のため会長機能を担う
4	次期会長 (President-Elect)	上位3名が連絡不能なら引き継ぐ
5	クラブ幹事 (Secretary)	行政継続性を確保

継承ルール

1. 猶予期間 : 会長が事象開始後 2時間 連絡不能の場合、Disaster Coordinator が自身の権限で計画を発動。
2. 委任支出上限 : Coordinator は会長の署名なしに、クラブが定めた金額 (推奨 : 500~2,000 USD またはそれに相当する円換算) までを支出可能。それを超えるには会長または直前会長に 到達する必要あり。
3. 必須通知 : 会長不在で発動した場合、6時間以内に地区 (DG または DRO) に通知必須。
4. 可逆性 : 会長が再度連絡可能になったらすぐに指揮を取り戻します。なされた決定を承認または調整しますが、重大な理由がない限り遡及的に取り消しません。

記入・配布する継承シート

継承連鎖の各メンバーがラミネート済み コピーを保管します :

緊急時指揮系統

ロータリークラブ _____

#1 - 会長 : _____ 電話 : _____

#2 - Coordinator : _____ 電話 : _____

#3 - 直前会長 : _____ 電話 : _____

#4 - 次期会長 : _____ 電話 : _____

#5 - 幹事 : _____ 電話 : _____

委任支出上限 : _____ 円

発動猶予期間 : 2時間

地区連絡先 : DG _____ 電話 : _____

地区連絡先 : DRO _____ 電話 : _____

更新日 : ___/___/___

実務的助言 : この連鎖をテストしてください。机上演習 (第10章) の際、

会長が被災するシナリオをシミュレートしてください。 #2 が責任を理解しているか、それともこのシートが単なる紙切れであるかが、すぐに分かります。

ローターアクトおよびインターアクトの 統合

ローターアクト（2019年以降、18歳以上で上限なし）およびインターアクト（12～18歳）は、従属的なタスクを割り当てる「ジュニア」クラブではありません。これらはロータリアンが一般に持たない固有のスキルと、相当な現場エネルギーを持つ能動的な力です。

ローターアクトがもたらすもの

強み	災害への適用
デジタル・ネイティブ	ソーシャルメディアのリアルタイム管理、デジタル地図化、メッセージング基盤の調整
可用性	職業上活発なロータリアンよりしばしば柔軟、迅速に動員可能
物理的エネルギー	瓦礫処理、配給、構造物組立、困難な地形
大学ネットワーク	医学、工学、社会科学の学生の動員
多言語性	しばしばより国際的に繋がった世代

インターアクトがもたらすもの

強み	災害への適用
寄付収集	学校でのキャンペーン、チャリティ販売、保護者の動員
若者向けコミュニケーション	若者ネットワーク向けに調整されたメッセージ（Instagram、TikTok）
道義的支援	避難所での子ども向け活動（ゲーム、エンターテインメント）

運用上の統合

- 災害前 :
 - ローターアクト会長がクラブの災害研修に招かれる
 - 1名のローターアクターが「ローターアクト DRC 連絡担当」に任命される
 - ローターアクトがクラブの机上演習に参加
 - ローターアクト連絡先が call-down list に含まれる（専用の枝）
- 災害時 :
 - ローターアクト連絡担当が拡張 DRC 委員会に加わる
 - ローターアクターが現場チームに統合（決して単独ではなく、常に経験あるロータリアンの監督下で）
 - ソーシャルメディア管理はメンバー2（コミュニケーション）の監督下でローターアクトに委任可能
 - インターアクトは危険ゾーンの外にとどまる。彼らの貢献は上流（収集、コミュニケーション）と下流（道義的支援、エンターテインメント）

3. 絶対的なルール : 未成年 (インターアクト) は災害地区の現場に決して派遣しません。例外なし。彼らの貢献は安全で、監督下であり、危険から離れた活動に向けられます。

学んだ教訓 : ローターアクトは当日に即興で動員されるのではなく、あなたと共に準備され、その上で最初の24時間で40%多くのボランティアを派遣します。

<! pagebreak >

設置チェックリスト

- Disaster Coordinator 任命 (最低2年任期推奨)
- DRC 委員会の構成 (3名 : ロジスティクス、コミュニケーション、財務)
- 構造内の5名に役割シートを配布
- 各クラブ会員についてスキル・任務マトリクス記入
- 継承連鎖を定義、会長が署名、5レベルに配布
- 委任支出上限をクラブ役員会で決議
- ローターアクト会長に通知、DRC 連絡担当を任命
- 構造を専用会議で全クラブに提示
- 地区 DRO との連絡を確立

構造が整いました。 それに入れる中身 (棚卸し済みのスキル、形式化された連絡先、計画された通信、構成された基金) なしでは無用です。それが続く6章のテーマです。

第 II
備える

第 6

ロータリアン個人の備え

譲れない原則

「まず家族の安全を確保し、それから奉仕する」

家族が音信不通、水なし、シェルターなしの状況でクラブに駆けつけるロータリアンは、注意散漫なボランティアとなり、他者の負担となります。個人の備えは、集団対応能力のための前提条件です。

72時間用個人緊急キット

ロータリアン各自は、家族のためのキットを準備し、アクセスしやすい場所に保管します（クリスマス用品の箱の後ろ、屋根裏の奥ではありません）。キットは避難時に5分以内に持ち出せる状態でなければなりません。

水と食料

物品	量	注記
飲料水	1人1日3リットル × 3日分	Sphere 基準は最低3 L。不透明容器で保管。
非常食	1人3日分	缶詰、エネルギーバー、ドライフルーツ、クラッカー。調理不要のもの。
手動式缶切り	1個	これなくしては缶詰は無用。
浄水タブレット	50錠	備蓄水に加えて。疑わしい水の処理用。

日本固有の推奨：アルファ米、レトルトご飯、レトルトカレー、缶詰、乾パン、栄養補助食品、フリーズドライ食品、塩飴、長期保存水（5年保存等）、調理不要の保存食。

照明と電源

物品	量	注記
LED 懐中電灯	1人1個	LED = 電池寿命が長い。 両手を使えるヘッドランプ推奨。
予備電池	完備セット2組	懐中電灯との互換性を確認。
電池式または手動充電式ラジオ	1台	ネットワーク停止時に公式指示を受信できる唯一の手段。最低 AM/FM、推奨ワイドFM。
モバイルバッテリー	最低 20,000 mAh	スマートフォン4~5回分の充電。
携帯式ソーラー充電器	1台	停電が72時間を超えた場合のバックアップ。

物品	量	注記
充電ケーブル	2本 (端末に対応する種類)	USB-C、Lightning、Micro-USB 必要に応じて。
ロウソク + マッチ/ライター	ロウソク5本 + ライター2個	最終手段。火災リスクに注意。

健康と衛生

物品	量	注記
救急セット	1セット完 備	バンド、ガーゼ、消毒液、はさみ、ピンセット、 弾性包帯、手袋。
処方薬	7日分の予 備	3か月ごとに更新。処方箋もキット内に保管。
一般用医薬品	各1箱	解熱鎮痛剤、下痢止め、抗ヒスタミン剤、経口補水液。
衛生用品	1セット	石けん、歯磨き粉、歯ブラシ、トイレトペーパー、 生理用品、ウェットティッシュ。
手指消毒剤	250 ml	飲料水が乏しいとき、手洗いに無駄にしない。
FFP2 マスク (N95 相当)	10枚	地震後の粉塵、火災煙、パンデミック。
保護眼鏡	1個	粉塵、瓦礫。

書類と現金

物品	形式	注記
身分証明書のコピー	ラミネート紙 + USB メモリ	パスポート、運転免許証、健康保険証、 マイナンバーカード。
保険証券のコピー	紙 + USB メモリ	住宅、車両、健康。
医療情報のまとめ	1人1枚	血液型、アレルギー、服用中の薬、かかりつけ医。 「お薬手帳」も活用。
緊急連絡先	ラミネートシート	家族、医師、保険会社、ロータリークラブ、 地域の緊急番号。
現金	小額紙幣・硬貨	200~500 USD 相当 (日本では3万~5万円程度)。 停電時に決済端末は機能しません。
USB メモリ	1個 (暗号化推奨)	すべての書類のデジタルコピー、 保険用に家財の写真。

一般装備

物品	量	注記
着替え	1人1セット	季節に応じて。下着・靴下を含める。
頑丈な靴（つま先閉）	1人1足	サンダル不可。瓦礫、ガラス片、泥。
緊急用ブランケット（アルミ製）	1人1枚	軽量、コンパクト、寒さ・暑さから断熱。
寝袋または毛布	1人1個	スペースが許せば。
笛	1人1個	瓦礫の下で存在を知らせるため。声より効果的、エネルギー消費少。
マルチツール（十徳ナイフ）	1個	Victorinox 型 刃、ドライバー、缶切り、はさみ。
頑丈なロープ	10メートル	パラコード550 多用途、強靱。
補強テープ（ガムテープ）	1ロール	一時修理、マーキング。
頑丈なゴミ袋	10枚	防水、廃棄物収集、所持品保護。
紙の地域地図	1部	GPS は電池なしでは機能しない。

家族の特殊事情

状況	追加物品
乳児	粉ミルク（7日分）、哺乳瓶、紙おむつ（50枚）、おしりふき、防寒着、お気に入りの布
幼児	おもちゃ/本、予備の着替え、好きなおやつ
高齢者	予備の薬、予備のメガネ、歩行補助具、座布団
障害のある方	固有の装備（車椅子のバッテリー、カテーテル等）、特殊なニーズの記録
ペット	3日分のフード、水、リード/キャリー、ワクチン記録、薬
糖尿病の方	インスリン（保冷バッグ内）、血糖測定器、ブドウ糖、グルカゴンキット

キット保守スケジュール

行動	頻度
水と食料の消費期限を確認	6か月ごと
薬の交換	3か月ごと（処方薬）12か月ごと（一般用）
電池の確認	6か月ごと
書類の更新	年次または各変更時
キット完全レビュー	年次（推奨 7月1日、ロータリー年度開始）
季節適応	年2回（衣類、毛布）

ヒント：1月1日と7月1日にキットレビューのリマインダーをカレンダーに設定。

クラブのイベントにする : 「キット点検日」、各会員がキットを持参、一緒に確認、必要なものを更新。

家族の緊急時計画

キットは家族が事態発生時に何をすべきか知らなければ無用です。
すべてのロータリアンの家族は、議論済みで、全員に知られ、
訓練済みの計画を持たなければなりません。

家族計画の5要素

1. 集合場所

種別	位置	例
第一集合場所（近距離）	自宅から500m未満	学校前、X 通り角、Y 公園
第二集合場所（遠距離）	2~5km、安全地帯	市役所広場、Z スーパー駐車場

家族の各員は両地点まで、2つの異なる経路で記憶により到達できなければなりません。

日本固有の集合場所 : 自治体指定の広域避難場所、一時集合場所、避難所（学校、公民館、コミュニティセンター）。事前に確認してください。

2. 域外連絡先

自分の地域外（理想的には200km以上離れた）の信頼できる人物を特定。地域災害時、長距離通話はしばしば地元の通話より良くなります。家族全員がこの人物に電話し、安否を伝え、受け取ります。

域外連絡先 : _____
電話 : _____
続柄 : _____

日本固有の追加手段 : NTT 災害用伝言ダイヤル（171）、災害用伝言板（web171.jp）、各キャリアの災害用伝言板サービス。事前に家族で使い方を確認しておきます。

3. 避難経路

- ・ 自宅から第二集合場所への主経路
- ・ 代替経路（主経路が塞がれた場合）
- ・ 職場からの経路
- ・ 子どもの学校からの経路
- ・ 当局による避難命令時の合流点

4. 文書化された特殊ニーズ

家族で特殊ニーズを持つ各人につき1枚のシートを作成 :

氏名 : _____
特殊ニーズ : _____

必要な薬 : _____
 必須の装備 : _____
 移動能力 : _____
 医療連絡担当 : _____
 電話 : _____

5. 配布される緊急番号

家族の各員（電話を使える年齢の子どもを含む）がラミネートカードを携帯：

家族緊急番号 [姓]
 警察 : 110
 消防・救急 : 119
 海上保安庁 : 118
 父/母 : _____
 域外連絡先 : _____
 ロータリークラブ [都市名] : _____
 かかりつけ医 : _____
 NTT 災害用伝言ダイヤル : 171
 最寄りの避難所 : _____

計画を訓練する

訓練されない計画は失敗する計画です。少なくとも年1回、家族の演習を組織：

1. 土曜日に「避難訓練」を予告
2. 計測：キットを取って家を出るまでに何分？
3. 第一集合場所で合流
4. 各家族員が域外連絡先に電話
5. 家族での振り返り：何が機能したか？何を忘れたか？

目標：キットを持って5分以内に家を出る。家族全員が15分以内に集合場所に到着。

有用な専門訓練

あなたは熟達したプロフェッショナルです。
 現場の危機管理のための固有の反射神経
 3つの短い研修がゲームを変えます。

しかし救急医や消防士でない限り、
 はおそらく持っていません。

応急処置（普通救命講習）

要素	詳細
内容	救命的な手当 心停止 (CPR + AED)、出血、窒息、失神、火傷、外傷
所要時間	3～8時間（日本の普通救命講習 I は3時間、上級救命講習は8時間）
提供機関	各地消防本部（無料）、日本赤十字社、自動車教習所
費用	無料～数千円（クラブの奉仕活動として団体受講可能）

要素	詳細
更新	2～3年ごと推奨
災害時の価値	救助到着前の数分間に命を救えます。大災害時、救助は数時間あるいは数日かかります。

クラブの目標 : 会員の少なくとも50%が応急処置を訓練済み。 団体セッションを組織、10名以上で派遣可能。

心理的応急処置 (PFA)

要素	詳細
内容	WHO の3段階アプローチ Look (判断せず観察)、 Listen (共感的存在、助言なし)、 Link (適切な資源につなぐ)。 PFA が そうでないもの 心理療法、心理的振り返り、「大丈夫だよ」。
所要時間	4～8時間 (基本訓練)
提供機関	日本赤十字社、WHO (無料オンラインモジュール)、災害精神医学関連学会
費用	無料～数千円
更新	年次推奨
災害時の価値	心理的トラウマは被災者の大多数に影響 します (災害後研究 30～40% が急性ストレスを発症、一部が PTSD)。大半は心理士を必要としませんが、訓練を受けた人間の存在は必要です。 あなたは人間関係に慣れたリーダーです。 この訓練はあなたの自然な延長です。

CERT - Community Emergency Response Team

日本では類似の制度として、 自主防災組織への参加、 消防団入団、 防災士資格取得 (日本防災士機構) が同等の役割を果たします。

要素	詳細 (防災士資格の場合)
内容	防災に関する一定の知識・技能を有する 者を認定する民間資格。 災害発生時の対応、救急救命、災害ボランティアコーディネートを学ぶ。
所要時間	約12講習 (2日間) + 救急救命講習
提供機関	日本防災士機構
費用	約5万円 (受講料 + 受験料 + 登録料)
更新	更新義務なし (継続研修推奨)

要素	詳細（防災士資格の場合）
災害時の価値	プロの対応者が圧倒されているときに、 構造化された方法で行動できる市民を訓練します。 ロータリアンに特に適しています 指揮系統下でのチームワークを教えます。 動員されたクラブが行うのと正確に同じ です。

Grant Management Seminar (GMS)

要素	詳細
内容	TRF 補助金申請に必須の研修。複数のモジュール 補助金種別、 予算、ガバナンス、 stewardship、 報告。
所要時間	約8時間（オンライン、自己ペース）
アクセス	my.rotary.org、 Learning Center
費用	無料
有効期限	ロータリー年度ごとに更新（7月1日）
災害時の価値	有効な GMS なしには、クラブは Disaster Response Grant を申請できません。これは地域のために確保できない可能性のある25,000 USD です。 Disaster Coordinator と会計担当は GMS 認証済みでなければなりません。

DRC 構造メンバー別の推奨研修

役職	優先研修
会長	GMS、 PFA
Disaster Coordinator	普通救命講習、 PFA、 防災士、 GMS
DRC ロジスティクス	普通救命講習、 防災士
DRC コミュニケーション	PFA、 危機メディア（利用可能なら）
DRC 財務	GMS
ボランティア会員全般	普通救命講習（最低限）、 PFA（推奨）

<! pagebreak >

個人の備えチェックリスト

このチェックリストをクラブの各会員に 配布。 9月 （北半球の冬前の時期。ロータリー年度自体は7月1日に始まる）に年次議題項目とする。

- 72時間キットを準備し、 アクセスしやすい場所に保管
- キットを確認・更新済み（最終確認日： __/__/__）

- 家族緊急時計画を书面化、家族全員と議論
- 2つの集合場所を定義、全員が知る
- 域外連絡先を特定、その役割を通知
- 避難経路を特定（最低2経路）
- 緊急番号カードを家族の各員が携帯
- 過去12か月以内に家族演習を実施
- 応急処置訓練が最新（日付：__/__/__）
- その他の修了済み研修：_____

念のため：この備えは理論的な演習ではありません。午前3時に地震が襲来したとき、45分で洪水が水位を上げたとき、嵐が屋根を剥がすとき、奉仕できるロータリアンと援助を必要とするロータリアンの違いを生むのは、このキット、この計画、これらの反射神経です。

第 II
備える

第 7

クラブの資本を棚卸しする

3つの資本、1つの棚卸し

30名のロータリークラブは30人のボランティアではありません。
 30人のプロフェッショナルであり、各員が連絡先ネットワーク、専門スキル、物質的資源（個人的および業務上のもの）を有しています。あるメンバーの運送会社は、利用可能なトラック3台を意味します。別のメンバーの診療所は、医療用品の供給源を意味します。第3のメンバーのレストランは、すでに装備された炊き出し施設を意味します。

クラブの災害時の力は会員数で測られるのではなく、それらの会員が動員できるものについての棚卸しの質によって測られます。

この棚卸しは3つの資本をカバーします：

- ・ 人的資本：スキル、言語、可用性
- ・ 物的資本：機材、車両、施設、在庫
- ・ 関係の資本：所属、職業ネットワーク、機関的連絡先

Disaster Coordinator がこの棚卸しの構築・更新の責任を負います。頻度：最低年次、ロータリー年度の開始時（7～9月）。

人的資本 - 会員のスキル

スキル棚卸し表

各会員がシートを記入。Coordinator がすべてを共有スプレッドシート + ラミネートされた紙コピーにまとめます。

項目	例
氏名	田中 花子 医師
主な職業	一般診療医
災害時の主要スキル	トリアージ、応急医療、健康評価
災害時の副次スキル	応急処置研修、PFA
修了済み研修	普通救命講習（2024）、日本赤十字 PFA（2025）、GMS（2025）
話せる言語	日本語（母語）、英語（流暢）、中国語（会話）
危機時の推定可用性	D+0～D+3 100% D+4～D+14 50%（診療所を維持）
制約	膝に問題、悪路は不可

要約表テンプレート（抜粋）

会員	職業	災害時スキル	言語	D+0 可用性
山田 太郎	建設業主	ロジスティクス、瓦礫処理、建物評価	JA、EN	即時
田中 花子	医師	トリアージ、治療	JA、EN、ZH	即時
鈴木 一郎	弁護士	保険、被災者の権利	JA、EN	H+6
高橋 美咲	レストラン経営者	炊き出し、食品衛生	JA、KO、EN	即時
佐藤 健	通信技術者	通信、IT システム	JA、EN	H+4
渡辺 雅子	公認会計士	会計、TRF stewardship	JA	H+12
伊藤 茂	農業者	大型車両、土地、保管	JA	即時
中村 香織	薬剤師	医薬品管理、健康助言	JA、EN	H+2
小林 隆	ジャーナリスト	危機コミュニケーション、メディア	JA、EN、ES	即時
加藤 真一	建築家	被害評価、復興計画	JA、EN	H+6

会員の職業ネットワーク

ここでロータリーが他のいかなるボランティア組織とも区別されます。会員は単独で来るのではなく、ネットワークと共に来ます。

会員	動員可能な職業ネットワーク	潜在的資源
山田氏（建設）	資材業者、下請、重機オペレーター	ブルーシート、木材、熟練労働、機械
高橋氏（飲食）	食品業者、卸売、HACCP ネットワーク	大量食料、調理機材
伊藤氏（農業）	農協、運送業者、冷蔵保管	トラック、冷蔵倉庫、食料
中村氏（薬局）	製薬卸、薬局ネットワーク	緊急医薬品、医療用品
鈴木氏（弁護士）	弁護士会、行政書士、保険会社	プロボノ法律支援、保険専門知識

具体的行動： 年次棚卸しの際、各会員に尋ねる： 「明日災害が襲来したら、資源を得るために1時間以内にとどの職業上の連絡先に電話で きますか？」 名前、番号、アクセス可能な資源を記録。これらの第2次連絡先がクラブの能力を5~10倍にします。

物的資本 - 会員の所有物

物的棚卸しは会員が個人および業務を通じて利用可能にできるものをカバーします。区別が重要です。会員は個人車両を即座に提供できますが、会社のトラックはパートナーの承認が必要かもしれません。

棚卸し例

車両

所有者	車両種別	容量	個人/業務	可用性
山田氏	トラック 3.5 T	3 トン	業務	パートナー承認必要
山田氏	バン 1.2 T	1.2 トン	業務	即時
伊藤氏	トラクター + トレーラー	5 トン	個人	即時
伊藤氏	4WD ピックアップ	5人 + 500 kg	個人	即時
佐藤氏	セダン	4人	個人	即時

発電機とエネルギー

所有者	装備	出力	燃料	可用性
山田氏	携帯発電機	5 kW	ガソリン	業務、承認必要
伊藤氏	農業用発電機	12 kW	軽油	即時
ロータリークラブ	ソーラーパワーバンク	100 W	太陽	クラブ施設にて

施設と空間

所有者	施設種別	面積	収容能力	設備
高橋氏	レストラン	120 m ²	80人	完備キッチン、水、電気、駐車場
山田氏	建設倉庫	300 m ²	保管のみ	トラックアクセス可、施錠
ロータリークラブ	会議室	60 m ²	40人	WiFi、トイレ、プロジェクター
渡辺氏	ガレージ/作業場	80 m ²	保管	電気、車両アクセス
小林氏	オフィス	40 m ²	10人	高速 WiFi、プリンター

専門機材

所有者	機材	用途
山田氏	チェーンソー (3台)、削岩機 (2台)	瓦礫処理
伊藤氏	大型タンク (10,000 L)	水備蓄、 農業散布
中村氏	医薬品在庫	緊急医薬品
佐藤氏	Iridium 衛星電話 (1台、業務用)、衛星インターネット端末 Starlink Mini (1台、要動員)	通信
クラブ	救急セット (3個)、無線機 (5台)	クラブ施設にて

関係的資本 - クラブの連絡先名簿

連絡先の5家族 (第9章で詳述)

1. 緊急救助 (消防、救急、警察、海上保安庁、災害対策本部)
2. 人道・社会援助 (赤十字、NPO、ボランティアセンター)

3. 宗教共同体（神社、寺院、教会、しばしば収容空間とソリダリティネットワーク）
4. 地方当局および公共サービス（市役所、県庁、上下水道、電力、ガス、教育機関）
5. 地域経済アクター（スーパー、運送業者、ホテル、薬局、ガソリンスタンド）

各家族について、第9章は具体的な連絡先表、関係の形式化手段（MOU、覚書）を提供します。

call-down list（連絡網）の仕組み

call-down list は、ネットワークが飽和した場合でも30分以内に全会員に到達することを可能にするメカニズムです。原則：各人が2～3人に電話し、その2～3人がそれぞれ2～3人に電話します。

連絡網の構造

```

Disaster Coordinator
+-+ 枝 A 責任者
| +-+ A-1 → 5名の会員に電話
| +-+ A-2 → 5名の会員に電話
+-+ 枝 B 責任者
| +-+ B-1 → 5名の会員に電話
| +-+ B-2 → 5名の会員に電話
+-+ 枝 C 責任者（会員30名以上の場合）
    +-+ C-1 → 5名の会員に電話
    +-+ C-2 → 5名の会員に電話
  
```

結果：Coordinator は2～3本の電話で動く。30分で30名以上の会員に到達。

運用ルール

ルール	詳細
応答なし	5分間隔で3回試行、その後指名された代理人に切り替え
確認	各枝の最後の会員が Coordinator に SMS を送信「枝 X 完了、[人数]/[総数]が応答」
時間帯	22時～6時は緊急の場合を除き電話なし
メッセージ	受け取った そのまま 伝達。解釈せず、追加せず、コメントせず
代理人	ツリーの各位置に指名された代理人

標準化された電話スクリプト

「もしもし、こちら[氏名]、[都市]ロータリークラブの者です。
災害警報の連絡です。」

状況：[1-2行で要約]

要請される行動：[会員が行うべきこと]

受信を確認いただけますか？

[氏名1] (番号 [番号]) と
[氏名2] (番号 [番号]) に今すぐ電話してください。」

四半期テスト (必須、ch00 と整合)

call-down list はテストされなければ機能しません。年4回の実テストを組織：

月	テスト種別	方法
9月	フルテスト	ツリーの実発動。Coordinator が発動、計測、失敗を記録
12月	部分テスト	1つの枝のみを SMS で発動
3月	部分テスト	別の枝を電話で発動
6月	部分テスト	最後の枝を LINE/WhatsApp で発動

性能指標：

指標	目標
会員の80%に到達する時間	< 30分
最初の電話への応答率	> 60%
3回試行 + 代理人後の応答率	> 90%
検出された期限切れ番号	0 (そうでなければ即座に更新)

call-down list の形式

call-down list は 2つの版 で存在：

完全版 (デジタル)：

- ・ スプレッドシート：氏名、ツリー内の役割、主電話、副電話、メール、スキル、住所
- ・ 保管：安全なクラウド + USB メモリのローカルコピー

現場版 (紙)：

- ・ 折りたためるカード形式 (財布に入る)
- ・ 含む内容：氏名のみ、ツリー内位置、主電話、副電話
- ・ ラミネート加工
- ・ クラブの各会員に配布
- ・ 自宅および職場に保管

念のため：call-down list の期限切れ番号は、枝全体を切断します。

四半期更新は任意ではありません。

外部連絡先名簿

会員を超えて、クラブは外部連絡先の名簿、つまり災害時に連絡すべき人物・組織のリストを保有しなければなりません。この名簿は Disaster Coordinator の責任です。

地域緊急連絡先

組織	担当者名	直通電話	役職	最終確認
消防			署長	
救急 119			医療責任者	
警察 110			署長 警部	
市役所 危機管理			防災課長	
県防災課			課長	
主要病院			救急部長	
上下水道			緊急当直	
電力会社			緊急当直	
ガス会社			緊急当直	
気象庁地方気象台				

人道・社会援助連絡先

組織	担当者名	直通電話	動員可能資源	最終確認
日本赤十字社地方支部			シェルター、応急処置、水	
災害ボランティアセンター			ボランティア調整	
社会福祉協議会			ボランティア保険、調整	
民生委員			高齢者・要援護者情報	
自治会・町内会			地域動員	

ロータリー連絡先

役職	氏名	直通電話	メール	最終確認
地区ガバナー				
DRO (District Disaster Relief Officer)				
DRFC (District Rotary Foundation Committee Chair)				
DNA-RAG 地域連絡担当				
ShelterBox 地元連絡先				
最寄りの姉妹クラブ				

経済連絡先

アクター	担当者名	直通電話	動員可能資源	最終確認
スーパー 大型店			水、食料、衛生用品	
運送会社			トラック、ロジスティクス	
ガソリンスタンド			燃料	
薬局			医薬品	
ホテル			緊急時の宿泊	
印刷会社			書式、ポスター	

メディア連絡先

メディア	ジャーナリスト名	直通電話	種別	最終確認
地方紙			新聞	
ローカルラジオ			ラジオ	
ローカル TV			テレビ	
全国紙地方支局			新聞	

更新頻度 : 緊急連絡先は四半期。その他は年次。「最終確認」列に意味があります :
12か月確認されていない番号は、もはや信頼できません。

デジタル と 紙 - 両方が不可欠

この点を強調する必要があります。災害時、いずれか一方が欠けます。

なぜデジタルだけでは不十分か

シナリオ	帰結
長期停電	WiFi なし、クラウドへのアクセスなし、電池寿命制限
通信アンテナ破壊	4G/5G なし、モバイルデータなし
クラウドサーバアクセス不能	Google Drive、Dropbox はインターネットなしではアクセス不能
携帯電話紛失/破壊	ローカルデータすべて失われる

なぜ紙だけでは不十分か

シナリオ	帰結
自宅破壊またはアクセス不能	紙書類失われる
浸水	紙書類破壊される
迅速な共有の必要	紙書類を30人にコピー・送信不可能
更新	紙はリアルタイム更新されない

解決策 - 体系的な二重形式

書類	デジタル版	紙版
call-down list	クラウド + USB メモリ + 携帯電話	ラミネートカード (各会員)
資源棚卸し	共有スプレッドシート (保護)	ラミネートファイル (Coordinator + クラブ施設)
外部連絡先名簿	共有スプレッドシート	ラミネートシート (Coordinator + 会長)
緊急計画全体	クラウド上 PDF + USB メモリ	クラブ施設のファイル + Coordinator 自宅
運用書式	テンプレートファイル USB メモリ	50部の事前印刷 (施設)

物理的書類キット

Disaster Coordinator は 緊急ファイル を維持。 物理的なファイル、 安全な場所 (クラブ施設 + Coordinator 自宅にコピー) に保管。 以下を含む :

1. call-down list 最新版 (ラミネート)
2. 会員資源棚卸し (要約)
3. 外部連絡先名簿
4. 継承計画
5. SITREP 空白書式 20枚
6. 迅速評価空白書式 20枚
7. ボランティア登録空白書式 20枚
8. 日次財務追跡シート 10枚
9. 紙の緊急メッセージシート 10枚
10. 印刷された地域地図
11. すべてのデジタルファイルを含む USB メモリ

このファイルは四半期初めに確認・更新 されます。

<! pagebreak >

棚卸しチェックリスト

- 各会員のスキル・任務マトリクス記入済
- 各会員の動員可能職業ネットワーク特定済
- 物的資源棚卸し作成済 (車両、発電機、施設、機材)
- call-down list 構築済、配布済、四半期テスト済
- 外部連絡先名簿作成済、年次更新
- デジタル版と紙版の両方が存在

- 物理的緊急ファイルがクラブ施設および Coordinator 自宅で利用可能
- すべての書類が直近12か月以内に更新済

棚卸しは固定的なものではなく生きたものです。年1回見直さなければなりません。理想的には7月の役員交代時に、新会長および新 Coordinator が現状を引き継ぐためです。

第 II
備える

第 8

緊急時コミュニケーション

誰も予期しない問題

災害が発生したとき、通信は最初の犠牲者です。携帯電話基地局は倒れ、ネットワークは飽和し、固定電話は切れ、インターネットは消えます。そしてまさにその瞬間が、通信が生命線となる時です。誰が無事か、何をすべきか、どこへ行くか、誰が援助を必要としているかを知ること。

危機の前にコミュニケーションを構造化していないクラブは、行動すべき瞬間に暗闇の中に置かれます。指示を受け取らない会員は自宅にとどまります。情報を伝達しない現場チームは重複を生みます。情報を得られないパートナーは助けることができません。

本章はロータリークラブの災害モードにおける完全な通信アーキテクチャを示します。ここに記述するすべては平時に準備されます。

3つの通信フロー

危機におけるクラブの通信は3方向に流れます。それぞれに固有の受信者、リズム、回線があります。

上向きフロー - クラブから地区および RI へ

クラブはロータリーの階層構造の上位に情報を伝達します。これが外部援助、Disaster Response Grant、近隣クラブの動員、RAG の起動を引き起こすフローです。

要素	詳細
受信者	地区ガバナー、DRO、DRFC、DNA-RAG
内容	現場状況、特定されたニーズ、利用可能な資源、援助要請
形式	構造化された SITREP (第24章参照)
頻度	急性期 (H+0~H+72) は6時間ごと、その後日次、その後週次 (ch00 と整合)
主回線	メール + 地区の LINE/WhatsApp グループ
バックアップ回線	DRO への直接電話

基本ルール : 地区は知らないことを助けることはできません。沈黙のクラブは忘れられたクラブです。すべてのデータがなくても、6時間以内に最初のメッセージを送ってください : 「私たちは被災した。これまで分かったこと。まだ分からないこと。」

下向きフロー - クラブから会員へ

クラブが会員に指示を伝達します。これがボランティアを動員し、行動を組織するフローです。

要素	詳細
受信者	クラブの全会員
内容	初期警報、 行動指示、 集合場所、 ローテーション
形式	短く直接的なメッセージ、 call-down list
頻度	急性期は継続的、 その後は1日2回
主回線	電話連絡網 (call-down list) + LINE/WhatsApp
バックアップ回線	グループ SMS、 物理メッセンジャー

基本ルール : 下向き情報は曖昧であってはなりません。 1つのメッセージ、1つの承認された情報源 (Disaster Coordinator またはその代理人)。会員は2人の異なる人から矛盾する指示を受け取ってはなりません。

横方向フロー - クラブからパートナーへ

クラブは地域組織 (市役所、 赤十字、 消防、 NGO、 メディア) と通信します。これが重複を避け、調整を構築するフローです。

要素	詳細
受信者	地方当局、 パートナー NGO、 メディア、 ドナー
内容	クラブの能力、 進行中の行動、 調整ニーズ
形式	相手による 口頭 (調整会議)、 文書 (メール)、 公式 (プレスリリース)
頻度	運用パートナーとは日次、 メディアとドナーは週次
主回線	調整会議 + メール
バックアップ回線	直接電話

基本ルール : 各主要パートナーに対し単一の連絡担当を指定。市役所には特定のロータリー連絡先。赤十字も。消防も。拡散したコミュニケーションはなし : 1つの連絡先、 1つの相手。

<! pagebreak >

3つの情報レベル

危機にあるクラブで流通するすべての情報は3つのレベルに分類されます。これらのレベルを混合すると、現場が戦略報告書に溺れ、リーダーシップが運用データを失います。

レベル1 - 運用 (現場)

特性	詳細
誰	現場チーム、 ボランティア、 評価者、 チームリーダー
頻度	継続的、 リアルタイム
形式	短いメッセージ 氏名、 場所、 状況、 ニーズ、 行動
回線	現場 LINE グループ、 無線機
例	「山田、 南小学校 45世帯、 水不足、 午後6時まで 500L 必要」

レベル2 - 戦術（調整）

特性	詳細
誰	Disaster Coordinator、 チームリーダー、 ロジ/財務/コミ担当
頻度	1日2~3回
形式	ミニ SITREP 現場報告の要約、 行った決定、 指示
回線	危機対策室 LINE、 メール
例	「午後2時更新 POD 3か所稼働、 280世帯支援、 水備蓄危機的、 午後4時に補充発注、 夜間チーム6名確認」

レベル3 - 戦略（リーダーシップと外部）

特性	詳細
誰	クラブ会長、 地区 (DG、 DRO)、 RI、 ドナー、 メディア
頻度	1日1回または以下
形式	公式 SITREP、 プレスリリース、 ドナー報告
回線	メール、 ウェブサイト、 ソーシャルメディア
例	統合数値、 財務ニーズ、 48時間の行動計画を含む完全 SITREP

黄金律 : 情報は生のまま上がり、 合成されて下に降ります。現場はあるがままの事実を送ります。 調整がフィルタし、 照合し、 合成します。リーダーシップが全体像を伝えます。

緊急 LINE / WhatsApp アーキテクチャ

LINE（日本）および WhatsApp（国際）は、多くの国でデファクトの緊急通信ツールです。劣化したネットワーク（データ SMS 1本で十分）で機能し、テキスト、音声、写真、位置情報を可能にします。しかし構造化されていないと、無用な通知の地獄になります。

災害前 に作成する5つのグループ

これらのグループを今作成してください。明日ではなく。「時間があるとき」ではなく。今です。空で使用準備のできた LINE / WhatsApp グループは何もコストがかかりません。

危機時に作成するグループは数時間かかります。

#	グループ名	命名規則	メンバー	管理者
1	危機対策室	[クラブ]-危機-[年]	会長、Coordinator、 DRC 委員会 (最大5~7名)	Coordinator + 会長
2	現場	[クラブ]-現場-[事象]	派遣ボランティア、 チームリーダー	チームリーダー + Coordinator
3	ロジスティクス	[クラブ]-ロジ-[事象]	倉庫、輸送、 調達担当	ロジ担当
4	外部コミュニケーション	[クラブ]-コミ外-[事象]	コミ担当、会長、 メディア連絡	コミ担当
5	全会員	[クラブ]-情報-災害	全クラブ会員	Coordinator + 会長

具体例：

- ・ ロータリー東京港-危機-2026
- ・ ロータリー東京港-現場-洪水-202612
- ・ ロータリー東京港-情報-災害

各グループに固定する管理ルール

グループ作成時、以下のメッセージを固定（名称を調整）：

ルール - [グループ名]

1. 運用コミュニケーション専用
2. 形式：氏名 - 場所：メッセージ
例：「山田 - 北地区：配給完了、120世帯支援」
3. 禁止：
 - 未検証の噂
 - 個人的 / 関係のないメッセージ
 - 識別可能な被災者の写真
 - 無許可のメッセージ転送
4. 生命に関わる緊急時：直接電話（テキストメッセージではなく）
5. 管理者：[氏名1]、[氏名2]

グループ5 - 情報チャンネルであって、議論ではない

「全会員」グループは重要であり、ほとんどのクラブで上手く扱われていません。これは議論フォーラムではありません。放送チャンネルです。

「管理者のみ投稿可能」に設定してください。会員は、30人がコメント、質問、噂を共有するノイズなしに、クラブの公式情報を受け取ります。

会員が質問したり援助を申し出たい場合は、Coordinator

に個別メッセージで直接連絡します。

バックアップ回線 - モバイルが落ちたとき

モバイルネットワークのみに依存する通信計画は、最も深刻な災害（まさに通信が最も生命線となる災害）で失敗する計画です。

劣化階層

劣化レベル	まだ機能するもの	行動
ネットワーク飽和 (通話ブロック、データ遅い)	SMS (ネットワークで優先) 、LINE テキスト (低帯域)	SMS のみに切替。写真なし、 動画なし、通話なし。
モバイルデータ切断 (インターネットなし)	SMS、音声通話 (基地局が立っていれば)	電話 call-down list を起動。 短い指示にグループ SMS。
モバイルネットワーク完全停止	無線 (特定小電力、 アマチュア)、 衛星電話	地域調整には無線機に切替。 地区への連絡には衛星電話。
通信インフラなし	物理メッセージャー、 紙のメモ	チーム間にメッセージャーを派遣。 標準化された紙のメッセージ書式を使用 。

SMS - 最も強靱な回線

SMS はモバイルネットワークのシグナリングチャンネルを使用し、データチャンネルではありません。10,000人が同時に通話してネットワークを飽和させても、SMS はしばしば通ります、遅延はあっても、通ります。

準備：

- ・ 携帯電話にクラブの全会員のための SMS 一斉配信リストを作成
- ・ 3つの事前フォーマット済み SMS を作成し下書きとして保存：

警報1 - 発動：

「ロータリー [都市] 警報。[種別] 災害。
[場所] に [時刻] 集合。SMS 'OK' で確認。
連絡不能なら [氏名] ([番号]) に連絡。」

警報2 - 中止：

「ロータリー [都市]：クラブ発動なし。
自宅待機。家族を守ってください。
指示を待ってください。」

警報3 - 状況更新：
「ロータリー [都市] - 更新 [時刻]：
[状況、20語以内]。
次の指示 [時刻]。」

劣化モードでの LINE / WhatsApp

ネットワークが遅くても、LINE / WhatsApp のテキストはしばしば通ります。
いくつかのルール：

- ・ メディア自動ダウンロードを無効化（設定 > ストレージとデータ）
- ・ テキストのみ送信、写真なし、音声メモなし、動画なし
- ・ 短いメッセージ：最大3行
- ・ LINE は WiFi で機能：ホットスポット（発電機 + ルーター）があれば、モバイルネットワークなしでも機能

無線 - 特定小電力およびアマチュア無線

特定小電力トランシーバー（日本では免許不要）は、開けた地形で1~5 km の範囲。
すべてが落ちたときの地域調整手段です。

機材	範囲	免許	費用	用途
特定小電力トランシーバー	1-5 km	不要	ペア5,000~15,000円	地域の現場調整
アマチュア無線 VHF/UHF	10-50 km (中継器経由)	必要	1万~5万円	地域から広域通信
アマチュア無線 HF	国内から世界	必要	5万~20万円	すべてが落ちたとき
衛星電話 (Iridium、Thuraya)	全世界	不要	10万~30万円 + 月額	孤立地帯から地区/RIへ

具体的行動：クラブは充電済みの特定小電力トランシーバーを最低4台所有し、予備電池と共にクラブ施設に保管。会員に免許保有者がいれば、バックアップ通信担当に任命し、その役割を形式化。

日本固有のヒント：地域のアマチュア無線家はしばしば緊急時ネットワーク（日本アマチュア無線連盟 JARL、各地の非常通信協議会、自治体防災行政無線等）に組織されています。このネットワークとの接触は大きな資産です。1人のアマチュア無線家が、他のすべてが死んでいる時にクラブと外部世界の間の連絡を回復できます。

衛星インターネット - Starlink

衛星電話 (Iridium、Thuraya) は音声と低速 SMS を回復します。インターネットは回復しません。ところが2022年以降、必要とされるのはまさにインターネットであることが多いのです：

メッセージで調整する、被害地図を共有する、ドナーに写真を送る、送金を受け取る、地区とビデオ通話を行う。これが低軌道衛星インターネットの役割であり、Starlink が今日その支配的なプレーヤーです。

近年の被災地全体で、Starlink は主要な再接続手段となりました。2022年1月、トンガ唯一の海底ケーブルを切断した噴火の後、SpaceX は他の事業者が動員した衛星資源と並んで、政府に端末50台を寄贈しました。マヨットでは、2024年12月のサイクロン・チドの後、フランス政府がStarlink アンテナ200台を展開し、3か月間無償で提供して、市役所と被災自治体でWi-Fi アクセスポイント（通話、SMS、インターネット）を再開しました。米国では、ハリケーン・ヘリーン（2024年9月）の後、数千台の端末が被災郡に発送され、公共建物、市役所、消防署に設置されました。携帯基地局の4分の3近くが停止する中、サービスは例外的な規制当局の認可のもと、携帯電話に直接届く緊急警報とSMSモード（Direct to Cell）まで起動しました。今では、ますます多くの当局がこの種の接続性を緊急通信計画に組み込んでいます。

携帯型端末 Starlink Mini は、リュックサックに収まります（約1.2 kg、大型の本ほどの大きさ）。これがクラブにとって適切なモデルです：車両に積み込み、空の開けた場所で数分で展開できます。

基準	Starlink Mini	衛星電話（Iridium）
回復するサービス	ブロードバンドインターネット（50-200 Mbps）	音声 + 低速 SMS のみ
端末費用	約4万~7万円	10万~30万円
月額	約7,000円/月から、月単位で一時停止可能	月額 + 通話分課金
電源	15-40 W（USB-C、バッテリー、ソーラー、発電機）	内蔵バッテリー
範囲	全世界（サービスが認可された地域）	全世界
サービス開始までの時間	数分	即時

具体的行動：クラブの予算が許せば、携帯バッテリー（300 Wh のステーションで8~9時間稼働）と小型ソーラーパネルを備えた Starlink Mini 端末は、被災地におけるクラブのデジタル指揮所を形成します。

「ローミング」契約は緊急期間外には一時停止できます：必要なときだけ支払います。購入できない場合は、自分のネットワーク（企業、市役所、近隣クラブ）の中で、すでに端末を所有し動員できる相手を事前に特定しておきます。

注意 - 単一の事業者に依存しないこと。Starlink は民間の商用サービスです。継続的な電力を必要とし、すべての国で認可されているわけではなく、事業者が一方向的にサービスを制限または切断すると決定できます（ウクライナ紛争の文脈で記録されているとおり）。ハリケーン・ヘリーンの被災者に提供された無償サービスも、

30日後に自動的に有料契約へ切り替わり、観察者から誤解を招くと判断されました。Starlink は強力な加速装置であって、安全網ではありません：無線と衛星電話の上に加わるものであり、決してそれらの代わりではありません。人道組織には代替手段が存在します。BGAN (Inmarsat) 端末は、ノートパソコンほどの大きさで、はるかに低速 (最大約500 kbps) でデータ単価もはるかに高価ですが、救援活動向けの料金体系を備え、堅牢性に定評があります。

物理メッセンジャー - 最終手段

電子的なものが何も機能しないとき、まだ脚があります。

物理メッセンジャー制度は標準化された紙の書式を使用します：

緊急メッセージ書式 - ロータリークラブ [都市]

項目	記入欄
メッセージ #	
日付	
送信時刻	時 分
差出人	
宛先	
メッセンジャー経由	
優先度	<input type="checkbox"/> 緊急 <input type="checkbox"/> 通常
メッセージ	
返信要請	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
受信時刻	時 分
受信者	
署名	

この書式を50部印刷し、クラブの通信キットに保管してください。

ソーシャルメディア - 平時に準備

ソーシャルメディアは戦略的回線であり、運用回線ではありません。一般市民、ドナー、メディア、拡張ロータリーコミュニティに情報提供する役割を果たします。現場の調整には使いません。

事前設定するアカウント

プラットフォーム	災害時の用途	必須設定
Facebook (クラブページ)	公的告知、 寄付呼びかけ、 行動写真	最低2名の管理者、 最新の連絡先、 待機カバー写真の用意
Instagram	現場写真 (同意あり)、 可視性	2名の管理者、 ロータリービジュアルバンクの用意
X Twitter	リアルタイムの短いメッセージ、 公式情報の中継	2名の管理者、 事前定義のハッシュタグ
LinkedIn	職業スキルおよび寄付の呼びかけ	特定された管理者付きクラブページ

管理者最低2名のルール

各クラブのソーシャルメディアアカウントは 最低2名の管理者 がフルクレデンシャル (メールとパスワード) を持つ必要があります。理由：

- ・ 1人の管理者が被災しても、 他方が投稿可能
- ・ 1人の管理者が連絡不能でも、 他方が行動可能
- ・ ハッキングの場合、 第2の管理者がアカウントを回復可能

クレデンシャルは安全な共有書類 (クラブのパスワード管理ソフト) および Coordinator の紙に保管。

事前作成メッセージ

3つの投稿可能テンプレートを準備：

テンプレート1 - 初期警報：

当地域が [災害種別] により被災しました。 [都市] ロータリークラブは緊急対応を発動しています。 会員は無事で、 被災者の支援のために動員されています。 今後の情報をお待ちください。 #ロータリー対応 #[都市]

テンプレート2 - 行動の呼びかけ：

[都市] ロータリークラブは [場所] で [何を] 配給しています。 [具体的なニーズ] が必要です。 支援するには : [リンクまたは連絡先]。 一つひとつの貢献が大切です。 #ロータリー対応

テンプレート3 - 更新報告：

[災害] への対応 ___ 日目。 集計 : [主要数値、 支援した世帯数、 提供した食事数、 配給したキット数]。 パートナーの [名称] および全ドナーに感謝します。 対応は続きます。 #ロータリー対応

絶対に投稿しないこと

禁止事項	理由
同意のない識別可能な被災者の写真	人間の尊厳、 法的責任
未検証の数値	クラブの信用、 潜在的なパニック
当局や他組織への批判	調整が損なわれる、 評判
ソーシャルネットワークでの直接現金寄 付呼びかけ	詐欺リスク、 トレーサビリティなし
まだ開設されていない在庫場所や配給拠 点の正確な位置	略奪リスク、 安全

情報検証プロトコル

災害時、 噂は水より早く広がります。 誤情報を中継するロータリアンは、何も言わないロータリアンより大きな損害を生みます。3情報源ルールを確立してください。

検証マトリクス

一致する情報源	行動
3つの独立した一致情報源	自信を持って中継
2つの一致情報源、 1つ欠如	「未確認」の注釈付きで中継
1つの情報源のみ、 または矛盾する情報源	中継しない。 現場で確認。
検証可能な情報源なし	ブロック。 潜在的な噂として警告。

3種類の情報源

種別	例	信頼性
一次（現場）	現場のロータリーボランティア、 自分の目で見た会員	高
公式	内閣府防災担当、 自治体、 消防、 気象庁、 警察	高
照合済み	他の NGO、 信頼できるメディア、 独立した目撃者	中～高

実務上 : 会員が「橋が落ちたと聞いた」というメッセージを送ったとき、 Coordinatorの返答は : 「情報源は? 橋を見ましたか? 誰から聞きましたか? 」情報が検証されない限り、 クラブのチャンネルでは流通しません。

SITREP 配布スケジュール

SITREP (Situation Report) は上向きおよび戦略的コミュニケーションを構造化する公式文書です。 その配布スケジュールは対応のフェーズ に従います。

フェーズ	期間	SITREP 頻度	受信者
警報 初期対応	H+0~H+72	6時間ごと	DRC 委員会、地区 (DRO、 DG)
能動的対応	4~14日目	1日1回 (午後6時)	委員会、地区、ドナー
安定期	15~30日目	3日ごと	地区、ドナー、会員
復興期	31日目以降	週1回 (金曜)	全員
終了	ミッション終了時	単一の最終 SITREP	全員 + 保管

緊急通信キット

クラブ施設に保管する物理ケースを準備し、劣化モードで通信するために必要なすべてを含める。四半期ごとに確認。

物品	量	注記
特定小電力トランシーバー	最低4台	充電済、予備電池あり
モバイルバッテリー	2 × 20,000 mAh	充電済
携帯ソーラー充電器	1台	テスト済、機能確認済
紙の緊急メッセージ書式	50部	事前印刷
油性ペン	4本	
耐水性ノート	1冊	
ラミネートされた call-down list	2部	最新
ラミネートされた外部連絡先名簿	2部	最新
印刷された地域地図	1部	GPS から独立
USB メモリ	1個	内容 SITREP テンプレート、ロータリーロゴ、連絡先、クラブ計画
笛	2個	位置を知らせるため

< ! pagebreak >

通信の年次準備チェックリスト

ロータリー年度の開始時 (7~9月) に実施 :

- call-down list のすべての番号とメールを確認・更新
- 電話ツリーを実際の訓練でテスト (計時)
- 5つの緊急 LINE / WhatsApp グループを作成 / 確認 (最新メンバー、固定ルール)
- 「全会員」グループを管理者のみ投稿可能モードに設定
- 無線機を再充電・テスト
- モバイルバッテリーとソーラー充電器を再充電

- 紙のメッセージ書式を補充
- SMS 警報テンプレートを作成し下書きとして 保存
- ソーシャルメディアアカウントを確認 (2名の管理者、最新のクレデンシャル)
- 事前作成済ソーシャルメディアメッセージを更新
- SITREP テンプレートを USB メモリとクラウドで更新
- メール配信リストをテスト (試送)
- 新会員への通信プロトコル30分研修
- 地元のアマチュア無線連絡先を確認 (該当する場合)

緊急時コミュニケーションはテクノロジーの問題ではありません。規律の問題です。世界最高の衛星電話も、誰に、どんな形式で、何を言うべきかを誰も知らなければ無用です。最も基本的な仕組み (紙の書式を持つメッセージャー) も、プロトコルが明確で、訓練され、尊重されていれば完璧に機能します。機材に投資する前に、手順に投資してください。

第 II
備える

第 9

災害前にネットワークを起動する

ロータリーの構造的優位

他のいかなるボランティア組織もあなたが持つものを持っていません。医師、建設業主、弁護士、レストラン経営者、技術者、薬剤師、農業者、ジャーナリストが毎週同じテーブルを囲んでる団体です。これらのプロフェッショナルは偶然そこにいるわけではありません。市長を、病院長を、消防団長を、スーパー経営者を、赤十字代表をしばしば個人的に知っています。

このネットワーク密度こそ、災害時のあなたの競争優位性です。しかし形式化されていない優位性は失われた優位性です。「病院長を知っている」会員は、その関係が文書化され、起動可能で、Disaster Coordinator に知られていなければ役に立ちません。

本章はネットワークの形式化、つまり個人的関係を集団的対応能力に変えることを扱います。

地域アクターの地図化 - 5家族

災害前に、クラブは自地域に存在するすべてのアクターを地図化していなければなりません。電話帳ではなく、運用地図です。誰が何をするか、どんな資源で、どう連絡するか。

家族1 - 救助と緊急

これらは専門的初動対応者です。ロータリーは彼らを置き換えるのではなく、補完します。

アクター	災害時の役割	確立すべき連絡先	ロータリーが提供できるもの
消防	緊急救助、救出、消火	消防署長、消防団長	ロジスティクス、車両、訓練を受けたボランティア
救急 医療緊急	救急医療、トリアージ、医療搬送	救急部長	医師、薬剤師の会員、患者搬送
自衛隊 (大規模災害時)	救助、給水、医療、輸送	都道府県の連絡担当経由	地域情報、ロジ支援
警察	治安維持、避難誘導、行方不明者捜索	署長	連絡支援
海上保安庁 (沿岸地域)	沿岸の救助、捜索	管区連絡先	地域情報
自治体災害対策本部	公式調整、避難、シェルター	防災課	ボランティア、空間、資金

アクター	災害時の役割	確立すべき連絡先	ロータリーが提供できるもの
日本赤十字社	シェルター、 応急処置、水、 家族連絡再建	都道府県支部、 地区連絡担当	資金、補完ロジスティクス、 ボランティア
民間防衛団体 (自警団、消防団等)	救助、 ロジスティクス、 心理的支援	団長	訓練交換、合同演習

家族2 - 人道・社会援助

これらの組織は数時間～数日後に到着し、被災住民の基本ニーズに応えます。

アクター	役割	確立すべき連絡先
災害ボランティアセンター (社会福祉協議会)	ボランティア調整、保険	地域 SCSP 担当
フードバンク	大量食料配給	地域責任者
救世軍	食料、宿泊、物資援助	地区担当
国境なき医師団 (MSF)	医療 (大規模災害時)	国内事務局 (稀な発動)
町内会 地域団体	現場の知識、信頼される伝達	会長、福祉担当
外国人支援団体 コミュニティ	翻訳、文化的仲介、 ネットワーク	コミュニティリーダー
ジャパン・プラットフォーム (JPF)	国内 NGO 連携、出動・資金	事務局
AAR Japan、JEN、Peace Winds Japan	緊急対応、心理ケア、 生活再建	各 NGO 事務局

家族3 - 宗教共同体

対応計画でしばしば過小評価されますが、宗教共同体は最初に動員される主体に属します。受入空間（本堂、教会会場、社務所）、確立されたソリダリティネットワーク、脆弱住民との深い信頼を持ちます。

アクター	典型的な資源	連絡先
神社	境内（避難用空間）、 地域祭礼ネットワーク	宮司
仏教寺院	本堂、檀家ネットワーク、炊き出し設備	住職
キリスト教 (カトリック・プロテスタント) 教会	教会会場、ボランティアネットワーク、 給食、社会ネットワーク	神父、牧師
イスラム教モスク	礼拝堂（大容量）、 ソリダリティネットワーク、キッチン	イマーム、 協会会長

アクター	典型的な資源	連絡先
その他諸宗教共同体	静かな空間、 コミュニティネットワーク	各代表

具体的行動 : 年に1度、 地元の宗教指導者をクラブ会議に招待し てください。
 宗教を語るためではなく、 人間的接触を確立するため。 災害の日、
 彼らは見知らぬ人ではなく同盟者となります。

家族4 - 地方当局および公共サービス

地方当局は調整権限を持つ機関です。 ロータリークラブは危機時にその監督下
 で活動します。

アクター	災害時の役割	確立すべき連絡先
市役所 町役場	公式調整、 体育館・集会所の開放、 緊急住宅、 徴用	防災課長、 危機管理監
県庁	財政資源、 ロジ支援、 道路	防災部、 危機管理課
国の出先機関	国家計画、 広域調整	危機管理担当
上下水道部局	水道網復旧、 緊急停水、 飲用適性	当直
電力会社	電力復旧、 安全停電	当直
ガス会社	緊急停止、 漏れの安全確保	当直
学校 体育館	緊急シェルターとしての体育館・給食室	校長 + 市役所
自衛隊 (大規模災害時)	災害派遣	都道府県知事の要請経 由

家族5 - 地域経済アクター

ここでロータリーネットワークが違いを 生みます。
 あなたの会員はこれらのアクターを知っ ています。 しばしば、 その一員です。

アクター	動員可能な資源	連携を形式化する方法
大型店 スーパー	ペットボトル水、 食料、 衛生用品、 ブルーシート	事前交渉済の緊急寄付協定
運送会社	トラック、 バン、 ロジスティクス	文書化された口頭合意または意向書
ホテル	緊急宿泊用の部屋 (市役所協定下)	経営者の連絡先、 収容能力記録
薬局	必須医薬品、 医療機器	緊急供給協定
ガソリンスタンド	発電機・車両用燃料	不足時の優先協定
建設会社	重機、 資材、 熟練労働	可用性協定
印刷会社	書式、 ポスター、 情報チラシ	無料緊急印刷
食品会社 給食業者	大量食料、 炊き出し能力	寄付協定

連携を形式化する - 個人的関係から集団的能力へ

インフォーマルな関係の問題

「消防団長を知っている、一緒にゴルフをする間柄」。結構です。しかしあなたが災害の日不在ならどうしますか？ あなた自身が被災していたら？ クラブを離れていたら？ その関係はあなたの離脱と共に死にます。

形式化は個人的接触を集団的クラブ資産に変えます。

形式化の方法 - 3つのレベル

レベル	方法	労力	価値
1. 文書化	連絡先をクラブ名簿に氏名、役職、電話、 動員可能資源と共に記載	5分	会員の離脱を超えて連絡先が生き残る
2. 紹介	連絡先をクラブ会議に招待。 「ロータリー」に顔を付ける。Coordinator が関係を引き継ぐ。	1晩	連絡先はクラブを知る、 1人の会員だけでなく
3. 合意	覚書 (MOU) または意向書に署名	数時間	公式の約束、 危機時に交渉なしに起動可能

簡略化された覚書 (MOU)

MOU は20ページの法律文書である必要はありません。
ロータリークラブにとっては1ページの手紙で十分です：

クラブ向け MOU 構造：

1. 当事者の特定 ([都市] ロータリークラブと [組織])
2. 目的：自然または技術災害時の協力
3. クラブの約束：訓練を受けたボランティア、補完的資金、ロジスティクス
4. パートナーの約束：固有の資源、演習への参加、情報共有
5. 期間：1年、暗黙更新
6. 運用連絡先：双方1名 + 電話
7. 署名：クラブ会長 + 組織の長

MOU 締結の優先パートナー：

1. 地元の日本赤十字社支部
2. 自治体 (防災課)
3. 主要な経済アクター (スーパーまたは運送会社)
4. 自主防災組織または自治会
5. 地元の社会福祉協議会

年次行動 - 関係カレンダー

関係は時間をかけて築かれます。年次の行動カレンダーが、単に作るだけでなく、絆を維持することを保証します。

月	行動	責任者	対象パートナー
9月	地元の日本赤十字社代表をクラブ会議に招待	Disaster Coordinator	赤十字
10月	国連の防災の日（10月13日、IDDRR）に参加、パートナーと共催イベント	Coordinator + コミュニケーション	一般市民 + パートナー
11月	消防団長と会う（署訪問またはクラブ招待）	Coordinator	消防
1月	阪神・淡路大震災記念日（1月17日）に防災活動。市役所職員（危機管理監または防災副市長）を招待	クラブ会長	地方当局
3月	東日本大震災追悼日（3月11日）に振り返り活動。市町村または県の民間防衛演習に参加	Coordinator + 2-3名の会員	民間防衛
4月	主要パートナーとの MOU を更新または署名	会長 + Coordinator	全 MOU パートナー
5月	地域団体間会議 NGO、団体、宗教共同体を招待し備え計画を共有	Coordinator	全地域アクター
6月	パートナー関係の年次見直し。外部連絡先名簿の更新。	Coordinator	内部

原則：主要パートナーに対し年1回の訪問。午前3時に消防団長に電話してボランティア活動はあなたを知っているから答えてくれます。

これは官僚主義ではなく関係への投資です。動のためにそのゾーンが安全か尋ねる日、

3W 原則 - 誰が、何を、どこで

災害時にあらゆる行動を開始する前に、3つの質問を尋ね、文書化しなければなりません：

誰が、何を、どのゾーンで行うか？
(Who does What Where)

OCHA 人道調整から引かれたこの原則は、重複（2組織が同じ場所で水を配給する一方、ある地区が何も得られない）と隙間（孤立高齢者を誰も世話しない）を回避します。

最初の24時間で記入する 3W マトリクス

組織	何を（行動）	どこで（ゾーン）	いつ（期間）	連絡先
日本赤十字社	シェルター + 応急処置	A 体育館、中央地区	継続	[氏名、 電話]
自治体	宿泊、飲料水	コミュニティセンター、 北地区	継続	[氏名、 電話]
フードバンク	食料配給	スーパー駐車場、南地区	10時-16時	[氏名、 電話]
[都市] ロータリークラブ	炊き出し + 衛生キット配給	B 小学校、東地区	7時-20時	[氏名、 電話]
地元寺院	孤立高齢者の受入	本堂	8時-22時	[氏名、 電話]
特定された隙間	C 地区、対応なし	西ゾーン	,	,

最後の行が最も重要です。ここでロータリーが最大の価値を生みます。重複させず、隙間を埋める。

3W 情報の入手先

情報源	いつ	方法
自治体災害対策本部の調整会議	急性期は日次	クラブが代表を派遣
都道府県危機管理室	急性期および安定期	公式チャネル経由
地域 NGO との直接連絡	常時	電話、LINE、現場訪問
OCHA クラスタ会議	大規模国際災害時	DNA-RAG または RI 経由

あなたのロータリー連絡先を知る - 地区と RAG

あなたのクラブは真空中で活動しているのではありません。ロータリーネットワークそれ自体が起動すべきネットワークであり、大半のクラブが想像するよりはるかに強力です。

必須の地区連絡先

役職	あなたのために何ができるか	連絡先
地区ガバナー (DG)	地区対応の発動、近隣クラブの調整、DRGの承認	電話
DRO (District Disaster Relief Officer)	地区レベルの運用対応の調整、クラブと RI の連絡	電話
DRFC (District Rotary Foundation Committee Chair)	補助金申請の促進 (DRG、グローバル補助金)、DDF 基金の管理	電話
地区災害対応委員会委員長	クラブ間資源の調整、研修の組織	電話
近隣クラブの Disaster Coordinator	人的・物的補強、ロジスティクス中継	電話

災害に関連する RAG

ロータリー行動グループ (RAG) は特定分野におけるロータリアン専門家
の世界規模ネットワークです。 災害時、 技術的専門性、 接続、
メンターシップを提供します。

RAG	分野	起動するタイミング	連絡先
DNA-RAG (Disaster Network of Assistance)	全般的災害調整、 研修、 ツール	あらゆる災害	dna-rag.com
WASH-RAG (Water, Sanitation & Hygiene)	飲料水、 衛生、 衛生習慣	水・衛生ニーズ	wash-rag.org
ShelterBox	緊急シェルター (テント、 キット)	緊急住宅ニーズ	shelterbox.org
Disaster Aid	生存キット、 即時対応	急性期	disasteraid.org
RAGFP (Rotary Action Group for Peace)	仲介、 紛争地域	紛争地域での災害	rotaryactiongroupforpeace.org

具体的行動 : クラブの Disaster Coordinator は DRO および地域 DNA-RAG
連絡先の直接連絡先を携帯電話に持って いるべきです。
どこかのファイルではなく、 携帯の連絡先に、 すぐにダイヤルできる状態で。

地図化演習 - 4段階手法

ゼロから始めるクラブのために、 地域アクターを四半期で地図化する手法 を示します。

段階1 - 内部棚卸し (クラブ会議1回)

各会員に尋ねる : 「あなたの職業活動または関与を通じて、
あなたの地域でどの組織を個人的に知っていますか？」

回答を簡単な表にまとめる :

会員	知っている組織	個人的連絡先	潜在的資源
----	---------	--------	-------

段階2 - 分類 (Coordinator の作業、 2時間)

各組織を5家族のいずれかに分類。 隙間のある家族を特定。 家族1 (緊急) および家族4
(当局) が不完全なら優先。

段階3 - 接触 (2-3か月)

特定された各アクターについて :

1. 組織を知る会員が最初の接触を行う
2. クラブの災害準備プロジェクトを紹介する

3. 会合またはクラブ招待を提案する
4. Coordinator が会合に出席し、機関的連携を確立する

段階4 - 形式化（継続）

確立された各接触について：

1. 外部連絡先名簿に文書化（レベル1）
2. クラブに招待（レベル2）
3. 関連すれば MOU を提案（レベル3）

避けるべき落とし穴

落とし穴	帰結	解決策
主要連絡先について単一の会員に依存	会員が不在またはクラブを離れたら連絡先消滅	連絡先を Coordinator および会長に紹介、三角化
地図化するが維持しない	12か月以内に時代遅れの連絡先	年次会合カレンダー
インフォーマルなアクター（宗教共同体、町内会等）を無視	コミュニティ信頼の喪失、対応の隙間	家族3を体系的に含める
すべてを自分でやろうとする	重複、疲弊、他組織との緊張	体系的な 3W 隙間を埋め、重複させない
パートナーに知られないまま災害の日に到着	拒絶、不信、時間の損失	各主要パートナーと年1回以上の会合
クラブが提供できない能力を約束	失望、永続的な信用喪失	実際に動員できるものだけを形式化

<! pagebreak >

年次チェックリスト - ネットワークとパートナーシップ

ロータリー年度ごとに7月から9月の間に実施：

- 5アクター家族の地図化を更新
- 外部連絡先名簿の確認（連絡先ごとに確認電話）
- 主要パートナー（赤十字または自治体）と最低1件の有効な MOU
- 地区 DRO 連絡先を確認、Coordinator の携帯に保存
- 地域 DNA-RAG 連絡先を特定
- 年次パートナー会合カレンダーを計画
- 過去12か月以内に最低1名のパートナーをクラブに招待
- 過去12か月以内に最低1回の民間防衛演習にクラブが参加

- 各主要パートナーに「連絡担当」会員を指定
- 地図化結果をクラブ会議で提示

あなたの会員はすでに適切な人を知っています。あなたの仕事はネットワークを作ることではなく、毎週あなたのテーブルの周りにすでに存在するネットワークを可視化し起動可能にすることです。地図化と形式化は行政的演習ではありません。30冊の個人的アドレス帳を集団的対応能力に変えるしぐさです。

第 II
備える

第 10
訓練と演習

投資としての訓練、雑用ではなく

応急処置を訓練した会員が誰もいないクラブは、負傷者が消防の到着を待つのを見ることになるクラブです。会計担当が GMS を習得していないクラブは、25,000 USD の Disaster Response Grant をテーブルに置いたままにするクラブです。緊急計画をテストしたことがないクラブは、修正するには遅すぎる日にその欠陥を発見するクラブです。

あなたはプロフェッショナルです。シミュレータなしに飛行機を操縦せず、準備なしに弁論せず、テストなしに製品を発売しないことをご存じです。災害対応は同じ論理に従います。訓練はおまけではなく、基盤です。

本章は訓練を2軸で組織します：個人スキル（各会員が知っているべきこと）と集団演習（クラブが共に実践すべきこと）。

年次クラブ訓練カレンダー

災害訓練をクラブの通常カレンダーに統合してください。追加ではなく、伝統的会議の代わりに。年4回のスロットで、堅実な備えレベルを維持するのに十分です。

月	活動	所要時間	対象	責任者
9月	年度開始ブリーフィング クラブ緊急計画の提示、 会員シートの更新、DRC 役割の任命	45分 (クラブ会議)	全会員	Disaster Coordinator
11月	応急処置研修、団体セッション	3~8時間 (週末)	ボランティア会員全員 (目標 クラブの50%)	日本赤十字社、 消防、 または認定機関
1月	阪神・淡路大震災（1月17日） 記念。机上演習、災害シナリオ	30~45分 (クラブ会議)	全会員	Coordinator + 会長
3月	東日本大震災（3月11日）記念。 市町村の民間防衛演習に参加、 または PFA 研修	演習による	Coordinator + 3~5名の会員	Coordinator
9月1日	防災の日（関東大震災記念） に合わせた全国的訓練	半日	全会員	会長 + Coordinator

クラブ規模と資源に応じた適応

クラブ規模	年間最低訓練	推奨訓練
< 20名	年度開始ブリーフィング1回 + 机上演習1回	団体応急処置研修1回を追加
20-40名	上記のフルカレンダー	市町村演習への参加を追加
> 40名	フルカレンダー + サブグループ研修	5名向け GMS セッション、PFA 研修を追加

4つの必須訓練

1. 応急処置（普通救命講習）

要素	詳細
内容	救命的な手当 心停止（CPR + AED）、出血、窒息、失神、火傷、外傷
所要時間	3～8時間（普通救命講習 I は3時間、上級救命講習は8時間）
提供機関	各地消防本部（無料）、日本赤十字社、認定機関
費用	無料～数千円。10名以上の団体料金を交渉、ほとんどの機関が出張可能。
更新	2～3年ごと
クラブ目標	会員の最低50%が訓練済

なぜ重要か：大災害時、緊急サービスは圧倒されます。平均介入遅延は10分から数時間、あるいは数日になります。応急処置を訓練したロータリアンは、その時間枠の間に人を生かしておくことができます。訓練がなければ、無力な傍観者です。

具体的行動：11月に団体セッションを組織。クラブが研修費用を負担（内部奉仕活動）。会員の配偶者を招待（自宅ですら関係するのは彼ら/彼女ら）。土曜日を予約、昼食を組織、クラブイベントにする。

2. 心理的応急処置（PFA）

要素	詳細
内容	WHO の3段階アプローチ Look（判断せず観察）、Listen（共感的存在）、Link（資源につなぐ）。PFA がそうでないもの 心理療法、心理的振り返り、「大丈夫だよ」のような空虚なフレーズ。
所要時間	4～8時間（基本訓練）
提供機関	日本赤十字社、WHO（無料オンラインモジュール）、災害精神医学関連学会
費用	無料（WHO オンラインモジュール）～数千円
更新	年次推奨

要素	詳細
クラブ目標	Coordinator + コミ担当 + 3~5名のボランティア会員

なぜ重要か : 被災者の大多数が心理的ショックを経験 します。災害後研究は30~40%が急性ストレスを発症し、一部が PTSD を発症することを示しています。大半は心理士を必要としませんが、判断せず聴き、診断せず方向付けすることを教える訓練を受けた人間の存在を必要とします。あなたは人間関係に慣れたリーダーです。PFA はあなたの自然な延長です。

WHO 無料モジュール : OpenWHO プラットフォームで英語版利用可能。所要時間 : 4時間、自己ペース、証書発行。URL : openwho.org (「Psychological First Aid」を検索)。

3. 防災士資格 (CERT 相当)

要素	詳細
内容	構造化されたプログラム 消火、軽度の捜索救助、医療トリアージ、チーム組織、ストレス管理
所要時間	約12講習 (2日間) + 救急救命講習
提供機関	日本防災士機構 (日本の場合)、FEMA (米国 CERT 制度)
費用	約5万円 (日本の防災士)
更新	更新義務なし (継続研修推奨)
クラブ目標	Disaster Coordinator + DRC 委員会2~3名

なぜロータリーに適合するか : 動員されたクラブが行うこと、構造化された指揮系統下でのチームワーク、状況評価、優先順位付け、行動、これらを教えます。善意のボランティアの集まりと効果的なチームの差は、この訓練です。

日本の特殊性 : 防災士資格取得は個人の時間投資が大きいため、Disaster Coordinator と DRC 委員会の主要メンバーに集中させるのが現実的です。それに加えて、自治体の自主防災組織 や 消防団 への参加は、より広範な会員の準備として有効です。

4. Grant Management Seminar (GMS)

要素	詳細
内容	TRF 補助金のために必須となるモジュール 補助金種別、予算、ガバナンス、stewardship、報告、終結
所要時間	約8時間 (オンライン、自己ペース)
アクセス	my.rotary.org 、Learning Center
費用	無料
有効期間	年次更新必須 (7月1日)

要素	詳細
クラブ目標	Disaster Coordinator + 会計 + 会長（最低限）

なぜ交渉不可能か：当年度の有効な GMS なしには、クラブは Disaster Response Grant を申請できません。それは地域が受け取らないであろう 25,000 USD です。GMS は形式ではなく、ロータリー財団資金へのアクセスを開く鍵です。Coordinator と会計担当は災害前に認証済みでなければなりません。事後ではなく。

役職別訓練マトリクス

クラブ内役職	応急処置	PFA	防災士	GMS
クラブ会長	推奨	必須		必須
Disaster Coordinator	必須	必須	必須	必須
DRC ロジスティクス	必須	推奨	推奨	
DRC コミュニケーション	推奨	必須		
DRC 財務				必須
ボランティア会員全般	必須（目標 50%）	推奨		

机上演習 - 30分でクラブを訓練

机上演習はロータリークラブにとって最も効果的な訓練ツールです。機材も、移動も、予算も不要です。通常会議のテーブルで、定例クラブ会議の中で行います。

原則

Disaster Coordinator が架空だが現実的なシナリオを提示します。クラブ会員がリアルタイムで反応します：何をするか？誰が誰に電話するか？どの資源を動員するか？どんな問題が浮上するか？

目標は演習を「成功させる」ことではありません。目標は実際の災害前に計画の欠陥を特定することです。

標準的な流れ（30～45分）

フェーズ	所要時間	内容
1. シナリオの提示	5分	Coordinator が大きな声でシナリオを読み上げる。 各テーブルに印刷シートを配布。
2. 初期反応	10分	Coordinator が鍵となる質問をする。自由議論。各会員が役割（または危機時の役割）に従って反応。
3. インジェクト	10分	Coordinator が複雑化要素を追加（モバイル網切断、道路封鎖、訓練を受けていないボランティア流入）。グループが対応を調整。

フェーズ	所要時間	内容
4. 振り返り	10分	何が機能したか？ 答えられなかったことは？ 計画の隙間は？ 是正措置を記録。

即使えるシナリオ例

シナリオ - 都市型水害

火曜日 14時30分。 48時間の集中豪雨により、 [地元名] 川が氾濫しました。 [名前] 地区が浸水、 街路に1メートルの水。 200世帯が孤立、 うち40名入居の老人ホームを含む。 地区は停電。 消防は圧倒され、 救助を優先。 市役所が [名前] 体育館を緊急避難所として開放。 15時、 あなたはニュースを知る。

Coordinator の質問：

1. 警報 : call-down list をどう発動するか？ 誰が誰に電話するか？ 全会員に到達するまで何時間か？
2. 評価 : 状況評価のため誰を現場に派遣するか？ どう情報を中継するか？
3. 資源 : クラブの棚卸しを見て、 1時間以内にどの会員とどの機材を動員するか？
4. 調整 : 誰が市役所に連絡するか？ 誰が地区に連絡するか？ 調整会議が招集されたら誰が出席するか？
5. 行動 : 最も有用な役割は何か？ 体育館での宿泊？ 輸送？ 炊き出し？ その他？

インジェクト (10分、 20分で配布)：

インジェクト1 (10分) : 「モバイルネットワークが飽和。 通話が通らない。 SMS は30分遅延で通る。 LINE は断続的に機能。」

インジェクト2 (20分) : 「15名の自発的ボランティアが体育館に駆け つけた。 ロータリアンではなく、 訓練もない、 しかし意欲はある。 同時に赤十字から電話 : 衛生キット100個を供給可能だが輸送が必要。」

独自シナリオを作る

シナリオを自地域の実際リスク (第3章で特定) に適応させてください。
 地震地帯のクラブは地震をシミュレート。 沿岸地帯のクラブは台風をシミュレート。
 火山地帯のクラブは噴火をシミュレート。

良いシナリオの構造：

要素	詳細
文脈	曜日、 時刻、 季節、 天気
事象	災害種別、 場所、 規模
影響	被災者数、 被害、 停止サービス
利用可能資源	機能するもの、 しないもの

要素	詳細
暗黙的要求	地域社会がロータリークラブに期待する ことは何か?
2~3個のインジェクト	適応を強制する複雑化要素 (通信断、被災者急増、水不足、メディアの問い合わせ)

市町村の訓練に参加する

ほとんどの市町村は、少なくとも年1回、民間防衛訓練を組織します。これらの訓練はクラブにとって例外的な機会です：

1. 実際の地域緊急アクターとの調整をテスト
2. 当局に信頼できる資源として知ってもらう
3. 現実的条件下で会員を訓練
4. 多アクター文脈でクラブの緊急計画の隙間を特定

参加方法

段階	行動	責任者
1	市役所 (防災課または危機管理監) に連絡し訓練カレンダーを把握	Coordinator
2	支援組織として参加を要請	クラブ会長 (公式書簡)
3	訓練でのクラブの役割を定義 (ロジスティクス、避難所、配給、コミュニケーション)	Coordinator + 市役所
4	参加会員にシナリオと手順をブリーフィング	Coordinator
5	識別可能なロータリーベストを着用して能動的に参加	最低3~5名の会員
6	訓練後の振り返り クラブ計画への教訓	Coordinator

訓練後 AAR (After-Action Report)

各訓練 (内部または市町村) の後、1ページの AAR を作成：

セクション	内容
訓練の日付と種別	例 「2026年3月15日、[名称] 市の水害訓練」
クラブ参加者	氏名と役割
機能したこと	肯定的な点3~5項目
機能しなかったこと	改善すべき点3~5項目
是正措置	各否定的点について 行動、責任者、期限

この AAR は保管され、次のクラブ会議で提示されます。是正措置は Coordinator が追跡します。

RI の訓練資源

国際ロータリーは、無料または低費用でアクセス可能な訓練資源を提供しています。大半は MyRotary Learning Center にあります。

MyRotary プラットフォーム、 Learning Center

資源	内容
Grant Management Seminar (GMS)	TRF 補助金のため必須のモジュール (my.rotary.org、 Learning Center)
Disaster Recovery Playbook	災害対応のための RI 参照ガイド、ダウンロード可能 PDF (my.rotary.org)
Rotary Showcase	他クラブが文書化した災害プロジェクト例 (my.rotary.org/showcase)
Club Finder	調整のため被災地のクラブを特定 (my.rotary.org)
RI Webinars	プロジェクト管理、補助金、災害対応の定期セッション (my.rotary.org でスケジュール)

DNA-RAG 資源

DNA-RAG (Disaster Network of Assistance Rotary Action Group) は災害に対し RI に認定された参照 RAG です。その資源は RI 方針に準拠しています。

資源	内容
対応ガイド	運用プロトコル、チェックリスト、テンプレート (dna-rag.com)
オンライン研修	ウェビナー、チュートリアル、事例研究 (dna-rag.com)
メンタリング	災害経験豊富なロータリアンによる指導 (サイト経由で連絡)
専門家ネットワーク	分野別専門家との接続 (地域コーディネーター経由)

RI 大会

年次の国際ロータリー大会は災害専用セッションを提供します：

- ・ DNA-RAG および専門 RAG のワークショップ
- ・ 大災害に対応したクラブからの証言
- ・ ゾーンコーディネーターおよび RAG 代表とのネットワーキング
- ・ 議事録は各大会後 MyRotary で利用可能

<! pagebreak >

年次チェックリスト - 訓練と演習

- 9月に年度開始ブリーフィング実施（緊急計画、DRC 役割、棚卸し）
- ボランティア会員のため応急処置セッション組織
- Coordinator、会計、会長の GMS 更新
- クラブ会議中に最低1回の机上演習実施
- 最低1回の市町村訓練に参加（利用可能なら）
- 各訓練について AAR を作成・保管
- 過去 AAR の是正措置を追跡・完了
- 最低3名の会員が PFA モジュール修了（WHO オンラインまたは対面）
- 年内に最低1回 call-down list をテスト（実訓練）
- 新会員にクラブ緊急計画と手順のブリーフィング

テストされない計画は仮説です。

テストされた計画は能力です。

30分の机上演習はゼロ円のコストで、

紙の上では誰も見ていない欠陥を体系的

に明らかにします。演習中に地区の誰に電話すべきか知らないことを発見した会員は、

災害の日にはそれを知る会員です。実際の危機中にそれを発見した者は、数時間を失い、

おそらく命も失います。

第 II
備える

第 11
クラブ緊急基金

口座で待つ資金が命を救う

災害発生時、最初の72時間が決定的です。ロータリー財団の Disaster Response Grant は到着まで2~4週間かかる場合があります。会員や一般からの寄付は集めるのに時間がかかります。保険は数週間支払われません。

その間に、水、発電機用燃料、ブルーシート、食料を購入する必要があります。輸送、調理器具、基本医療用品の支払いが必要です。地元業者は危機時に信用取引をせず、現金を要求します。

事前に設置された緊急基金を持つクラブは、災害発生から数時間以内に行動できます。それを持たないクラブは、人々を助ける代わりに最初の48時間を資金探しに費やします。

緊急基金の構築

推奨金額

基金の金額は2要素に依存します：クラブの規模と地域のリスクレベル。

クラブ規模	中程度リスク	高リスク
< 20名	1,000~2,000 USD (15~30万円)	2,000~3,000 USD (30~45万円)
20-40名	2,000~4,000 USD (30~60万円)	4,000~6,000 USD (60~90万円)
> 40名	4,000~6,000 USD (60~90万円)	6,000~10,000 USD (90~150万円)

リスクの評価方法：地域が反復的災害（浸水地区、地震地帯、台風常襲地帯、SEVESO 分類された工業地区）に曝されていれば高リスク。

災害が稀でも可能性があれば中程度リスク。

経験則：基金は基本活動3~5日分をカバーすべきです：水、50~100世帯分の食料、燃料、輸送、基本物資。これはおよそクラブ会員1人あたり50~100 USD (約8,000~15,000円) に相当します。

基金構築方法

複数の方法を組み合わせ可能：

方法	利点	欠点
専用年会費（会員1人年5~20 USD）	予測可能、分散、苦痛少	構築が遅い
予算配分（クラブ年間予算の%）	集团的決定、予算に統合	総予算に依存
専用募金イベント（晩餐会、販売、抽選）	高額の可能性、可視性	組織化労力
会員の特別寄付	迅速、大きい	個人的寛大さに依存
年末予算余剰の移管	未使用金を活用	年により変動

推奨：控えめな年次拠出（会員1人 10 USD = 約1,500円）と予算配分（クラブ年間予算の3~5%）を組み合わせ。2~3年で基金は目標水準に達します。

具体例 - 20名クラブ、中程度リスク、目標 30万円：

年	年次会費 (1,500円 × 20)	クラブ予算配分 (4% × 30万円)	募金晩餐会	累計
1年目	30,000円	12,000円	90,000円 (イベント)	132,000円
2年目	30,000円	12,000円	75,000円	249,000円
3年目	30,000円	12,000円	60,000円	351,000円 ✓

3年で軽く分散した労力で目標達成。以降の年は：使用後の補充、または基金が手付かずなら上積み。

分離された銀行口座

緊急基金はクラブの普通口座と分離されていなければなりません。理由：

- ・ 会計の明瞭性：基金資金が運営費と混ざらない
- ・ 保護：基金は通常支出のために消費されない
- ・ トレーサビリティ：派遣時、すべての入出金がドナーおよびロータリー財団に対しトレース可能
- ・ 信頼：会員とドナーが拠出が保護されているのを見る

推奨口座種別：クラブ名義の専用普通預金または定期預金、明示的なラベル付き（「[都市] ロータリークラブ 災害緊急基金」）。リスクのある投資なし、利回りより流動性。

ガバナンス - 誰が決定し、誰が署名し、誰が管理するか

緊急基金は会長の金でも、会計の金でも、Disaster Coordinator の金でもありません。クラブの金であり、特定の用途に専用されたものです。ガバナンスは厳格かつ透明でなければなりません。

支出承認

金額	必要承認	決定時間枠
< 75,000円 (500 USD)	Disaster Coordinator + 会計 (口頭合意、24時間以内に書面確認)	即時
75,000~300,000円 (500-2,000 USD)	Coordinator + 会計 + 会長 (電話/LINE 合意、書面確認)	4時間以内
> 300,000円 (2,000 USD)	クラブ役員会の決議 (緊急時は LINE またはメールで可能)	24時間以内

原則：災害時、速度が手続きに優先します。しかし決してトレーサビリティを犠牲に

してはなりません。飲料水のための 30,000円 の支出は公式決議を待つべきではありません。しかし24時間以内に文書化されなければなりません : 金額、業者、領収書、受益者。

二重署名

資金の流出には、2人の署名（または書面承認）が必要 :

署名者1	署名者2	役割
クラブ会計	クラブ会長	デフォルト構成
クラブ会計	Disaster Coordinator	会長不在時
クラブ会長	Disaster Coordinator	会計不在時

絶対的ルール : 単独で資金を引き出せる者はいません。両主要署名者が不在なら、第三者 (Coordinator または副会長) が代わります。この継承連鎖を基金の規約で計画してください。

支出登録簿

すべての支出は専用登録簿に記録、クラブの通常会計と分離 :

項目	例
日付	2026年12月15日
金額	52,000円
受領者/業者	A スーパー、水と食料の購入
目的	緊急物資、北地区の洪水
承認	Coordinator (山田) + 会計 (鈴木)、14時30分 SMS
領収書/請求書	スキャン添付、請求書番号 2026-1234
最終受益者	45世帯、B 小学校 POD 配給

形式 : デジタルスプレッドシート (Excel/Google Sheets) + オリジナル領収書の紙バインダー。各領収書を体系的に携帯電話で撮影、紙は失われ、濡れ、破れます。

会員への報告

会計が緊急基金についてクラブに報告します :

- ・ 四半期 通常時 : 基金残高、利息、動き
- ・ 週次 活動中 : 週間支出、残額、見込み
- ・ 活動終了時 : 全支出項目、受益者数、裏付け書類を含む完全報告

透明性は任意ではありません。会員が年々基金を支え続けることを保証するものです。

オンライン寄付ページ - 起動準備済

災害が発生すると、人々は寄付したくなります。クラブが運用可能な寄付ページを持たなければ、その寄付は他所へ、またはどこへも行きません。

災害前にページを準備

寄付ページは事前設定・テスト済みでなければなりません。
災害の日は起動・共有だけが残ります。

段階	行動	いつ
1	オンライン募金プラットフォームを選択	平時
2	クラブ情報、ロゴ、汎用テキストでページ作成	平時
3	受領口座（クラブ銀行口座にリンク）を設定	平時
4	全プロセスをテスト テスト寄付 → 受領 → 確認	平時
5	リンクとクレデンシャルを2名の管理者と共に保管	平時
6	特定の事象に合わせページをカスタマイズし起動	災害の日
7	ソーシャルメディア、メール、LINE で共有	災害の日

推奨プラットフォーム

プラットフォーム	利点	手数料	注記
GoFundMe Charity	広い視聴者、公的信頼	0% (任意チップ)	多国で利用可能
PayPal Giving Fund	PayPal 統合、馴染み	0%	非営利資格必要
READYFOR、CAMPFIRE 等 (日本)	国内市場、日本円対応	5-20%	国内ドナー向け
Donorbox	非営利専門、 定期寄付可能	1.5%	プロのインターフェース
銀行振込直接	手数料なし、シンプル	0%	可視性低、 公開ページなし

寄付ページの要素

要素	内容
タイトル	「[都市] ロータリークラブ、[災害種別] 緊急対応」
説明	3~4文 何を、どこで、何人被災、クラブは何をしているか
金額目標	現実的な目標額（例 500,000円）
写真	2~3枚（現場、利用可能なら、なければロゴ + 地図）。 同意のない識別可能被災者は決して載せない
更新	活動中は2~3日ごとに更新を投稿

要素	内容
謝辞	ドナーリスト（匿名以外）と資金使途報告

募金周りのコミュニケーション

チャンネル	行動	タイミング
クラブ LINE（情報グループ）	会員にリンク共有	H+6
会員とクラブの友人へのメール	リンク付きのパーソナライズメッセージ	H+12
クラブ Facebook Instagram	リンクとビジュアル付き投稿	H+12
会員の個人ネットワーク	各会員が自分のネットワークで共有	H+24
地元メディア	募金に言及するプレスリリース	H+24-48
ロータリー地区	DG 経由で他クラブに伝達	H+24

遺贈および追悼寄付 - 10倍のレバー

会費、募金晩餐会、オンライン寄付は基金をゆっくり構築します。1件の遺贈または調整された一連の追悼寄付は、単一の行為で同じ基金を一桁拡大できます。このレバーが活用されない理由は法律的なものではありません。文化的なものです。役員会の誰も最初に切り出したくないからです。

切り出すことはできます。ソバーに、書面で、決して脆弱な会員への個人的要請としてではなく。

3つの運用メカニズム

- 遺贈条項：死後にクラブ緊急基金を支援したい会員は、遺言に特定の条項を含めることができます。条項はクラブの緊急基金（銀行詳細またはクラブの法人格と共に）を指定し、金額または分け前を明記します。これを検討する会員は、決してクラブとではなく、自身の公証人または相続専門弁護士と条項を検証すべきです。
- 花の代わりに追悼寄付：会員または親しい友人が亡くなったとき、家族は弔花の代わりにクラブの緊急基金へ追悼寄付を回すことを選択できます。これは弔報または葬儀プログラムで告知されます。クラブは清潔な寄付チャンネル（専用リンク、口座番号、該当する場合は税務領収書）と、家族が使用できる短い謝辞テンプレートを提供します。
- 追悼ドナー名簿：クラブの年次報告書またはウェブサイト の簡単なページが、家族の許可を得て、基金への寄付によって記憶が称えられる人々の名前を列挙します。この穏やかな公的認知は、将来の家族が同じ仕草を考えるよう促します。

注意事項

- ・ 脆弱な会員に直接働きかけない。 選択肢を可視化 (クラブの年次レター、ウェブサイト) し、 会員から来てもらう。
- ・ 遺贈条項自体には常に法律専門家を関与 させる : 文言、 証人、 管轄区域固有の要件 (遺留分、 適用税)。
- ・ 追悼資金を別の会計ラインに囲い込む。 これにより寄付の専用性が検証可能となり、 家族が資金使途を尋ねた際にクラブを保護します。 上記のガバナンスルールと整合します。
- ・ すべての遺贈・追悼寄付について書面謝 辞を提供。 家族は保管し、 多くの税務当局が要求します。

遺贈条項のモデルは管轄区域固有であり、 本ガイドの範囲外です。
関心のある会員の公証人または相続専門 弁護士に作成を依頼してください。
多くは認められた非営利目的のためプロ ボノで対応します。

法務・税務上の考慮

ルールは国により大きく異なります。 以下は一般的枠組みです。
あなたの管轄区域の固有事項については 地元の法務・税務アドバイザーにご相談
ください。

クラブの法的地位

質問	検討事項
クラブは寄付を受領できるか?	大半の国でロータリークラブ (任意団体、 NPO法人、 認定 NPO 等) は寄付受領可能。 しかし税制優遇の適格性は異なる。
寄付は税控除対象か?	日本 認定 NPO 法人なら寄附金控除対象。 任意団体は通常控除対象外。 クラブの状況を確認。
募集に許可が必要か?	日本 公的募金は条例による規制あり (都道府県・市町村)。
報告義務	会員への年次財務報告、 地位に応じた税申告、 公的募金時の当局への報告。

ロータリー財団経由のルーティング

寄付の税控除を最大化するため、 Disaster Response Fund
または特定プロジェクト指定でロータリー財団 (TRF) に寄付を回す選択肢があります。
利点 :

利点	詳細
税控除	TRF は多国で慈善組織として認定（日本では公益財団法人ロータリー米山記念奨学会経由などのスキーム要確認）
レバレッジ効果	DRF やグローバル補助金経由の寄付は財団に よりマッチ可能
信用	ロータリー財団ブランドが外部ドナーに 信頼を与える
トレーサビリティ	TRF 統合報告システム

欠点 : 支払い遅い（補助金申請プロセス）。 即時支出（H+0～H+72）には地元緊急基金が不可欠。

不正防止

措置	詳細
クラブ名義の専用銀行口座	個人口座は不可
二重署名必須	単独引出不可
すべての支出に領収書	5,000円でも例外なし
基金使途の公的報告	ドナーがアクセス可能
年次内部監査	運営に関与しない会員（またはボランティアの公認会計士）
役割分離	支出を承認する者と支払いを行う者は異なる

使用後の基金補充

派遣された緊急基金は補充されなければなりません。 活動後に基金が空なら、クラブは次の災害に脆弱です。 6か月後に到来する可能性も。

補充計画

段階	行動	期限
1	活動の財務総括 いくら使い、いくら残ったか	活動終了 + 2週間
2	補充すべき金額の計算	即時
3	役員会決定 補充方法	活動終了 + 1か月
4	実施 会費、募金イベント、予算配分	6～12か月
5	基金が目標水準に補充済	活動後12か月以内

ヒント : クラブが Disaster Response Grant や他の外部資金を受領し、それが基金から先払いした支出の一部を カバーした場合、その償還が自動的に基金の一部を補充し ます。これらの流れを明確に文書化してください。

緊急基金規約

ルールを1ページの文書に形式化し、クラブの役員会で決議：

モデル規約

緊急基金規約 - [都市] ロータリークラブ

第1条 目的：緊急基金はクラブの地域または奉仕対象地域社会に影響する自然または技術災害への対応活動の資金調達のために専用される。

第2条 目標金額：[金額] 円、役員会が年次見直し。

第3条 資金源：会員1人あたり年 [金額] 円の年次拠出 + 年間予算の [X%] の配分 + 任意寄付。

第4条 銀行口座：[銀行] の専用口座番号 [番号]、クラブの普通口座と分離。

第5条 支出承認：段階を参照 (< 75,000円：Coordinator + 会計 / 75,000~300,000円：+ 会長 / > 300,000円：役員会)。

第6条 二重署名：資金流出には承認された2名の書面検証が必要。会計、会長、Disaster Coordinator のいずれか2名。

第7条 トレーサビリティ：各支出は登録簿に保管される領収書で裏付け。24時間以内のデジタル写真撮影必須。

第8条 報告：四半期報告をクラブに。活動中は週次報告。活動終了時に完全報告。

第9条 補充：基金は派遣後12か月以内に目標水準まで補充されなければならない。

第10条 監査：基金運営に関与しない会員による年次監査。

採択日：__/__/__ 署名：会長 _____ 会計 _____

<! pagebreak >

チェックリスト - 緊急基金

- 目標金額を定義（クラブ規模とリスクレベルに基づく）
- クラブ名義の専用銀行口座開設
- 基金規約を作成、役員会で採択
- 資金源方法を決定（会費 + 配分 + イベント）
- 基金が目標額の少なくとも50%に到達
- 承認署名者を指定（最低3名）
- 支出登録簿準備済（デジタル + 紙）
- オンライン寄付ページ事前設定・テスト済
- 寄付ページのクレデンシャルを2名の管理者と保管

- 税務上の地位を確認（寄付控除性、報告義務）
- 四半期基金報告をクラブに提示
- 年次監査の予定

クラブの緊急基金は戦争資金ではありません。運用ツールです。
命を救うため辛抱強く待つ資金です。その存在はクラブの姿勢を変えます。
資源を探して災害に反応するのではなく、資源を展開して反応します。
差は得られる時間で測られます。家族が水とシェルターなしの時、1時間が大切です。

第 III
自分たちの手段で行動する

第 12
最初の数時間の5ステップ

あなたはリーダーです。 職業的危機、 医療緊急事態、
 プレッシャー下のプロジェクトを扱って きました。
 しかし自然災害は通常の危機ではありません。 最初の数時間がすべてを決めます :
 対応の有効性、 最も脆弱な人々の生存、 そして率直に言えば、
 今後数か月のクラブの信用です。

本章は現場でテスト済みの5ステップのシーケンスを与えます。
 備え計画がまだ引き出しにあっても実行 可能です。 5ステップ。 順序通り。
 一つも飛ばしてはいけません。

概要 - 5ステップ

#	ステップ	目的	時間枠
1	個人の安全	生き残る。他の誰かを助ける前に会員と家族を確保する。	H+0~H+2
2	通信	call-down list を発動、全会員の所在を確認、 地区への最初のメッセージを送信。	H+2~H+4
3	迅速評価	2~4名のチームを派遣し、8つの鍵となる質問に答える。	H+4
4	地区に警報	DG、DR0、DRFC に構造化された SITREP を送信しロータリーネットワークを起動。	H+4
5	動員	クラブの緊急計画を発動、チームを編成、最初の行動を開始。	H+4~H+12

H+12 までに、 全会員の所在を確認し、 地区に定量化された評価を提供し、
 チームを編成し、 最初の支出を引き起こしています。
 第13~17章が72時間以降を引き継ぎます。 まずシーケンス全体を読み、
 それから状況に合うステップに戻ってください。

<! pagebreak >

ステップ1 - 個人の安全 (絶対的優先)

誰かを助ける前に、生き残ること。

これは利己主義ではなく算術です : 負傷または不明のリーダーは何も調整し ません。
 他者の負担になります。失われたロータリアン1人が対応能力を下げます。

即時行動

1. 身体的に自分を確保。 不安定な構造物、 地面に垂れた電線、
 洪水のリスクのある区域から離れる。 車内なら、 水没した道路を決して渡らない。
 30 cm の水で SUV は流されます。
2. 家族を確保。 配偶者、 子ども、 高齢の両親が安全であることを確認。
 自分の家族計画を発動。 家族が安全でなければ、
 何かを指揮する精神的余裕はありません。

3. 直接環境を評価。 周りを見回す。 見えるものを記録 : 倒壊した構造物、 火災、 目に見える負傷者、 ガス臭、 水音。 これらの最初の観察があなたの最初の報告となります。
4. 急がない。 瓦礫に駆けつきたい反射は人間的です。 それは潜在的に致命的でもあります。 地震の余震、 二次崩壊、 ガス漏れは、 評価せずに行動する者を殺します。 状況が落ち着くのを待つ、 5分でも。

酸素マスクのルール

飛行機と同じ : 他者を助ける前に自分のマスクを着ける。
あなたはこの指示を知っています。 文字通り適用してください。

状況	正しい行動	頻繁な誤り
進行中の地震	頑丈なテーブルの下に身を隠し、 揺れが終わるのを待つ	揺れている間に外に走り出る
洪水の水位上昇	即座に高所に移動	物的財産を救おうとする
台風 サイクロン	嵐が完全に通過するまでシェルターにと どまる (台風の目を含む)	台風の目の静けさの間に外に出る
土砂災害	流れに垂直に移動	流れの軸に沿って逃げようとする
構造物火災	退避し緊急サービスに電話	大火を単独で消そうとする

重要点 : 携帯電話があなたの最も貴重なツールです。 充電を保ってください。
携帯充電器があれば、 リスクシーズンは常に持ち歩いてください。

<! pagebreak >

ステップ2 - 通信 (可能な限り早く)

ロータリアン・リーダーの最初の任務は、 自身の安全の後 : 連絡を確立すること。

ネットワークは飽和します。 通話は通りません。
アンテナは破壊されているかもしれません。 これを予期し、
代替手段を知る必要があります。

call-down list を発動

call-down list は最も単純かつ信頼できる通信ツールです。 原則 :

```

クラブ会長
|
+-+ 副会長 → 5名の会員 (番号1~5) に電話
|           各員が状態を確認
|
+-+ 幹事 → 5名の会員 (番号6~10) に電話
|           各員が状態を確認

```

```

|
|-- 会計 → 5名の会員（番号11～15）に電話
|           各員が状態を確認
|
|-- Disaster Coordinator → 5名の会員（16～20）に電話
|           各員が状態を確認
|
|-- 直前会長 → 残りの会員に電話
|           各員が状態を確認
    
```

各電話者は3つの質問をする：

1. あなたとご家族は安全ですか？
2. 自宅または職場に被害がありますか？
3. 対応への参加が可能ですか？

各電話者が回答をまとめ、最長60分以内に会長に情報を報告。

通信手段の階層

ある回線が機能しないとき、次に移ります。順序：

優先度	回線	理由
1	SMS テキストメッセージ	音声網が飽和しても通る
2	LINE WhatsApp（テキスト）	低帯域で機能、メッセージはキューイング
3	電話通話	最初の数時間しばしば飽和
4	アマチュア無線（VHF/UHF）	携帯網から独立
5	衛星インターネット（Starlink）	電源があればフルインターネットを回復
6	衛星電話	全くカバレッジのない地域に音声とSMS
7	物理メッセンジャー	最終手段、誰かを派遣

標準的な初期警報メッセージ

会員への最初のメッセージは短く、事実に基づき、明確な指示を与える必要があります。感情の余地はありません。

テンプレート（SMS / LINE）：

```

[ロータリー警報 - クラブ名]
[事象種別] @ [場所]
日時：[日付と時刻]
初期状態：[推定深刻度]
行動：call-down list で状態を確認
出勤可能なら [氏名 + 番号] に確認
集合場所：[場所] @ [時刻]
次のメッセージは2時間後
    
```

実務的助言：空欄を含むテンプレートで事前に準備。携帯のメモに保管。災害発生時、

空欄を埋めて送信するだけです。

<! pagebreak >

ステップ3 - 迅速評価（2～4名のチームを派遣）

評価なしの行動は無駄と重複を生みます。 4時間の評価が数週間の見当違いの努力を救います。

ビジネスでのルールはご存知でしょう : 診断なしにプロジェクトを開始しません。災害でも同じです。ただし診断は4週間ではなく4時間で行わなければなりません。

評価チームを構成

役割	理想的なプロフィール	任務
評価リーダー	経験豊富な会員、統合的思考	調整、メモ取り、報告書作成
記録担当	良いスマートフォンまたはカメラを持つ会員	GPS 位置情報付き写真、短い動画、タイムスタンプ
現場ロジ	必要なら4WD車両を持つ会員	運転、道路アクセス評価
専門家 (任意)	土木技師、医師、 関連プロフェッショナル	構造物または健康ニーズの技術的評価

チーム装備：

- ・ 100% 充電した携帯電話 + 携帯充電器
- ・ 地域の紙地図（GPS は機能しないかもしれない）
- ・ ノートとペン（電子機器だけに頼らない）
- ・ 高視認性ベスト（識別と安全）
- ・ 8時間分の水と食料
- ・ 救急セット
- ・ ヘッドランプ（夜間評価）
- ・ 迅速評価書式のコピー（下記参照）

評価の行程

チームはランダムに出発してはなりません。以下をカバーする行程を定義：

1. あなたの地区の最も人口密度の高い区域
2. 脆弱と知られる区域（非正規居住地、浸水区域、古い建物）
3. 重要インフラ：病院、保健センター、学校、市場、給水ポンプ場
4. 主要道路回廊：通行可能か？橋は切断されていないか？

4時間で答える8つの質問

評価チームは事実的な答え（部分的でも）を持って戻らなければなりません。意見なし、推測なし。事実。

#	領域	鍵となる質問	探すもの
1	人口	何人が被災？避難？負傷？行方不明？	推定数値、おおざっぱでも。 倒壊家屋数 × 平均世帯人数
2	シェルター	何戸の家屋が破壊または居住不能？ 仮設シェルターが必要？	目視カウント。破壊（回復不能） と損傷（修繕可能）を区別。
3	水	給水が切断または汚染されているか？	蛇口を確認、住民にインタビュー、 配管を観察
4	食料	食料にアクセス可能？何日分？	商店は開いている？家庭の備蓄は無事？
5	保健	病院と保健センターは運営中？	可能なら現地へ。残存能力？ 補強の必要？
6	インフラ	道路通行可能？電気？通信？	切断された道路、停電区域、 ネットワーク不通区域を記録
7	安全	二次リスクはあるか？	予想される余震、水位上昇、 土砂災害、ガス漏れ、 不安定な構造物
8	脆弱者	孤立高齢者？保護者なし子ども？障害者？	隣人にインタビュー。 脆弱者はしばしば見えない。

現場収集の方法

迅速被害カウント（トランセクト法）：

地域を並行線で歩く。各通りまたは地区について：

- ・ 無傷 / 損傷 / 破壊された建物数
- ・ 目に見えるホームレスの数
- ・ 流水と電気の有無
- ・ 道路状態（通行可能 / 困難 / 切断）

住民へのインタビュー（グループあたり5分）：

開かれた質問は避ける。閉じた質問を：

- ・ 「いつから水がありませんか？」
- ・ 「ここに何世帯が集まっていますか？」
- ・ 「病院に行けなかった負傷者はいますか？」
- ・ 「この地区で孤立した高齢者を知っていますか？」

<! pagebreak >

迅速評価報告書 - 記入書式

この書式があなたの主な成果物です。 クラブ会長、 次いで地区に転送されます。
現場で手書きし、その後デジタル化して送信します。

迅速評価報告書 - ロータリークラブ	
クラブ :	_____
地区 :	_____
日付 : ____/____/____	開始時刻 : ____ 終了時刻 : ____
事象種別 :	_____
評価対象区域 :	_____
評価チーム :	
リーダー :	_____ 電話 : _____
メンバー-2 :	_____ 電話 : _____
メンバー-3 :	_____ 電話 : _____
メンバー-4 :	_____ 電話 : _____
1. 被災人口	
推定被災者数 :	_____
推定避難者数 :	_____
既知の負傷者数 :	_____
確認死者数 :	_____
行方不明 / 連絡不能者数 :	_____
2. 住居	
全壊 (回復不能) :	_____
半壊 (修繕可能) :	_____
無傷 :	_____
仮設シェルター必要 :	はい / いいえ
はいなら何名分 :	_____
3. 飲料水	
給水網機能中 :	はい / いいえ / 部分的
汚染リスク :	はい / いいえ / 不明
利用可能な代替水源 :	_____
推定水需要 (L/日) :	_____
4. 食料	
食料アクセス :	正常 / 限定 / 切断
商店開店 :	はい / 一部 / なし

推定備蓄（日数）： _____

5. 保健

最寄り病院運営中： はい / いいえ / 飽和

保健センター運営中： はい / いいえ / 飽和

未充足医療ニーズ： _____

6. インフラ

電気： はい / いいえ / 部分的

通信： はい / いいえ / 部分的

主要道路： 通行可能 / 部分的 / 切断

切断道路（リスト）： _____

7. 二次リスク

予想される地震余震

水位上昇 / 新たな氾濫

土砂災害

倒壊しそうな不安定な構造物

ガス漏れまたは危険物

地面に垂れた電線

その他： _____

8. 特定された脆弱者

孤立高齢者： _____

保護者なし子ども： _____

障害者： _____

妊娠 / 授乳婦： _____

医薬品なしの慢性疾患患者： _____

即時ニーズ（優先順位順）

1. _____

2. _____

3. _____

4. _____

5. _____

72時間ニーズ

1. _____

2. _____

3. _____

利用可能な地元資源

推奨配給拠点

拠点1 : _____ 能力 : _____ 人/日

拠点2 : _____ 能力 : _____ 人/日

推奨 : 提案する活動レベル

 DCA-3 (制御可能な状況、クラブ + 委員会待機、外部支援不要) DCA-2 (地区支援必要、委員会活動開始) DCA-1 (大災害、フル活動、国内/国際支援)

作成者 : _____ 署名 : _____

送信先 : _____ 時刻 : _____

<! pagebreak >

ステップ4 - 地区に警報

会員は確保した。現場評価がある。情報をエスカレートする時です。

ロータリーは層構造で動きます。あなたのクラブは最初のリンク。地区は第2リンク。この情報エスカレーションなしには、外部資源は一切動員できません。Disaster Response Grant も、ShelterBox も、地区間支援も。

誰に、どの順序で連絡するか

優先度	連絡先	理由	期限
1	地区ガバナー (DG)	意思決定権限。DRG を発動可能。	4時間以内
2	地区災害救援担当者 (DRO)	地区運用調整者。主要連絡先。	4時間以内
3	近隣クラブ	相互情報、補強の可能性	6時間以内
4	あなたの地域の Assistant Governor (AG)	中継と支援	6時間以内

地区への警報内容

DG と DRO へのメッセージは正確に以下の要素を含む :

1. 事象の性質 (地震、洪水、台風等)
2. 被災区域 (都市、地区、おおよその半径)
3. 推定規模 (被災者数、破壊家屋数)
4. クラブの状態 (会員は無事か? 会員は被災か?)

5. すでに着手した行動（評価進行中、配給開始等）
6. 特定されたニーズ（クラブ単独でカバーできないもの）
7. 推奨される活動レベル（DCA-1、DCA-2、またはDCA-3）

推奨形式 - SITREP (Situation Report) :

SITREP No.1 - [名称] ロータリークラブ
 日時 : [日付] [時刻]
 事象 : [種別] - [場所]

1. 状況
[事実的記述、3~5行]
2. 推定影響
被災人口 : [数]
破壊/損傷家屋 : [数]
インフラ : [要約状態]
3. クラブ状態
無事の会員 : [数] / [総数]
被災会員 : [数]
対応に出動可能な会員 : [数]
4. 進行中の行動
[着手した行動のリスト]
5. 未充足ニーズ
[クラブの能力を超えるニーズのリスト]
6. 推奨
活動レベル : DCA-[1/2/3]
DRG 必要 : はい / いいえ / 要検討
ShelterBox 必要 : はい / いいえ / 要検討

次の SITREP 予定 : [日時]
 連絡先 : [氏名] [電話] [メール]

地区活動レベル (DCA)

レベル	状況	決定者	動員資源
DCA-3	通常活動、 クラブ単独で対応可能な局所事象、 委員会待機	クラブ会長	クラブ資金、地元ボランティア
DCA-2	重大事象、クラブが圧倒、委員会活動開始	DG + DR0	DRG、近隣クラブ、地区資源
DCA-1	フルスケール救援活動、 地区を超える大災害	DG + RI	DRG、グローバル補助金、 ShelterBox、DNA-RAG、国際支援

過小評価しないでください。DCA-2 を発動した後で下げる方が、実際の危機に直面しながら

DCA-3 にとどまり48の重要な時間を失うより良いです。 災害管理にエゴの居場所はありません。

<! pagebreak >

ステップ5 - 動員（クラブ緊急計画の発動）

評価完了。 地区に警報済。 運用行動に移る時です。

クラブの緊急計画を発動

クラブに備え計画（本書第II部）があれば、今こそそれが役立ちます。なければ、最低限の行動：

即時動員行動：

行動	責任者	期限
出勤可能会員を集合場所に召集	会長	H+4
クラブ施設を開設または仮設本部を特定	副会長	H+4
事前配置の緊急キットを取り出す（存在すれば）	Disaster Coordinator	H+4
最初の対応チームを編成	Disaster Coordinator	H+6
最初の緊急購入（水、食料）を開始	会計	H+6
必要なら寄付チャネルを開設	会計 + 幹事	H+8
最初の公式声明を送信	スポークスパーソン	H+6
最初の時間から全行動を文書化	幹事	H+0

最初のチーム編成

全員にすべてを動員しないでください。 初日から、チームに構造化：

チーム	任務	最低人数
評価と情報	データ収集継続、地区との連絡維持	2~3名
即時援助	水と食料配給、シェルター支援	6~10名
ロジスティクス	購入、輸送、保管	3~4名
コミュニケーション	スポークスパーソン、ソーシャルメディア、写真記録	2名
管理	財務、記録、調整	2~3名

寄付チャネルの開設

規模が正当化すれば、即座に寄付チャネルを開設：

1. 専用銀行口座。クラブ通常財務と分離。引出には2署名必要。
2. オンライン寄付ページ。認知されたプラットフォーム（READYFOR、CAMPFIRE、PayPal Giving Fund、GoFundMe）を使用。

3. 明確なコミュニケーション。 寄付が何に使われるかを正確に指定。 「[事象]被災者支援、水、食料、緊急シェルター」。
4. 税控除領収書。 クラブが税控除領収書を発行可能なら言及。寄付を大幅に増やします。

最初の時間からの文書化

これがすべてのクラブが軽視し、すべてのクラブが後悔する点です。文書化はミッション終了時の行政タスクではありません。H+0 から始まります。

何を文書化しなければならないか：

何を	どう	なぜ
各購入	領収書 + 写真	DRG 償還、トレーサビリティ
各配給	署名された受益者リスト	TRF への証拠
各会議	日付、時刻、参加者、決定を含むメモ	運用履歴
現場状況	GPS 位置情報・タイムスタンプ付き写真	被害評価、報告書
ボランティア時間	出席登録簿	現物価値評価（グローバル補助金）
事故	公式事故報告書	保険、法的責任

現場の助言：最初の時間から「記録担当」を指名。この人物は他のことをしません、写真、メモ取り、領収書収集だけ。誰もいなければ、専用の「ドキュメンテーション」LINEグループを使用、各会員がリアルタイムで写真とメモを送る。

参照タイムライン - 最初の12時間

時刻	行動	責任者
H+0	個人と家族の安全	各会員
H+0~H+1	call-down list 発動、会員状態確認	会長 + 中継者
H+1	状態統合、出勤可能会員の特定	幹事
H+1~H+4	迅速評価チームの派遣	Disaster Coordinator
H+2	会員への最初の警報メッセージ (SMS/LINE)	会長
H+4	迅速評価報告書完成	評価チーム
H+4	地区 (DG + DRO) に警報、SITREP No. 1 と共に	会長
H+4~H+6	会員を集合場所に召集	会長
H+6	チーム編成、任務割当	Disaster Coordinator
H+6	最初の緊急購入 (水、食料)	会計
H+6	最初の公式声明	スポークスパーソン
H+8	必要なら寄付チャネルを開設	会計
H+8	第2 SITREP を地区へ	会長
H+12	最初の完全な運用ブリーフィング	Disaster Coordinator

本章がカバーしないこと

5ステップは H+12 まで導きます。組織化され、情報を持ち、地区と連絡し、最初の行動が進行中です。続く章は：

- ・ 第13章：即時対応（0～72時間） - 生存優先事項
- ・ 第14章：安定化（72時間～2週間） - 継続活動
- ・ 第15章：現場でのボランティア管理
- ・ 第16章：危機時のコミュニケーション
- ・ 第17章：心理的支援

5ステップを手にしました。
緊急キットに入れてください。
何をすべきか正確に分かります。

参照タイムラインを印刷してください。
午前3時に携帯電話が鳴る日、

第 III
自分たちの手段で行動する

第 13
即時対応 – 最初の72時間

災害後の最初の72時間は、すべての行動が倍の価値を持つ時間枠です。同時に、すべての誤りが高くつく時間枠でもあります。前章の5ステップを実行しました。クラブは動員され、地区に警報され、現場評価があります。今、結果を出さなければなりません。

本章は最初の72時間を3つの優先事項に構造化し、単独で行えることと外部支援を要することを判断するツールを与え、対応するクラブとそれを証明できるクラブの違いを生む文書化規律を確立します。

概要 - 3つの優先事項

#	優先事項	目的	時間枠
1	即時の生存	水、食料、シェルター、応急医療。 避けられる死を防ぐもの。	H+0~H+24
2	脆弱者の保護	孤立高齢者、保護者なし子ども、負傷者、慢性病者を特定・確保。	H+12~H+48
3	コミュニケーション	地区への報告、会員・ドナーとのコミュニケーション、メディアと噂の管理。	継続、 H+0~H+72

これら3優先事項は並行して進行しますが、規律ある資源配分で：優先事項1がカバーされない限り、優先事項3に投資しません。72時間ルール（本章末）が安定化モードへの切替判断ツリーを提供します。

<! pagebreak >

優先事項1 - 即時の生存

即時の生存は交渉不可能です。あなたが現場にいる理由です。4領域、この順序で。

飲料水

人間は水なしで72時間以上生存できません。これがあなたの最初の成果物です。

最低基準（Sphere / WHO）：すべての用途を合わせて 1人1日 15 リットル、飲用（2.5~3 L）、調理、基本衛生。緊急フェーズでは、最初の48時間は1人1日 7.5 リットルの生存下限が適用され、対応が安定化次第 15 L に引き上げなければなりません。

解決策	能力	推定費用	派遣時間
ペットボトル水（地元購入）	即時	100~250円 1.5 L	商店アクセス可能なら即時
給水車（1,000~5,000 L）	70~350人/日	3~7万円 配送	4~12時間
携帯浄水フィルター （LifeStraw、Sawyer型）	LifeStraw 個人フィルター 最大 4,000 リットル	3,000~6,000円 フィルター	在庫あれば即時
浄水タブレット	1錠 = 1リットル	1錠数円	在庫あれば即時
移動浄水ステーション	500~5,000 L/時	30~150万円	24~72時間（NGO 経由）

クラブの行動：

1. 地元で利用可能なすべてのペットボトル 水在庫を即座に買い取る。
棚を空にすることをためらわないでください、緊急事態です。
2. 汚染されていない水源を特定（高所の井戸、保護された自然湧水、無傷の貯水槽）。
3. 明確な指示と共に浄水タブレットを配布（1リットルにつき1錠、飲む前に30分待つ）。
4. クラブが事前配置フィルターを持つなら、集合地点に即時派遣。
5. 地元の水販売業者に連絡し給水車配送を組織。

警告： 飲用可能性を確信できない水を決して配給しないでください。
汚染水の配給は不足そのものより多くの犠牲者を生みます。

緊急食料

食料は第2の優先事項です。最初の72時間は、バランスの取れた栄養ではなく、人々を立て続けるための十分なカロリーが問題です。

最低基準：1人1日 2,100 kcal (Sphere Standards)。

食料種別	Kcal/食分	保存期間	費用
米（乾燥、400g炊飯後）	約 520 kcal	長	40円
豆 レンズ豆（200g 調理後）	約 230 kcal	長	30円
エネルギービスケット （BP-5型）	270 kcal パー、約 2,385 kcal 9パック箱	5年	300～500円 パック
缶詰（ツナ、サバ、野菜）	200～400 kcal	2～5年	150～500円
粉ミルク	100gで 500 kcal	12～24か月	800～1,500円/kg
植物油	100mlで 900 kcal	12か月	300～600円/L
砂糖	100gで 400 kcal	無期限	200～400円/kg

5人家族 / 3日分の緊急食料バスケット：

物品	量	推定費用
米	5 kg	500～800円
豆 レンズ豆	2 kg	400～600円
植物油	1 L	300～600円
缶詰（魚または肉）	6缶	1,000～2,000円
砂糖	1 kg	200～400円
塩	250 g	100円
粉ミルク	500 g	500～800円
水（利用不可なら）	20 L	800～1,500円
家族 3日分合計		3,800～6,800円

日本固有の追加品：インスタント味噌汁、おかゆ缶、アルファ米、レトルトカレー、乾麺、梅干し。

購入ロジスティクス：

- ・ H+6 から2～3名の会員を卸売業者・卸売市場に派遣。
- ・ 大量購入。卸価格を交渉、状況を説明。
- ・ すべての領収書を保管。すべての請求書を撮影。
- ・ 地元商店が閉鎖または破壊なら、地区に連絡し外部調達。

緊急シェルター

住居が破壊または居住不能となった人々は宿泊させなければなりません。
家を建てているのではなく、今後数日間命を保護しているのです。

解決策	能力	費用	時間枠
公共建物（学校、体育館、公民館）	50～500人	無料 (市役所と調整)	即時
家族用テント（UNHCR型、16 m ² ）	5～7人	5～8万円	24～72時間（NGO 在庫）
補強ブルーシート（4 × 6 m）	1家族 (即席シェルター)	1,500～4,000円	在庫あれば即時
ShelterBox（テント + 完備機材）	1家族（10人）	約15万円	48～96時間 (地区経由発注)
受入家庭での宿泊	1家族	変動	即時

集合避難所の設置 - 最低チェックリスト：

- 建物使用について所有者または市役所の 同意
- 建物の構造点検（主要な亀裂なし、屋根無傷）
- 水へのアクセス（配送によるものでも）
- トイレへのアクセス（最低20人につき1基）
- 最低限の照明（ランタン、ソーラーランプ）
- 家族別の空間分離（ブルーシートでも最低限のプライバシー）
- 女性と子どもの安全空間
- 氏名、家族人数、特殊ニーズを含む入所登録簿
- 現場管理者の特定（ロータリアンまたは信頼できる住民）
- 掲示された生活ルール（時間帯、衛生、安全、飲酒禁止）

応急処置

クラブは医療サービスではありません。
スを待つ間に命を救うことができます。

しかし基本的応急処置は専門緊急サービス

クラブが できる こと：

- ・ 訓練を受けた会員（普通救命講習または同等）による基本応急処置

- ・ 利用可能な機材で応急救護所を設置
- ・ トリアージ：重傷者を機能する病院に振り分け
- ・ 基本医薬品（パラセタモール、消毒剤、包帯）の配布、クラブ医師が監督すれば

クラブがしないこと：

- ・ 医師なしの処方薬投与
- ・ 高度医療処置（縫合、骨折整復）
- ・ 適切な訓練と機材なしの重傷者搬送
- ・ 救急サービスが機能しているとき、その代替

<! pagebreak >

優先事項2 - 脆弱者の保護

脆弱者を特定する

最も脆弱な人々はしばしば最も目立たない人々です。配給拠点に移動しません。助けを求めて叫びません。あなたが探しに行かなければなりません。

グループ	固有のリスク	必要な行動
一人暮らし高齢者	孤立、移動不能、必須薬	戸別訪問、必要なら避難
親と離れた子ども	搾取、トラウマ、急速な脱水	即時保護、当局への通報
障害者	単独避難不能、機材喪失	避難援助、機材交換
妊婦	早産リスク、医療フォローアップの必要	医療施設への振り分け
慢性病患者	治療中断（糖尿病、透析、HIV）	緊急特定、薬局/病院との連絡
ホームレス	退避シェルターなし、社会ネットワークなし	集合避難所への統合

日本固有のリソース：民生委員、地域包括支援センター、社会福祉協議会、自主防災組織は、平時から脆弱者リストを保有しており、災害時に決定的な情報源となります。

体系的な戸別訪問を組織する

担当区域の通りを歩く2名1組の会員のペアを組織：

1. すべての扉をノック。残っている人々を特定。
2. 住居の状態（居住可能か否か）を確認。
3. 避難の援助が必要か尋ねる。
4. 水、食料、薬へのアクセスを確認。
5. 特定された脆弱者の住所を記録。
6. 重大な状況は即座にコーディネーターに報告。

集合避難所の安全確保

管理の悪い集合避難所は緊張、盗難、暴力の場となります。安全は贅沢ではなく、初夜からの要件です。

措置	詳細	責任者
夜間照明	共用・衛生区域にソーラーまたは電池ランプ	ロジスティクス
常駐者	夜間に少なくとも2名の信頼ロータリアンまたはボランティアが現場	チームリーダー
空間分離	家族をまとめる、単身女性 子ども専用空間	現場管理者
入退場登録簿	誰が現場に、誰が入り、誰が出るか	受付
掲示された緊急番号	現場管理者および緊急サービス連絡先	コミュニケーション
明確な禁止事項	飲酒、武器、暴力、ゼロ容忍、掲示	現場管理者

<! pagebreak >

優先事項3 - コミュニケーション

コミュニケーションは重要性が低いから 最後にあるものではありません。それについて伝える前に、最初の2つが起動されていなければならないから3番目なのです。これからすることについて伝えるのではありません。していることについて伝えるのです。

内部コミュニケーション（クラブ会員）

頻度：最初の72時間は4～6時間ごと。

標準的内容（LINE / SMS）：

[更新 - ロータリー [クラブ名]]
[日付] [時刻]

状況：[2～3行要約]
進行中の行動：[短いリスト]
ニーズ：[不足しているもの]
次の会合：[場所、時刻]
次のメッセージ：[時刻]

地区へのコミュニケーション

形式 - SITREP（第12章のテンプレート参照）。最初の72時間 6時間ごと に1 SITREP (ch00 と整合)、その後は日次。

SITREP は印象ではなく数値を含む必要があります：

- ・ 支援した受益者の正確な数

- ・ 配給量（水のリットル、食事数、キット数）
- ・ 派遣ボランティア数
- ・ 支出額
- ・ 未充足ニーズ

公的コミュニケーション

最初の24時間に単一の声明。 事実的。 冷静。 脚色なし。

最初の声明テンプレート：

[名称] ロータリークラブは、[日付] に [地域] を襲った [事象] を受けて動員しています。

私たちのチームは [時間] 時間現場で活動しています。本日時点で：

- ___ 世帯が緊急の水と食料を受領
- ___ 名が ___ か所の仮設シェルターに収容
- ___ 名のロータリアン・ボランティアが動員

私たちは [地方当局 / ロータリー地区 / その他の組織] と連携して活動しています。

支援するには：[寄付リンクまたは情報]
詳細情報：[スポークスパーソン連絡先]

クラブが単独でできること vs 外部支援を要すること

これが最初の72時間の戦略的問いです。 答えは事象の規模とクラブの能力に依存 します。 判断ガイドを以下に示します。

クラブが単独で対応可能 (DCA-3)

領域	クラブ単独閾値
被災人口	< 500名
避難家族	< 50世帯
給水	< 200人/日
食料配給	< 100世帯
シェルター	< 3か所の小規模集合拠点
必要予算	< 75万円
予想期間	< 1週間
必要ボランティア	< 30名

クラブが地区を必要 (DCA-2)

領域	地区を要する閾値
被災人口	500~5,000名
避難家族	50~500世帯
必要予算	75~375万円
予想期間	1~4週間
ボランティア補強の必要	> 30名
専門機材の必要	ShelterBox、浄水ステーション
TRF 資金の必要	Disaster Response Grant

大災害、国内/国際支援 (DCA-1)

領域	国際支援を要する閾値
被災人口	> 5,000名
被災区域	複数自治体または地区
インフラ	病院破壊、道路切断
必要予算	> 375万円
予想期間	> 1か月
調整の必要	多省庁、政府、NGO

判断ツリー - いつエスカレートするか

状況はクラブの能力を超えるか?

|

+-- いいえ → DCA-3 : クラブ単独で対応、委員会待機
地区に通報 (SITREP)、しかし支援要請なし

|

+-- はい → クラブは 75万円 (5,000 USD) を超える資金が必要か?

|

+-- いいえ → 追加ボランティアまたは
専門機材が必要か?

|

+-- いいえ → 強化された DCA-3 : 地区に
ad hoc 支援を要請

|

+-- はい → DCA-2 : 地区発動、委員会活動
→ クラブ間調整のため DRO に連絡
→ 予算 > 150万円 なら DRG 要請

|

+-- はい → 被災区域が単一地区を超えるか?

|

```

+-+ いいえ → DCA-2 : 地区発動、委員会活動
|           → DRG + グローバル補助金の可能性
|           → シェルターニーズあれば ShelterBox
|
+-+ はい → DCA-1 : 大災害、フル活動
        → 複数地区発動
        → グローバル補助金 + ShelterBox + DNA-RAG
        → RI との調整

```

基本ルール : 早めにエスカレートしてください。 圧倒されるまで援助要請を待たないでください。 DRG は通常2~4週間で承認、 指定された熱帯低気圧の事前申請の場合のみ24~48時間。 ShelterBox は到着まで48~96時間かかります。 限界に達するまで尋ねるのを待つと、 重要な日数を失います。

最初の時間からの文書化

繰り返しますが、 これは重要です : 文書化は活動終了時ではなく H+0 から始まります。

文書化がなぜ生命線か

1. DRG 償還 : ロータリー財団はすべての支出について 裏付け書類を要求します。 領収書1枚の欠如が申請を無効にします。
2. 信用 : ドナーは証拠を求めます。 メディアは写真を求めます。 当局は数値を求めます。
3. 学んだ教訓 : 文書化なしには振り返りなし。 そして同じ誤りが繰り返されます。
4. 法的保護 : 苦情、 事故、 紛争の場合、 文書化があなたの防御です。

最低限の文書化システム

初日からこれら5つの登録簿を設置 :

登録簿	内容	媒体	責任者
財務登録簿	すべての支出、 すべての領収書、 すべての受領寄付	会計ノート + 領収書の写真	会計
受益者登録簿	氏名、 住所、 人数、 受領援助、 日付、 署名	事前印刷された紙の書式	配給責任者
ボランティア登録簿	氏名、 作業時間、 行ったタスク	日次出席シート	ボランティアコーディネーター
運用ログブック	すべての決定、 すべての事象、 すべての事故	コーディネーターが保管する単一ノート	Disaster Coordinator
写真ファイル	各行動の日付・位置情報付き写真	専用携帯または共有クラウドフォルダ	記録担当

写真の標準

写真は以下のルールに従う場合にのみ文書化価値を持ちます：

ルール	詳細
タイムスタンプ	カメラ設定で日時を有効化
位置情報	写真の GPS を有効化
文脈	広角（全体像）その後 接写（詳細）で撮影
同意	同意なしに被災者の顔を撮影しない
尊厳	遺体、重傷、苦悩する人々を決して撮影しない
整理	1日1フォルダ、日付で命名（例 2026-03-10）
バックアップ	可能な限り早くクラウドコピー（Google Drive、OneDrive）

日報テンプレート（0～72h）

この報告書は毎晩、地区 DRO に20時前に送信します。

日報 - [名称] ロータリークラブ
日付：[日付] 日：D+[番号]

1. 本日の要約（3～5行）

2. 本日支援した受益者

配給水： _____ リットル
配給食事： _____ 食
衛生キット： _____ 個
収容家族： _____ 世帯
応急処置： _____ 人

3. ボランティア

現役ロータリアン： _____
現役非ロータリアン： _____
累積時間： _____ 時間

4. 財務

日次支出： _____ 円
累積支出： _____ 円
利用可能資金： _____ 円

5. 事故

事故なし
 報告された事故： _____

6. 未充足の緊急ニーズ

7. 明日の見込み

作成者： _____

承認者： _____

送信先： 地区 DR0 [番号] - 時刻： _____

<! pagebreak >

72時間ルール

72時間後、 これら7つの質問に答えられる必要があります。 答えられないなら、対応に何かが欠けています。

#	質問	期待される回答
1	何人を支援したか?	登録簿から得た正確な数値
2	何名のボランティアが動員されたか?	累積時間と共に正確な数値
3	いくら使ったか?	すべての支出に領収書付きの正確な額
4	未充足ニーズは何か?	優先順位付け定量化されたリスト
5	活動レベルは何か?	地区で確認された DCA-3、 2、 1
6	DRG を要請したか?	はい（進行中 承認済）またはいいえ（不要）
7	今後7日間の能力は?	維持できることの誠実な評価

H+72 での安定化への必須移行

H+72 に、 安定化フェーズ （第14章） に移行します。ボランティアが緊急モードを続けたくても。これは交渉不可能です。3つの理由：

1. 緊急ペースは持続不可能 72h を超えると、誤り、事故、疲弊。
2. ニーズの性質が変わる：救助から持続へ（日次食事、住居、衛生）。
3. 外部調整がこの信号を待っている：赤十字、市役所、DR0 はフェーズで動きます。

移行は減速を意味しません。リズムを変える ことを意味します： 1日最大8時間、厳格なローテーション、形式化された登録簿、管理された予算。

これら7つの質問に正確な数値で答えられれば、 対応は構造化されています。安定化フェーズの準備ができています。

第 III
自分たちの手段で行動する

第 14
安定化 - 72時間から2週間まで

最初の72時間のアドレナリンが引きます。 専門救助者が現場に来ているか、 いないか。メディアは目を背け始めます。 そしてここから本当の仕事が始まります。

安定化フェーズは最も長く、 最も費用がかかり、 最も要求の高いフェーズです。準備不足のクラブが崩壊するフェーズです : ボランティアの疲弊、 財務上の逸脱、運用統制の喪失。 組織化されたクラブが持続的な違いを生むフェーズでもあります。

本章は継続活動の4領域をカバーします : 炊き出し、 配給拠点、 日次調整、 財務管理。各セクションは直接運用可能に設計されており、 これらのページをコピーしてチームリーダーに渡せます。

炊き出し (Community Kitchens)

被災者がもはや調理設備を持たないとき、 商店が閉鎖されているとき、家庭の食料備蓄が尽きたとき、 炊き出しが活動のロジスティクスの心臓 となります。同時に最も複雑でリスクの高いポストの 一つです。災害の最中の集団食中毒は災害の中の災 害となります。

規模設定

キッチンを設置する前に、 目標能力を決定。 この表は能力と必要な設備を結びつけます。

目標能力	調理担当	助手	ロジ	チームリーダー	総人員	最低面積
100食/日	2	4	3	1	10	30 m ²
200食/日	3	6	5	1	15	50 m ²
500食/日	5	12	10	2	29	100 m ²

5つの交渉不可能な衛生ルール

これら5ルールは調理区域に目立つ場所に、 必要なら複数言語で掲示。各ブリーフィングで繰り返す。 これらは推奨ではなく、 義務です。

#	ルール	基準	確認
1	手洗い	各取り扱い前、 各休憩後、 トイレ使用后	チームリーダーの直接観察
2	生 加熱分離	生食品と加熱食品の接触なし。 。 色分けされた器具。	まな板と器具の確認
3	十分な加熱	中心温度 ≥ 63 ° C (肉類)、 ≥ 74 ° C (家禽)	各配膳時にプローブ温度計
4	コールドチェーン	生鮮品は 0~4 ° C。 不可能なら 非生鮮品のみ。	クーラーボックス温度計を午前6時と午後2時
5	継続的清掃	表面を最低2時間ごとに消毒	署名された清掃登録簿

HACCP まな板色コード : 赤 = 生肉 / 黄 = 生家禽 / 青 = 魚介 / 緑 = 果物・野菜 / 白 = 乳製品・パン / 茶 = 加熱肉。

日次予算 (200食/日)

項目	100食/日	200食/日	500食/日
食料 (1食あたり 300~600円)	3~6万円	6~12万円	15~30万円
ガス 燃料	4,000円	7,000円	15,000円
衛生消耗品	2,000円	4,000円	8,000円
使い捨て食器	5,000円	10,000円	25,000円
日次合計	4~7万円	9~15万円	20~36万円
14日間合計	60~100万円	125~210万円	300~500万円

資金調達 : Disaster Response Grant (上限 25,000 USD = 約375万円)
は200~500食/日の炊き出しを14日間カバーします。申請書には項目別予算を提示。

配給拠点 (POD)

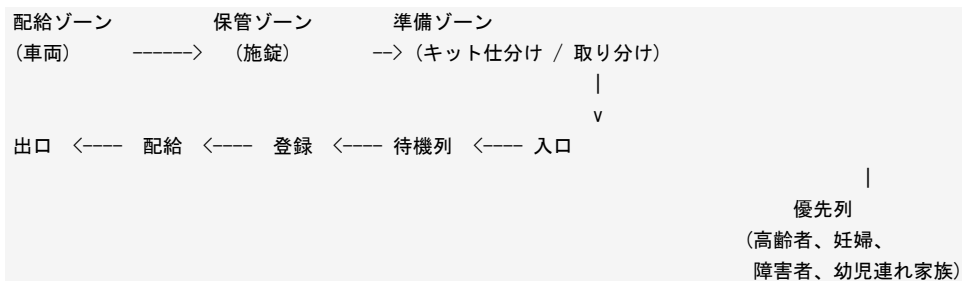
配給拠点はロジスティクスと被災者のインターフェースです。組織の悪い POD は待ち時間、緊張、押し合い、鼻負の非難を意味します。組織の良い POD は円滑、トレーサブル、尊厳のある活動を意味します。

立地選定

基準	詳細
アクセシビリティ	徒歩、車椅子、高齢者、家族にとってアクセス可能
物理的安全	構造的に安全、不安定な構造物から離れている
駐車場	配送車両用空間
影	テント、ブルーシート、または木陰
知名度	住民に知られた場所 (神社、学校、市場広場)

物理的レイアウト

流れは一方向。受益者は決して逆方向に戻ったり、すでに援助を受けた人と交差してはなりません。



群衆管理ルール

ルール	詳細
待機ゾーン最大収容	同時に50人
別の優先列	高齢者、妊婦、5歳未満児童連れ家族、障害者
配給担当 待機比	待機者50人につき1名の管理担当
定期コミュニケーション	メガホンで15分ごと 進行状況、推定待ち時間

日次調整

危機対策会議

形式	詳細
頻度	1日2回（午前8時 午後6時）
所要時間	最大30分（12時はラピッド版15分）
参加者	Disaster Coordinator、各チームリーダー、会長、会計
場所	クラブ施設または現場本部
形式	立席。座席なし、議題厳格、決定書面化

議題

1. SITREP の最新化（5分） - 各チームリーダーが30秒で報告
2. 即時意思決定が必要な点（10分）
3. 次の8時間の目標（5分）
4. 後方支援と保守事項（5分）
5. 緊急予算（5分）

財務管理（詳細）

日次台帳

毎日（1日も飛ばさない）、会計が記入。

項目	詳細
開始残高	前日繰越 + 受領した寄付
日次収入	寄付、補助金、その他
日次支出	詳細なライン（食料、燃料、輸送、衛生、その他）
終了残高	開始残高 + 収入 - 支出
累積残高	活動開始以来の累計

各支出の二重署名

- ・ 75,000円未満 : Coordinator + 会計
- ・ 75,000~300,000円 : Coordinator + 会計 + 会長
- ・ 300,000円超 : クラブ役員会の決議

体系的領収書

- ・ 100円も例外なし、すべての支出に領収書
- ・ 各領収書を即座に撮影
- ・ 紙の領収書を専用フォルダに保管（ジップロック等）
- ・ 24時間以内にデジタル登録簿に転記

ボランティア管理（緒方）

第15章で詳細を扱いますが、安定化フェーズの基本ルール：

ルール	詳細
最大連続労働時間	8時間（例外なし）
義務的休息	8労働時間後に最低12時間
1日最大日数	7日連続後に最低1日休息
派遣前ブリーフィング	全ボランティアに必須
出席登録簿	入場・退場時に署名
担当別の責任者	各 POD、各炊き出し、各チーム

心理的支援（継続）

第17章で詳細扱い。安定化フェーズの基本：

- ・ ボランティアの精神的疲労を観察（易怒性、引きこもり、過剰関与の兆候）
- ・ 体系的休息時間を強制
- ・ 日次の非公式振り返り会（15分、夕方）
- ・ 必要なら専門心理士に振り分け（クラブの会員 + 外部リソース）

H+72 から D+14 までのタイムライン

日	主な焦点
D+3~D+5	炊き出し稼働、POD 開設、登録簿完備
D+6~D+10	規則的リズム、ボランティアローテーション、財務統制
D+11~D+14	出口戦略の検討（一部活動の市役所・NGO への移譲）、復興移行（第23章）の準備

基本原則：安定化フェーズはマラソンであって短距離走ではありません。リズム、規律、

文書化、ローテーション。緊急時に成功するクラブは、安定化フェーズで持続させる方法を知る クラブです。

第 III
自分たちの手段で行動する

第 15
現場でのボランティア指導

ボランティアはあなたの最も貴重な資源であり、同時に最も繊細です。よく指導されたボランティアは現場で奇跡を起こします。指導されないボランティアは現場で混乱、事故、対立を生みます。

本章は3種類のボランティアを扱います：ロータリアン、登録ボランティア、自発的ボランティア。それぞれに固有の指導方法があります。

3種類のボランティア

種別	特徴	リスク	指導
ロータリアン	訓練済、規律あり、 クラブ責任下	過剰関与、 燃え尽き	ローテーション、 心理的支援
登録ボランティア	事前申請、保険適用、 ブリーフィング受領済	期待管理	明確な役割、 リーダー監督
自発的ボランティア	現場に現れる、未訓練、 保険なし、しかし意欲あり	事故、 法的責任、 混乱	即時登録、 簡易ブリーフィング、 限定的タスク

自発的ボランティアの登録

災害時、見知らぬ人が「手伝いたい」と来ます。彼らを拒否してはなりません（誤った信号）、しかし彼らを統制下に置かなければなりません。

簡易登録書式

ボランティア登録書式 - [クラブ名]

日付： ___/___/____

氏名： _____

電話： _____

緊急連絡先： _____

健康制限 / アレルギー： _____

スキル（応急処置、調理、運転、言語等）： _____

本日の利用可能性： 開始 _____ 終了 _____

注意事項を読み理解しました：

- 安全指示に従う
- 個人防護具を着用
- リーダーの監督下のみで活動
- 事故は即座に報告
- 派遣された任務を超えない

署名： _____

受付（ロータリアン）： _____

簡易ブリーフィング（5分）

派遣前に各ボランティアに：

1. 危険ゾーン（回避すべき場所）
2. 担当チームリーダー（誰の指示に従うか）
3. 連絡手段（連絡方法、緊急時）
4. 安全装備（ベスト、手袋、必要なら FFP2 マスク）
5. 任務（明確、限定的、計測可能）
6. 終了時刻（絶対的な最大限）

チーム編成

チーム	推奨人数	リーダー
受付・登録	2～3名	経験あるロータリアン
評価	2～4名	評価リーダー
配給	4～8名	POD 責任者
炊き出し	5～15名（規模による）	衛生資格保持者
ロジ・輸送	3～5名	DRC ロジ
コミュニケーション	2名	DRC コミ
心理的支援	2～3名	PFA 訓練済

ローテーション

局面	最大連続労働時間	最低休息时间
急性期（0～72時間）	12時間	8時間
安定化（72時間～2週間）	8時間	12時間
復興（2週間以降）	6時間	18時間

絶対的ルール：連続7日後に最低24時間の休息義務。例外なし。

ロータリアン疲労の兆候

リーダーは以下を観察：

- ・ 易怒性、焦燥
- ・ 集中力の欠如、判断ミス
- ・ 孤立、無関心
- ・ 身体症状（頭痛、睡眠障害、消化問題）
- ・ アルコール / 物質の使用増加
- ・ 自分を「不可欠」と感じる

これらの兆候が現れたら：強制的な48時間休息。

法的責任

リスク	保護
ボランティア負傷	クラブ賠償責任保険 + ボランティア保険（社会福祉協議会経由）
第三者損害	クラブ賠償責任保険
食中毒	HACCP 遵守、食品衛生管理者の監督、食材トレーサビリティ
知的財産	著作権遵守（写真、テンプレート）
個人情報	受益者データの保護（鍵付き保管、配給後破棄またはアーカイブ）

チェックリスト

- ボランティア登録書式 印刷済（50部以上）
- 簡易ブリーフィング スクリプト作成済
- チームリーダー指定済
- ローテーション計画作成済
- ボランティア保険有効
- 高視認性ベスト 30枚以上
- 各派遣前のブリーフィング体系化

原則：ボランティアはあなたの最も大きな力であり、最も大きな脆弱性です。投資、訓練、保護してください。

第 III
自分たちの手段で行動する

第 16
危機時のコミュニケーション

危機時のコミュニケーションは平時のコミュニケーションではありません。事実、迅速、調整された、
規律あるものでなければなりません。1つの誤情報、1つの矛盾するメッセージ、1つの逸脱した話が、クラブの信用を数か月で破壊し得ます。

本章は5つの軸をカバーします： 受益者とのコミュニケーション、メディアとの関係、ソーシャルメディア管理、噂対応、IA・ディープフェイク。

受益者とのコミュニケーション

黄金律

ルール	適用
真実	嘘をつかない、たとえ真実が困難でも
透明性	知っていること、知らないこと、何をしているか、いつ知るかを明示
一貫性	クラブからの同じメッセージ、矛盾しない
尊厳	大人として扱う、見下さない
反応性	24時間以内に質問に答える

必須情報

すべての配給拠点、避難所、コミュニケーション資料に：

- ・ クラブの行動内容
- ・ 配給/支援の時間と場所
- ・ アクセス基準（誰が、どんな条件で）
- ・ 連絡先（質問、苦情）
- ・ 次回更新の予定

メディアとの関係

単一のスポークスパーソン

クラブが2人の異なる人から矛盾するメッセージを 発するなら、信用は失われます。

ルール：

- ・ 単一のスポークスパーソン（通常：会長または DRC コミ担当）
- ・ すべての発言は事前準備済または承認済
- ・ 数値は確認済（3情報源ルール、第8章）
- ・ 推測なし、未確認のコミットメントなし

プレスリリース構造

[ロータリークラブ名] プレスリリース

[日付]

[クラブ名] は [事象] を受けて動員

要約 (1~2文) :

[何が起きたか、クラブが何をしているか]

文脈 (3~5文) :

[事象、被災区域、規模]

クラブの行動 (具体的数値) :

- [具体的数値1]

- [具体的数値2]

- [具体的数値3]

連携 :

[パートナーと当局]

スポークスパーソン :

[氏名]、[役職]、[電話]、[メール]

メディア・インタビュー - 鍵となる規律

やるべきこと	避けるべきこと
事実を答える	推測しない
数値を発表する	検証されていない統計を引用しない
連携を強調	他組織を批判しない
感謝を表明	神話化しない (「英雄」など)
「分かりません、調べます」と言う	「ノーコメント」 (回避的に聞こえる)

ソーシャルメディア

投稿頻度

局面	頻度	内容
急性期 (0-72h)	1日2回	事実の更新、行動
安定化 (3-14日)	1日1回	進捗、ニーズ、感謝
復興 (14日以降)	週2~3回	物語、長期プロジェクト
終了後	週1回	教訓、感謝、未来

投稿してはならないこと

第8章で扱った絶対的禁止（同意なしの識別可能写真、未検証数値、当局批判、ソーシャルでの現金寄付直接呼びかけ、未開設拠点の正確な位置）。

噂の対応

噂を素早く特定

ソーシャルメディアの監視、現場会話の聴取、コミュニティリーダーへの問い合わせ。

検証プロセス

1. 特定：何が言われているか？
2. 検証：3情報源ルール
3. 対応決定：・ 真実 → 修正情報を中継 ・ 偽 → 公式声明で反駁 ・ 不明 → 確認まで待機、暫定声明

反駁声明の構造

[クラブ名]からの説明

私たちの注意に持ち込まれた情報：[噂を要約]

事実：[検証された情報]

情報源：[当局、評価、現場観察]

連絡先：[質問への対応者]

IA・ディープフェイク・誤情報

新たなリスク（2024年以降）

- ・ 偽の写真（IA生成）で被災者の状況を誇張または変造
- ・ ディープフェイク動画で当局者または地元指導者になりすまし
- ・ 偽の声明文で組織を引用
- ・ 偽のチャリティ・ページで寄付詐欺

クラブの保護

措置	詳細
クラブのチャンネルの認証	公式アカウント、ロゴ、ヘッダーを明確化
公式チャンネルの優先	公的声明はクラブの公式チャンネルのみで
ロータリー国際地区との連携	大規模誤情報事案では支援要請

措置	詳細
会員教育	共有前に検証、出典を確認
偽情報の通報	プラットフォームの通報機能を使用

日本固有の脅威

- ・ LINE / メッセージで広がる「親戚から」を装うメッセージ（デマ）
- ・ 偽の災害支援サイト（募金詐欺）
- ・ 自治体や警察を装う偽 SNS アカウント

内部コミュニケーション

毎日2回（午前・夕方）、Coordinator が全会員に：

- ・ 状況更新（3行）
- ・ 本日の主要決定
- ・ 翌日の目標
- ・ 感謝・励まし

形式：LINE グループ「全会員」（管理者のみ投稿）、メール、または短い動画メッセージ。

チェックリスト

- スポークスパーソン指定済（主と代理）
- プレスリリース・テンプレート準備済
- ソーシャルメディア・テンプレート3種事前作成
- 噂検証プロセス確立
- IA / ディープフェイク監視
- 公式チャンネル明確化
- 毎日2回の内部更新

危機時のコミュニケーションは規律のテストです。何を、誰に、いつ、どんな形式で言うかを事前に決定したクラブは、信用を保ちます。即興のクラブは信用を失います。

第 III
自分たちの手段で行動する

第 17
心理的支援

物理的な被害は目に見えます。 心理的損害は見えません、しかしそれは持続的です。被災者の大多数が心理的ショックを経験 します：急性ストレス、不眠、悪夢、回避、過覚醒、 罪悪感。 一部は心的外傷後ストレス障害 (PTSD) を発症します。ボランティアもこれを免れません。

本章は3つの軸をカバーします：被災者への心理的応急処置 (PFA)、ボランティアの心理的保護、 専門家への振り分け。

WHO 心理的応急処置 (PFA)

PFA は心理士である必要はありません。 訓練を受けた善意のボランティアであれば誰でも実施できます。

3つの基本原則 - Look, Listen, Link (Regarder, Écouter, Relier)

段階	何をするか	何をしないか
見る (Look)	落ち着いて状況を観察、 人物を判断せず	急に近づかない、 写真を撮らない
聴く (Listen)	共感的存在、 話を遮らない、 判断しない、 最小化しない	助言しない、 自分の話をしない、 「大丈夫」と言わない
つなぐ (Link)	適切な資源 (医療、 社会援助、 家族) に振り分け	自分でセラピストになろうとしない

PFA が そうでないもの

- ・ 心理療法ではない
- ・ 心理的振り返り (debriefing) ではない
- ・ 「大丈夫だよ」と言うことではない
- ・ 説教ではない
- ・ 物語の収集ではない

接近の言葉

状況	適切な言葉	避ける言葉
接近時	「[氏名] と申します、 ロータリーから来ました。 お話してもよろしいですか？」	「あなたは何か必要ですか？」 (漠然)
苦悩を聴いた後	「そう感じるのは普通のことです」「あなたは独りではありません」	「分かります」 (嘘になり得る)
沈黙	静かにそばに座る	沈黙を埋めようとする

状況	適切な言葉	避ける言葉
振り分け	「[資源] が支援できます。私と一緒にいきますか？」	「あなたは [専門家] に行くべきです」(命令的)

配置 - PFA 担当者対被災者比

第4章で見た Sphere 標準：

局面	比率
緊急期 (0-72h)	リスクある人 100人につき1人
安定期 (3-14日)	50人に1人
復興期 (2週間以降)	30人に1人

集合避難所での心理的サポート

行動	詳細
静かな空間	騒音と人混みから隔離された空間（静粛室）
子ども向け活動	描画、ゲーム、物語（トラウマを正常化）
高齢者向け活動	会話、思い出話（孤立を減らす）
情報の流れ	規則的、明確、不安を生まないコミュニケーション
儀式的構造	食事時間、就寝時間、規律（正常感を回復）

ボランティアの心理的保護

二次受傷と共感疲労

第4章用語集で定義：

- ・ 二次受傷 (vicarious trauma)：他者の苦しみへの繰り返しの曝露
- ・ 共感疲労 (compassion fatigue)：情動的消耗、関与の低下

兆候の観察

リーダーは次を観察：

- ・ 易怒性、焦燥
- ・ 集中力欠如、判断ミス
- ・ 孤立、無関心
- ・ 身体症状（頭痛、消化障害、不眠）

- ・ アルコール / 薬物使用増加
- ・ 「不可欠」感

予防策

措置	詳細
義務的ローテーション	第15章のルール尊重
日次振り返り会	15分、夕方、感情を共有可能
ピア・サポート	経験豊富なロータリアンが新人を伴走
心理士のリソース	クラブ内またはパートナー
沈黙の権利	話したくないボランティアに圧力をかけない
認識	クラブと地域による感謝

モデル - フロリダ「Compassion Teams」

フロリダ地区 6930 が開発したモデル：専門心理療法士チームが被災地に派遣され、ロータリアン・ボランティアと地域住民の両方への心理社会支援を提供。ハリケーン・ヘレーン後のアパラチア地方に輸出。

日本の文脈では：DPAT（災害派遣精神医療チーム）、地方自治体の精神保健福祉センター、災害精神医学関連学会との連携が同等の機能を果たす可能性。

専門家への振り分け

振り分けが必要な兆候

- ・ 自殺念慮
- ・ 重度の不眠（3夜連続）
- ・ 急性精神病
- ・ 制御できない自傷他害
- ・ 持続的解離

振り分け先（日本）

状況	連絡先
急性精神病 自殺念慮	精神保健福祉センター、精神科救急（119）
軽度急性ストレス	自治体の保健センター、地域包括支援センター
子ども	児童相談所、こころの相談ダイヤル
高齢者	地域包括支援センター、民生委員
DV 性被害	配偶者暴力相談支援センター、性暴力被害者支援センター

状況	連絡先
一般	よりそいホットライン (0120-279-338)

よりそいの言葉

「私は心理士ではありません。
 専門家の支援に値すると思います。
 と連絡を取るお手伝いができますか? 」

しかしあなたが感じていることは深刻で、
 私が [専門家/番号]

復興期 - 持続的サポート

最初の数週間以降、ニーズが進化します：

- ・ 死別への適応
- ・ 失った物品の悼み
- ・ 再建のプレッシャー
- ・ 経済的問題、保険、行政
- ・ 長期 PTSD の発症

モデル - 災害後の最初の訪問の遅延（フロリダ・モデル）

ストレスシステムが落ち着くため、被災後最初の訪問は D+7 から D+14 の間に行う。
 早すぎる訪問は侵入と感じられ得ます。

チェックリスト

- PFA を訓練した最低3~5名の会員
- 静かな空間が避難所に確保済
- 専門家振り分け先のリスト準備済
- 日次ボランティア振り返り会組織化
- ピア・サポート・ペア確立
- ボランティア疲労兆候のリーダー監視
- 長期サポートの計画 (D+30 以降)

心理的支援は贅沢ではなく、運用上の必需品です。心理的サポートを受けたボランティアは現場にとどまります。サポートのないボランティアは去り、戻らず、運用知識を失います。心理的支援を受けた被災者は再建し、慢性的トラウマに陥りません。

第 IV
ロータリーネットワークを起動する

第 18
地区 - あなたの最初の同盟者

あなたはロータリークラブです。 会員30、 50、 80名。 銀行に資金、 スキル、 善意。 しかし災害発生時、 3つの限界をすぐに発見します : 真剣な対応には予算が不十分、 ロータリー財団補助金への直接アクセス がない、 地理的地域の他40クラブと単独で調整できない。

これがまさに地区の役割です。 指揮するためではなく、 単独で開けないものを開けるためにあります。

災害時の地区の5つの具体的機能

機能	クラブにとっての意味
TRF 資金へのアクセス	地区のみが Disaster Response Grant を申請可能。 クラブは現場評価を提供、 地区が申請し受領。
クラブ間調整	6クラブが被災すれば、 地区は各クラブが200枚のブルーシートを買う一方、 誰も水を配給しないことを防ぐ。
District Disaster Relief Fund (DDRF)	地区の自前基金、 即時利用可能、 TRF を待つ必要なし。
RAG とゾーンとの連絡	地区は DNA-RAG、 ShelterBox、 ゾーンコーディネーターとの直接連絡先を持つ。
統一されたコミュニケーション	RI、 メディア、 無傷のクラブへの単一メッセージ。 混乱が少なく、 影響が大きい。

主要地区アクター

3名があなたの直接の対話相手 :

地区災害救援担当者 (DRO) : これがあなたの最初の電話。 運用対応を調整し、 被災クラブと利用可能資源の間の橋渡し。 地区に DRO がなければ、 ガバナー (DG) が機能を担います。

地区ロータリー財団委員会委員長 (DRFC) : TRF との関係を扱う。 Disaster Response Grant 申請を準備し共同署名。 DRFC が最初の数時間連絡不能なら、 すべての資金要請がブロックされます。

地区ガバナー (DG) : 警報レベルを発動、 補助金に共同署名、 地区全体の資源を動員。 地区境界を越える災害ではゾーンコーディネーターとの連絡担当でもあります。

即時行動 : DRO と DRFC を個人的に知らなければ、 今週中に電話してください。
携帯電話に番号を保存、 地区名簿だけでなく自分の電話にも。

3つの活動レベル - DCA-3、DCA-2、DCA-1

地区は3段階の活動尺度で動きます。

数値が小さいほど動員が強い。

各レベルが異なる資源と義務を解放します。

概要

レベル	規模	引き金	クラブにとっての変化
DCA-3	局所事象	クラブ単独で管理可能な事象	クラブが自前資金で行動。 地区は記録のため通知。
DCA-2	クラブが圧倒	局所災害、1~数クラブ被災、 または特定脅威（指定された台風、 地震警報）	DRO が日次連絡。迅速評価開始。DRG （上限 25,000 USD）準備中。ShelterBox 警戒待機。
DCA-1	大規模	複数地区被災、地区を超えるニーズ	すべての資源動員。48時間以内に DRG 申請。DNA-RAG 発動。ゾーン + RI 調整。グローバル補助金準備。

DCA-3 - クラブ単独で管理

クラブは自前資源（緊急基金、会員ボランティア、会員機材）で行動します。地区はトレーサビリティのため通知されますが、何も発動しません。

DCA-3 でクラブが行うこと：

- ・ 内部緊急計画を発動
- ・ 事象を文書化（写真、行動リスト、支出）
- ・ 24時間以内に DRO に SITREP を送信、記録および地区統計のため
- ・ 緊急計画と訓練の維持を継続

DCA-2 - 地区発動

DCA-2 は災害が1~数クラブに影響、自前資金を超えるニーズがあるとき、または重大な脅威が特定されたとき（接近する台風、季節的洪水リスク）に発動されます。

DCA-2 で地区が行うこと：

- ・ DRC (Disaster Response Committee) を緊急会議で召集
- ・ DRO が被災クラブと日次連絡
- ・ ニーズと利用可能資源の評価
- ・ DRG 申請の決定
- ・ DG が DDRF を解放（単独署名、24時間以内の期限）
- ・ シェルターリスクがあれば ShelterBox を警戒 (rotaryrequest@shelterbox.org)

DCA-2 でクラブが行うこと：

- ・ 6時間以内に DRO に SITREP を送信

- ・ 現場評価を準備（付録A 書式2参照）
- ・ 緊急行動の予備予算を推定
- ・ 今後72時間で出勤可能な会員を特定

DCA-1 - 大災害

DCA-1 は最大レベル。災害が地区の通常能力を超え、複数地区に影響、または国際支援を要することを意味します。

DCA-1 で地区が行うこと：

- ・ DG により Disaster Response Committee 活動開始
- ・ すべての地区資源動員
- ・ DRG 即時申請
- ・ ShelterBox 派遣のため連絡
- ・ DNA-RAG に通知し能動的調整
- ・ ゾーンディレクターとの調整
- ・ 公的コミュニケーション開始
- ・ RI への日次報告

DCA-1 でクラブが行うこと：

- ・ 緊急計画を実行
- ・ 6時間ごとに SITREP を送信（急性期）、その後日次
- ・ DRO からの調整指示に従う、孤立した行動なし
- ・ すべてを文書化：写真、領収書、受益者リスト
- ・ 地区調整支援のために職業ネットワークを動員

クラブの視点からの Disaster Response Grant 取得

Disaster Response Grant (DRG) はロータリー財団の迅速対応メカニズムです。1申請あたり最大 25,000 USD、2~4週間で処理されます。災害後の最初の外部財務手段です。

本質的な点 - DRG を申請するのはあなたではない

クラブは DRG を直接申請できません。地区 (DG + DRFC が共同で) が申請します。あなたの役割は現場評価、データ、写真を提供し、迅速にそうすることです。

段階的、クラブの視点から

段階1 - 評価 (D+0 から D+3)

あなたが行う。

+-+ 現場の迅速ニーズ評価

+-+ 予備予算推定

- +- 写真と初期ドキュメンテーション
- +- すべてを地区 DR0 と DRFC に送信

段階2 - 地区が準備 (D+3 から D+7)

- DRFC が行う。
- +- MyRotary (Submittable) でファイル準備
- +- アクセス : my.rotary.org → Grants → Apply for Grant → Disaster Response Grant
- +- あなたの現場データがフォームに統合される

段階3 - 検証と申請 (D+7 から D+10)

- DG と DRFC が行う。
- +- DG が承認し共同署名
- +- Submittable またはメール経由で提出 : grants@rotary.org
- +- Submittable ファイル番号が割り当てられる

段階4 - TRF 処理 (D+10 から D+28)

- TRF が行う。
- +- 申請評価 (通常 2~4週間)
- +- 追加情報の要請があり得る
- +- 決定とメール通知

段階5 - 受領と実施

- あなたと地区が行う。
- +- 資金が地区の USD 口座に送金
- +- 地区が承認された計画に従って配分
- +- 現場で実施
- +- すべての支出を文書化 (領収書必須)

段階6 - Stewardship 報告

- あなたと地区が行う。
- +- 予備報告 : 資金受領後45日
- +- 中間報告 : 受領後6か月
- +- 最終報告 : プロジェクト終了時

標準的な期間

段階	標準期間
ファイル準備 (地区 + クラブ)	3~7日
TRF 処理	2~4週間
承認後の資金送金	5~10営業日
資金受領までの総時間	完全申請後 2~4週間

台風の事前申請

指定された熱帯低気圧 (国際機関が命名済) について、DRG は 上陸前に申請可能です。これはルールへの例外であり、ハリケーン地域 (カリブ海、ガルフ、太平洋、日本) の地区によって規則的に使用されます。

条件	詳細
上陸の予測	国際機関（NHC、JMA、JTWC）によって
申請の提出	上陸の最大72時間前
標準処理	24～48時間（緊急処理）
上陸時の資金	上陸後D+1 から利用可能

これは大きな利点です。被災者は災害の翌日に水、食料、物資を受け取れます。

DRG 用書類

クラブが地区に対し責任を持つもの：

書類	詳細
現場ニーズ評価	第12章書式
写真	日付・GPS 付き、20～30枚
予備予算	項目別（水、食料、シェルター、輸送）
行動計画	今後14日間
受益者リスト	推定数、優先カテゴリ
連携	他のアクター（赤十字、市役所、NGO）との

DCA-1 の場合の地区を超えた発動

被災が地区を超えると時（大地震、広範囲台風）：

段階	行動
1	ゾーンコーディネーターが起動
2	ゾーン災害対応基金が発動（存在すれば）
3	DNA-RAG がクラブ間調整
4	RI が世界規模のコミュニケーション開始
5	国際 ShelterBox が派遣
6	グローバル補助金が長期復興のため準備

地区との関係 - 持続的構築

行動	頻度	効果
DR0 へのクラブ訪問	年1回	個人的接触の構築
地区災害会議への参加	年2～3回	他のクラブを知る、共有
DR0 の有用情報の中継	継続的	信頼の構築
地区 DCA 演習への参加	隔年	手順をテスト

行動	頻度	効果
クラブ AAR の地区への送信	各活動後	集团的学習に貢献

チェックリスト

- DR0 連絡先確認済、Coordinator の携帯に保存
- DRFC 連絡先確認済
- DG 連絡先確認済
- DR0 と最低年1回会合
- クラブが DCA-3、DCA-2、DCA-1 の意味を理解
- 過去12か月以内に少なくとも1つの SITREP を送信（シミュレーション含む）
- DRG 申請手順をクラブが理解
- 台風事前申請の手順（該当する場合）

地区はあなたを助けるためにあります。 それを使うのはあなた次第です。
 地区を起動しないクラブは予算、 専門知識、 調整、 ShelterBox、 Global Grants
 を失います。 地区を起動するクラブはロータリーネットワーク全体にアクセス可能です。

第 IV
ロータリーネットワークを起動する

第 19
ロータリー財団 - 7つの資金調達メカニズム

ロータリー財団 (TRF) はロータリーの慈善部門です。世界で最も強力な人道支援資金調達メカニズムの一つです。クラブにとって、それは7つの資金チャネルへのアクセスを意味します、ただし仕組みを理解すれば、です。

7つのメカニズムの全体像

#	メカニズム	金額	期間	起動者
1	District Disaster Relief Fund (DDRF)	基金残高に依存	即時	DG 単独
2	Disaster Response Grant (DRG)	上限 25,000 USD	数日	地区 → TRF
3	Zone Disaster Response Fund	変動	速い	ゾーン
4	DNA-RAG Fund	変動	速い	DNA-RAG
5	Rotary Disaster Response Fund (TRF 中央)	上限なし	変動	TRF
6	グローバル補助金	30,000~400,000+ USD	数か月	クラブ/地区 → TRF
7	District Designated Funds (DDF)	年間 DDF の 50%	補助金による	地区 → TRF

資金調達フェーズ



メカニズム1 - DDRF (District Disaster Relief Fund)

地区の自前基金、ロータリー財団の承認を必要としない。DG が単独で24時間以内に発動可能。

確認 : あなたの地区に DDRF がありますか? 資金は補充されていますか? クラブは年次拠出していますか?

メカニズム2 - DRG (Disaster Response Grant)

第18章で詳述。クラブにとって最も重要なメカニズム :

- ・ 上限 25,000 USD (約 3,750,000円)
- ・ 申請から承認まで通常 2~4週間
- ・ 指定された熱帯低気圧の事前申請の場合 24~48時間
- ・ DG と DRFC が共同署名
- ・ Stewardship 報告必須 (予備45日、中間6か月、最終)

メカニズム3 - ゾーン災害対応基金

ゾーン33/34 (カリブ海)、ゾーン20-22 (東アジア・太平洋を含む) など、一部のゾーンがゾーン基金を運営。複数地区が同時被災時に発動可能。

ゾーン20A、20B、20C (日本) では、ゾーンコーディネーターを通じて確認 :

- ・ ゾーン基金は存在するか?
- ・ 発動条件
- ・ 利用可能金額
- ・ 申請手順

メカニズム4 - DNA-RAG Fund

DNA-RAG は 501 (c) (3) の独立基金を持ち、寄付控除可能 (米国)。連絡 : dna-rag.com、緊急申し込みフォーム。

メカニズム5 - Rotary Disaster Response Fund (TRF 中央)

TRF が直接運営する世界規模の基金。大災害時に TRF が能動的に発動 (2011年東日本大震災、2010年ハイチ地震、2021年ハイチ地震、2024年能登半島地震など)。クラブが申請するのではなく、地区を通じて受領します。

寄付方法 : my.rotary.org/en/disaster-response-fund

メカニズム6 - グローバル補助金

長期復興のための主要ツール。

要素	詳細
金額	30,000~400,000+ USD
対象領域	TRF の7つの重点分野（平和、疾病予防、水と衛生、母子保健、基本教育、経済発展、環境）
期間	6~24か月
申請者	クラブまたは地区 + 国際スポンサークラブ
必須要件	GMS 認証、両方の地区が TRF 認定済
処理時間	申請から承認まで 3~6か月

クラブの視点

クラブは単独でグローバル補助金を申請できません。国際スポンサークラブ（他国の）が必要。これがクラブ間ネットワーキングの戦略的重要性を強調する点です。

災害復興のためのグローバル補助金の例

- ・ 学校再建（耐震基準、改善された衛生）
- ・ 水・衛生システム（浄水ステーション、トイレ）
- ・ 経済再活性化（マイクロファイナンス、職業訓練）
- ・ 心理社会的再建（長期トラウマ対応）
- ・ 防災インフラ（早期警報システム、シェルター）

メカニズム7 - DDF (District Designated Funds)

各地区が SHARE プログラムを通じて受領する資金（3年前の EREY 寄付に基づく）。年間 DDF の最大 50% が地区によって使用可能：

- ・ 地区補助金
- ・ グローバル補助金への地区拠出（マッチングを生む）
- ・ 災害対応への地区拠出

全体的戦略 - 急性期から復興期へ

フェーズ	優先メカニズム	金額
急性期 (0-72h)	DDRF + クラブ緊急基金	1,000~15,000 USD
早期対応 (72h-2週)	DRG + ShelterBox	25,000 USD + 物的支援
安定化 (2週-3か月)	DRG (補完)、ゾーン基金	25,000~50,000 USD

フェーズ	優先メカニズム	金額
復興（3か月-2年）	グローバル補助金 + DDF	50,000~400,000+ USD

EREY と SHARE - 持続的貢献

EREY (Every Rotarian Every Year) : 各ロータリアンが毎年 TRF に拠出する運動（目標 : 1人年間 100 USD）。

SHARE : 各地区 EREY 寄付の50% が3年後にその地区に DDF として戻されます。

このメカニズムが意味すること : あなたのクラブが今日 EREY に寄付するなら、3年後にあなたの地区が DDF を増やし、その一部はあなたのクラブのグローバル補助金プロジェクトに使えるかもしれません。長期的視点。

DRG と グローバル補助金 - 並行戦略

最良の戦略は順次ではなく並行 :

- ・ DRG が緊急に対応（水、食料、シェルター、0~6か月）
- ・ グローバル補助金が持続的再建に対応（学校、水システム、診療所、6~24か月）
- ・ グローバル補助金の構築を D+30 から開始、DRG が実行されている間に

グローバル補助金は派遣まで 8~16か月かかります。DRG の終了を待つと、復興プロジェクトとの「死の谷」を作ります。

落とし穴と良い実践

落とし穴	結果	解決策
地区が認定されていない	自動申請ブロック	危険シーズン前に DRFC で確認
DRFC が事前準備していない	DRG が10日遅延	各 DRFC が事前準備したファイルを持つべき
過去の補助金の Stewardship 不完全	すべての新申請ブロック	12か月以内の Stewardship 必須
不正確な現場データ	DRG 却下、Stewardship ブロック	構造化された迅速評価（第12章）
GMS 未認証	グローバル補助金申請不可	Coordinator と DRFC は GMS 認証維持
DG/DRFC 共同署名不在	ファイル不完全、ブロック	DG/DRFC の代理人を計画
クラブがファイルを単独提出	体系的拒否	クラブはデータを提供、地区が提出
国際スポンサーなし	グローバル補助金不可能	クラブ間ネットワーキング（DNA-RAG 経由）

チェックリスト

- DDRF 確認済（存在、金額、年次拠出）
- DRO + DRFC + DG 連絡先確認済
- 必要時に DRG 申請手順をクラブが理解
- GMS Coordinator + DRFC + 会長 認証済（年次更新）
- 地区 + クラブが TRF 認定済
- 国際スポンサークラブ特定済（グローバル補助金のため）
- クラブが TRF（EREY）に毎年拠出
- ShelterBox 連絡先準備済（rotaryrequest@shelterbox.org）
- グローバル補助金 7つの重点分野の枠組み把握済
- 災害復興 Global Grant プロジェクトの構想（今後12か月以内）

ロータリー財団の力は、その規模ではなく、そのアクセス可能性にあります。
仕組みを知らないクラブは、毎年テーブルに何万 USD も残します。仕組みを使うクラブは、
地域社会のために実質的な変化を生みます。

第 IV
ロータリーネットワークを起動する

第 20
各種 RAG – 手の届く世界規模の専門性

RAG (Rotary Action Group、ロータリー行動グループ) は、特定分野におけるロータリアン専門家の独立組織であり、RI 理事会により認定されています。地区階層の一部ではなく、横断します。地元クラブを通常チャネルを通さずに世界規模の専門性に直接接続します。

実務的に、クラブが地震に直面し、飲料水システムまたは地域経済再建の専門家が必要なとき、RAG があなたのために彼らを見つけます。地区でも RI でもなく、RAG です。

RAG が何をするか、何をしないか

RAG が行うこと	RAG が行わないこと
専門技術的専門性を提供	クラブを現場で置き換えない
クラブを専門家とパートナーに接続	直接資金提供しない (限定的な独自基金除く)
補助金申請に助言	クラブに代わって補助金を申請しない
複数介入間の調整	あなたの活動を統制しない
専門実務について会員を訓練	大規模なボランティア労働を提供しない

RAG の構造

各 RAG は独立した法人 (米国では大半が 501 (c) (3))。独自の予算 (会費 25~75 USD/年、寄付、プロジェクト共同資金)、独自のガバナンス、独自の世界規模専門家ネットワークを持ちます。

RAG はクラブに対する階層的権威を持ちません。引くと専門性で活動します。必要なときに呼びます。押し付けません。

災害に関連する5つの主要 RAG

1. DNA-RAG - 全般的コーディネーター

DNA-RAG がそうでないもの	: 階層的権威、クラブ、地区、ゾーンに指揮命令しない。地区レベルでは DG が決定、クラブレベルでは会長が決定。国際ロータリーとロータリー財団はそれぞれの特権を保持。
DNA-RAG がそうであるもの	: 助言者、接続者、調整者、ツール製作者。複数層にわたる対応を整え、クラブをパートナーと結び、学んだ教訓を資本化し、検証済みテンプレートを配布。第0章の教義参照。

情報	詳細
正式名称	Disaster Network of Assistance, Rotary Action Group
ウェブサイト	dna-rag.com
連絡先	サイト上の緊急申し込みフォーム
応答時間	< 24時間 (大災害では < 12時間)
会長	Barry Rassin (PDG D7020 バハマ、元 RI 会長 2018-2019)
会合	毎月第2月曜、午前9時 EST

DNA-RAG があなたのクラブに提供すること：

- ・ 地区を超えたロータリー対応の全般調整
- ・ 他の関連 RAG の活動開始 (誰にいつ電話するか知る)
- ・ グローバル補助金のための国際スポンサー地区との接続
- ・ ShelterBox、OCHA、主要 NGO との連絡
- ・ 並行介入するクラブと地区間の重複防止
- ・ DRG とグローバル補助金申請準備の支援
- ・ D7020 アプリケーション (デジタル調整システム) へのアクセス

起動するタイミング：災害がクラブと地区の能力を超えた瞬間から。実務的には：1つを超えるコミュニティに影響する、または地区外からの援助を要するあらゆる事象。

DNA-RAG の9つの機能：

#	機能	意味
1	準備 (Prepare)	災害前の備え計画、研修、演習、利用可能性
2	接続 (Connect)	クラブ、地区、RAG、NGO、専門家のマッチング
3	コミュニケーション (Communicate)	リアルタイム情報、状況報告
4	調整 (Coordinate)	重複回避、介入の整合
5	資金 (Fund)	資金源の特定、申請支援
6	供給 (Supply)	物資動員、ShelterBox 発動、ロジスティクスチェーン
7	再建 (Rebuild)	グローバル補助金経由の持続的復興プロジェクト
8	訓練 (Train)	地元能力構築
9	革新 (Innovate)	デジタル調整ツール (D7020 アプリ)

具体的事例 - ミャンマー地震 (2025年3月)：48時間以内に、DNA-RAG が ShelterBox を発動 (シェルター)、WASH-RAG を動員 (水システム)、タイとインドのパートナー地区を接続 (グローバル補助金)。政治的文脈によるアクセス困難にもかかわらず、2,000世帯以上がシェルター、井戸、衛生キットを受領。

2. WASH-RAG - 水と衛生

情報	詳細
正式名称	Water, Sanitation and Hygiene, Rotary Action Group
ウェブサイト	wash-rag.org
応答時間	< 24時間

提供するもの：

- ・ 飲料水システム専門家（井戸、浄水、配水）
- ・ 損傷した水システムの技術評価
- ・ 緊急浄水ステーションの派遣
- ・ 水媒介感染症の予防（コレラ、腸チフス）
- ・ 大規模活動のための UNICEF WASH との接続
- ・ WASH グローバル補助金への技術助言
- ・ 設置済システムの保守訓練

起動するタイミング：水源、給水網、または衛生システムが損傷したあらゆる災害。
実務的には：洪水、地震、台風、干ばつ、感染症。

3. ESRAG - 環境

情報	詳細
正式名称	Environmental Sustainability Rotary Action Group
ウェブサイト	esrag.org
応答時間	< 48時間

提供するもの：

- ・ 環境被害の評価（森林、流域、土壌）
- ・ 災害後の生態系修復計画
- ・ 二次リスク予防（土砂災害、浸食）
- ・ 持続可能でレジリエントな再建のための擁護
- ・ 環境的グローバル補助金への技術助言
- ・ 気候変動と適応の専門知識

起動するタイミング：森林火災、土砂災害、浸食を伴う洪水、
重大な環境次元を持つあらゆる災害。気候レジリエンスを統合する復興プロジェクト。

4. RAGFP - 平和と紛争地帯

情報	詳細
正式名称	Rotary Action Group for Peace
ウェブサイト	rotaryactiongroupforpeace.org
連絡	DNA-RAG 経由（推奨）または直接
応答時間	< 72時間

提供するもの：

- ・ 地域専門家 Rotary Peace Fellows の動員
- ・ 紛争地帯での人道アクセス交渉
- ・ 避難民と受入コミュニティ間のコミュニティ仲介
- ・ 脆弱地帯介入のための安全文脈分析

起動するタイミング： 紛争地帯での災害、 複合危機、
コミュニティ緊張の文脈での人口移動。

5. RAGCED - 地域経済発展

情報	詳細
正式名称	Rotary Action Group for Community Economic Development
ウェブサイト	ragced.org
連絡	DNA-RAG 経由（推奨）または直接
応答時間	< 72時間

提供するもの：

- ・ 災害後の経済回復専門知識
- ・ 被災者向けマイクロファイナンスとマイクロクレジット
- ・ 職業訓練と再訓練
- ・ 地元市場とサプライチェーン再建支援
- ・ 経済発展に焦点を当てたグローバル補助金への助言
- ・ 協同組合と収入生成活動の創出支援

起動するタイミング： 大災害後の復興フェーズ。 生活基盤が破壊され、
コミュニティが地元経済を再始動する必要があるとき。 地震、 台風、 洪水、
干ばつ後に特に関連。

災害種別ごとの活動マトリクス

災害種別	DNA-RAG	WASH-RAG	ESRAG	RAGFP	RAGCED
地震 (A1)	●	●			●
津波 (A2)	●	●			●
火山噴火 (A3)	●		●		
台風 (B1)	●	●	●		●
洪水 (B2)	●	●			●
干ばつ (C1)	●	●	●		●
森林火災 (C2)	●		●		
感染症 (E1)	●	●			
武力紛争 (F1)	●			●	
難民 避難民 (F2)	●	●		●	●
飢餓 (F3)	●	●	●		●

注記：DNA-RAG は常に関連。 地区間またはゾーン間のあらゆる調整の 入口。

起動プロセス

1. 災害発生 → 評価
2. 地区を通知 (第18章)
3. 必要なら DNA-RAG に連絡 (dna-rag.com、緊急フォーム)
4. DNA-RAG が他の関連 RAG を動員
5. RAG が技術支援を提供
6. クラブが現場知識を提供

クラブと RAG は補完的です：RAG はロジスティクスと専門知識をもたらします。クラブは現場の知識をもたらします。

連絡先 - クイックリファレンス

RAG	サイト	専門
DNA-RAG	dna-rag.com	全般調整
WASH-RAG	wash-rag.org	水と衛生
ESRAG	esrag.org	環境
RAGFP	rotaryactiongroupforpeace.org	平和、紛争
RAGCED	ragced.org	経済発展

連絡方法

RAG	連絡方法
DNA-RAG	dna-rag.com の緊急フォーム
WASH-RAG	wash-rag.org の緊急連絡
ESRAG	esrag.org のリーダーシップ経由
RAGFP	DNA-RAG 経由（推奨）または rotaryactiongroupforpeace.org
RAGCED	DNA-RAG 経由（推奨）または ragced.org

チェックリスト

- DNA-RAG の地域代表特定済
- DNA-RAG 月例会への少なくとも1回の参加
- WASH-RAG 連絡先（水/衛生災害）
- ESRAG 連絡先（環境災害）
- 適切な RAG にいつ連絡すべきかクラブが理解
- dna-rag.com 緊急フォームをブックマーク

各 RAG は専門家への世界規模のショートカット です。クラブは地区を通じて行動できます、ただし RAG を通じてはるかに速く専門性にアクセス できます。地区が補助金を承認する間、RAG はすでに現場であなたを支援できます。

第 IV
ロータリーネットワークを起動する

第 21
ロータリー外パートナー

ロータリーは強力ですが、
 最適なクラブは、
 システムと連携して活動するクラブです : 国連機関、 国際 NGO、 地元 NGO、 宗教団体、 地方当局、 民間企業。

主要パートナー

国連機関

機関	役割	クラブの連絡経路
OCHA (人道調整事務所)	国際人道対応の調整	DNA-RAG または地区経由
UNICEF	子どもの保護、 栄養、 教育	パートナー NGO 経由、 または直接
WHO	健康対応、 疾病監視	地方保健局経由
UNHCR	難民、 避難民	RAGFP 経由、 または直接
WFP	食料援助	大規模災害時のみ
UNDP	復興、 開発	復興フェーズ、 グローバル補助金

国際 NGO

NGO	専門	クラブとの連携形態
赤十字 赤新月	救護、 医療、 シェルター	地元支部との恒久的 MOU
MSF (国境なき医師団)	緊急医療	大規模災害時のみ
ICRC (赤十字国際委員会)	紛争地帯	紛争時 (RAGFP 経由)
Save the Children	子ども保護	子ども関連活動
Caritas 各教派系団体	包括的人道支援	宗教ネットワーク経由

日本固有のパートナー

パートナー	専門	連絡先
日本赤十字社	救護、 医療、 シェルター、 義援金	地元支部
DMAT (災害派遣医療チーム)	急性期医療	都道府県経由
JEN	国内・海外災害対応	jen-npo.org
AAR Japan (難民を助ける会)	国内外対応、 障害者支援	aarjapan.gr.jp
Peace Winds Japan	国内外対応、 空陸機動	peace-winds.org
ジャパン・プラットフォーム (JPF)	国内 NGO 連携プラットフォーム	japanplatform.org
災害ボランティアセンター (社会福祉協議会)	ボランティア調整	地元 SCSP

パートナー	専門	連絡先
自衛隊	大規模災害時の救助・輸送	都道府県知事の要請經由

連携の3形式

形式	詳細	利点
公式 MOU	書面合意、義務、連絡先	危機時に交渉なしで起動可能
意向書	軽い合意、相互意図	関係を確立
ad hoc 連携	危機時の機会主義的	形式化なし、迅速

クラブが各パートナーに提供できる価値

提供	詳細
地域知識	地区、脆弱住民、地元資源を知る
コミュニティ信頼	住民は見知った顔に扉を開く
即時反応性	1時間以内に行動可能
地元ネットワーク	商店、選挙公務員、他団体への迅速な接続
持続性	復興フェーズの維持（国際 NGO は出発する）

クラブが各パートナーから受け取る価値

受領	詳細
専門性	高度医療、USAR、WASH 等
大規模ロジスティクス	国際空輸、大量配給
資金	一部 NGO は大規模助成金にアクセス可能
国際的可視性	メディア・ドナーへの拡張
手続き支援	行政、保険、補償

クラブが行うべきでないこと

行為	理由
単独で重複する活動	第9章 3W 原則 (Who, What, Where)
パートナーを批判する	連携を損なう
クレジットを過剰主張	関係を破壊する
商業的に見える行動	中立性原則（第4章）

行為	理由
政治的アジェンダの宣伝	中立性 + 公平性原則

災害ボランティアセンター（日本）との連携

日本固有の重要なメカニズム。社会福祉協議会が組織する災害ボランティアセンターは、災害時のボランティア調整の中心です。

クラブが行うべきこと：

- ・ 平時にボランティアセンターの責任者と 関係構築
- ・ 災害時、クラブを組織化されたボランティアグループとして登録
- ・ センターの調整下で活動（重複防止）
- ・ ボランティア保険適用

避けるべきこと：

- ・ 自己組織化を主張し、センターを迂回する
- ・ 「ロータリーのみ」の活動を称賛（孤立を助長）
- ・ センターの調整指示を批判する

自衛隊との連携

自衛隊は大規模災害時に重要な役割を担います：救助、医療、輸送、給水、給食、入浴。

クラブが行うべきこと：

- ・ 自衛隊が現場にいる場合、その作戦を尊重・支援
- ・ 補完的活動（自衛隊が行わないこと：心理ケア、コミュニティ関係）を提供
- ・ 自衛隊の撤収後の継続性を確保

民間企業との連携

会員の職業ネットワーク（第7章）は、民間企業との連携の自然なチャネルです。

企業種別	提供可能リソース
スーパー 食品流通	食料、水、衛生用品
運送業	トラック、ロジスティクス
ホテル 旅館	緊急宿泊
建設業	重機、瓦礫処理
通信業	緊急通信回線
金融機関	緊急融資、ATM 復旧

チェックリスト

- 日本赤十字社地元支部との恒久的 MOU
- 災害ボランティアセンターとの関係構築
- 主要 NGO 連絡先名簿準備済
- 民間企業との緊急協定（3～5社）
- 3W 原則をクラブが理解
- 各パートナーの「連絡担当」会員指定

災害は連携によって克服されます。
連携するクラブは限界を超えます。

単独で行動するクラブは限界に達します。

第 IV
ロータリーネットワークを起動する

第 22
現場で調整する

複数のアクター（赤十字、市役所、自衛隊、各 NGO、ロータリー、コミュニティ団体）が同じ被災地域で活動するとき、調整は決定的になります。調整なしでは、ある地区が10種類の支援を受け、別の地区が何も受けません。重複が経済を破壊します（なぜ赤十字が無料で配給しているのに地元商店から買うのか?）。緊張が生じます。

本章は調整の3つの軸を扱います：各国 / 各地域の公式枠組み、地方自治体との連携、3W (Who, What, Where) の実践。

公式調整枠組み

日本 - 災害対策本部

レベル	法的根拠	設置場所
市町村災害対策本部	災害対策基本法	市町村役場
都道府県災害対策本部	災害対策基本法	県庁
政府災害対策本部	災害対策基本法	内閣府（官邸）

クラブの調整は通常 市町村災害対策本部 との連携で行われます。

国際枠組み

枠組み	概要	関連性
OCHA Cluster System	国連11クラスター（シェルター、保健、水、食料等）	大規模国際災害
ICS (Incident Command System)	北米標準、5機能（指揮、活動、計画、ロジ、財務）	構造化モデル
INSARAG	国際 USAR	都市搜索救助
Sphere 基準	最低基準（第4章）	全人道活動の基盤

市町村災害対策本部との連携

クラブの役割

行動	詳細
代表者の派遣	クラブから1名の連絡担当を市町村本部に派遣
日次調整会議への参加	通常午前7～8時 夕方17～18時
提供能力の申告	クラブが何を、どこで、誰のために提供するか
必要情報の受領	公式な優先事項、避難所リスト、特殊ニーズ
隙間の特定	第9章 3W 原則
重複の回避	他アクターの活動を尊重

連携 NG 行為

- ・ 市町村を迂回して独自に活動を発表する
- ・ 市町村の意思決定を公然と批判する
- ・ 政治的論争に参入する
- ・ 市町村の承認なく他組織に「指示」する

3W (Who, What, Where) の実践

第9章で示された原則の運用化。

24時間ごとの 3W マトリクス更新

組織	何を	どこで	いつ	連絡先
日本赤十字社	シェルター + 応急処置	A 体育館	継続	[氏名、電話]
市役所	避難所運営、給水	コミュニティセンター	継続	[氏名、電話]
自衛隊	給水車、入浴支援	駐車場	9-17時	[連絡担当]
フードバンク	食料配給	スーパー駐車場	10-16時	[氏名、電話]
ロータリークラブ	炊き出し + 衛生キット	B 小学校	7-20時	[氏名、電話]
寺院	孤立高齢者の受入	本堂	8-22時	[住職]
特定された隙間	C 地区、対応なし	西ゾーン		

最後の行が最重要：ロータリーが最大価値を生む場所。

3W 情報源

情報源	頻度
市町村災害対策本部の調整会議	急性期は日次
都道府県危機管理室	急性期と安定期
地域 NGO との直接連絡	継続
OCHA クラスター会議	大規模国際災害時 (DNA-RAG または RI 経由)

ロータリー内部調整

クラブ間

複数クラブが同地域で被災 / 対応する場合：

段階	行動	責任者
1	地区が共通 SITREP を組織	DRO
2	クラブ間で資源と地区を分担	各 Coordinator
3	共通 3W マトリクスを作成	DRO

段階	行動	責任者
4	単一の地区メディア連絡担当	DRO
5	共通 DRG 申請	DRFC

ゾーン間

複数地区にわたる大災害の場合：

段階	行動
1	ゾーンコーディネーター起動
2	DNA-RAG が地区間調整
3	RI レベル コミュニケーション
4	グローバル補助金準備開始 (D+30)

調整の落とし穴

落とし穴	影響	解決策
公式調整会議への参加なし	公式 3W から除外、隙間に陥る	代表者の派遣を義務化
自己宣伝	パートナー反感、孤立	集団的成功を強調
過剰なコミットメント	持続できない、信用喪失	確実なものだけ約束
情報の遅延伝達	重複、隙間	6時間ごとの SITREP
矛盾するメッセージ	公的混乱	単一スポークスパーソン
他組織の批判	連携破壊	内部議論、公的支援

国際的協調 - DNA-RAG の役割

大災害が国境を越える際、DNA-RAG が国際クラブ間の調整を担います。

例：2011年東日本大震災では、世界中のロータリークラブが寄付し、DNA-RAG が現地クラブとの調整を担いました。国際的に動員された資金は数百万 USD に達しました。

チェックリスト

- 市町村災害対策本部に派遣する代表者の 特定
- 3W マトリクスのテンプレート準備済
- 単一スポークスパーソン指定
- DRO との 6時間ごとの SITREP プロトコル
- 国際クラスターシステム (OCHA) をクラブが理解
- 重複回避を最優先

調整は権力ではなく、知性です。調整を支配しようとするクラブは反感を 買います。

調整に貢献するクラブは尊敬されます。

第 V
その後 - 再建と前進

第 23
対応から復興へ

最初の数週間が経過しました。即時の生存は確保されました。今、フェーズが変わります：緊急対応から復興（リカバリー）へ。これはしばしばクラブが燃え尽きるフェーズです、なぜなら緊急のアドレナリンが引いてもニーズは継続するからです。

復興は数か月から数年続きます。ロータリーがその独自の強みを発揮するフェーズです：持続性、地元コミュニティへの長期的コミットメント、グローバル補助金を通じた構造的プロジェクトのファンディング。

復興期の3局面

局面	期間	焦点
初期復興	D+15~D+90	基本サービス再建、仮設シェルター、心理的支援継続
中期復興	D+90~D+365	恒久的シェルター、生活再建、コミュニティ
長期復興	D+365~D+730（またはそれ以降）	構造的再建、レジリエンス、教訓統合

初期復興 - クラブの行動

移行管理

行動	詳細
公式宣言	クラブが「緊急モード」から「復興モード」に移行
ボランティアローテーション緩和	8時間 → 6時間、1日休息 → 2日休息
予算見直し	緊急基金 → グローバル補助金構築
移管	一部活動を市役所・NGO に移管
中長期計画策定	12~24か月のロードマップ

焦点領域

1. 永久的住宅（一部、それ以外は政府プログラム）
2. 教育インフラ（学校、保育所）
3. 保健インフラ（診療所、医療機器）
4. 水と衛生システム（恒久的）
5. 生計再建（マイクロファイナンス、職業訓練）
6. 心理社会的支援（長期、複合的）

中期復興 - グローバル補助金が始まる

第19章で詳述。グローバル補助金は復興期の主要ツールです。

モデルプロジェクト構造

段階	期間	行動
構想	D+30～D+60	コミュニティ参加型ニーズ評価
国際スポンサー特定	D+60～D+90	DNA-RAG 経由、または既存ネットワーク
申請準備	D+90～D+180	GMS 認証、予算、計画
TRF 申請	D+180	完全提出
承認	D+180～D+360	3～6か月
実施	D+360～D+1080	12～24か月
Stewardship	継続	定期報告

モデルプロジェクト例（日本災害復興）

例1 - 学校再建 + 防災教育

- ・ 金額：200,000～400,000 USD
- ・ 期間：18～24か月
- ・ 領域：基本教育 + 環境（耐震 + 防災教育）
- ・ パートナー：地元教育委員会、国際スポンサークラブ

例2 - 高齢者向け地域コミュニティセンター

- ・ 金額：100,000～250,000 USD
- ・ 期間：12～18か月
- ・ 領域：母子保健 / 経済発展
- ・ 機能：集合場所、研修、災害時シェルター

例3 - 漁業 / 農業再建

- ・ 金額：150,000～400,000 USD
- ・ 期間：18～24か月
- ・ 領域：経済発展
- ・ パートナー：漁協、農協、職業訓練機関

長期復興 - Build Back Better

「Build Back Better（より強く再建する）」は UNDRR の核心原則であり、復興は単なる元の状態への回復ではなく、より良いものを再建することを意味します。

領域	より強い意味
物理的構造	耐震、耐津波、耐風
環境	気候変動への適応
経済	多様化、レジリエンス

領域	より強い意味
社会	包摂性、脆弱者保護
制度	改善された防災ガバナンス

ESRAG（環境持続可能性 RAG）はこの次元の主要パートナーです。

出口戦略 - 何をいつ移管するか

活動	移管タイミング	移管先
緊急水配給	給水網復旧	市役所
緊急食料配給	商店再開	商店、フードバンク
集合シェルター	仮設住宅供給	地方自治体
心理社会的支援	慢性化	精神保健センター、専門家
復興プロジェクト	グローバル補助金開始	専門 NGO、ロータリー継続

教訓統合

第1回 振り返り (D+30)

第25章で詳述。最初の振り返り会を D+30 までに実施：

- ・ 何が機能したか
- ・ 何が機能しなかったか
- ・ 計画への教訓
- ・ ボランティアの感謝

第2回 振り返り (D+90)

復興フェーズの移行点で第2回振り返り：

- ・ グローバル補助金プロジェクト構想
- ・ 国際スポンサー特定
- ・ 長期戦略

最終振り返り (D+365 または プロジェクト完了時)

包括的振り返りと教訓のドキュメント。地区、DNA-RAG、ロータリー Showcase に共有。

持続性の維持

リスク	対策
ボランティアの燃え尽き	厳格なローテーション、心理的支援
資金の枯渇	グローバル補助金、継続的募金
関心の低下	定期的コミュニケーション、定例イベント
地区指導部の交代	文書化された継続性、移行計画
パートナーの離脱	多様化、複数の連携

日本における長期復興 - 学習事例

東日本大震災（2011-2026）

15年経過してもなお復興は完了していません。教訓：

- ・ 長期的コミットメントの必要性
- ・ 心理社会的支援の数十年にわたる必要性
- ・ 「忘れられた被災者」のリスク
- ・ 国際的関心の急速な低下
- ・ 地元主導の重要性

阪神・淡路大震災（1995-2026）

30年以上経過。災害ボランティア制度の確立、神戸モデルの輸出。クラブの役割：地域社会再構築、コミュニティ・ガーデン、世代間プロジェクト。

チェックリスト

- 緊急 → 復興 公式宣言済
- グローバル補助金プロジェクト構想開始
- 国際スポンサークラブ特定（DNA-RAG 経由）
- 出口戦略（各活動の移管計画）策定済
- 第1回振り返り（D+30）実施済
- 長期戦略（12～24か月）策定済
- ボランティアの心理的サポート継続

真の対応は復興にあります。
復興期のクラブは持続性によって尊敬されます。

緊急時のクラブは可視的です。

第 V
その後 - 再建と前進

第 24
文書化と報告

文書化されない行動は、起きなかった行動です。少なくとも TRF、ドナー、メディア、将来のクラブにとっては、文書化は活動終了時の事務作業ではなく、H+0 から始まる継続的規律です。

本章は4つの軸を扱います：何を文書化するか、どう文書化するか、Stewardship 報告 (TRF)、最終報告 (ドナー、メディア)。

何を文書化するか

6種類の不可欠な記録

記録	内容	媒体	責任者
財務記録	すべての支出、領収書、寄付	会計ノート + 領収書写真	会計
受益者記録	氏名、住所、世帯人数、受領援助、日付、署名	紙書式、後にデジタル化	配給責任者
ボランティア記録	氏名、労働時間、タスク	日次出席シート	ボランティアコーディネーター
運用ログ	すべての決定、すべての事象、すべての事故	コーディネーター保管の単一ノート	Disaster Coordinator
写真ファイル	日付・GPS 付き写真	専用携帯または共有クラウド	記録担当
連絡記録	パートナーとの連絡、電話、会議	デジタル登録簿	Coordinator

写真の標準

ルール	詳細
タイムスタンプ	カメラ設定で日時有効化
位置情報	GPS 有効化
文脈	広角 (全体) その後接写 (詳細)
同意	同意なしに被災者の顔を撮影しない
尊厳	遺体、重傷、苦悩する人物を決して撮影しない
整理	1日1フォルダ、日付命名 (例 2026-03-10)
バックアップ	可能な限り早くクラウド (Google Drive、OneDrive)

Stewardship 報告 (TRF)

DRG 受領後、3つの報告が義務 :

報告	期限	内容
予備報告	D+45	開始状況、計画通り進行、最初の支出
中間報告	D+180 (6か月)	進捗、当初計画からの逸脱、受益者数
最終報告	プロジェクト終了時 (最大12か月以内)	完全結果、財務総括、教訓

報告ファイルの構成

1. 要約 (1-2 ページ)
2. 背景 : 災害、規模、被災区域
3. 活動した活動 : 何を、どこで、いつ、誰のために
4. 数値 : 受益者数、配給量、動員ボランティア
5. 財務 : 支出詳細、領収書、残額
6. 写真 : 活動の証拠 (50~100枚を選別)
7. 連携 : パートナー、連携、調整
8. 教訓 : 機能したこと、機能しなかったこと
9. 追加文書 : 受益者リスト、ボランティア記録、領収書

Stewardship の不正リスク

兆候	結果
領収書欠如	申請却下
数値の不一致	信用喪失、地区への影響
受益者の重複	TRF 監査、補助金停止
予算超過	個別の正当化要求
報告遅延	新たな申請のブロック

ドナーへの報告

緊急基金のために寄付した個人ドナー、企業、メディアパートナーへの報告 :

主要な原則

原則	詳細
透明性	「あなたの 10,000円は X、Y、Z をした」
迅速性	期待を裏切らない、約束された頻度を守る
個別化	寄付額に応じた異なる報告

原則	詳細
可視化	写真、グラフ、表
感謝	真摯な、形式的でない
ストーリーテリング	数値だけでなく、ストーリー

報告頻度

ドナータイプ	頻度
小口寄付 (5,000円未満)	月1回のメール、年次完全報告
中口寄付 (5,000~100,000円)	週次更新 (緊急期)、月次 (復興期)
大口寄付 (100,000円超)	個別連絡、必要に応じて現地訪問
企業ドナー	公式報告 + 内部コミュニケーション素材
政府 公的基金	法定形式報告書

メディアへの報告

報告タイミング

タイミング	内容
D+30	第1月次総括
D+90	復興フェーズ移行
D+180	中間総括
D+365	1周年総括
プロジェクト完了時	最終総括、教訓

プレスリリースの構成

第16章で扱った構造に従う。明確な数値、人間の物語、写真、連絡先。

公的アーカイブ - Rotary Showcase

my.rotary.org/showcase で公的にプロジェクトを公開。利点：

- ・ 国際的可視性
- ・ 他クラブのモデルとなる
- ・ 将来の Global Grants 申請の参考
- ・ 国際スポンサーパートナー特定

内部アーカイブ - クラブのアーカイブ

媒体	内容	保管期間
物理ファイル	オリジナル領収書、署名済受益者リスト	7年（税務）
デジタル USB クラウド	写真、登録簿、報告書	永久
AAR (After-Action Report)	振り返り、教訓	永久
内部コミュニケーション	重要メール、決定	5年

個人情報保護

データ	処理
受益者氏名	配給目的のみ、配給後匿名化または削除
受益者住所	同上
健康情報	厳格な機密、配給後削除
写真（識別可能）	書面同意必須
銀行データ（ドナー）	安全な処理、PCI-DSS 準拠プラットフォーム

日本では個人情報保護法の規定を遵守。

クラブの「歴史的記録」

長期的な観点：

- ・ クラブの活動史を文書化
- ・ 将来の世代のためのアーカイブ
- ・ 5年、10年、25年記念
- ・ 地域歴史への貢献

チェックリスト

- 6種類の記録が H+0 から運用中
- 写真標準を全現場ボランティアが理解
- Stewardship 報告（予備、中間、最終）の準備計画
- ドナー報告計画（頻度、形式）
- メディア報告タイミング（D+30、D+90、D+180、D+365）
- Rotary Showcase アカウント準備済
- 内部アーカイブシステム確立
- 個人情報保護プロトコル遵守

文書化はクラブの長期記憶です。文書化しないクラブは1年後にすべてを忘れます。

文書化するクラブは10年後にもまだ学習しています。

第 V
その後 - 再建と前進

第 25
振り返りと改善

振り返りをしないクラブは、同じ過ちを繰り返します。 次の災害で。
 そして次の次の災害で。 振り返りはアドミニストレーションでは なく学習です。
 クラブの集団的知性をスパイラル成長させる行為です。

本章は4つの軸を扱います： 振り返り会の形式、 After-Action Report (AAR) の構造、
 教訓の制度化、 AG での3年任期延長の提案。

振り返り会の形式

タイミング - 30日以内

ロータリーの教義は活動終了から 30日以内 の振り返りを推奨します (第0章参照)。 理由：

- ・ 詳細がまだ新鮮
- ・ 感情が緊急時より落ち着いている
- ・ 教訓を次の備えサイクルに統合する時間 がある

参加者

参加者	役割
クラブ会長	公式議長、最終決定
Disaster Coordinator	運用統合
DRC 委員会 (3名)	各専門領域
主要ボランティア	現場の視点
地区 DRO (招待)	地区視点
主要パートナー (招待)	外部視点

形式

要素	詳細
所要時間	半日 (3~4時間)
場所	中立、邪魔されない
形式	ファシリテートされた議論
心理的安全	「責められない」、「誰のせいかわからない」ではなく「何が起きたか」
文書化	専任の記録担当

議題

1. 要約 (15分) - 何が起きたか、クラブが何をしたか
2. 数値 (15分) - 受益者、ボランティア、財務
3. 何が機能したか (45分) - 成功、強み、肯定的な驚き

4. 何が機能しなかったか (60分) - 失敗、誤り、ギャップ
5. 教訓 (45分) - 何を変えるか、何を保つか
6. 行動計画 (30分) - 具体的、責任者、期限

After-Action Report (AAR) の構造

推奨フォーマット - 5~10ページ

セクション	内容
1. 要約	1ページ、活動の総括
2. 文脈	災害、規模、対応概要
3. 数値	統計表 (受益者、ボランティア、財務)
4. タイムライン	H+0 から終了までの主要イベント
5. 何が機能したか	5~10の具体的成功
6. 何が機能しなかったか	5~10の改善点
7. 教訓	学んだこと、変えるべきこと
8. 推奨事項	計画、訓練、装備、ガバナンス
9. 行動計画	12か月のロードマップ
10. 添付	写真、報告書、領収書サンプル

各教訓のテンプレート

教訓 #X : [タイトル]

何が起きたか :
[事実の記述]

なぜそれが起きたか :
[根本原因分析]

私たちが学んだこと :
[抽出された原則]

私たちが変えること :
[具体的行動]

責任者 : [氏名]

期限 : [日付]

状態 : 計画中 / 進行中 / 完了

教訓の制度化

教訓を AAR に記録するだけでは不十分。それらをクラブの実務に統合する必要があります。

教訓統合プロセス

段階	行動	期限
1	AAR の作成	D+30
2	緊急計画の更新	D+60
3	連絡先名簿の更新	D+30
4	棚卸しの更新	D+60
5	改訂された計画を訓練	D+90
6	改訂された計画をテスト（机上演習）	D+120
7	教訓のクラブへの公式提示	D+180
8	地区への AAR の共有	D+60
9	DNA-RAG への AAR の共有	D+60
10	Rotary Showcase での公開	D+180

クラブ AAR ライブラリ

- ・ すべての過去の AAR を保管
- ・ 新会員のオリエンテーションに使用
- ・ 次世代の学習基盤

3年任期の AG (Assembly General) での延長

これは Rotary 文化の固有な点です : Disaster Coordinator の任期は通常1年です。しかし災害対応には継続性が必要です。

提案 - 3年任期

段階	行動
1	クラブの AG (年次総会、通常6月) に提案を提出
2	議論 1年 vs 3年
3	賛成決議で投票
4	規約改訂
5	次の Coordinator を3年で任命

3年任期の利点

利点	詳細
継続性	DRO、 パートナー、 訓練の知識
学習	経験は2年目から始まる
信用	地区とパートナーとの長期関係
ROI	訓練 (GMS、 防災士、 PFA) が複数年活用される
戦略	多年度プロジェクト (グローバル補助金) の管理

モデル決議 (AG)

2026～2027年度 [都市] ロータリークラブ年次総会

決議第X号 - Disaster Coordinator 任期の3年化

考慮事項：

- 災害対応の備えと運営には長期的な専門性が必要
- 年次任期では継続性が確保されない
- 地区との関係構築には時間を要する
- 訓練投資 (GMS、 防災士、 PFA) は1年では回収困難

決議：

[都市] ロータリークラブの Disaster Coordinator の任期を、1年から3年 (連続再選可能) に変更する。

採決：

賛成： ___

反対： ___

棄権： ___

採択日： ___/___/___

署名： 会長 _____ 幹事 _____

地区への AAR 共有

各 AAR を地区 DRO に送信。地区が集合的な「教訓ライブラリ」を構築可能。

地区への提案 - 地区 AAR

段階	行動
1	DRO が地区内の全クラブ AAR を集約
2	地区 AAR の作成 (10～20ページ)
3	地区会議での提示
4	ゾーンへの共有

段階	行動
5	DNA-RAG への共有
6	RI Rotary Showcase での公開

DNA-RAG への寄与

AAR は DNA-RAG の集合的知識基盤を支えます。教訓は世界中の他クラブに利用されます。

Rotary Showcase への公開

my.rotary.org/showcase で活動を公開：

- ・ 写真
- ・ 数値
- ・ 物語
- ・ パートナー
- ・ 教訓

利点：

- ・ 国際的可視性
- ・ 将来の Global Grants 申請のモデル
- ・ 国際スポンサーパートナー特定

5年・10年振り返り

長期的視点：

- ・ 5年振り返り：地区イベント
- ・ 10年振り返り：文書化された歴史
- ・ 25年振り返り：地域歴史への貢献

振り返りの落とし穴

落とし穴	結果	解決策
振り返りを行わない	教訓喪失	30日以内のスケジュール厳守
「責められない」を守らない	緊張、引きこもり	心理的安全強調
教訓を統合しない	同じ過ちが繰り返される	60日以内の計画更新義務
共有しない	集合的学習なし	地区、DNA-RAG への送信義務
ボランティアの感謝なし	燃え尽き、離脱	公式感謝、記念品

チェックリスト

- AAR D+30 までに作成
- AAR テンプレートが利用可能
- 振り返り会の心理的安全プロトコル
- 教訓統合計画 (D+60~D+180)
- 地区 DRO への AAR 送信
- DNA-RAG への AAR 送信
- Rotary Showcase への公開
- 3年 Coordinator 任期の AG 提案

学習しないクラブは衰退します。 学習するクラブはレジリエンスを構築し ます。
振り返りは贅沢ではなく、 継続的改善のエンジンです。

第 VI
災害カード

第 26

災害カード - 迅速参照のための20種類

使用法 : 各カードは2ページに収まります。 お住まいの地域のリスクに対応するものを印刷してください。 危機時には、 カードを開き、 行動を順序通りに実行してください。 読まないでください、 実行してください。

日本語版固有の注記 : 各カードに日本固有の参照（気象庁警報、 緊急地震速報、 J-Alert、 内閣府防災担当、 自衛隊災害派遣、 DMAT、 ハザードマップ、 避難場所、 避難所等）を統合しています。

20カード一覧

カードは6家族に分類。 各コード（A1、 B2 等）は対応するカードを次ページに参照。

家族A - 地球物理学的

コード	種別	警報速度
A1	地震	緊急地震速報（数秒～数十秒）、 警報なしの場合あり
A2	津波	数分～数時間
A3	火山噴火	数時間～数日（噴火警戒レベル）
A4	土砂災害	数時間、 警報なしの場合あり

家族B - 気象学的

コード	種別	警報速度
B1	台風 サイクロン ハリケーン	3～7日
B2	洪水	数時間～数日
B3	寒波 豪雪	1～3日
B4	熱波 猛暑	2～7日

家族C - 気候 / 環境

コード	種別	警報速度
C1	干ばつ	数週間～数か月
C2	森林火災	数時間、 数分の場合あり

家族D - 産業 / 技術

コード	種別	警報速度
D1	産業爆発 HAZMAT 事故	即時、 警報なし
D2	原子力 放射線事故	数分～数時間
D3	大規模停電（ブラックアウト）	即時、 警報なし
D4	大量輸送事故	即時、 警報なし
D5	建物倒壊（技術的起因 欠陥、 老朽、 過載）	即時、 警報なし

家族E - 衛生

コード	種別	警報速度
E1	感染症 パンデミック	数日～数週間

家族F - 人為 / 社会

コード	種別	警報速度
F1	戦争 武力紛争	変動、しばしば予測可能
F2	難民 大量避難	数日～数週間
F3	食糧危機 飢餓	数週間～数か月
F4	複合多重危機	変動

助言 : 20カードすべてを印刷しないでください。第3章であなたの地域にマッピングされたりスクに対応する4~6カードのみを印刷し、クラブの緊急キットに収めてください。

<! pagebreak >

A1 - 地震

コード	A1、家族A 地球物理学
速度	緊急地震速報（数秒～数十秒）、または警報なし
予告	緊急地震速報（気象庁）
期間	秒（本震）+ 数日～数週間（余震）
被害区域	局所～広域、構造的な主要被害、ネットワーク断絶

事前 - 固有の備え

- ・ 耐震基準前のクラブ建物を特定
- ・ 飲料水備蓄 : 1人1日3 L × 72時間 + 非常食
- ・ 普通救命講習を2名以上に受講させる
- ・ 集合場所は開けた空間、建物から離れる
- ・ 会員ネットワークから構造技師を事前特定
- ・ ハザードマップ（J-SHIS、自治体）で活断層と想定震源を確認

最初の6時間 - 即時行動

- ・ 緊急地震速報受信 → 頑丈な机の下に身を隠す
- ・ 揺れが収まるまで動かない
- ・ 揺れが収まったら、安全な開けた空間に避難
- ・ call-down list を安全な開けた空間から発動
- ・ 亀裂のある建物に決して入らない、余震は警告なし
- ・ 集合場所に集まり、出席/不在会員を点呼

- ・ 外部から損害を評価（倒壊、ガス漏れ、火災）
- ・ アクセス可能で安全ならガスと電気を遮断
- ・ SMS で会長と Disaster Coordinator に警報（音声網は飽和）
- ・ 地区に通知：規模に応じて DCA-2 または DCA-1、DRG 準備

重要な落とし穴

- ・ 余震：立っている建物が余震で倒壊し得ます。構造点検なしに、財物回収のためでも決して入らない。
- ・ 瓦礫への殺到：訓練を受けていないボランティアは USAR チームを妨害します。当局の指示を待つ。
- ・ 水道水：損傷した配管は汚染水を意味します。衛生証明まで、ペットボトル水または処理水のみ配給。

フェーズ別行動

72時間	安定化（3～14日）	復興（2週間～6か月）
開けた空間でペア区域評価	集合炊き出し	軽微再建（屋根、非構造修繕）
倒壊、寸断道路を地図化	構造評価待機リスト （技師ボランティア）	政府援助への家族案内
緊急飲料水配給 （配管しばしば切断）	ボランティアローテーション （身体・心理的疲労）	耐震基準の学校・診療所再建のグローバル補助金
屋外シェルター （ShelterBox、 ブルーシート）、 点検なし再入居なし	安全区域なら瓦礫処理支援	TRF stewardship のための写真・財務ドキュメンテーション
DRG（25,000 USD） を迅速評価報告と共に開始	心理ショック状態の人への心理 支援	
ShelterBox （シェルターキット）+ WASH-RAG（仮設トイレ） に連絡	DRG または Global Grant 調整のための中間報告	

ロータリーツール

ツール	用途	期間
DRG（25,000 USD）	水、シェルター、緊急食料	48～72時間
ShelterBox	テントと家族用生存キット	D+1 から
WASH-RAG	緊急飲料水、仮設トイレ	D+1 から

ツール	用途	期間
DNA-RAG	調整と技術専門性	即時
Global Grant	学校 診療所再建	3~6か月

日本固有の情報

- ・ 緊急地震速報（気象庁）：テレビ、ラジオ、携帯電話、防災無線で発信
- ・ 震度階級（気象庁、0、1、2、3、4、5弱、5強、6弱、6強、7）
- ・ 主要参照：気象庁（jma.go.jp）、内閣府防災担当
- ・ 大規模時：自衛隊災害派遣（都道府県知事の要請経由）、DMAT 派遣

<! pagebreak >

A2 - 津波

コード	A2、家族A 地球物理学
速度	極めて速い（波 沖合 500~800 km/h、沿岸近くで 30~50 km/h、NOAA）
予告	15~30分（遠地）~ゼロ（近地）
期間	2~8時間（3~7波の連続）
被害区域	沿岸、低地完全破壊、淡水の塩水汚染

事前 - 固有の備え

- ・ 津波浸水想定区域を把握（公式ハザードマップ）
- ・ 各集合場所から高台への避難経路
- ・ 地元津波警報信号を会員に訓練（サイレン、エリアメール）
- ・ 飲料水ペットボトル備蓄を高所に事前配置

最初の6時間 - 即時行動

- ・ 津波警報または海洋地震を感じたら：即時に高台に避難、公式確認なしで
- ・ 海を見に行かない、海の引きは波の前触れ
- ・ 集合場所は高所：海拔 30 m 以上、または 1.5~3 km 沿岸から（地形により）
- ・ 第1波後、自治体の警報解除まで 低地に戻らない（数時間、時に1日以上、シリーズは 2~8時間）
- ・ 高台から call-down list を発動
- ・ 地区に警報：大災害の可能性、DRG 事前申請

重要な落とし穴

- ・ 致命的な好奇心 : 海岸から海の引きを観察することは死を 意味します。高さや距離が唯一の保護。
- ・ 早すぎる帰還 : (より目立たない) 第2波が、 第1波後に戻った救助者を殺しました。
- ・ 井戸水 : 透明でも、 沿岸水は数週間塩と病原体で汚染されます。

フェーズ別行動

72時間	安定化 (3~14日)	復興 (2週間~6か月)
自治体による退水確認後の被害評価	避難者向け食料配給	公式調査なしに沿岸低地で再建しない
飲料水ペットボトル絶対優先 (沿岸井戸塩水化)	安全 乾燥区域の瓦礫処理支援	高所インフラ再建の Global Grant
配給拠点は浸水ゾーン外の高所	失われた公的書類の回復	漁民の船舶・装備の再構築
高所での沿岸避難者受入	半永久浄水 (WASH-RAG)	地元学校での津波教育
WASH-RAG 緊急淡水ソリューション	疫学監視 (レプトスピラ症、 コレラ)	
ShelterBox を家族のため		

ロータリーツール

ツール	用途	期間
DRG (25,000 USD)	飲料水、 シェルター、 食料	48~72時間
WASH-RAG	飲料水、 浄水	D+1 から
ShelterBox	避難家族のシェルター	D+2 から
Global Grant	リスクゾーン外での再建	3~6か月

日本固有の情報

- ・ 津波警報 (気象庁) : 大津波警報、 津波警報、 津波注意報
- ・ 主要参照 : 気象庁 (jma.go.jp)、 内閣府防災担当
- ・ 重要な歴史的事例 : 東日本大震災 (2011)、 津波碑、 津波到達点石碑
- ・ 主要なヒント : 高台への避難経路を平時に複数確認

<! pagebreak >

A3 - 火山噴火

コード	A3、家族A 地球物理学
速度	変動（緩慢～爆発的）
予告	数時間～数週間（前兆 微小地震、ガス放出）
期間	数日～数年
被害区域	局所～広域、溶岩、火砕流、火山灰、有毒ガス（SO ₂ 、CO ₂ ）

事前 - 固有の備え

- ・ 公式避難計画と立入禁止ゾーンを把握
- ・ FFP2 / N95 マスク備蓄（灰 → 珪肺症）
- ・ 農業会員の作物と家畜を特定
- ・ ペットボトル水備蓄（灰により雨水が酸性化）

最初の6時間 - 即時行動

- ・ 火山学当局の避難命令に議論なしに従う
- ・ 立入禁止ゾーンの避難で脆弱者を支援
- ・ 避難前に FFP2 / N95 マスクを配布
- ・ 雨戸、ドア、換気を閉じる（灰の侵入を遅らせる）
- ・ 動物を連れて行くか解放、彼らのために残らない
- ・ call-down list を区域外の安全地帯から発動
- ・ 地区に警報：期間が長い可能性、D+1 から DRG

重要な落とし穴

- ・ 早すぎる帰還：立入禁止ゾーンは科学的。火砕流：200～1,000 °C、平均 ~100 km/h、極端な場合 700 km/h まで (USGS)。生存の可能性なし。
- ・ 不十分なマスク：外科用マスクは微細灰をブロックしません。FFP2 / N95 のみが PM2.5 を含む 0.3 μm 粒子の少なくとも 94% をろ過します。
- ・ 期間の過小評価：数か月の避難なのに「数日」の宿泊を計画。週2から Global Grant の構築。

フェーズ別行動

72時間	安定化 (3日～数か月)	復興 (噴火後)
避難者宿泊センター (数日でなく数週間)	ボランティアチームのローテーション (噴火 = 数か月)	建物の汚染除去 清掃
全員と風下住民にマスク	屋根の灰清掃 (10 cm 超で倒壊)	水 灌漑システムの Global Grant
ペットボトル水 (灰は開放貯水池を汚染)	連続飲料水 (各雨で再汚染)	農業者の生計多様化
水容器と給水タンクをカバー	心理支援 持続的不確実性	段階的で安全な帰還
避難家畜の管理	農業者支援 (残存作物、損失)	
ShelterBox 数週間の避難者	Global Grant のための地区報告	

ロータリーツール

ツール	用途	期間
DRG (25,000 USD)	マスク、水、避難者シェルター	48～72時間
ShelterBox	持続的避難者宿泊	D+2 から
Global Grant	噴火後の水インフラ	3～6か月
ESRAG	土壌修復	中期

日本固有の情報

- ・ 噴火警戒レベル (気象庁) : レベル1～5
- ・ 主要参照 : 気象庁 (jma.go.jp)、内閣府防災担当、火山噴火予知連絡会
- ・ 主要活火山 : 富士山、桜島、阿蘇山、雲仙岳、御嶽山、有珠山、十勝岳、北海道駒ヶ岳
- ・ 重要な歴史的事例 : 御嶽山 (2014)、雲仙普賢岳 (1991)、有珠山 (2000)

<! pagebreak >

A4 - 土砂災害

コード	A4、家族A 地球物理学
速度	即時
予告	なし (前兆あり得 地面の亀裂、傾いた木、濁った水)
期間	秒 (本体) + 24～72時間の二次リスク
被害区域	局所、斜面、農村および都市の脆弱区域

事前 - 固有の備え

- ・ 斜面に住む / 働く会員を特定

- ・ 前兆を知る：地面の亀裂、傾いた木、濁った水
- ・ 特定された危険区域の迅速避難計画
- ・ ハザードマップ（土砂災害警戒区域、特別警戒区域）を確認

最初の6時間 - 即時行動

- ・ 公式救助を優先的に警告（GPS 位置）
- ・ 安全境界：不安定な斜面と泥地から距離を保つ
- ・ 影響を受けた可能性のある会員特定のため call-down list
- ・ 泥地に専用装備なしに 入らない、埋没リスク
- ・ 埋没者の位置特定で当局と調整
- ・ 地区に警報：規模に応じた DCA、DRG 準備

重要な落とし穴

- ・ 罨としての泥：生コンクリートのように密。ボランティアは数秒で沈み込みます。決して単独で、決して命綱なしで。
- ・ 二次土砂：本体後 24~72時間、斜面は不安定なまま。新たな雨 = 新たな崩壊。
- ・ 拙速再建：公式地質調査なしに元の場所で決して再 建しない。

フェーズ別行動

72時間	安定化（3~14日）	復興
斜面外の安全区域での緊急宿泊	当局監督下での主要道路瓦礫処理	地質調査なしに再建しない
飲料水（地元水源は濁り 汚染）	残留地盤安定性評価	安定地盤への家族再配置 Global Grant
行方不明者リストのコミュニケーション	心理支援 死別、家屋喪失	斜面の再森林化 安定化 (ESRAG)
公式捜索隊のロジ支援	DRG ドキュメンテーション 写真、家族、損失	危険区域建設基準の擁護
気象監視 雨 = リスク増		

ロータリーツール

ツール	用途	期間
DRG (25,000 USD)	宿泊、水、ロジ	48~72時間
Global Grant	再配置、再森林化	3~6か月
ESRAG	斜面安定化、再森林化	中期

日本固有の情報

- ・ 土砂災害警戒情報（気象庁・都道府県）：大雨警報後に発表
- ・ 主要参照：気象庁（jma.go.jp）、国土交通省、各都道府県防災部局
- ・ ハザードマップ：自治体の土砂災害警戒区域・特別警戒区域（レッドゾーン・イエローゾーン）
- ・ 重要な歴史的事例：広島土砂災害（2014、2018）、長野・松本（2014）、九州北部豪雨（2017）

<! pagebreak >

B1 - 台風 / ハリケーン / サイクロン

コード	B1、家族B 気象学
速度	段階的（接近）その後急変（上陸）
予告	3～7日
期間	12～48時間（通過）+ 数日～数週間（結果）
被害区域	広域、風 > 120 km/h、高潮、沿岸・内陸洪水

事前 - 準備（警報時、D-3 ～ D-7）

- ・ 台風警報時にクラブ緊急計画を即座に発動
- ・ 地区に即座に連絡：上陸前に DRG 申請可能（唯一の事例）
- ・ DNA-RAG と ShelterBox に通知（備蓄事前配置）
- ・ クラブ施設を確保、物資事前配置（水、ブルーシート、チェーンソー、発電機）
- ・ 沿岸・浸水区域の会員特定と連絡

最初の6時間 - 嵐の間 + 上陸後

- ・ 公式警報終了まで屋内にとどまる、目の間にも外に出ない
- ・ Disaster Coordinator との SMS、ラジオ聴取維持
- ・ 警報解除後：EPI 着用ペアで損害評価
- ・ タープ（屋根被覆）絶対優先：次の雨前に損傷屋根をカバー
- ・ 循環道路の瓦礫処理（木、瓦礫）
- ・ 最も被災した世帯に水、食料、ブルーシート配給
- ・ DRG 発動のため地区に報告

重要な落とし穴

- ・ 台風の日：15～60分の小止み。嵐が反対方向に再開。多くの犠牲者がこの静けさの間に外出。

- ・ 屋根が最初 : タープが他のほぼすべてより緊急。
遅延1時間ごとに内部損害が不可逆的に悪化。
- ・ 電線 : 倒れた電柱と地面の電線は通電状態のまま。決して近づかない。

フェーズ別行動

72時間	安定化 (3~14日)	復興 (2週間~6か月)
地区別ニーズ棚卸し 屋根、水、電気	集合炊き出し (ガス・電気なし)	保険 政府援助案内
発電機用燃料 (冷蔵、 酸素療法)	DAUSA (米国) または同等の地元組織との muck & gut	インフラ再建の Global Grant
ブルーシート/水/食料配給	脆弱家族用発電機	耐風建設訓練
	仮設修理 (窓、ドア、屋根)	前後写真の完全 stewardship
	48~72時間ごとのボランティアローテーション	

ロータリーツール

ツール	用途	期間
DRG (25,000 USD)	上陸前後	事前申請可能
ShelterBox	ブルーシート、テント、生存キット	D+1 から
DAUSA	Muck & gut、瓦礫処理 (USA)、または日本の同等組織	D+3 から
DNA-RAG	技術調整	即時
Global Grant	インフラ再建	3~6か月

日本固有の情報

- ・ 台風警報 (気象庁) : 暴風警報、暴風特別警報、土砂災害警戒情報、洪水警報
- ・ 主要参照 : 気象庁 (jma.go.jp)、内閣府防災担当、各都道府県防災
- ・ 重要な歴史的事例 : 令和元年東日本台風 (ハギビス、2019)、令和2年7月豪雨、伊勢湾台風 (1959)
- ・ 日本の特殊性 : 線状降水帯予測情報 (2022年から運用)、流域治水

<! pagebreak >

B2 - 洪水

コード	B2、 家族B 気象学
速度	急（急流 数分）または緩（平野氾濫 数日）
予告	種別による数分～数日
期間	数時間～数週間
被害区域	局所～広域、 地下水汚染、 疫学的リスク

事前 - 固有の備え

- ・ 浸水区域居住会員特定（ハザードマップ）
- ・ 浄水タブレット、 携帯フィルター備蓄
- ・ 介入チーム用洞長靴と手袋
- ・ 1階 / 地下居住者特定で予防避難

最初の6時間 - 即時行動

- ・ 特定済み浸水区域からの予防避難、 水位上昇前
- ・ 徒歩で決して横断しない： 15 cm の流水で成人が流される
- ・ 車で決して横断しない： 60 cm の水で車両は流される
- ・ 浸水中住宅の電気を切断
- ・ 脆弱者（高齢者、 PMR、 乳児）を階上 / 高所へ
- ・ 高所安全区域から call-down list
- ・ 地区に警報： 規模に応じた DCA

重要な落とし穴

- ・ 洪水水 = 有毒： 下水、 化学物質、 鋭い瓦礫、 病原体。 接触 = 完全防護（長靴、 手袋、 開放創傷なし）。
- ・ 早期帰還： 飽和で脆弱化した構造、 短絡、 有毒カビ発生。
- ・ レプトスピラ症： 洪水水のげっ歯類尿、 致命的。 曝露後 2～30日に症状。

フェーズ別行動

72時間	安定化（3～14日）	復興
緊急飲料水 ペットボトルまたは処理水	建物の排水 乾燥	再入居前の住居完全消毒
高所集合場所 + 家族登録	大規模浄水	損害評価支援（保険）
ボート利用可能なら孤立者避難	住居清掃 消毒（泥、 カビ）	水 衛生システム Global Grant
衛生当局との疫学監視	レプトスピラ症監視（発熱 + 痛み）	再森林化、 コミュニティ堤防 (ESRAG)

72時間	安定化（3～14日）	復興
衛生キット（石けん、ゲル、塩素タブレット）	井戸 給水拠点消毒 (WASH-RAG)	
水、衛生、シェルターの DRG		

ロータリーツール

ツール	用途	期間
DRG (25,000 USD)	飲料水、衛生、シェルター	48～72時間
WASH-RAG	浄水、衛生	D+1 から
Global Grant	水/衛生インフラ	3～6か月

日本固有の情報

- ・ 洪水警報、特別警報、氾濫危険情報（気象庁・河川管理者）
- ・ 主要参照：気象庁、国土交通省、河川防災情報、ハザードマップポータルサイト
- ・ 重要な歴史的事例：令和元年東日本台風（千曲川、阿武隈川氾濫）、令和2年7月豪雨（熊本県球磨川）、伊勢湾台風

<! pagebreak >

B3 - 寒波 / 豪雪

コード	B3、家族B 気象学
速度	段階的
予告	24～72時間
期間	数日～数週間
被害区域	広域、低体温、凍傷、CO 中毒、ネットワーク断

事前 - 固有の備え

- ・ 緊急ブランケット、フリース、防寒着備蓄（各サイズ）
- ・ クラブ区域の一人暮らし高齢者地図化
- ・ 温暖室として暖房された施設特定（集会所、体育館、会員企業）
- ・ 「寒さ」キット：温かい飲み物水筒、湯たんぽ、ブランケット、手袋、帽子
- ・ 一酸化炭素 (CO) 危険の啓発

最初の6時間 - 寒さの到来

- ・ 地元危険閾値到達次第、温暖センター開設
- ・ 近隣ネットワーク：各会員が5名の高齢/孤立隣人に電話

- ・ ホームレスと脆弱者に温かいキット配給
- ・ 孤立者を暖房センターへ輸送
- ・ 体系的 CO 警報：発電機を屋内で決して使わない、暖房としてバーベキューも

重要な落とし穴

- ・ 静かな CO：無臭、無色、致命的。閉鎖空間でのあらゆる燃焼装置（発電機、バーベキュー、火鉢）の絶対禁止。
- ・ 高齢者：体温調節は加齢で劣化。震えも訴えもなく低体温になり得ます。
- ・ 凍結配管：破裂が解凍時に水害を引き起こします。修理を予測。

フェーズ別行動

72時間	安定化（寒波継続）	寒波後
24時間ローテーションで暖房センター常駐	脆弱者の毎日確認継続	宿泊者の安全な帰宅
温かい食事配給（スープ、飲み物）	消防 救急との低体温調整	水害修理（凍結破裂配管）
脆弱者の毎日確認（朝 + 夕）	暖房なし家族支援 代替宿泊	曝露された高齢者の心理評価
凍結配管の緊急修理支援		

ロータリーツール

ツール	用途	期間
DRG (25,000 USD)	暖房資材、宿泊	48～72時間
会員ネットワーク	暖房施設、輸送	即時

日本固有の情報

- ・ 大雪警報、暴風雪警報、なだれ注意情報（気象庁）
- ・ 主要参照：気象庁、国土交通省、各都道府県防災
- ・ 重要な歴史的事例：北海道胆振東部地震（2018）のブラックアウト（冬）、平成18年豪雪、令和2年豪雪（関越自動車道）

<! pagebreak >

B4 - 熱波 / 猛暑

コード	B4、 家族B 気象学
速度	段階的
予告	24～72時間
期間	数日～数週間
被害区域	広域、 高齢者・乳児・慢性病者の沈黙死

事前 - 固有の備え

- ・ 一人暮らし高齢者と非冷房住居を地図化
- ・ 冷房施設を冷房センターとして特定
- ・ ペットボトル水、 ミスト、 扇風機備蓄
- ・ 熱中症の兆候を知る： 混乱、 乾いた / 熱い皮膚、 意識喪失

最初の6時間 - 警報閾値超過時

- ・ 冷房センター（クラブ / 会員の冷房施設）を開設
- ・ 近隣ネットワーク： 孤立高齢者への電話または訪問（朝と夕）
- ・ 移動不能脆弱者に飲料水配給
- ・ 指示再確認： 喉が渇く前に飲む、 日陰にとどまる、 暑い時間の運動を避ける
- ・ 投薬中のリスク者を特定

重要な落とし穴

- ・ 沈黙の死： 熱中症による夜間の死、 換気の悪い住居。 被害者は援助を求めません。 物理的訪問が不可欠。
- ・ 悪化させる薬： 利尿剤、 降圧剤、 抗うつ剤、 抗パーキンソン薬は体温調節を変えます。 投薬中の人 = 非常に高リスク。
- ・ 冷却なしの夜： 夜間気温が死亡率の最も決定的要因。

フェーズ別行動

暑さのピーク	安定化	暑波後
冷却センター常駐 + ボランティアローテーション	脆弱者監視継続	入院者 死者の集計、 地区報告
冷たい 軽食事（調理の労力を避ける）	衛生当局 救急との調整	死別家族支援
脆弱者をセンターへ輸送	夜間監視強化	断熱、 換気、 緑化の擁護

ロータリーツール

ツール	用途	期間
DRG (25,000 USD)	水、扇風機、輸送	48～72時間
会員ネットワーク	冷房施設、ボランティア	即時

日本固有の情報

- ・ 熱中症警戒アラート（環境省・気象庁、2021年から運用）
- ・ 主要参照：気象庁、環境省、厚生労働省
- ・ 重要な歴史的事例：2018年熊谷市 41.1° C、2020年浜松市 41.1° C、2022年伊勢崎市
- ・ 日本の特殊性：高齢化社会 → 熱中症死者の大半が65歳以上、自宅内

<! pagebreak >

C1 - 干ばつ

コード	C1、家族C 気候進行性
速度	非常に緩（数週間～数か月）
予告	進行的指標（植生指数、地下水位）
期間	数か月～数年
被害区域	広域、食料、水、家畜、農村経済、子どもの栄養

事前 - 早期警報指標

- ・ 植生指数と地下水位を追跡（公式指標）
- ・ 脆弱農業コミュニティを特定
- ・ 地元獣医サービス連絡（第一信号：家畜の死）

最初の兆候時 - 即時行動

- ・ 食料・水不安世帯評価（現地訪問）
- ・ 不足村への飲料水配給（給水車、市役所と調整）
- ・ 対象食料配給：5歳未満児童、妊婦 / 授乳婦、高齢者
- ・ 干ばつ適応種子の農業者支援
- ・ > 100世帯被災時、地区に DRG 警報
- ・ 持続可能水ソリューションのため WASH-RAG に連絡

重要な落とし穴

- ・ 待ちすぎ : 子どもの慢性栄養不良は認知発達に不可逆の後遺症を引き起こします。最初の兆候から行動。
- ・ 対象なしの配給 : 対象なし配給は最も脆弱者にめったに届きません。優先世帯をコミュニティと共に特定。
- ・ 家畜の軽視 : しばしば農村世帯の経済全体。家畜の死は飢餓を加速させます。

フェーズ別行動

進行フェーズ	悪化フェーズ	復興
村への緊急飲料水	Food for Work 食料で報酬	雨水回収 (タンク、堤)
対象食料 (子ども、妊婦)	家畜緊急獣医支援	節水農業訓練 (滴下灌漑)
干ばつ適応種子	都市への移動監視 (悪化信号)	劣化区域再森林化 (ESRAG)
> 100家族で DRG	ボーリング タンク Global Grant	脆弱区域データベース
WASH-RAG 水ソリューション		

ロータリーツール

ツール	用途	期間
DRG (25,000 USD)	緊急水と食料	48~72時間
Global Grant	ボーリング、タンク、灌漑	3~6か月
WASH-RAG	持続的水ソリューション	中期
ESRAG	再森林化、気候レジリエンス	中期

日本固有の情報

- ・ 日本では大規模干ばつは稀ですが、近年瀬戸内海地域 (香川、徳島、岡山等) で水資源不足が問題化
- ・ 主要参照 : 国土交通省水資源部、各都道府県水道部局

<! pagebreak >

C2 - 森林火災

コード	C2、家族C 環境
速度	非常に速い (数時間で数百ヘクタール)
予告	数分~数時間
期間	数時間~数週間 + 24~48時間の再燃
被害区域	局所~広域、財物完全喪失、長距離有毒煙

事前 - 固有の備え

- ・ FFP2 / N95 マスク備蓄（煙 = 微細粒子 + 有毒化合物）
- ・ 森林・住居界面区域の会員特定
- ・ 副次避難経路（主要経路しばしば塞がれる）を把握

最初の6時間 - 即時行動

- ・ 最初の公式警報で即時避難、火を見るまで待たない
- ・ 物資集めの時間をかけない、即時退去
- ・ 窓とドアを閉める（煙と火花を遅らせる）
- ・ 退去した建物のガスを遮断
- ・ 煙が見えたら FFP2 マスク着用
- ・ 区域外の安全地帯から call-down list
- ・ 地区に警報

重要な落とし穴

- ・ 炭化した建物：熱がコンクリートと金属を脆弱化。鎮火後数時間で倒壊し得ます。構造評価なしに決して入らない。
- ・ 有毒物質：火災はアスベスト、重金属、有毒物質を放出。灰は防護なしの取扱いが危険。
- ・ 再燃：鎮火宣言された火は風で 24~48 時間後に再燃し得ます。早期に危機終了を発表しない。

フェーズ別行動

72時間	安定化	復興
避難者緊急宿泊センター（期間数週間）	構造評価なしに焼けた建物に戻らない	集合機材再建の Global Grant
マスク（鎮火後数日煙が続く）	呼吸器疾患ケア支援	適応再森林化 （より燃えにくい種、ESRAG）
飲料水（溶けた灰汚染された網）	区域別帰宅許可で当局調整	予防的下草刈り訓練
失われた書類回復（戸籍、保険）	行政支援 災害、政府援助	
心理支援 全財産喪失 = 重大ショック		

ロータリーツール

ツール	用途	期間
DRG (25,000 USD)	シェルター、マスク、水	48～72時間
ShelterBox	避難者宿泊	D+2 から
ESRAG	適応再森林化	中期
Global Grant	集合再建	3～6か月

日本固有の情報

- ・ 日本では大規模森林火災は比較的稀ですが、近年増加（岩手県大船渡 2017、栃木県足利 2021、岡山県津山 2024）
- ・ 主要参照：林野庁、消防庁、各都道府県山林部局

<! pagebreak >

D1 - 産業爆発 / HAZMAT 事故

コード	D1、家族D 技術
速度	即時（爆発）+ 雲の伝播（数時間）
予告	なし
期間	数時間～数日（残留汚染 数週間）
被害区域	局所、見えない化学的 生物学的 放射線の汚染区域

事前 - 固有の備え

- ・ リスク産業サイト（高圧ガス、燃料倉、化学工場）を特定
- ・ 地元災害対策計画を把握
- ・ 会員特定：医師、看護師、消防団員、化学技師

最初の6時間 - 即時行動

- ・ 区域から退去、有毒雲は風下に流れる
- ・ 「助ける」ため近づかない：専門 EPI なしに、各救助者 = 追加の被害者
- ・ 雲接近時の屋内退避：窓を閉める、換気停止
- ・ 当局指示（専門消防、救急）のみ従う
- ・ 危険区域内会員特定のため call-down list
- ・ 地区に警報

重要な落とし穴

- ・ 救助反射：HAZMAT で助けに駆けつける本能は死に至ります。専門当局を待つ。

- ・ 二次汚染：区域から出た人は近づく前に除染必要。介助者へのリスク。
- ・ 見えない雲：一部化学物質は無臭・無色。感覚ではなく公式測定のみ信頼。

フェーズ別行動

72時間	安定化	復興
区域外避難者受入 宿泊	安全区域帰還調整	長期心理支援
水、食料、衛生配給	経済的影響家族支援	産業安全擁護
被害家族の心理支援	曝露者医療フォローアップ	
検証された公式情報のみ中継		
会員医師 避難者医療支援		

ロータリーツール

ツール	用途	期間
DRG (25,000 USD)	避難者宿泊、食料	48～72時間
会員ネットワーク	医師、ロジスティクス	即時

日本固有の情報

- ・ 主要参照：消防庁、経済産業省、厚生労働省、各都道府県防災・環境部局
- ・ 関連法令：高圧ガス保安法、消防法、災害対策基本法

<! pagebreak >

D2 - 原子力 / 放射線事故

コード	D2、家族D 技術
速度	段階的（放出は数日続く）
予告	変動（事故種別による数分～数時間）
期間	数日（事故）、数年（汚染、避難）
被害区域	広域、見えない汚染、長期避難（例 福島 > 15年）

事前 - 固有の備え

- ・ 半径 20 km (FR PPI 避難ゾーン) ～ 80 km (拡張摂取ゾーン、米国 NRC EPZ 相当) 内の原子力施設・放射性サイトを把握
- ・ 安定ヨウ素剤配布計画を把握（自治体）
- ・ ゾーンによる退避（屋内退避）vs 避難の手順を把握

最初の6時間 - 公式発表後

- ・ 推奨されれば即時屋内退避：開口部を閉じる、換気停止、屋内にとどまる
- ・ 当局が配布したら安定ヨウ素剤服用（甲状腺保護）
- ・ 評価のため外出しない、放射線汚染は感知できない
- ・ 命令されたら避難：公式経路のみ
- ・ 屋内退避場所から SMS で call-down list

重要な落とし穴

- ・ 安定ヨウ素 vs 放射性ヨウ素：ヨウ素剤は曝露前または直後に服用する必要があります。甲状腺のみを保護、他の放射性核種は保護しない。
- ・ 早すぎる正常化：まだ汚染された区域での早期帰還への政治的 / 経済的圧力。公式線量データのみに従う。
- ・ 地元食料：当局が安全と認定するまで水、野菜、ミルクを消費しない。

フェーズ別行動

72時間	安定化	長期（数か月～数年）
安全宣言区域避難者支援のみ	検証された情報のみ (誤情報 = 危険)	持続的心理支援（生活場所の喪失）
認定されない地元食料を配給しない	家族への行政支援	被曝住民の医療フォローアップ Global Grant
心理支援 見えない汚染への恐怖		避難コミュニティの教育プロジェクト
		補償支援

ロータリーツール

ツール	用途	期間
DRG (25,000 USD)	安全区域避難者支援	48～72時間
Global Grant	長期医療フォローアップ	3～6か月

日本固有の情報

- ・ 福島第一原子力発電所事故（2011）：主要な歴史的事例。15年経過してもなお被災者は帰還できず、汚染水処理問題が継続。
- ・ 主要参照：原子力規制委員会、内閣府原子力防災担当、各都道府県防災部局

<! pagebreak >

D3 - 大規模停電 (ブラックアウト)

コード	D3、 家族D 技術
速度	即時
予告	なし (嵐、 サイバー攻撃、 カスケード故障)
期間	数時間～数日
被害区域	局所～広域、 全システム影響 水、 暖房 冷房、 医療、 通信、 コールドチェーン

事前 - 固有の備え

- ・ 電気医療機器 (透析、 人工呼吸器、 インスリン冷蔵) 依存会員 / 近親者を特定
- ・ 会員所有発電機を把握
- ・ 発電機装備可能なコミュニティセンター を特定
- ・ ランプ、 電池、 ロウソク備蓄

最初の6時間 - 即時行動

- ・ 生命維持優先 : 医療機器 (透析、 人工呼吸器、 冷蔵インスリン) 依存者に連絡
- ・ 医療ニーズを電源装備病院へ
- ・ 発電機を脆弱者に貸し出し
- ・ コミュニティセンターを照明集会所として開設
- ・ 体系的 CO 警報 : 発電機を屋内で決して使わない

重要な落とし穴

- ・ CO は静かに殺す : 屋内発電機 = 死。 屋外のみ、 開口部から > 6 m (20 フィート) (CDC、 CPSC)。
- ・ インスリンと熱感受性薬 : インスリンは < 30° C 室温で通常 28日安定 (FDA、 ADA)、 ただし猛暑または非冷房室では分解加速。
夏のブラックアウトでは糖尿病患者に 48時間以内の冷蔵アクセスを組織。
- ・ 水 : 給水網のポンプが機能しなくなります。 水が止まる、 または処理圧を失います。

フェーズ別行動

24時間	24時間以降	電力復旧
医療機器依存者優先連絡	コールドチェーン 冷蔵医薬品 食料分配 保管	電気機器損傷確認
脆弱者に発電機	ランプ、 ロウソク、 予備電池	被災者集計
照明コミュニティセンター	CO リスク情報	地区報告
	優先燃料配送調整	

ロータリーツール

ツール	用途	期間
DRG (25,000 USD)	発電機、燃料、水	48～72時間
会員ネットワーク	発電機、施設、輸送	即時

日本固有の情報

- ・ 主要参照：経済産業省、電力会社（東電、関電等）、各都道府県防災
- ・ 重要な歴史的事例：北海道胆振東部地震（2018）のブラックアウト、台風時の広域停電

<! pagebreak >

D4 - 大量輸送事故

コード	D4、家族D 技術
速度	即時
予告	なし
期間	数時間（本体）、数日（被害者管理、家族）
被害区域	点的、多数の同時被害者、複雑な特定、メディア

事前 - 固有の備え

- ・ 災害医療コーディネーター（DMAT）との連絡を把握
- ・ 家族受入施設を特定
- ・ 外国語会員を特定（国際的被害者しばしば）

最初の6時間 - 即時行動

- ・ 公式救助発動、安全境界外にとどまる
- ・ 救助支援：照明、水、医療チームへの食料補給
- ・ 被害者家族受入場所：利用可能施設、専任ボランティア
- ・ 被害者を撮影 / 録画しない（尊厳、救助妨害）
- ・ ショック状態の負傷していない生存者に緊急心理支援

重要な落とし穴

- ・ 自発的ボランティア急増：衝撃的事故 = 数百名のボランティア。調整なしに救助を妨害。クラブは組織化し誘導、混沌と参加しない。
- ・ メディア：単一スポークスパーソン。原因や責任について発言しない。公式集計に決してコメントしない。

- ・ 遠方家族：しばしば遠方から、地元資源なし。宿泊、輸送、食料を予測。

フェーズ別行動

72時間	安定化	復興
CUMP/DPAT 心理支援調整	家族の行政手続き支援	長期心理支援
遠方家族ロジ 宿泊、輸送	被害者特定支援（翻訳）	適切なら追悼式典
地区とのコミュニケーション		

ロータリーツール

ツール	用途	期間
会員ネットワーク	ロジスティクス、施設、翻訳	即時
DRG (25,000 USD)	例外的規模時	48～72時間

日本固有の情報

- ・ 主要参照：警察庁、国土交通省、消防庁、DMAT 事務局
- ・ 重要な歴史的事例：JR 福知山線脱線事故（2005）、御巢鷹山 JAL123 便墜落（1985）

<! pagebreak >

D5 - 建物倒壊

コード	D5、家族D 技術（原因 欠陥、老朽、過載、サボタージュ）
速度	即時
予告	なし
期間	秒（本体）、瓦礫下生存ウィンドウ 72時間
被害区域	点的、被害者埋没、USAR 専門性要

事前 - 固有の備え

- ・ 地元 USAR (Urban Search and Rescue) 連絡先を把握
- ・ クラブ区域の老朽建物を特定
- ・ 救助隊ロジ支援に会員を訓練

最初の6時間 - 即時行動

- ・ 正確な位置で公式救助を即座に警告
- ・ 厳格な安全境界：瓦礫はさらに崩壊し得る
- ・ USAR 訓練なしに救助を試みない
- ・ 救助ロジ支援：照明、救助者用水、証人登録

- ・ 埋没可能性のある人物リスト（家族による居住者特定支援）
- ・ 現場会員特定のため call-down list

重要な落とし穴

- ・ 即興救助 : 安定性評価なしに生存者を引き出すと、二次崩壊で生存者と救助者を殺し得ます。
- ・ 二次被害者 : 待機家族の苦悩。 家族支援専門ボランティアをロジチームと分離して計画。
- ・ カスケード崩壊 : 隣接建物が脆弱化し得る。 境界を拡大。

フェーズ別行動

72時間	安定化	復興
報告を待つ家族の心理支援	退去居住者緊急宿泊	家族緊急再宿泊 DRG
救助隊休息 補給エリア	行政手続き支援（住宅、 保険）	インフラ集団なら Global Grant
死者時の葬儀サービス調整	単一情報ポイント公式コミュニケーション	

ロータリーツール

ツール	用途	期間
DRG (25,000 USD)	緊急再宿泊	48～72時間
会員ネットワーク	ロジスティクス、 宿泊	即時

日本固有の情報

- ・ 重要な歴史的事例 : 阪神・淡路大震災での建物倒壊、福知山線脱線事故周辺マンション
- ・ 主要参照 : 国土交通省、 消防庁、 各都道府県建設部局

<! pagebreak >

E1 - 感染症 / パンデミック

コード	E1、 家族E 衛生
速度	障壁措置なしで指数関数的
予告	数日～数週間（最初の症例検出）
期間	数週間～数年
被害区域	局所～世界、 医療システム飽和、 二次危機

事前 - 固有の備え

- ・ ローテーション EPI 備蓄 : FFP2 マスク、 ニトリル手袋、 ガウン、 ゲル (期限前に更新)
- ・ クラブ事業継続計画 (30% 会員病気で機能)
- ・ 地元公衆衛生責任者連絡先
- ・ 医療職会員を特定

最初の6時間 - 地元検出時

- ・ 在庫不足の医療従事者への予防 EPI 配布
- ・ 保健センターのロジ支援 (輸送、 補給、 コミュニケーション)
- ・ 衛生当局と共に障壁措置啓発キャンペーン (検証済みメッセージ)
- ・ クラブネットワーク内の誤情報に能動的 に対抗
- ・ 規模が地元能力を超えたら地区に警報

重要な落とし穴

- ・ 誤情報 : 噂は病原体と同じ速さで広がります。 衛生当局検証情報のみ中継。 出典付きまたは沈黙。
- ・ 病気のボランティア : 「人手不足」で症状者を派遣することは逆効果で危険。 例外なき検疫。
- ・ EPI の誤使用 : 不適切に装着された FFP2 は保護しません。 介入前の EPI 着用実技訓練。

フェーズ別行動

拡大確認	安定化 危機脱出	復興
公式衛生措置にクラブ活動を適応	当局と共に予防接種キャンペーン (PolioPlus 経験)	流行後心理支援
隔離 隔離者への食料援助	経済再開支援	学んだ教訓報告
医療従事者支援 食料、 機材、 心理		
入院被災家族支援		
無許可集会なし		

ロータリーツール

ツール	用途	期間
DRG (25,000 USD)	EPI、食料、医療支援	48～72時間
WASH-RAG	緊急飲料水、衛生	D+1 から
PolioPlus (経験)	予防接種、啓発	即時
Global Grant	長期医療インフラ	3～6か月

日本固有の情報

- ・ 主要参照：厚生労働省、国立感染症研究所 (NIID)、各都道府県保健所
- ・ 重要な歴史的事例：COVID-19 (2020-2023)、新型インフルエンザ (2009)、SARS (2003)

<! pagebreak >

F1 - 戦争 / 武力紛争

コード	F1、家族F 人為
速度	変動（進行的または突然のエスカレーション）
予告	変動
期間	数か月～数年
被害区域	広域、直接の危険、市民システム破壊、大量移動

事前 - クラブのポジショニング

- ・ 書面化された政治的中立性方針を全会員 に伝達
- ・ 専門人道パートナーを特定 (ICRC、UNHCR、MSF、NRC)
- ・ 全会員連絡先を更新（彼らの安全が最優先）

紛争中 - 即時行動

- ・ call-down list で全会員の安全確認
- ・ 危険区域避難で会員支援
- ・ 戦闘区域への直接介入なし、専門人道アクターへ振り分け
- ・ 一方への支援を決して表明しない（クラブ標的リスク）
- ・ 地区との慎重なコミュニケーション
- ・ 安全宣言区域内でのみ被災住民支援

重要な落とし穴

- ・ 党派性の知覚：一方支配区域での援助 = 支援と解釈。公式承認と透明性で活動。

- ・ 偽の人道回廊 : 一部は安全でない。 ICRC または経験ある人道アクターとの調整なしに紛争区域に決して入らない。
- ・ 会員の安全 : ロータリアンの安全が人道行動より優先。

フェーズ別行動

能動的フェーズ (安全区域)	相対的安定化	紛争後
避難民支援 (食料、シェルター、衛生)	Global Grants のためのニーズ文書化	市民再建 (水、教育、保健) の Global Grant
保護者なし子ども → UNICEF、Save the Children	安全区域での会員医療プロによる基礎医療支援	長期心理支援 (戦争トラウマ)
		RAGFP と Peace Fellows との和解
		元戦闘員 避難民の職業訓練

ロータリーツール

ツール	用途	期間
DRG (25,000 USD)	安全区域避難民援助	48~72時間
RAGFP	難民調整、和解、仲介	中期~紛争後
Global Grant	市民再建	紛争後

日本固有の情報

- ・ 日本では国内武力紛争は想定外ですが、近隣地域 (朝鮮半島、台湾海峡) からの避難民流入や、海外で活動するロータリアンの保護が関連
- ・ 主要参照 : 外務省、国土交通省、警察庁、難民支援団体 (UNHCR Japan、AAR Japan 等)

<! pagebreak >

F2 - 難民 / 大量避難

コード	F2、家族F 人為
速度	変動 (突然のまたは進行的な流入)
予告	変動 (既知紛争なら数日、突然ならゼロ)
期間	数か月~数年
被害区域	局所~広域、複雑なニーズ 緊急 + 持続的統合

事前 - 固有の備え

- ・ 難民受入サービス事前連絡（出入国在留管理庁、 UNHCR、 赤十字）
- ・ 外国語会員を特定（重要な強み）
- ・ 仮設受入センター用空間を特定

最初の6時間 - 避難民到着

- ・ 組織化された受入：簡易戸籍登録ポイント
- ・ 即時ニーズ：飲料水、食料、仮設シェルター、衛生
- ・ 単身女性と保護者なし未成年の安全分離（当局通報）
- ・ トリアージ医療呼び出し：医療緊急、妊婦、高齢者
- ・ 衛生キット（タオル、石けん、歯ブラシ、ブランケット）配布
- ・ DRG と RAGFP 調整のため地区連絡

重要な落とし穴

- ・ 人身売買：キャンプ / センター = 人身売買網の狩猟場。怪しい行動を通報。未成年は決して未知の成人と単独で。
- ・ 救援者の疲労：避難は数か月続く。厳格なローテーションとチーム心理支援。
- ・ 尊厳なき援助：避難民を常に決定に関与させる。慈善の対象ではない。

フェーズ別行動

最初の2週間	安定化	長期
子ども就学 地元学校に即時連絡	WASH 宿泊センター衛生	職業訓練 (Global Grant)
行政正規化 適切なサービスに案内	心理支援 (移住トラウマ、死別)	地元統合または自発帰還
成人言語コース (会員ボランティア教員)		RAGFP + RAGCED 専門性/資金調整
		尊厳のある受入条件擁護

ロータリーツール

ツール	用途	期間
DRG (25,000 USD)	受入、水、食料、シェルター	48~72時間
RAGFP	難民専門性と調整	D+1 から
WASH-RAG	キャンプ水と衛生	D+3 から
Global Grant	訓練、統合、収入	3~6か月

日本固有の情報

- ・ 主要参照：出入国在留管理庁、外務省、UNHCR Japan
- ・ 関連法令：出入国管理及び難民認定法

<! pagebreak >

F3 - 食糧危機 / 飢餓

コード	F3、家族F 人為
速度	進行的（数週間～数か月）
予告	IPC 指標利用可能
期間	数か月～数年
被害区域	広域、世界で 730 M 超が慢性栄養不良、うち約 280 M が ^g IPC phase 3+ 急性食料危機（FAO SOFI 2024、WFP GRFC 2024）、子どもが最も脆弱

事前 - 固有の備え

- ・ IPC（統合食料安全保障分類）指標を追跡
- ・ WFP と専門 NGO 連絡先
- ・ クラブ区域の最も脆弱区域と住民を特定

最初の兆候時 - 即時行動

- ・ IPC 公式指標で危機を検証
- ・ 地元パートナーと現地評価：世帯、区域、脆弱集団
- ・ 対象栄養調整食料配給（5歳未満、妊婦）
- ・ 重度栄養不良児用 RUTF（即用治療食）
- ・ WFP と専門 NGO 調整
- ・ 地元食料購入 DRG 即時（輸入より地元市場を優先）

重要な落とし穴

- ・ 大人による子どもの不利益：統制なし配給 = 弱い子どもがより少ない食事。5歳未満の別配給。
- ・ 早すぎる再栄養：重度栄養不良者は突然の通常食を消化できません。再給食症候群 = 致命的。医療プロと協働。
- ・ 社会緊張：食料不足は資源紛争を生みます。監視と通報。

フェーズ別行動

進行フェーズ	急性フェーズ（飢餓宣言）	復興
対象食料配給	地元食料購入 DRG	農業プロジェクト Global Grant
重度栄養不良児 RUTF	地区 + Global Grants 調整	生計修復
WFP + NGO 調整	社会緊張監視（紛争リスク）	レジリエント農業技術訓練
継続的世帯評価		

ロータリーツール

ツール	用途	期間
DRG (25,000 USD)	地元食料購入	48~72時間
Global Grant	農業プロジェクト、生計	3~6か月
WASH-RAG	水（干ばつしばしば併発）	中期
ESRAG	気候レジリエンス、農業	中期

日本固有の情報

- ・ 日本では大規模飢餓は想定外ですが、近隣国（北朝鮮、ミャンマー）や紛争地域への支援が関連
- ・ 主要参照：外務省、農林水産省、WFP Japan、JICA

<! pagebreak >

F4 - 複合多重危機

定義： 短期間内に同一住民に対し2~3の主要ストレスが重なる状態。
 文書化された事例：地震 + 感染症（トルコ 2023）、武力紛争 + 干ばつ + 飢餓（スーダン 2023-2024）、洪水 + 避難 + 感染症（パキスタン 2022）、サイクロン + パンデミック（フィリピン 2020）。2020年以來最も急速に進行する類型。

特徴

パラメータ	特殊性
引き金	カスケード、主要災害（地震、紛争、干ばつ）が第2（感染症、避難、飢餓）の条件を作る
規模	単一災害の3~10倍
期間	6か月~数年
アクター	複数 OCHA クラスタ間の必須調整
主要落とし穴	各危機を別々に扱うと相互作用を忘れる

事前

- ・ 地域での カスケードシナリオ を特定 (例 : 地震区域 + 風土感染症区域、 台風区域 + 食料不安区域)
- ・ 単独災害別ではなく組合せ別計画
- ・ 保健、 WASH、 食料安全、 緊急救援だけでなく、 これらのアクターと MOU
- ・ 多様化備蓄 (すべて水でなく、 すべてシェルターでなく)

最初の72時間

- ・ 時点の支配的ストレスを特定 (最も衝撃的でなく、 最も緊急)
- ・ 相互作用 を地図化 : 地震後の汚染水が感染症リスクを生むか? 紛争避難民は食料備蓄に圧力をかけるか?
- ・ D+0 から関連する全クラスターと調整、 順次ではなく
- ・ 強化 SITREP、 各ストレス1セクション + 相互作用1セクション

重要な落とし穴

- ・ 見える側ストレスへのトンネル視野 : 誰もが地震を撮影、 誰も水を監視しない。 感染症は3週間後に到来し地震より多く殺す。
- ・ クラスター間競合 : シェルター対保健対 WASH、 各々が優先を要求。 DR0 と共に迅速に裁定。
- ・ ドナー疲労 : 多重危機は続く。 寄付は 6~12 週間で枯渇。 D+30 から「その後」を計画。
- ・ 不十分なボランティアローテーション : 6か月超活動 = 14~21日ごとの必須ローテーション。 さもないと崩壊。

フェーズ別行動

72時間	安定化 (週 2-8)	復興 (3か月以降)
ストレス地図化	日次クラスター間調整	多領域 Global Grants (WASH + 保健 + 経済)
最も致命的なものの優先順位	行列 SITREP (ストレス別)	レジリエンス強化 (カスケード予防)
支配的ストレス DRG	新ストレスなら補完 DRG	専門 NGO との持続的パートナーシップ
D+0 から OCHA 調整	ShelterBox + WASH-RAG + FAIM	ESRAG (気候) + RAGCED (経済)

ロータリーツール

ツール	用途	期間
DRG (25,000 USD)	支配的ストレスの緊急	48~72時間
第2 DRG	出現ストレス (感染症、避難)	最初の DRG 後 +45日
多領域 Global Grant	調整された保健+WASH+経済再建	3~6か月
DNA-RAG	不可欠な中央調整	< 24時間
WASH-RAG + FAIM + ESRAG	ストレス別同時起動	種別による
Zone Fund TRF 中央	複数地区なら起動の可能性	変動

ルール：複合危機では、DNA-RAG が推奨される調整者。専門 RAG をサイロで起動しない。

日本固有の情報

- ・ 東日本大震災 (2011) : 地震 + 津波 + 原発事故 + 避難 + 経済破壊の典型例
- ・ 主要参照 : 内閣府防災担当、外務省 (国際協力)、JICA、DNA-RAG

第 VI
災害カード

第 27

詳細分析 - 高複雑性の4つの災害

なぜこの章が存在するのか

第26章のカードはすべて2ページに収まります。それは意図的な設計です：危機時には、カードを開いて実行します。しかし4つの災害は、危険なしに2ページへ縮約することができません。それらが他より深刻だからではなく（すべての災害が深刻です）、ある正確な特徴を共有しているからです：善意でありながら準備不足のクラブが、事態を悪化させたり、自らの会員を死なせたりしかねないのです。

地震は、まだ立っている建物が最初の余震で倒壊し、書類を取りに戻ったボランティアを生き埋めにしうるからです。原子力事故は、危険が目に見えず、いかなる自然の本能もあなたを守らないからです。感染症は、助けるために集まったクラブそのものが感染クラスターになるからです。戦争は、中立が道徳的な姿勢ではなく生存の条件であり、たった一つの素朴な行為が支援の輸送隊を標的に変えるからです。

この章は事象の最中ではなく、事前に冷静に読まれることを意図しています。第26章のカードは引き続きあなたの実行ツールです。これら4つの詳細分析は、その日が来たときにあなたの反射がすでに正しいものであるために、ここにあります。各分析は同じ構造に従います：この事例を特殊にするもの、クラブにできること、絶対的な越えてはならない一線、そして実際の事象から得られた教訓。

27.1 - 地震 - 最大の兵站的複雑性

クイックリンク：カード A1（第26章）。

地震を特殊にするもの

地震は、災害が課しうるすべてを一度に積み重ねます：警告なし、不安定な建物、破断した水道網、大量の死傷者、切断された通信、そして本震では止まらない危険。「助けたい」と「害を与えずに助ける方法を知っている」の間の隔たりが最も広い災害です。

3つの事実がクラブの行うすべてを規定します。

余震は止まりません。米国地質調査所（USGS）によれば、余震は本震の後、数日、数週間、数か月、時には数年にわたって続くことがあります。大森公式がその減衰を記述します（おおむね10日目には初日の10分の1の数）が、その規模は時間とともに小さくなるわけではありません：強い余震は、ずっと後でも起こりうるのです。地震後にまだ立っている建物は、次の余震で倒壊しうるのです。これが、損傷した構造物に、たとえ数秒でも、たとえ持ち物を取りに戻るためでも、立ち入らない理由の第一です。

水道水が危険になります。ひび割れた配管が下水を引き込み、網の圧力低下が外部の汚染物質を引き込みます。蛇口からまだ出ている水も、

保健当局が証明するまでは安全ではありません。直感に反することであり、まさにそれが重大な理由です。

最初の救助者は常に住民自身です。1995年の阪神・淡路大震災（神戸）では、生き埋めになった人の75パーセント以上が、組織的な救助が到着する前に、近隣の助け合いによって救出されました（Kawata, 1997）。これは素人が瓦礫を掘るべきだという意味ではありません。地元の人々の、つまりあなたの役割が、正しい場所で保たれる限り、現実的かつ記録に残されているという意味です。

クラブにできること

枠組みは FEMA の 軽度 搜索救助（CERT プログラム）と INSARAG の原則です：クラブは支援として行動し、決して専門の都市搜索救助（USAR）チームの代替にはなりません。

行動	詳細
集合地点	建物から離れた開けた空間。 出席している会員と行方不明の会員を確認。
応急処置と軽度トリアージ	医師や救急隊員が居る場合 START トリアージを適用（囲み参照）。 トリアージ中の処置は2つのみ。
後方兵站	飲料水、食料、燃料、輸送、救助チームのための安全な拠点。 これが最も有用かつ最も安全な役割です。
救助者への地元情報	閉じ込められた人が居そうな場所、建物の構造、進入路。 INSARAG は住民の情報を貴重なものとみなし、積極的に求めるべきとしています。
緊急の水	ボトル入りまたは処理済みの水のみを配布。処理沸騰させて1分間（高地では3分間）、または消毒（無香料の漂白剤を 3.8 L あたり8滴、30分間置く、濁っていれば倍量）。
野次馬を遠ざける	危険な現場への殺到を防ぐ。

囲み - 30秒で START トリアージ。START (Simple Triage And Rapid Treatment) は負傷者を4色に分類します：緑（歩ける）、赤（即時の生命の危機）、黄（重篤だが待てる）、黒（死亡または救命不能）。トリアージの過程で、救護者が行うのは 2つの処置のみです：気道を確保する、大出血を止める。すべての負傷者をトリアージし終えるまで、継続的な処置は行いません。子どもには JumpSTART 変種を適用します。

絶対的な越えてはならない一線

- ・ 損傷した建物に決して立ち入らない。再進入は資格を持つ評価者（構造技術者、宣誓した検査官）によってのみ認可されます。国際標準 ATC-20 はプラカード制度を用います：緑（検査済、安全）、黄（使用制限）、赤（危険）。これらのプラカードは、ボランティアが掲示も撤去もしません。
- ・ 瓦礫を決して掘らない。瓦礫の上を歩くと、生存者が呼吸する空隙が不安定になり、犬や技術的な搜索を妨げます。倒壊建物の搜索は専門職です。
- ・ USAR チームの標識を決して消したり変更したりしない。描かれた記号（INSARAG または FEMA 方式）は、どの建物が搜索済みで、何人の被災者が見つかったかを示します。変更すると、すでに確認済みの現場が再搜索され、人命を奪う時間を浪費します。
- ・ 自己派遣しない。地元当局の調整（INSARAG 用語では LEMA）に組み込まれ、一匹狼として到着しないこと。

現場からの教訓

ハイチ、2010年。対応は大規模でしたが組織化されておらず、「NGO 共和国」と呼ばれるほどでした。さらに悪いことに：助けに来た平和維持要員によって持ち込まれたコレラの流行が、9,300人以上の命を奪いました。教訓は厳しいものです：準備不足の救援は、それ自体が災害になりうる。

日本、東日本大震災（2011年）と能登半島地震（2024年）。日本は神戸の自然発生的な混乱の後、災害ボランティアを制度化しました：ボランティアは社会福祉協議会が運営するセンターに登録し、そこが実際のニーズに応じて割り当てます。そして2024年の能登では、当局が損傷した道路が啓開されるまで、ボランティアに来ないように明示的に求めました。ボランティアの文化を築いたのと同じ社会が、「今は近づかないで」と言うことも知っていたのです。行かないことを知ることも、仕事の一部です。

27.2 - 原子力・放射線事故 - 目に見えない危険

クイックリンク：カード D2（第26章）。

原子力事故を特殊にするもの

すべての災害の中で最も直感に反するものなのです。危険は見ることも、嗅ぐことも、聞くこともできません。いかなる自然の本能もあなたを守りません。1987年、ブラジルのゴイアニアで、住民が放棄された医療機器の中に青く光る粉末を見つけました。彼らはそれを手に取り、分け合い、賞賛しました。それはセシウム137でした。4人が死亡し、約250人が汚染され、11万2,000人が検査を受けなければなりません。その粉末は美しかったのです。

それが震です。

クラブにとって、結論は明確で解放的です：あなたは区域内で行動するのではなく、線源から遠く離れた安全な区域で、常に当局の指揮のもとで行動します。区域設定、避難、屋内退避、ヨウ素摂取に関するすべての決定は当局に属し、決してクラブには属しません。

行動の前に、2つの区別が完全に理解されなければなりません。

被曝は汚染ではありません。X線のように照射されただけの人は放射性ではなく、他者に危険を及ぼしません。汚染された人は放射性物質を身体に（皮膚、髪、衣服に）帯びており、それを移してしまいます。この2つを混同すると、害のない人を助けることを拒否するか、不注意に扱うことで自分が汚染されるか、どちらかに至ります。

放射線防護の3原則は3つの語に集約されます：時間（留まる時間が短いほど、受ける量は少ない）、距離（強度は距離とともに急速に低下する）、遮蔽（自分と線源の間に壁を置く）。公衆向けの公式メッセージは一言に収まります：屋内に入り、屋内に留まり、情報に注意する。

クラブにできること

受入センターと避難所は、定義上汚染されていない区域に位置します。そこがボランティアの有用な場所です。

行動	詳細
安全な区域での避難者受入	避難所、登録、案内。線源から遠く。
兵站と物資支援	緊急避難した家族のための食料、衣類、生活必需品。
心理社会的支援	目に見えないものへの恐怖と、根こそぎにされる思いは甚大です。福島では、死をもたらしたのは放射線ではありませんでした。避難そのものが60人以上の死をもたらし、その多くが高齢者でした。
公式情報の中継	当局の指示を忠実に伝え、噂を打ち消す。何も創作せず、何も増幅しない。
指示のもとでの簡単な除染の補助	上着を脱ぐことを促す この一つの行為で外部の放射性物質の最大90パーセントが取り除かれます（CDC、REMM）。 続いて石けんで優しく洗う、こすらない、コンディショナーは使わない。

囲み - 安定ヨウ素（ヨウ化カリウム錠）。これは甲状腺を非放射性的のヨウ素で飽和させ、

放射性ヨウ素を遮断します。甲状腺のみを、放射性ヨウ素に対してのみ 保護します :
放射線よけの錠剤ではありません。 当局の指示のもとでのみ、
被曝の前後の狭い時間枠で服用します。 優先順位は子ども、 妊婦・授乳中の女性、
そして甲状腺が最も敏感な若者に与えられます。 これはチェルノブイリの直接の教訓です。
そこでは汚染された牛乳によって運ばれたヨウ素131が、
子どもの頃に被曝した人々におよそ6,000件の甲状腺がんを引き起こしました。

絶対的な越えてはならない一線

- ・ 汚染区域または立入禁止の境界に決して立ち入らない。 訓練を受け、 装備を整え、線量計で監視された対応要員に限られます。
- ・ 汚染された被災者を、 訓練、 防護装備、 線量計なしに 決して取り扱わない。
- ・ 区域や物体が安全だと「目で見て」決して判断しない。 放射能は目に見えません。計測できるのは機器と専門家だけです。
- ・ 独断でヨウ素を決して配布しない、 そして甲状腺以外の何かを守ると決して信じない。
- ・ 当局が安全を確認する前に、 地元の食料や水道水を決して摂取・配布しない。沸騰させても放射能は除去されません。

現場からの教訓

福島、 2011年。 放射線に直接起因する死者はありません でしたが、
ストレスと最も脆弱な人々の移動に関連 する数十人の死がありました。
そして偽情報についての警告信号 : 何千キロも離れ、
何のリスクもない米国西海岸の住民が、 誤ってヨウ素を服用しました。
クラブの役割は即興でパニックを鎮める ことではなく、 信頼できる公式情報を中継することです。

ゴイアニア、 1987年。 孤立線源の教科書的事例です。 これは3つのことを教えます :
放射能は目に見えない、 接触と人を介して広がる、
そして都市全体の除染は途方もない事業 である。 未知のものが光っていたら、
触れずに当局に通報すること。

27.3 - 感染症・パンデミック - クラブが媒介者になりうる時

クイックリンク : カード E1 (第26章)。

感染症を特殊にするもの

他のどの災害も組み合わせない2つのこと。 第一に 持続期間 :
パンデミックは日ではなく、 月と年で数えられます。 緊急兵站だけでは不十分です :
持ちこたえ、 チームを交代させ、 疲弊を避けなければなりません。 第二に、
そしてこれが中心的な罫ですが、 助けるために組織したクラブそのものが、

病気を広げうる のです。 ボランティアの集合、 配給、 週例会が、 クラスターになります。

その例は、 ぞっとするほど正確に記録されています。 2020年3月10日、 (ワシントン州) スカジット郡で、 ある合唱団が練習のために集まりました。 出席61人、 症状のある者1人。 結果 : 53人が感染、 2人が死亡。 発病率は、 症例の定義によって53から87パーセントに達しました (CDC、 2020)。 持続時間 (2時間半)、 近接、 共有された軽食、 そしてエアロゾルを噴出させる歌唱で十分でした。 クラブの例会は、 まさに同じリスクのプロファイルを持ちます。

黄金律 : 障壁を感染経路に合わせる。 単一の工具箱は存在しません。

感染経路	典型的な病気	優先される障壁
呼吸器、 エアロゾル	インフルエンザ、 COVID-19	マスク、 換気、 距離、 屋内の集合なし
経口・糞口、 水	コレラ	安全な水、 衛生設備、 手洗い、 経口補水 (ORS)
接触、 体液	エボラ	防護装備、 隔離、 安全で尊厳ある埋葬

クラブにできること

奉仕する、 はい、 ただし 非接触で、 保護されて。

行動	詳細
非接触の配給	ドライブスルー受取、 事前梱包の小包、 戸別配達。 集合なし、 列は少なくとも1メートル間隔、 一方通行の流れ。
孤立した脆弱な人々への到達	高齢者、 免疫不全者、 不安定な状況の人々。 食料品と薬を配達することで彼らの保護的な屋内退避を可能にする これがボランティアの独自の価値であり、 彼らを外出から守ります。
社会的つながりの維持	定期的な電話。 WHO は2025年に、 6人に1人が孤独に苦しんでいると推定しています 長引く閉じこもりはそれを悪化させます。 電話は何のコストもかからず、 守ります。
偽情報との闘い	検証済みの情報を中継し、 噂や偽の治療法を打ち消す。 これは認められた役割です (WHO と IFRC のコミュニティ・エンゲージメント)。

囲み - 適切なマスク。 防護の弱い方から強い方へ : 布、 次に外科用、 次に FFP2 / N95 (少なくとも94から95パーセントの濾過)、 次に FFP3 (少なくとも99パーセント)。

顔へのフィットが決定的です : 適切に装着されていない FFP2 は約束を果たしません。手袋は手洗いの代わりにはなりません : 誤用すれば、それ自体が媒介物になります。基本となる対策は依然として手指衛生です。

絶対的な越えてはならない一線

- ・ 市中感染が活発なとき、対面で集まらない。クラブはビデオ会議に切り替えます。
- ・ 検証されていない治療法を決して中継しない。2020年、イランでは、アルコールがウイルスを殺すという噂が、メタノール中毒による約5,900件の入院と800人の死を引き起こしました。「効く裏技」を共有するボランティアは、人を殺しうるのです。
- ・ 病人、介護者、集団を侮辱・烙印しない : 烙印は人々に症例を隠させ、受診を遅らせます。
- ・ ボランティアを燃え尽きさせない。長い危機では、交代、休息、心理的支援を最初から計画します。疲弊したチームは崩壊します。

現場からの教訓

エボラ、西アフリカ 2013-2016年。遺体に触れ、洗う伝統的な埋葬が、感染の主要な推進要因でした。訓練を受けたボランティアが運営する赤十字の安全で尊厳ある埋葬プログラムは、1,411から10,452件の二次感染を防ぎました (PLOS NTD、2017)。よく監督されたボランティアが感染症の流れを変えようという証拠です。一方、放置されたボランティアであれば、それを増幅させていたでしょう。

COVID-19。米国のフードバンクは、非接触の配給に切り替えることで、2020年に6,000万人以上に奉仕しました (Feeding America)。このモデルは機能します : 止めるのではなく、方法を変えることで助け続けるのです。

27.4 - 戦争・武力紛争 - 生存条件としての中立

クイックリンク : カード F1 (第26章)。第4章「行動しないとき」と併せて読むこと。

戦争を特殊にするもの

誤った決定が、効果のない支援ではなく、死、拉致、あるいは知らぬ間の犯罪への加担をもたらす唯一の事例です。戦争は、他の災害が持たない規則を課します : 中立は意見ではなく、アクセスと生存の条件である。ICRC はそれを前線を越えることを可能にする生命線と表現しています。ある組織が一方の側に付いていると見なされた途端、それは標的となり、反対側にいる被災者へのアクセスを失います。

クラブにとって、指針となる原則は単純であり、

罪悪感なく引き受けなければなりません : あなたは後方の安全な区域で行動し、決して前線では行動しない。ウクライナの戦争で意味を持ったクラブは、戦闘地帯に入りませんでした : 難民を受け入れ、国境を越えた支援を組織し、近隣諸国の家族を支援しました。そこがクラブの有用かつ正当な場所です。

クラブにできること

行動	詳細
難民・避難民の受入	安全な区域での避難所、生活必需品、就学、行政的支援。
国境を越えた支援	確立された経路を通じた収集と転送。 決して自ら紛争地帯に踏み込まない。
家族の支援	残った、あるいは去った親族への里親的支援、 経済的・心理的支援。
委任されたアクターの後押し	ICRC、UNHCR、これを職務とする組織の活動を中継し、 資金提供する。
アドボカシー	状況を知らせ、紛争そのものでは一方の側に付かず に動員する。

囲み - 赤十字・赤新月の標章。これは一般的な人道のロゴではありません。ジュネーブ諸条約によって規律される保護標章です。その使用は限定されています : 例えば、権利のない輸送隊を「守る」ために誤用することは、国際法違反であり、戦争犯罪（背信行為）を構成しうるのであります。クラブは決してこの標章を車両や建物に表示しません。

絶対的な越えてはならない一線

- ・ 活発な紛争地帯に決して立ち入らない。銃撃戦、拉致、地雷のリスクは現実であり、素人を許しません。
- ・ 武器や戦闘員を決して輸送しない。それは中立、すなわち保護を失うことを意味します。
- ・ 紛争の原因について決して一方の側に付かない。クラブは人々を、すべての人々を助けます。
- ・ 諜報活動を決して行わず、軍事的な当事者に間接的にも奉仕しない。
- ・ 地雷や不発弾に決して触れない。戦闘の後も、爆発物は長く危険であり続けます。規則は絶対です : 触れない、可能なら区域に印を付ける、当局と地雷除去組織 (UNMAS、および HALO Trust や Humanity & Inclusion などの専門組織) に通報する。2024年、Landmine Monitor は6,279件の地雷被害を記録し、その約90パーセントが民間人でした。
- ・ 委任されたアクターの代わりをしない。ICRCは紛争に関する独自の権限を持ちます : 捕虜の訪問、家族のつながりの回復。あなたはそれを通じて行動し、それを模倣しません。

現場からの教訓

ウクライナ、2022年以降。クラブのネットワークができることの、記録に残された模範です。安全が確保された近隣諸国から、欧州のロータリークラブは難民の受入と支援の転送を組織しました。ロータリーの災害対応基金は、2023年の1年間で375件の補助金を通じて1,740万ドルを拠出しました。役に立つために、爆弾の下に行く必要は誰にもなかったのです。

英雄の罫。近年の紛争の歴史は、「支援を届ける」ために単身で出発し、人質、犠牲者、あるいは彼らを探すために動員されなければならなかったプロの救助者の重荷となった、誠実なボランティアで散らかっています。素朴な英雄主義は誰も助けません。戦地における勇気とは、後方で自分の持ち場を守り、それを長く守り続けることです。

4つの事例すべてについて記憶すべきこと。共通の糸は恐怖ではなく、明晰さです。これら4つの災害において、クラブの第一の能力は速く行動することではなく、自らの行動範囲がどこで終わるかを正確に知ることです。自分の限界を知ることは弱さではありません。それこそが、命を救う支援と、被災者を増やす善意とを分けるものです。

第 VII
付録とツール

第 28

付録A - 運用書式

使用法 : 10の書式は現場での印刷・使用のために設計されています。災害前に印刷してください。緊急キットに各20部保管。各書式は紙（手書き）またはデジタル（PDF入力可能）で機能。

書式一覧

1. SITREP - 状況報告
2. 迅速ニーズ評価
3. 受益者登録簿
4. 日次財務追跡
5. ボランティア登録
6. 寄付と寄贈追跡
7. プレス・ソーシャルメディア コミュニケーション
8. NGO パートナーシップ協定 (MOU)
9. After-Action Report (AAR)
10. 判断ツリー - 資金調達

<! pagebreak >

書式1 - SITREP (状況報告)

頻度 : 6時間ごと (フェーズ1)、その後日次 (フェーズ2)、その後週次 (フェーズ3) 記入者 : クラブの Disaster Coordinator または地区 DRO 受信者 : 地区 (DRO)、ゾーン、起動された DNA-RAG

SITREP No. _____ | 日付 : ____/____/____ | 時刻 : ____:____

クラブ / 地区 : _____

報告書作成者 : _____ 電話 : _____

災害種別 : _____

活動レベル : クラブ単独 DCA-3 DCA-2 DCA-1

財務的推奨 (作成者がチェック) : 外部資金不要 地区 DDRF DRG 申請 Zone Fund Global Grant 構築

A. 全般状況

要素	データ
被災地理区域	
推定被災人口	
確認死者数	

要素	データ
負傷者数	
避難者数	
全壊住戸数	
損傷住戸数	
機能停止重要インフラ	

B. 必須サービスの状態

サービス	機能中	部分的	停止中
飲料水	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
電気	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
電話網	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
主要道路	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
病院 保健センター	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
学校	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
市場 供給	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

C. 進行中のロータリー活動

行動	責任者	受益者数	状態
			<input type="checkbox"/> 進行中 <input type="checkbox"/> 完了
			<input type="checkbox"/> 進行中 <input type="checkbox"/> 完了
			<input type="checkbox"/> 進行中 <input type="checkbox"/> 完了
			<input type="checkbox"/> 進行中 <input type="checkbox"/> 完了
			<input type="checkbox"/> 進行中 <input type="checkbox"/> 完了
			<input type="checkbox"/> 進行中 <input type="checkbox"/> 完了

D. 未充足の即時ニーズ

優先度	ニーズ	推定量	緊急度
1			<input type="checkbox"/> 危機的 <input type="checkbox"/> 緊急 <input type="checkbox"/> 中程度
2			<input type="checkbox"/> 危機的 <input type="checkbox"/> 緊急 <input type="checkbox"/> 中程度
3			<input type="checkbox"/> 危機的 <input type="checkbox"/> 緊急 <input type="checkbox"/> 中程度
4			<input type="checkbox"/> 危機的 <input type="checkbox"/> 緊急 <input type="checkbox"/> 中程度
5			<input type="checkbox"/> 危機的 <input type="checkbox"/> 緊急 <input type="checkbox"/> 中程度

E. 利用可能資源

資源	量	出典
利用可能資金（クラブ/地区）	円	
現役ボランティア		
車両		

F. 連携

組織	連携種別	連絡先
----	------	-----

G. 提案

提案	詳細
推奨される活動レベル	DCA-[1/2/3]
次の段階	

次の SITREP : ___/___/_____ :___

作成者署名 : _____ 受信者署名 : _____

<! pagebreak >

書式2 - 迅速ニーズ評価

第12章書式参照。 8つの主要質問 : 人口、 シェルター、 水、 食料、 保健、 インフラ、 安全、 脆弱者。 完全な書式の使用（第12章）を推奨。

<! pagebreak >

書式3 - 受益者登録簿

使用法 : 各配給時に記入。 受益者 / 家族の重複を回避。 署名により受領を確認。

日付 : ___/___/_____ 配給拠点 : _____

配給チーム責任者 : _____

#	受益者氏名	住所	世帯人数	受領援助	署名
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					

#	受益者氏名	住所	世帯人数	受領援助	署名
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

配給品合計 : _____

援助受領総人数 : _____

観察 / 事故 : _____

責任者署名 : _____

<! pagebreak >

書式4 - 日次財務追跡

使用法 : 災害専用出納帳。1日1書式。100 USD (約15,000円) 超の支出には二重署名必須。

財務日誌 - 日付 : ____/____/____

クラブ / 地区 : _____ 会計 : _____

災害専用口座番号 : _____

開始残高

出典	金額 (円)
前日繰越残高	
クラブ配分資金	
受領 DRG	
受領 DDRF	
本日受領寄付	
利用可能総額	

本日の支出

#	説明	業者	金額 (円)	カテゴリ	領収書 #	承認者
1						
2						
3						

#	説明	業者	金額 (円)	カテゴリ	領収書 #	承認者
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
		支出総額				

カテゴリ A =	B =	C =	D =	E =	F =	G =
食料/水	シェルター/資材	輸送/ロジ	保健/衛生	コミュニケーション	管理	その他

終了残高

計算	金額 (円)
利用可能総額	
- 支出総額	
= 終了残高	

活動開始以来の累積残高 : _____ 円

裏付け書類

種別	数量
添付領収書 請求書	
発注書	
領収書写真 (原本紛失時)	

会計署名 : _____ 会長署名 : _____

<! pagebreak >

書式5 - ボランティア登録

使用法 : 派遣 前 に各ボランティアを登録。 スキル、 可用性、 健康状態を確認。
保険とフォローアップのため保管。

ボランティア登録シート

登録日 : ____/____/____ クラブ : _____

身元

項目	情報
氏名	
生年月日	
主電話	
副電話	
メール	
住所	
緊急連絡先（氏名 + 電話）	
ロータリー会員	<input type="checkbox"/> はい（クラブ） <input type="checkbox"/> いいえ
ローターアクター インターアクター	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

スキル

スキル	レベル	訓練日付
普通救命講習	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 基本 <input type="checkbox"/> 上級	
PFA（心理的応急処置）	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 基本 <input type="checkbox"/> 上級	
防災士	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 資格保持	
専門医療（医師、看護師、薬剤師）	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 該当（専門）	
大型車両運転	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり（種別）	
重機操作	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり（種別）	
翻訳 通訳	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり（言語）	
他		

健康と可用性

項目	情報
アレルギー 健康制限	
常用薬	
開始可用性	時刻
終了可用性	時刻
1日最大時間	時間
移動可能	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

確認

私 _____ は：

- ・ 安全指示を受領した

- ・ リスクを認識し受諾する
- ・ 指定されたチームリーダーの監督下で活動することに同意する
- ・ 事故を即座に報告することに同意する
- ・ 派遣された任務を超えないことに同意する
- ・ ボランティア保険適用について知らされている

ボランティア署名： _____

受付ロータリアン： _____

任命任務： _____

<! pagebreak >

書式6 - 寄付と寄贈追跡

#	日付	ドナー氏名	種別（現金/物品）	金額/価値（円）	連絡先	受領証発行（はい/いいえ）	謝意送信
1							
2							
3							
4							
5							

合計： _____ 円

会計責任： 月次集計、 Stewardship 報告書に添付

<! pagebreak >

書式7 - プレス・ソーシャルメディア コミュニケーション

プレスリリーステンプレート

[クラブ名] プレスリリース

日付： __/__/____

[1行要約タイトル]

[1段落： 何が起きたか]

クラブの行動：

- [具体的数値1]
- [具体的数値2]
- [具体的数値3]

連携：

[パートナー]

連絡先：

[氏名]、[役職]、[電話]、[メール]

ソーシャルメディア投稿テンプレート

本日 [日付]、[クラブ名] は：

- [行動1]：[数値]
- [行動2]：[数値]
- [行動3]：[数値]

支援するには：[リンク]

ありがとうございます：[パートナー]

#ロータリー対応 #[都市]

<! pagebreak >

書式8 - NGO パートナーシップ協定 (MOU)

モデル MOU

当事者 [都市] ロータリークラブ、会長 _____ により代表 および [組織名]、
[役職] _____ により代表

目的 自然または技術災害時の協力

クラブの約束 - 訓練を受けたボランティアの提供 - 補完的資金（限度：_____ 円）
- ロジスティクス支援（車両、施設、保管）- 共通計画と評価への参加

パートナーの約束 - 固有資源の提供（詳細：_____）- 演習・訓練への参加 -
情報共有

運用連絡先 クラブ：_____ 電話 _____ パートナー：_____
電話 _____

期間 1年、暗黙更新、文書による解約60日前通知

署名 クラブ会長：_____ 日付：__/__/____ パートナー：_____
日付：__/__/____

<! pagebreak >

書式9 - After-Action Report (AAR)

第25章で扱った AAR の構造。10セクション：要約、文脈、数値、タイムライン、機能したこと、機能しなかったこと、教訓、推奨、行動計画、添付。

<! pagebreak >

書式10 - 判断ツリー - 資金調達

災害発生

```

|
v
クラブには利用可能な自前資金があるか?
|-- はい --> 即座に使用 (承認不要)
|           推奨予算上限 : 30~75万円
|           |
|           v
|           十分か?
|           |-- はい --> クラブ資金で継続 + AAR へ移行
|           '-- いいえ --> v
|
'-- いいえ --> v

```

地区に DDRF (District Disaster Relief Fund) はあるか?

```

|-- はい --> DG が即時支出を承認
|           典型額 : 75~225万円
|           期間 : 数時間
|           |
|           v
|           十分か?
|           |-- はい --> 継続 + 地区への報告
|           '-- いいえ --> v
|
'-- いいえ --> v

```

TRF に DRG (Disaster Response Grant) を申請

```

|-- 金額 : 最大 25,000 USD (約375万円)
|-- 条件 : TRF 認定地区
|-- 承認期間 : 2~4週間 (指定された熱帯低気圧の事前申請の場合は24~48時間)
|-- MyRotary 経由申請 (DG + DRFC)
|   |
|   v
|   十分か?
|   |-- はい --> 実行 + 12か月以内に stewardship 報告
|   '-- いいえ --> v
|
v

```

ゾーンに Zone Disaster Response Fund はあるか?

```

|-- はい --> ゾーンに補完を申請
|           典型額 : 150~750万円
|           |
|           v
|           十分か?
|           |-- はい --> 実行 + ゾーンへの報告

```

```

|      ' -- いいえ --> v
|
|      ' -- いいえ --> v

TRF グローバル補助金を構築
|-- 金額 : 30,000~400,000 USD (450~6000万円)
|-- 必要 : 地区 DDF + 国際パートナー
|-- 期間 : 3~6か月 (計画から復興まで)
|-- 用途 : 再建、WASH、研修
|
v
複合可能か?
|-- はい - メカニズムは複合可能 :
|   |-- DRG + DDRF + クラブ資金 = 即時対応
|   |-- グローバル補助金 = 中期復興
|   |-- ゾーン基金 = 複数地区調整
|   |-- DNA-RAG Fund = 技術専門性
|
v
注意 - 非複合ルール :
|-- DRG は グローバル補助金と同じ支出を資金提供しない
|-- グローバル補助金用 DDF は DRG に使用できない
|-- クラブ資金は TRF stewardship を要しない
|-- すべての TRF 資金 (DRG + グローバル補助金) は報告を要する
    
```

メカニズム要約表

メカニズム	金額	期間	決定者	Stewardship
クラブ自前資金	変動	即時	クラブ	クラブ内
DDRF	75~225万円	数時間	DG	地区
DRG	~375万円	2~4週間	DG + DRFC + TRF	TRF 報告書
Zone Fund	150~750万円	数日	ゾーン	ゾーン
グローバル補助金	450~6000万円+	3~6か月	クラブ + 国際パートナー + TRF	TRF 完全 stewardship
DNA-RAG Fund	変動	数日	DNA-RAG	DNA-RAG

第 VII
付録とツール

第 29

付録B – 連絡先名簿

使用法 : この名簿は埋めて、四半期ごとに更新する必要があります。
クラブの緊急キットに保管（印刷版）し、デジタル版を共有クラウドに保存。

ロータリー連絡先

役職	略称	氏名	直通電話	メール	最終確認
地区ガバナー	DG				
次期地区ガバナー	DGE				
地区災害救援担当者	DRO				
地区ロータリー財団委員会委員長	DRFC				
地区災害対応委員会委員長	DRC 委員長				
近隣クラブ Disaster Coordinator					
ローターアクトクラブ会長					
インターアクトクラブ顧問					

RAG とパートナー

組織	連絡先	用途
DNA-RAG（緊急フォーム）	dna-rag.com	災害調整
DNA-RAG 地域代表		
ShelterBox	rotaryrequest@shelterbox.org	緊急シェルター
WASH-RAG	wash-rag.org	水と衛生
ESRAG	esrag.org	環境
RAGFP	rotaryactiongroupforpeace.org	平和
RAGCED	ragced.org	経済発展
TRF 補助金	grants@rotary.org	DRG、グローバル補助金
国際ロータリー	+1-866-976-8279 contact.center@rotary.org	全般質問

日本の主要連絡先

国家機関

組織	電話	サイト	用途
内閣府防災担当	03-5253-2111	bousai.go.jp	国家防災調整
気象庁	03-3212-8341	jma.go.jp	気象、地震、津波、火山警報
国土交通省	03-5253-8111	mlit.go.jp	インフラ、河川、道路
厚生労働省	03-5253-1111	mhlw.go.jp	医療、感染症対応
警察庁	03-3581-0141	npa.go.jp	緊急 110

組織	電話	サイト	用途
消防庁	03-5253-7777	fdma.go.jp	緊急 119
海上保安庁	03-3591-6361	kaiho.mlit.go.jp	緊急 118
自衛隊	各方面隊	mod.go.jp	災害派遣（都道府県知事要請経由）
環境省	03-3581-3351	env.go.jp	環境、熱中症

都道府県 / 自治体

組織	電話	メール	用途
都道府県防災課			県レベル調整
都道府県危機管理室			危機管理
市町村防災課			市町村調整
市町村危機管理監			市町村危機管理
災害対策本部（発動時）			公式調整
災害ボランティアセンター（社会福祉協議会）			ボランティア調整
民生委員			高齢者・要援護者情報
自主防災組織			地域動員

緊急医療

組織	電話	用途
救急（全国）	119	救急
DMAT 事務局		災害派遣医療チーム
日本赤十字社（本社）	03-3438-1311	救護、医療、義援金
日本赤十字社地方支部		地域救護
主要病院（地域）		医療搬送

国際支援組織（国内活動）

組織	サイト	用途
ジャパン・プラットフォーム（JPF）	japanplatform.org	国内 NGO 連携
JEN	jen-npo.org	災害対応
AAR Japan（難民を助ける会）	aar-japan.gr.jp	国内外、障害者支援
Peace Winds Japan	peace-winds.org	災害対応、空陸機動
Civic Force	civic-force.org	緊急対応
全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）	jvoad.jp	連携プラットフォーム
UNHCR Japan	unhcr.org/jp	難民支援
国連 WFP 日本事務所	ja.wfp.org	食料支援

地域経済アクター（記入）

アクター	連絡先	動員可能資源
大型店 スーパー		水、食料、衛生用品
運送会社		トラック、ロジ
ホテル 旅館		緊急宿泊
薬局		医薬品
ガソリンスタンド		燃料
建設会社		重機、瓦礫処理
印刷会社		書式、ポスター、チラシ
給食業者 ケータリング		大量食事、調理機材
銀行（緊急融資）		緊急融資

メディア連絡先（記入）

メディア	ジャーナリスト名	電話	種別
地方紙			新聞
全国紙地方支局			新聞
NHK 地方局			テレビ・ラジオ
民放テレビ局			テレビ
ローカル FM			ラジオ
ウェブメディア			デジタル

宗教共同体（記入）

組織	連絡先
神社	
仏教寺院	
教会（カトリック プロテスタント）	
その他	

クラブ役員連絡先

役職	氏名	主電話	副電話	メール
会長				
Disaster Coordinator				
副会長				
直前会長				
次期会長				
幹事				

役職	氏名	主電話	副電話	メール
会計				
DRC ロジスティクス				
DRC コミュニケーション				
DRC 財務				

ボランティア緊急連絡網 (call-down list 概要)

詳細は別書類で。本書はサマリーのみ。

Disaster Coordinator
 +- 枝 A 責任者 : _____ (電話)
 | +- A-1 : _____
 | +- A-2 : _____
 +- 枝 B 責任者 : _____ (電話)
 | +- B-1 : _____
 | +- B-2 : _____
 +- 枝 C 責任者 : _____ (電話)
 +- C-1 : _____
 +- C-2 : _____

確認スケジュール

連絡先カテゴリ	確認頻度	責任者
ロータリー連絡先	年次 (7月1日)	Disaster Coordinator
国家機関	年次	Disaster Coordinator
自治体	半年ごと	Disaster Coordinator
緊急医療	四半期	Disaster Coordinator
経済アクター	半年ごと	DRC ロジスティクス
メディア	半年ごと	DRC コミュニケーション
宗教共同体	年次	会長
クラブ役員	7月1日	会長
ボランティア call-down list	四半期	Disaster Coordinator

古い連絡先 = 危機時に切断された枝。 確認は任意ではありません。

第 VII
付録とツール

第 30
付録C – 用語集

使い方 : 本書で使用するロータリーおよび人道支援の略語をまとめた用語集です。各項目には英語の正式名称と定義を併記しています。厳密なアルファベット順で配列しています。

ロータリー関連の略語と用語

- ・ AAR (After-Action Report、事後分析報告書) : 各活動の終了後に作成する構造化された 振り返り文書。経過、成果、成功事例、失敗事例、提言を記録します。本書の指針では、ロータリーの災害対応活動について 30日以内の作成を推奨 しています (第0章 教義を参照)。
- ・ CERT (Community Emergency Response Team、地域緊急対応チーム) : 市民に基本的な緊急対応スキル (軽度の搜索救助、応急処置、消火活動) を訓練するプログラム。米国発祥のモデルで、複数の国で採用されています。
- ・ DCA (Disaster Committee Activation、災害対応委員会の活動レベル) : 3段階のロータリー活動レベル (地区 D7080、D5930 の慣例)。数値が小さいほど動員が強い : DCA-3 (通常活動、助言および計画モード)、DCA-2 (重大事象発生、委員会活動開始、地区支援が必要)、DCA-1 (大規模救援活動、地区の能力を超える大災害、ゾーンおよび国際ロータリーが動員)。
- ・ DDF (District Designated Fund、地区指定資金) : SHARE (世界資金) のうち、TRF から地区に還元される部分。地区補助金や、グローバル補助金への地区の拠出として活用できます。
- ・ DDRF (District Disaster Relief Fund、地区災害救援資金) : 地区が領域内の即時災害対応を資金面で 支えるために設置する準備資金。クラブからの自発的な拠出によって維持 されます。
- ・ DFC (District Finance Committee、地区財務委員会) : 地区の財務を監督する組織で、災害対応資金の配分にも関与します。
- ・ DG (District Governor、地区ガバナー) : 地区における最高位の選出役職者。DRG の申請を承認し、DCA レベルを宣言し、地区レベルで対応を統括します。任期は1年です。
- ・ DNA-RAG (Disaster Network of Assistance Rotary Action Group、災害対応支援ネットワーク・ロータリー 行動グループ) : 災害対応の調整に特化した RAG。訓練を受けた評価者、技術的専門知識、研修、各層間の調整機能を提供します。旧称 DRF-RAG。
- ・ DRC (Disaster Response Committee、災害対応委員会) : クラブまたは地区の災害対応に責任を負う常設委員会。
- ・ Disaster Coordinator (災害コーディネーター) : クラブレベルで任命される役職。クラブの備え、対応中の調整、地区 DRO との現場連絡を担います。地区レベルの機能である DRO とは区別されます。

- ・ DRG (Disaster Response Grant、災害対応補助金) : 即時の災害対応のために認定地区に交付される TRF 補助金。本書執筆時点での1申請あたりの上限額 : 25,000 USD。この上限額はロータリー財団が定めるもので、定期的に見直されます。本書全体で記載している金額は執筆時点での値ですので、申請前に my.rotary.org で現行額を確認してください。標準的な承認期間 : 完全な申請から2~4週間(指定された熱帯低気圧の事前申請の場合は24~48時間)。事前申請の取り扱いは TRF 発行の Disaster Response Grant Terms and Conditions に従います。my.rotary.org で最新版を参照してください。資金受領後12か月以内に管理報告書 (stewardship report) の提出が必要です。
- ・ DRFC (District Rotary Foundation Committee Chair、地区ロータリー財団委員会委員長) : 地区と財団との連携を担当します。DG と連名で補助金申請に署名します。
- ・ DRO (District Disaster Relief Officer、地区災害救援担当者) : DG が任命し、地区の災害対応活動全体を統括する役職者。クラブ・地区・ゾーン間の主要な連絡窓口です。
- ・ EREY (Every Rotarian, Every Year、すべてのロータリアン、毎年) : 各ロータリアンに対し、ロータリー財団への年次寄付 (目標 : 1人あたり年間100 USD) を促す運動。これらの資金は SHARE を支え、ひいては災害対応能力を支えます。
- ・ ESRAG (Environmental Sustainability Rotary Action Group、環境持続可能性ロータリー行動グループ) : 環境問題 (気候変動、自然災害、災害リスク低減、持続可能な復興) に特化した RAG。
- ・ GMS (Grant Management System、補助金管理システム) : TRF のオンラインプラットフォーム (MyRotary に統合) で、補助金の申請・追跡・報告を行います。すべての DRG およびグローバル補助金の申請はこの GMS を通じて行われます。
- ・ MOU (Memorandum of Understanding、覚書) : ロータリーと外部組織 (NGO、地方自治体、技術パートナー) との間の協力関係を正式化する文書合意。協力パートナーを含むグローバル補助金の場合は必須です。
- ・ POD (Point of Distribution、配給拠点) : 受益者に支援物資を配給する物理的な場所。各 POD には管理者、受益者名簿、安全管理プロトコルが必要です。
- ・ RAGFP (Rotary Action Group for Peace、平和のためのロータリー行動グループ) : 平和構築、紛争解決、紛争後の復興に特化した RAG。自然災害と武力紛争が重なる地域で活動します。
- ・ RAGCED (Rotary Action Group for Community Economic Development、地域経済開発ロータリー行動グループ) : 地域経済開発、特に災害後の経済復興 (マイクロファイナンス、職業訓練、地域市場の再建) に特化した RAG。

- ・ RI (Rotary International、国際ロータリー) : 全ロータリークラブを統括する国際組織。本部は米国イリノイ州エバンストン。制度的枠組み、ブランド、方針、世界規模の調整を提供します。
- ・ SITREP (Situation Report、状況報告書) : 下位層から上位層へ定期的に送信される標準化された報告書。状況、進行中の活動、ニーズ、要請を含みます。頻度 : 急性期は6時間ごと、その後は日次、続いて週次です。
- ・ TRF (The Rotary Foundation、ロータリー財団) : ロータリーの慈善部門。各種補助金 (DRG、グローバル補助金、地区補助金)、世界資金、SHARE プログラム、平和フェローシップ、災害救援資金を管理しています。

国際的な人道支援用語

- ・ Cluster (クラスター、分野別調整グループ) : 国連の調整メカニズム。介入分野 (シェルター、保健、水、食料など) ごとに人道支援関係者をまとめます。各クラスターは国連の主導機関によって 運営されます。ロータリーは地域レベルでクラスター会 合に参加できます。
- ・ CHS (Core Humanitarian Standard、人道支援の基本理念) : 人道支援団体が危機の影響を受けた人々に対して負う義務を定めた9つの誓約 (関連性、有効性、説明責任、参加など) を定めた国際基準。
- ・ EOC (Emergency Operations Center、緊急活動センター) : 当局が災害対応を統括する物理的な拠点。ロータリーは地元 EOC の所在地を把握し、可能な範囲で連絡を確保することが望ま しいです。日本では「災害対策本部」がこれに相当します。
- ・ ICS (Incident Command System、事案指揮システム) : 主に北米で使用される標準化された緊急 対応管理システム。 明確な階層 (現場指揮官、活動、計画、ロジスティクス、財務) を定義します。ロータリーの対応を構造化する際の参照 モデルとなります。
- ・ IDP (Internally Displaced Person、国内避難民) : 居住地を追われたものの、自国内にとどまっている人 (国境を越えた難民とは区別されます)。自然災害は国内避難の主要な原因の一つです。
- ・ IFRC (International Federation of Red Cross and Red Crescent Societies、国際赤十字赤新月社連盟) : 191の赤十字社・赤新月社をまとめる国際組織。多くの災害現場でロータリーの戦略的パ ートナーとなります。日本では日本赤十字社 がこれに参加しています。
- ・ NFI (Non-Food Items、非食料品) : 食料以外で被災者に配給されるすべての物資 (毛布、ブルーシート、調理器具、衛生キット、衣類、マット等)。人道対応の標準カテゴリです。

- ・ OCHA (Office for the Coordination of Humanitarian Affairs、
国連人道問題調整事務所) : 国際的な人道対応の調整を担う国連機関。
資金要請を発表し、 CERF (緊急資金) を運営し、 クラスタ制度を活性化します。
災害データの信頼できる出典です。
- ・ ORSEC (Organisation de la Réponse de Sécurité Civile、
フランスの民間防衛対応組織) : フランス当局の危機管理計画。 県・ゾーン
レベルでの災害対応の組織を定めます。 米国の National Response Framework
に相当します。
- ・ PFA (Psychological First Aid、 心理的応急処置) :
心理的支援の構造化された手法。 心理職の資格は不要で、
訓練を受けたボランティアであれば誰でも実施できます。 WHO
の公式アプローチは3段階 : Look (見る)、 Listen (聴く)、 Link (つなぐ)。
- ・ Sphere (スフィア基準) : 人道対応における最低基準を定めた世界 的な参照枠組み。
4分野 (水と衛生、 食料と栄養、 シェルターと非食料品、 保健) を網羅します。
例 : 1人1日あたり水15リットル、 屋内空間1人あたり3.5平方メートル。 日本では
NGO 教育協力ネットワーク (JNNE) が日本語版を出版 しています。
- ・ UNHCR (United Nations High Commissioner for Refugees、
国連難民高等弁務官事務所) : 難民および避難民の保護を担う国連機関。
災害が国境を越えた大規模な人口移動を 引き起こした際に介入します。
- ・ UNICEF (United Nations Children's Fund、 国連児童基金) :
子どもの保護に特化した国連機関。 災害時には、 子どもに対する対応 (栄養、
緊急教育、 保護、 水) を統括します。
- ・ UNDRR (United Nations Office for Disaster Risk Reduction、 国連防災機関) :
仙台防災枠組 2015-2030 の実施を調整する国連機関。
世界の災害データの基準となる出典です。
- ・ WASH (Water, Sanitation and Hygiene、 水・衛生・衛生習慣) :
飲料水へのアクセス、 衛生設備 (トイレ、 下水処理)、
衛生習慣の啓発を扱う人道支援分野。 ロータリーの7つの重点分野の一つで、
WASH-RAG の専門領域です。
- ・ WFP (World Food Programme、 国連世界食糧計画) : 緊急食料援助を担う国連機関。
配給される援助量の規模では世界最大の 人道支援組織です。
大規模な食料配給活動を伴うロータリー の活動において重要なパートナーとなり
ます。
- ・ WHO (World Health Organization、 世界保健機関) :
国際的な保健対応を主導する国連機関。 災害時には、 疫学的監視、
医薬品アクセス、 感染症対応を統括します。

日本の災害対応関係機関 (本書日本語版固有)

- ・ 気象庁 (JMA, Japan Meteorological Agency) : 地震、津波、火山、気象警報を担当する国の機関。緊急地震速報、津波警報、特別警報を発令します。災害時の第一次情報源です。サイト : jma.go.jp。
- ・ 内閣府防災担当 (Cabinet Office Disaster Management) : 国レベルでの災害対応・防災を統括する政府機関。大規模災害時には政府の対策本部の事務局を担います。サイト : bousai.go.jp。
- ・ J-Alert (全国瞬時警報システム) : 緊急地震速報、津波警報、ミサイル発射等の緊急情報を全国に瞬時に伝達するシステム。市町村の防災行政無線、緊急速報メール、テレビ・ラジオを通じて発信されます。
- ・ 日本赤十字社 (JRC, Japanese Red Cross Society) : IFRC に加盟する国内の赤十字組織。災害医療、救護、義援金の取扱い、ボランティア調整を担います。サイト : jrc.or.jp。
- ・ DMAT (災害派遣医療チーム) : 災害発生直後の急性期 (おおむね48時間以内) に活動する医療チーム。厚生労働省が認定した医師、看護師、業務調整員で構成されます。
- ・ JEN : 国内主要 NGO の一つ。震災後の物資配給、心理ケア、生活再建支援に強みを持ちます。サイト : jen-npo.org。
- ・ AAR Japan (難民を助ける会) : 国内および海外の災害対応・難民支援に取り組む NGO。障害者支援にも特化しています。サイト : aarjapan.gr.jp。
- ・ Peace Winds Japan : 国内外の災害対応に取り組む NGO。空陸機動展開能力を有します。サイト : peace-winds.org。
- ・ ジャパン・プラットフォーム (JPF, Japan Platform) : 日本の NGO、企業、政府が連携する人道支援プラットフォーム。出動・資金供給を迅速に行うための仕組みです。サイト : japanplatform.org。

一般的な活動用語

- ・ Beneficiary (受益者) : 人道支援を直接受け取る人。公式な通信文では「被災者」よりも「受益者」という用語を用いることが推奨されます。
- ・ Call-down list (連絡網) : 各人が次の人に電話をかけていく連鎖型の電話連絡名簿。クラブ全員に30分以内で連絡可能とします。phone tree (電話ツリー) ともいいます。
- ・ Do No Harm (危害を加えない原則) : 人道支援の基本原則。あらゆる介入は、被災者に追加の害を与えないようにしなければなりません。
- ・ Emergency kit (緊急キット) : 即時の介入のためにクラブが事前準備しておく資材と書類一式 (書式、ベスト、水、無線機等)。go-bag ともいいます。
- ・ Phase 1, Emergency (フェーズ1 緊急期) : 災害発生後72時間。優先事項は救助、評価、応急処置、安全確保です。

- ・ Phase 2, Stabilization (フェーズ2 安定期) : 72時間から4週間。
優先事項は構造化された配給、調整、資金確保、コミュニケーションです。
- ・ Phase 3, Recovery (フェーズ3 復興期) : 1か月から24か月。優先事項は復興、リハビリテーション、レジリエンス、グローバル補助金です。
- ・ Stewardship (管理責任) : ロータリー財団資金の用途を説明する義務。物語的報告、財務報告、写真報告を含みます。期限 : 資金受領から12か月以内 (DRG)、またはグローバル補助金の予定に従います。
- ・ Tier / Layer (層 / 階層) : ロータリー生態系の階層。6層 : クラブ (1)、地区 (2)、ゾーン (3)、各種 RAG (4)、TRF (5)、RI (6)。各層が災害対応における固有の役割を担います。
- ・ Community kitchen transition (炊き出しの終了) : 客観的基準に基づく炊き出しの閉鎖。地域市場が80%以上機能している場合、または炊き出しの単位コストが地域市場価格を上回る場合、または利用者数がピーク時の20%未満の状態が3日連続した場合 (第14章参照)。
- ・ PFA to beneficiary ratio (PFA要員対受益者比) : 心理的応急処置 (PFA) 訓練を受けた要員の最低密度。緊急期はリスクのある人100人につき1人、安定期は50人に1人、復興期は30人に1人 (第17章参照)。
- ・ Complex multi-hazard crisis (複合多重危機) : 短期間に同一の人口集団に対し2つまたは3つの主要なストレスが重なる状態 (例 : 地震 + 疫病、武力紛争 + 干ばつ + 飢餓)。中央調整役として DNA-RAG が必須となります (第26章 カード F4 参照)。
- ・ Vicarious trauma / compassion fatigue (二次受傷 / 共感疲労) : 他者の苦しみへの繰り返しの曝露の結果として生じる現象。Vicarious trauma (二次受傷) は臨床的現象 (外傷的事象への間接的曝露) を指し、compassion fatigue (共感疲労) はその活動上の現れ (情動的消耗、関与の低下) を指します。第17章参照。

第 VII
付録とツール

第 31

付録D – オンラインリソース

使用法 : この付録は災害対応の備えに不可欠なウェブサイト、ポータル、参考文書をまとめています。災害前にこれらのリンクをテストしてください。ブラウザにブックマーク。URLは出版時点で有効でした。リンクが切れている場合、親サイトで正確なタイトルを検索してください。

1. MyRotary - 中央ポータル

MyRotaryポータル (my.rotary.org) はオンラインのすべてのロータリー活動のエントリーポイントです。各ロータリアンはアクティブなアカウントを持つべきです。

- ・ MyRotary ホーム (my.rotary.org) - ロータリー中央ポータル。補助金、研修、クラブ管理ツールへのアクセス。
- ・ Grant Center (my.rotary.org/en/take-action/apply-grants) - 補助金（地区補助金、グローバル補助金、Disaster Response Grants）の申請・追跡。
- ・ Disaster Response Fund (my.rotary.org/en/disaster-response-fund) - Disaster Response Fund 専用ページ。DRF への直接寄付可能。募金コミュニケーションでこのリンクを共有してください。
- ・ Rotary Showcase (my.rotary.org/en/secure/showcase) - 世界のロータリープロジェクトのショーケース。災害活動を公開し、他クラブにインスピレーションを与え、国際パートナーを惹きつけてください。
- ・ Club Finder (my.rotary.org/en/search/club-finder) - 世界中のロータリーパートナークラブを検索。Global Grant のホストクラブ特定に不可欠。
- ・ Grant Tracker (my.rotary.org → Grants → Grant Tracker) - 進行中の補助金の状態を追跡。
- ・ Brand Center (brandcenter.rotary.org) - ロゴ、ブランドガイドライン、公式コミュニケーション素材。

2. ロータリー行動グループ (RAGs) - サイト

- ・ DNA-RAG (dna-rag.com) - 災害対応コーディネーション。訓練を受けた評価者、現場ガイド、オンライン研修、層間調整。災害時に最初に連絡する RAG。
- ・ WASH-RAG (wash-rag.org) - 飲料水、衛生、衛生習慣の専門性。緊急時および開発時のろ過、井戸修理、トイレ建設。
- ・ ESRAG (esrag.org) - 環境持続可能性、気候変動適応、災害リスク低減、持続可能再建。
- ・ RAGFP (rotaryactiongroupforpeace.org) - 平和構築、紛争解決、仲介。自然災害と紛争が重なる場所での介入。
- ・ RAGCED (ragced.org) - 地域経済発展、災害後経済再建。マイクロファイナンス、職業訓練、地元市場再活性化。

3. ロータリーの研修と学習

- ・ Rotary Learning Center (my.rotary.org/en/learning-reference) - オンライン研修プラットフォーム。 補助金、 プロジェクト管理、 リーダーシップ研修。 災害対応専用モジュール含む。 全ロータリアン無料。
- ・ Disaster Response Training (dna-rag.com、 Training セクション) - DNA-RAG が提供するオンライン・対面研修： 迅速評価、 危機調整、 ボランティア管理、 災害 stewardship。
- ・ Disaster Recovery Playbook (my.rotary.org 経由または DNA-RAG への問い合わせ) - RI の災害対応戦略ガイド。 各層の役割、 資金調達メカニズム、 ベストプラクティスをカバー。 制度的参照文書。
- ・ Grant Management Seminar (各地区年次開催) - TRF 補助金受領を希望するクラブ必須セミナー。 提出手順、 財務管理、 stewardship をカバー。 日程は DRFC に確認。
- ・ 仙台防災枠組 2015-2030 (preventionweb.net/sendai-framework) - UNDRR 世界枠組。 災害準備と予防に対する国際的アプローチを理解するための参照。

4. 国連 - 災害関連リソース

- ・ UNDRR (undrr.org) - 災害リスク低減のための国連事務局。 災害世界データ、 仙台枠組、 リスク低減ツール。 国別 DesInventar データベース。
- ・ ReliefWeb (reliefweb.int) - 世界最大の人道情報源。 状況報告、 地図、 国別・災害別分析。 Global Grant 申請でニーズを文書化するのに不可欠。
- ・ OCHA (unocha.org) - 国連人道問題調整事務所。 国際人道調整。 人道資金フローを追跡する Financial Tracking Service (FTS)。 国別警報と速報。
- ・ UNICEF 緊急対応 (unicef.org/emergencies) - 子どもへの人道対応。 緊急教育、 栄養、 保護、 水のニーズに関するデータ。 子ども関連 Global Grants のパートナー。
- ・ WFP (wfp.org) - 国連世界食糧計画。 緊急食料援助。 国別食料不安データ。 基準ロジスティクス。
- ・ WHO (who.int/emergencies) - 世界保健機関。 災害への保健対応。 疫学警報、 国別保健データ、 緊急医療プロトコル。
- ・ UNHCR (unhcr.org) - 国連難民高等弁務官事務所。 難民と避難民の保護。 人口移動データ。
- ・ PreventionWeb (preventionweb.net) - 災害リスク低減に関する知識プラットフォーム。 報告書、 統計、 国別リスク評価ツール。

5. 人道支援基準

- ・ Sphere ハンドブック (spherestandards.org) - 人道対応最低基準の世界基準。4領域カバー：WASH、食料、シェルター、保健。主要数値：1人1日水15 L、1人3.5 m² 屋内空間、1人1日 2,100 kcal。日本語含むオンライン無料閲覧可能 (NGO 教育協力ネットワーク JNNE 経由)。
- ・ 核心人道基準 (CHS) (corehumanitarianstandard.org) - 人道対応の質と説明責任を定義する9つのコミットメント。活動と報告を構造化するための参照ガイド。
- ・ 赤十字 / NGO 行動規範 (ifrc.org、Code of Conduct セクション) - 人道組織の倫理原則：人間性、公平性、中立性、独立性。災害対応に関与するすべてのロータリアンが知り尊重すべき。

6. ロータリー戦略パートナー

- ・ ShelterBox (shelterbox.org) - 公式 RI プロジェクトパートナー。緊急シェルターキット (テント、ブランケット、調理器具、水フィルター) を世界中で提供。地元ロータリークラブまたは DNA-RAG 経由で起動可能。ロータリーページ：shelterbox.org/rotary
- ・ ShelterBox 進行中の派遣 (shelterbox.org/disasters) - アクティブな派遣マップ。要請開始前に ShelterBox が現場に既にいるかを把握。
- ・ Disaster Aid International (disasteraid.org) - ロータリアン国際災害対応ネットワーク。迅速派遣チーム (Disaster Aid Response Teams) を訓練。適応可能な援助キットを提供。20カ国以上に存在。
- ・ Habitat for Humanity (habitat.org) - 住宅建設・再建。Global Grant 経由復興フェーズの潜在的パートナー。コミュニティ参加型建設の専門性。
- ・ Water Mission (watermission.org) - 緊急・長期飲料水システム。災害後のろ過・水システム修復プロジェクトで WASH-RAG の頻繁なパートナー。
- ・ Aqua Clara International (aquaclara.org) - バイオサンドフィルターと浄水システム。被災地での迅速な飲料水ソリューション派遣で WASH-RAG パートナー。

7. 日本固有のリソース

公的情報源

- ・ 気象庁 (jma.go.jp) - 地震、津波、火山、気象警報。緊急地震速報、津波警報、特別警報。
- ・ 内閣府防災情報のページ (bousai.go.jp) - 国家防災情報、防災基本計画、地域防災計画。
- ・ 国土地理院 ハザードマップポータルサイト (disaportal.gsi.go.jp) - 全国の自治体ハザードマップ統合。

- ・ 国土交通省 川の防災情報 (kawabou.mlit.go.jp) - 河川水位、雨量、危険度分布。
- ・ NHK そなえる防災 (nhk.or.jp/sonae) - 災害情報・備え公式情報。
- ・ NHK 福祉情報 (nhk.or.jp/heart) - 高齢者・障害者向け災害情報。
- ・ J-SHIS 地震ハザードステーション (j-shis.bosai.go.jp) - 地震ハザード、活断層情報。
- ・ 環境省 熱中症予防情報 (wbgt.env.go.jp) - 暑さ指数、熱中症警戒アラート。
- ・ 国土交通省 リアルタイム雨量 (jiban.bosai.go.jp) - リアルタイム降雨情報。
- ・ 首相官邸 災害ページ (kantei.go.jp/jp/headline/saigai.html) - 政府災害対応情報。

日本の主要 NGO

- ・ ジャパン・プラットフォーム (JPF) (japanplatform.org) - 日本の NGO 連携プラットフォーム。
- ・ JEN (jen-npo.org) - 国内・海外災害対応。
- ・ AAR Japan (難民を助ける会) (aarjapan.gr.jp) - 国内外、障害者支援。
- ・ Peace Winds Japan (peace-winds.org) - 災害対応、空陸機動。
- ・ Civic Force (civic-force.org) - 緊急対応。
- ・ 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD) (jvoad.jp) - 連携プラットフォーム。
- ・ 日本財団 災害情報 (nippon-foundation.or.jp/what/spotlight/saigai) - 災害支援情報。

自治体連絡

- ・ 各都道府県防災ポータル (Google で「[都道府県名] 防災」検索)
- ・ 各市町村防災ページ (Google で「[市町村名] 防災」検索)

国際情報源 (日本に関連)

- ・ Google Crisis Map (google.org/crisismap) - 進行中の災害リアルタイム地図。
- ・ GDACS (gdacs.org) - Global Disaster Alert and Coordination System。世界警報システム。日本周辺の地震・台風アラート。
- ・ HDX (data.humdata.org) - 国連人道データ交換プラットフォーム。
- ・ What3Words (what3words.com) - 3単語アドレッシングシステム。住所が存在しない、または破壊された場所の位置特定に有用。
- ・ OpenStreetMap (openstreetmap.org) - 共同編集可能な無料地図。災害時、HOT (Humanitarian OpenStreetMap Team) コミュニティが被災区域を迅速に地図化。

8. 本書で引用された制度的出典

本書の数値、基準、手順は公開された制度的出典に基づいています。
完全な参照は以下のとおり：

人道支援基準

- ・ Sphere Handbook 2018 (Sphere Project / Sphere Association) - [spherestandards.org](https://www.spherestandards.org)
- ・ Core Humanitarian Standard (CHS) (CHS Alliance) - [corehumanitarianstandard.org](https://www.corehumanitarianstandard.org)
- ・ 赤十字 / NGO 行動規範 (IFRC) - [ifrc.org/document/code-conduct](https://www.ifrc.org/document/code-conduct)

災害データと警報

- ・ EM-DAT (CRED、UCLouvain) - [emdat.be](https://www.emdat.be)
- ・ USGS Earthquake Hazards Program - [earthquake.usgs.gov](https://www.earthquake.usgs.gov)
- ・ NOAA / NHC - [nhc.noaa.gov](https://www.nhc.noaa.gov)
- ・ WMO - [wmo.int](https://www.wmo.int)
- ・ GDACS - [gdacs.org](https://www.gdacs.org)
- ・ UNDRR / PreventionWeb - [undrr.org](https://www.undrr.org)、[preventionweb.net](https://www.preventionweb.net)

保健と食料

- ・ WHO 心理的応急処置ガイド (2011) - [who.int/publications/i/item/9789241548205](https://www.who.int/publications/i/item/9789241548205)
- ・ NIOSH 42 CFR 84 / EN 149 - FFP2 と N95 規格
- ・ IPC - [ipcinfo.org](https://www.ipcinfo.org)
- ・ FAO SOFI 2024 - [fao.org/publications/sofi](https://www.fao.org/publications/sofi)
- ・ WFP GRFC 2024 - [wfp.org / fightfoodcrises.net](https://www.wfp.org/fightfoodcrises.net)

人道調整

- ・ OCHA - [unocha.org](https://www.unocha.org)
- ・ IASC - [interagencystandingcommittee.org](https://www.interagencystandingcommittee.org)
- ・ CALP Network - [calpnetwork.org](https://www.calpnetwork.org)
- ・ ReliefWeb - [reliefweb.int](https://www.reliefweb.int)

ロータリー参照

- ・ 国際ロータリー - [rotary.org](https://www.rotary.org)、[my.rotary.org](https://www.my.rotary.org)
- ・ Disaster Response Grant Terms and Conditions - ロータリー財団
- ・ DNA-RAG bylaws and missions - [dna-rag.com](https://www.dna-rag.com)

各国対応枠組み

- ・ 日本 内閣府防災 - bousai.go.jp
- ・ 日本 気象庁 - jma.go.jp
- ・ 日本 国土交通省 - mlit.go.jp
- ・ ICS / NIMS (米国 FEMA NIMS Doctrine 2017)
- ・ CDEMA (カリブ海) - cdema.org
- ・ INSARAG - insarag.org

公式数値に関する注記

本書で引用されているすべての事実数値（ロータリー会員数、Sphere 基準、DRG 上限、現象の速度と温度）は、出版時点での上記制度的出典からのものです。進化する数値（ロータリー会員数、飢餓統計等）は各増刷時に更新されるべきです。

9. リソースの年次確認チェックリスト

項目	確認済	日付	確認者
DRC メンバー全員の MyRotary アカウント有効	<input type="checkbox"/>		
GMS アクセスをテスト済（補助金申請）	<input type="checkbox"/>		
RAG リンク確認済、連絡先更新	<input type="checkbox"/>		
Sphere ハンドブックダウンロード済（最新版）	<input type="checkbox"/>		
ShelterBox および Disaster Aid 連絡先更新	<input type="checkbox"/>		
ReliefWeb および GDACS アクセステスト済	<input type="checkbox"/>		
主要会員が Rotary Learning Center 研修完了	<input type="checkbox"/>		
気象庁、内閣府防災のブックマーク確認	<input type="checkbox"/>		
地元自治体防災ページのブックマーク確認	<input type="checkbox"/>		
日本の主要 NGO 連絡先確認	<input type="checkbox"/>		

著者について

Guillaume Bourgogne

ギヨーム・ブルゴーニュは実業家、研修担当者、ロータリアン。2005年、リヨンのロータラクトクラブで活動を開始し、奉仕、友情、親睦というロータリーの文化を深く身につけた 3 年間で過ごしました。2017年、フランスのヴズル・ロータリークラブ（地区 1680）にシニア会員として入会し、2018年に RYLA 担当となり、ウガンダ、レバノンでの最初の国際人道支援プロジェクトに着手しました。

2021 年 11 月、レバノン・ベイルート・シーダーズ・ロータリークラブ（地区 2452、3大陸 9 か国にまたがる地区）に加盟し、アルメニア、バーレーン、キプロス、ジョージア、ヨルダン、レバノン、パレスチナ、スーダン、アラブ首長国連邦）に会員資格を移籍しました。2022 年 5 月、クラブから人道支援活動の功績により「感謝状」を授与され、「ポール・ハリス・フェロー」に指名されました。レバノン元国務大臣ヘクター・ハジャール博士は、2021 年 6 月の時点で同国における彼の人道支援活動を正式に推薦しています。

国際レベルでは、複数のロータリー要職を歴任しています。RAGCED（ロータリー地域経済開発アクショングループ）のグローバル・プログラム・ディレクターを 3 年間（2021～2024）務め、その後パートナーシップ委員会および教育委員会のメンバーに就任しました。

2023 年 8 月より DNA-RAG（災害支援ネットワーク・ロータリアンアクショングループ）の理事を 3 年任期で務めており、DNA-RAG 副議長の推薦により 2026～2029 年の再任候補となっています。フランスの平和のためのロータリアン・アクショングループ（RAGFP France）の創設メンバー（2021 年～）、および反奴隷制ロータリアンアクショングループ RAGAS のメンバーでもあります。

現場での人道支援活動は東アフリカから始まりました。2019 年 10 月、DG グザヴィエ・センタム（ウガンダ・タンザニア地区 9211）主催のキリマンジャロ人道登山に参加し、続いて現地のロータリープロジェクトを視察。2020 年 2 月、ウガンダで農業マイクロクレジット事業を現地で検討しました。2020 年 3 月、第一次 COVID-19 ロックダウン期間中に、3 か月でフランス国内 3,000 人を支援する援助プラットフォームを設計・運営。2021 年、ウガンダのルウェンゾリ山脈に登頂し、火災で焼失した地域助産院の再建を支援する募金遠征を実施しました。

最も継続的かつ構造的な取り組みは、2020 年以降途切れることなく続けているレバノンへの関与です。7 年間にわたる個人資金による継続的な財政支援（累計約 30,000 ユーロ）は、2020 年 8 月のベイルート港爆発の影響、2021 年以降の人道危機、エネルギー危機、火災多発に対応する民間防衛センターの資金調達、2024 年の戦争中の食料支援と高齢者支援、そして 2026 年冬の寄付に至るまで及んでいます。

彼の実践を最も大きく形作った出来事は、おそらく 2022 年 3 月のウクライナ動員でしょう。ロシア侵攻後の数日間で、彼はリヴィウ・ロータリークラブからの緊急メッセージを中継しました。翌日には英語・ウクライナ語のバイリンガル SaaS サイトを購入・展開し、個人費用で 12 か月以上維持。プラットフォームは RAGGED の 2,500 名会員のメーリングリストを通じて世界中に配信されました。

学術面では、「イノベーションと複雑プロジェクト経営」および「経済インテリジェンス」の修士レベル課程を修了。本書がリスク、不確実性下の意思決定、情報連鎖を扱う構造は、これら 2 つの学問領域に基づいています。

実務研修面では、2021~2022 年に「コミュニティ開発 - 経済災害レジリエンスと復興コース」を受講。さらに 2021 年 10 月、レンヌの IC USA-France プログラムで Institute for Economics & Peace の Positive Peace 研修を受け、2023 年 4 月に IEP アンバサダーに認定されました。

本書は、災害対応の現場で彼が見て、理解し、構築してきたものの集大成です。迅速、的確、自律的に行動したいロータリークラブのための運用枠組みを提供します。

熱心な登山家でもあり、キルギスタンのレーニン峰で高地脳浮腫を発症して生還した経験を持ちます。死に瀕したこの経験は、彼を山から遠ざけるどころか、リスク管理の規律を一層研ぎ澄ましました。再び山に戻り、現在は息子と共に登っています。8 歳の息子と冬季のアラト山に挑み、吹雪のため最終登攀を断念したことがあります。マニュアルではなく現場で身につけるリスク管理の判断です。彼らの実践において、リスクは否定されるものではなく、研究され、準備され、尊重されるものです。

フランス、レバノン、ウガンダ、日本を拠点に生活しています。

連絡先 : - 個人サイト : gb4k.fr - GitHub : gbourgogne4000K - ロータリーメール : g.bourgogne.rtn@gmail.com



